

医薬品集 2018

改訂第14版

独立行政法人 地域医療機能推進機構

九州病院

2018年

利用の手引き

1. 頁数は、薬効群（アルファベットA～V）ごとに示した。

表記例：(A-2)

2. 医薬品の配列は、商品名の五十音順とした。

また、一般名は< >内に半角で示した。

製薬会社名を（ ）内に示した。

3. 長期投与の可否

平成14年度診療報酬改定により薬剤の投与期間に関する規制が、原則廃止された。例外として、麻薬および向精神薬、薬価収載後1年未満の新医薬品は投与期間の制限が設定された。

投与制限があるものには、投与制限：○日のように示した。

△14日：薬価収載日より1年経過すると（ ）内の年月より投与制限なし

14日、30日、90日

【※詳しくは巻末の“投与期間の制限が設けられている院内採用医薬品”を参照のこと】

4. 医薬品の薬価を規格の下に示した。

5. その他の略号

①【院外のみ】：院外処方にもみ投与できる医薬品

②【院内製剤】：院内製剤医薬品

③【用時購入】：必要時購入するもので、薬剤部に在庫がない医薬品

* 日本医薬品集の頁は記載していません。

オーダーリングシステムの医薬品情報検索システム(D I C S)よりD I 照会

またはD I 表示をご参照下さい。

6. 追加・取消

医薬品の追加、採用取消は年1回更新時に行う。

ただし、オーダー端末のデスクトップ上の、「医薬品情報PDF」フォルダ内”医薬品集”（更新は月1回）にて閲覧できる。

7. 本書の内容等に関する問い合わせ先

薬剤部 医薬品情報管理室（内線2727）

索引

略

Adobe Acrobatの検索機能をご利用ください。

1. 麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■全身麻酔薬				
イソゾール ＜チアミラル＞ (日医工)		500mg/管 ¥463/管	麻酔導入・維持, 痙攣	【DI照会参照】
スープレン ＜デスフルラン＞ (パクター)		液(240mL) ¥42.9/mL	全身麻酔の維持	
セボフルラン ＜セボフルラン＞ (ファイザー)		液(250mL) ¥40.4/mL	全身麻酔	
ディプリバン ＜プロポフォール＞ (アズノジヤパン)		200mg(20mL)/管 ¥1122/管	全身麻酔の導入・維持, 集中治療における人工呼吸中の鎮静	
		500mg(50mL)/キット ¥1754/キット		
ドロレプタン ＜ドロペリドール＞ (第一三共)		25mg(10mL)/瓶 ¥1120/瓶	フェンタニールとの併用による全身麻酔, 局所麻酔の補助, 単独投与による麻酔前投薬	
フォーレン ＜イソフルラン＞ (アボットジヤパン)		液(250mL) ¥63/mL	全身麻酔	
プロポフォール ＜プロポフォール＞ (丸石)		2%:1000mg(50mL)/瓶 ¥1343/瓶	全身麻酔の導入・維持, 集中治療における人工呼吸中の鎮静	

1. 麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■局所麻酔薬				
アナペイン ＜ロピバカイン＞ (アスペンジ・ジャパン)		0.2%(10mL/管) ¥295/管	術後鎮痛	12mg/h硬膜外腔持続
		0.2%(100mL/袋) ¥1276/袋		
		0.75%(20mL/管) ¥889/管	硬膜外麻酔, 伝達麻酔	【Max:150mg/回】
		1%(20mL/管) ¥925/管	硬膜外麻酔	【Max:200mg/回】
エムラ ＜リドカイン, プロピトカイン＞ (佐藤製薬)		クリーム(5g) ¥935/本	①皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和 ②注射針・静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	添付文書参照
カルボカイン ＜メピバカイン＞ (アスペンジ・ジャパン)		1%(10mL/管) ¥105/管	硬膜外麻酔, 伝達麻酔, 浸潤麻酔	【Max:500mg/回】
		2%(10mL/管) ¥154/管		
テトカイン ＜テトラカイン＞ (杏林)		20mg/管 ¥80/管	脊椎麻酔(腰椎麻酔), 硬膜外麻酔, 伝達麻酔, 浸潤麻酔, 表面麻酔	6~15mg 【Max:100mg/回】
プロカニン ＜プロカイン＞ (光)		1%(5mL/管) ¥92/管	伝達麻酔	10~400mg/回
ベノキシル ＜オキシブプロカイン＞ (参天)		0.4%点眼液(10mL) ¥134/本	眼科領域における表面麻酔	1~4滴点眼/日
マーカイン ＜ブピバカイン＞ (アスペンジ・ジャパン)		0.5%高比重(4mL/管) ¥381/管	脊椎麻酔(腰椎麻酔)	10~20mg/回 【Max:20mg/回】
		0.5%等比重(4mL/管) ¥381/管		
リドカインテープ ＜リドカイン＞ (アキテクト)		18mg/枚 ¥32.4/枚	①静脈留置針穿刺時の疼痛緩和 ②伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和	①1回1枚, 予定部位に約30分間貼付 ②小児には1回2枚まで, 予定部位に約1時間貼付
キシロカインポリアン ブ ＜リドカイン＞ (アスペンジ・ジャパン)		1%(10mL/管) ¥94/管	硬膜外麻酔, 伝達麻酔(指趾神経遮断・肋間神経遮断), 浸潤麻酔, 表面麻酔	【Max:200mg/回】
		2%(10mL/管) ¥133/管	硬膜外麻酔, 伝達麻酔(指趾神経遮断), 浸潤麻酔, 表面麻酔	

1. 麻酔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
キシロカイン <リドカイン> (アズノジヤパン)		4%液(20mL) ¥12.8/mL	表面麻酔	80~200mg/回
		2%ゼリー(30mL) ¥219/本		
		8%ホップスプレー(80g) 【用時購入】 ¥1776/本		
		2%ヒュースカス(100mL) ¥5.6/mL		
キシロカインE <リドカイン・エピネ フリン> (アズノジヤパン)		1%(20mL/瓶) ¥204/瓶	硬膜外麻酔, 伝達麻酔, 浸潤麻酔	【Max: 50mL/回】
		2%(20mL/瓶) ¥310/瓶		【Max: 25mL/回】

2. 骨格筋弛緩薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■末梢性筋弛緩薬				
スキサメトニウム 〈スキサメトニウム〉 (丸石製薬)		100mg (5mL) / 管 ¥159 / 管	麻酔時の筋弛緩, 気管内挿管時・骨折脱臼の整復時・咽頭痙攣の筋弛緩, 精神神経科における電撃療法の際の筋弛緩, 腹部腫瘤診断時	〈間歇的投与法〉 10~60mg / 回静注 〈持続点滴用法〉 0.1~0.2%にし、2.5mg / 分 〈乳幼児及び小児〉1mg / kg静注又は2~3mg / kg筋注
ダントリウム 〈ダントロレン〉 (アステラス)	25mg / C ¥23.1 / C		①痙性麻痺, 全身こむら返り病 ②悪性症候群	①25~150mg分1~3 ②75~150mg分3
		20mg / 瓶 ¥9171 / 瓶	①麻酔時における悪性高熱症 ②悪性症候群	①1~7mg / kg静注 ②40~200mg / 日 (7日以内)
ベクロニウム 〈ベクロニウム〉 (富士製薬工業)		4mg / 管 ¥224 / 管	麻酔時の筋弛緩, 気管内挿管時の筋弛緩	0.08~0.1mg / kg静注
ロクロニウム 〈ロクロニウム〉 (丸石製薬)		50mg (5mL) / 瓶 ¥413 / 瓶	麻酔時の筋弛緩, 気管挿管時の筋弛緩	気管挿管時: 0.6mg / kg 【Max: 0.9mg / kg】 追加投与: 0.1~0.2mg / kg (静注), または7μg / kg / 分 (持続注入)
■中枢性筋弛緩薬				
エペリゾン 〈エペリゾン〉 (東和薬品)	50mg / 錠 ¥5.8 / 錠		筋緊張状態の改善, 痙性麻痺	150mg分3
ギャバロン 〈バクロフェン〉 (第一三共)	5mg / 錠 ¥15.6 / 錠		痙性麻痺	5~30mg分1~3 〈小児〉4~6歳5~15mg, 7~11歳5~20mg, 12~15歳5~25mg, 分2~3
チザニジン 〈チザニジン〉 (日医工)	1mg / 錠 ¥5.8 / 錠		①筋緊張状態の改善 ②痙性麻痺	①3mg分3 ②3~9mg分3
		顆粒 (2mg / g) ¥11.6 / g		
リンラキサー 〈クロルフェネシン〉 (大正富山)	125mg / 錠 ¥9.9 / 錠		運動器疾患に伴う有痛性痙縮 (腰背痛症, 変形性脊椎症 椎間板ヘルニア, 脊椎分離・すべり症, 脊椎骨粗鬆症, 頸肩腕症候群)	750mg分3
■筋弛緩回復剤				
ブリディオ 〈スガマデクス〉 (MSD)		200mg (2mL) / 瓶 ¥8836 / 瓶	ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復	〈浅い筋弛緩状態〉1回2mg / kg静注 〈深い筋弛緩状態〉1回4mg / kg静注 〈緊急な筋弛緩状態からの回復〉1回16mg / kg静注

3. 催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■バルビツレート系				
フェノバル <フェノバルビタール> (藤永) 投与制限：90日	エリシル(4mg/mL) ¥4.1/mL 30mg/錠 ¥6.9/錠		不眠症, 不安緊張状態の鎮静 【抗てんかん薬(A-7)参照】	30~200mg分1~4 <小児>2~4mg/kg/日
フェノバルビタール <フェノバルビタール> (マイラン) 投与制限：90日	散(100mg/g) ¥7.2/g			
ルピアール <フェノバルビタール> (久光) 投与制限：14日		50mg/坐剤 ¥52.1/個	催眠, 不安・緊張状態の鎮静, 熱性痙攣・てんかんの痙攣, 発作の改善	4~7mg/kg/日
■ベンゾジアゼピン系等 【各群とも上から下にいくほど作用時間が長くなる】 <超短時間作用型>				
ゾルピデムOD <ゾルピデム> (東和薬品) 投与制限：30日	5mg/錠 ¥12.8/錠		不眠症	5~10mg分1【Max:10mg】
トリアゾラム <トリアゾラム> (日医工) 投与制限：30日	0.25mg/錠 ¥5.8/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①0.125~0.5mg分1 ②手術前日0.25~0.5mg分1
ルネスタ <エスゾピクロン> (エーザイ)	2mg/錠 ¥77.5/錠		不眠症	2mg分1【Max:3mg】 <高齢者>1mg分1【MAX:2mg】
■ベンゾジアゼピン系等 <短時間作用型>				
プロチゾラムOD <プロチゾラム> (沢井製薬) 投与制限：30日	0.25mg/錠 ¥9.9/錠		不眠症, 麻酔前投薬	0.25mg分1 手術前夜0.25mg分1 麻酔前0.5mg分1
リスミー <リルマザホン> (共和薬品工業)	2mg/錠 ¥25.4/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①1~2mg分1 ②2mg分1
エバミール <ロルメタゼパム> (パール) 投与制限：30日	1mg/錠 ¥18.8/錠		不眠症	1~2mg分1

3. 催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ベンゾジアゼピン系等 <中間作用型>				
ユーロジン <エスタゾラム> (武田) 投与制限：30日	2mg/錠 ¥13.3/錠		不眠症, 麻酔前投薬	1~4mg分1 手術前夜1~2mg分1 麻酔前2~4mg分1
ベンザリン <ニトラゼパム> (共和薬品工業) 投与制限：90日	細粒(10mg/g) ¥16.7/g		不眠症, 麻酔前投薬 【抗てんかん薬(A-7)参照】	5~10mg分1
	2mg/錠 ¥5.8/錠			
	5mg/錠 ¥9.9/錠			
フルニトラゼパム <フルニトラゼパム> (日本ゼネリック) 投与制限：30日	1mg/錠 ¥5.6/錠		不眠症, 麻酔前投薬	0.5~2mg分1
■ベンゾジアゼピン系等 <中・長時間作用型>				
ドラール <クアゼパム> (久光製薬) 投与制限：30日	15mg/錠 ¥83.8/錠		①不眠症 ②麻酔前投薬	①20mg分1【Max:30mg】 ②15~30mg手術前夜【Max:30mg】
■メラトニン受容体アゴニスト				
ロゼレム <ラメルテオン> (武田)	8mg/錠 ¥84.6/錠		不眠症における入眠 困難の改善	8mg分1
■オレキシン受容体拮抗薬				
ベルソムラ <スボレキサント> (MSD)	15mg/錠 ¥89.1/錠		不眠症	20mg分1, 高齢者は15mg分1
	20mg/錠 ¥107.9/錠			

3. 催眠鎮静薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
エスケレ <抱水クロラル> (久光)		250mg/坐剤 ¥35.7/個	理学検査時における 鎮静・催眠, 静脈注射 が困難な痙攣重積状 態	<小児>30~50mg/kg直腸内挿入
		500mg/坐剤 ¥46.1/個		
エスケレ注腸用キット <抱水クロラル> (久光)		500mg/筒 ¥369.1/筒		
トリクロリール <トリクロホスナトリ ウム> (アムレッサ・ファーマ)	S Y (100mg/mL) ¥10.8/mL		不眠症, 脳波・心電図検査等 における睡眠	10~20mL/回就寝前または検査前 <小児>0.2mL~0.8mL/Kg 【Max:20mL】
プレセデックス <デクスメデトミジン > (丸石)		200 μ g (2mL)/瓶 ¥5098/管	集中治療における人 工呼吸中及び離脱後 の鎮静, 局所麻酔下 における非挿管での 手術及び処置時の鎮 静	初期負荷投与:6 μ g/kg/時, 10分間持 続静注 維持投与:0.2~0.7 μ g/kg/時, 持続 静注
ミダゾラム <ミダゾラム> (サト)		10mg (2mL)/管 ¥65/管	①麻酔前投薬 ②全身麻酔の導入・ 維持 ③集中治療における 人工呼吸中の鎮静 ④歯科・口腔外科領 域における手術及び 処置時の鎮静	①0.08~0.10mg/kg手術前30分~1時間筋注 ②0.15~0.30mg/kg1分以上で静注, 必要時初回量の半量ないし同量を追加投与 ③導入:0.03mg/kg1分以上で静注 【総量0.3mg/kgまで】 維持:0.03~0.06mg/kg/hより持続静注 (0. 03~0.18mg/kg/hの範囲が推奨) <小児>DI照会参照 ④初回:1~2mg静注 追加:0.5~1mgを2分以上の間隔を空けて静 注【総量5mgまで】

4. 抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■大発作用				
アレビアチン <フェニトイン> (大日本住友)	散(100mg/g) ¥11.9/g		てんかんの痙攣発作, 強直間代発作(全般痙攣発作・大発作), 焦点発作(ジャクソン型発作を含む), 自律神経発作, 精神運動発作, てんかん発作重積症	200~300mg分3 <小児>4~8mg/kg/日 【Max:300mg/回, 1g/日】
	100mg/錠 ¥12.7/錠			
フェノパール <フェノバルビタール> (藤永) 投与制限: 90日	エリシル(4mg/mL) ¥4.1/mL		不眠症, 不安緊張状態の鎮静, てんかんの痙攣発作, 強直間代発作(全般痙攣発作・大発作), 焦点発作(ジャクソン型発作を含む), 自律神経発作, 精神運動発作	30~200mg分1~4 <小児>2~4mg/kg/日
	30mg/錠 ¥6.9/錠			
フェノバルビタール <フェノバルビタール> (マイラ) 投与制限: 90日	散(100mg/g) ¥7.2/g			
ホストイン <ホスフェニトイン> (エザイ)		750mg(10mL)/瓶 ¥6361/瓶	①てんかん重積状態 ②脳外科手術又は意識障害(頭部外傷等)時のてんかん発作の発現抑制 ③フェニトインを経口投与しているてんかん患者における一時的な代替療法	成人又は2歳以上の小児 ①<初回>22.5mg/kg静注 <維持>5~7.5mg/kg/日静注 ②<初回>15~18mg/kg静注 <維持>5~7.5mg/kg/日静注 ③経口フェニトインの1.5倍量を1日1回または分割にて静注
ルピアール <フェノバルビタール> (久光) 投与制限: 14日		50mg/坐剤 ¥52.1/個	催眠, 不安・緊張状態の鎮静, 熱性痙攣・てんかんの痙攣発作の改善	4~7mg/kg/日
■小発作				
ベンザリン <ニトラゼパム> (共和薬品工業) 投与制限: 90日	細粒(10mg/g) ¥16.7/g		①異型小発作群, 焦点性発作 ②不眠症, 麻酔前投薬	①5~15mg ②5~10mg分1
	2mg/錠 ¥5.8/錠			
	5mg/錠 ¥9.9/錠			

4. 抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■大発作・小発作・その他				
エクセグラン <ゾニサミド> (大日本住友)	散(200mg/g) ¥52.5/g 100mg/錠 ¥27.4/錠		部分てんかん, 全般てんかん	100~600mg分1~3 <小児>2~8mg/kg分1~3
セレニカR <バルプロ酸> (興和創薬)	顆粒(400mg/g) ¥33.5/g		①小発作, 焦点発作, 精神運動発作, 混合 発作及びてんかんに 伴う性格行動障害 (不機嫌, 易怒性等), 躁病, 躁うつ病の躁 状態 ②片頭痛発作の発症 抑制	①400~1200mg分1 <小児>10~50mg/kg/日 ②400~800mg分1【Max:1000mg】
デパケンR <バルプロ酸> (協和発酵キリン)	200mg/錠 ¥15.5/錠			①400~1200mg分1~2, <小児>10~50mg/kg/日 ②400~800mg分1~2【Max:1000mg】
デパケン <バルプロ酸> (協和発酵キリン)	細粒(400mg/g) ¥21.5/g 100mg/錠 ¥9.9/錠 200mg/錠 ¥12.4/錠			①400~1200mg分2~3 <小児>10~50mg/kg/日 ②400~800mg分2~3【Max:1000mg】
バレリン <バルプロ酸> (大日本住友)	S Y (50mg/mL) ¥6.7/mL			

4. 抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イーケプラ 〈レベチラセタム〉 (大塚製薬)	250mg/錠 ¥123.2/錠		①てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む) ②他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法	<成人または体重50kg以上の小児> 1000mg分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:3000mg】 <小児(4歳以上)> 20mg/kg/日,分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:60mg/kg/日】
		500mg(5mL)/瓶 ¥1972/瓶		
イーケプラDS 〈レベチラセタム〉 (大塚製薬)	500mg/g ¥221.2/g			<成人または体重50kg以上の小児> 1000mg分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:3000mg】 <小児(4歳以上)> 20mg/kg/日,分2 2週間以上の間隔で増量 【Max:60mg/kg/日】
ガバペン 〈ガバペンチン〉 (ファイザー)	200mg/錠 ¥40.4/錠		部分発作(二次性全般化発作を含む)に対する抗てんかん薬との併用	初日600mg,2日目1200mg,3日目以降1200mg~1800mg分3【Max:2400mg】 <小児> 3~4歳:初日10mg/kg,2日目20mg/kg,3日目以降40mg/kg分3 5~12歳:初日10mg/kg,2日目20mg/kg,3日目以降25~35mg/kg分3 13歳以上:成人量 【Max:50mg/kg】
セルシン 〈ジアゼパム〉 (武田)		10mg(2mL)/管 ¥88/管	けいれん重積	10mg筋注,静注, 必要に応じて3~4hr毎 <小児>0.3~0.5mg/kg静注
ダイアップ 〈ジアゼパム〉 (和光堂) 投与制限:14日		4mg/坐剤 ¥58.2/個	熱性けいれん及びてんかんのけいれん発作の改善	0.4~0.5mg/kg/回, 1~2回直腸内挿入 【Max:1mg/kg/日】
		6mg/坐剤 ¥65.8/個		
		10mg/坐剤 ¥77.1/個		
テグレトール 〈カルバマゼピン〉 (ノバルティス)	細粒(500mg/g) ¥22/g		①てんかん(精神運動発作,痙攣発作,強直間代発作,てんかん性格・てんかんに伴う精神障害),躁病,躁鬱病の躁状態,統合失調症の興奮状態 ②三叉神経痛	①200~600mg分1~2【Max:1200mg】 <小児>10~25mg/kg/日 ②200~600mg【Max:800mg】
	200mg/錠 ¥10.3/錠			
トピナ 〈トピラマート〉 (協和発酵キリン)	50mg/錠 ¥87.8/錠		部分発作(二次性全般化発作を含む)に対する抗てんかん薬との併用	<成人>50mg/回,1~2回/日で開始 1週間以上の間隔で漸増 維持量200~400mg/日,分2 【Max:600mg】 <2歳以上の小児>1mg/kg/日,2回/日で開始 2週間以上の間隔で2mg/kg/日へ増量,以後2週間以上の間隔で2mg/kg/日以下ずつ漸増 維持量6mg/kg/日,分2 【Max:9mg/kg/日もしくは600mg/日】
ノーベルパール 〈フェノバルビタールナトリウム〉 (ノーベルファーマ)		250mg/瓶 ¥2119/瓶	①新生児けいれん ②てんかん重積状態	①初回20mg/kg静注,コントロールできない時追加投与可(初回量を超えない範囲で) 維持量2.5~5mg/kg分1静注 ②15~20mg/kg分1静注

4. 抗てんかん薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
フィコンパ <ペランパネル> (エーザイ)	2mg/錠 ¥189.7/錠		他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)、強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法	成人及び12歳以上の小児:2mg分1就寝前より開始 その後1週間以上の間隔をあけて2mgずつ漸増 <代謝を促進する抗てんかん薬との併用> 併用なし:維持用量8mg分1 併用あり:維持用量8~12mg分1 【Max:12mg】
プリミドン <プリミドン> (日医工)	細粒99.5% ¥29.5/g		てんかんの痙攣発作、強直間代発作(全般痙攣発作・大発作)、焦点発作(ジャクソン型発作を含む)、自律神経発作、精神運動発作、小型(運動)発作	250~2000mg分2~3 <小児>10~30mg/kg/日
マイスタン <クロバザム> (アルフレッサ・ファーマ) 投与制限:90日	10mg/錠 ¥35.8/錠		下記発作型における抗てんかん薬との併用 <単純部分発作、複雑部分発作、二次性全般化強直間代発作、強直間代発作、強直発作非定型欠神発作、ミカロニ-発作、脱力発作>	10~30mg分1~3 【Max:40mg/日】 <小児>0.2~0.8mg/kg 【Max:1.0mg/kg】
リボトリール <クロナゼパム> (中外) 投与制限:90日	0.5mg/錠 ¥9.1/錠 2mg/錠 【院外のみ】 ¥23.1/錠 細粒(1mg/g) ¥13.1/g		小型(運動)発作、ミカロニ-発作、精神運動発作、自律神経発作	0.5~6mg分1~3 <乳・幼児>0.1~0.2mg/kg分1~3

5. 抗精神病薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■フェノチアジン系				
コントミン ＜クロルプロマジン＞ (田辺三菱)		25mg(5mL)/管 ¥92/管	統合失調症, 躁病, 悪心・嘔吐, 催眠・鎮静, 麻酔前投与, 神経症における不安・緊張・抑うつ	10~50mg/回筋注 ＜小児＞1~4mg/kg/日
	12.5mg/錠 ¥9.2/錠		統合失調症, 躁病, 神経症における不安・緊張・抑うつ, 悪心・嘔吐, 吃逆, 破傷風に伴う痙攣, 麻酔前投薬, 人工冬眠, 催眠・鎮静・鎮痛剤の効力増強	1日30~100mg, 分割投与 精神科領域: 1日50~450mg, 分割経口
	25mg/錠 ¥9.2/錠			
テグレートル ＜カルバマゼピン＞ (パルテリス)	細粒(500mg/g) ¥22/g		統合失調症の興奮状態, 躁病, 躁鬱病の躁状態【A-9参照】	①200~600mg分1~2【Max:1200mg】 ＜小児＞10~25mg/kg/日 ②200~600mg【Max:800mg】
	200mg/錠 ¥10.3/錠			
ノバミン ＜プロクロルペラジン＞ (オノキ)	5mg/錠 ¥9.6/錠		①統合失調症 ②悪心・嘔吐	①15~45mg/日 ②5~20mg/日
ヒルナミン ＜レボメプロマジン＞ (共和薬品工業)	25mg/錠 ¥5.6/錠		統合失調症, 躁病・うつ病における不安・緊張	25~200mg
■フェノチアジン類似系				
ロドピン ＜ゾテピン＞ (アストラ)	25mg/錠 ¥16.8/錠		統合失調症	75~150mg【Max:450mg】
■ブチロフェノン系				
セレネース ＜ハロペリドール＞ (大日本住友)	0.75mg/錠 ¥7.8/錠		統合失調症, 躁病	0.75~6mg
	1.5mg/錠 ¥9.4/錠			
		5mg(1mL)/管 ¥89/管		5mg/回, 1~2回/日筋注

5. 抗精神病薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非定型抗精神病薬				
エビリファイ <アリピプラゾール> (大塚製薬)	6mg/錠 ¥127.3/錠		①統合失調症 ②双極性障害における躁症状の改善 ③うつ病・うつ状態(既存治療で十分な効果が認められない場合) ④小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性(原則として6歳以上18歳未満の患者に使用)	①6~12mg/日より開始 6~24mg/日,分1~2【Max:30mg】 ②24mg/日より開始 12~24mg/日,分1【Max:30mg】 ③3mg,分1【Max:15mg】 ④1mg/日より開始 1~15mg/日,分1【Max:15mg】(増量幅は最大3mg/日)
クエチアピン <クエチアピン> (東和薬品)	25mg/錠 ¥12.1/錠 100mg/錠 ¥39.8/錠		統合失調症	25mg/回, 2~3回/日より開始徐々に増量 150~600mg/日,2~3回/日 【Max:750mg/日】
ジプレキサザイデイス <オランザピン> (日本イーライリリ)	5mg/錠 ¥183.4/錠		①統合失調症 ②双極性障害における躁症状の改善 ③抗悪性腫瘍剤(スプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心,嘔吐)	①5~10mg/日,分1より開始 10mg/日,分1【Max:20mg/日】 ②10mg/日,分1【Max:20mg/日】 ③5mg/日,分1【Max:10mg/日】
リスペリドンOD <リスペリドン> (東和薬品)	1mg/錠 ¥14.5/錠		統合失調症	2~6mg分2 【Max:12mg】
ルーラン <ペロスピロン> (大日本住友)	4mg/錠 ¥16.3/錠			4mg/回, 3回/日より開始徐々に増量 12~48mg/日,3回/日 【Max:48mg/日】

6. 抗うつ薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■三環系【第一世代】				
24歳以下の患者で自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため, リスクとベネフィットを考慮すること。				
トリプタノール <アミトリプチリン> (日医工)	10mg/錠 ¥9.6/錠 25mg/錠 ¥9.6/錠		①うつ病・うつ状態 ②夜尿症 ③末梢性神経障害性疼痛	①30~150~(300)mg ②10~30mg分1 ③初期用量1日10mg, 適宜増減【Max: 150mg】
■三環系【第二世代】				
24歳以下の患者で自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため, リスクとベネフィットを考慮すること。				
アモキサシ <アモキサシピン> (ファイザー)	25mg/C ¥12.4/C		うつ病・うつ状態	25~150【Max:300mg】分1~数回
■四環系【第二世代】				
24歳以下の患者で自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため, リスクとベネフィットを考慮すること。				
テトラミド <ミアンセリン> (第一三共)	10mg/錠 ¥14.5/錠		うつ病・うつ状態	30~60mg分1
■その他【第二世代】				
スルピリド <スルピリド> (沢井製薬)	50mg/錠 ¥6.3/錠		①統合失調症 ②うつ病・うつ状態	①300~600mg【Max:1200mg】 ②150~300mg【Max:600mg】
■その他【第二世代】				
24歳以下の患者で自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため, リスクとベネフィットを考慮すること。				
デジレル <トラゾドン> (ファイザー)	25mg/錠 ¥15.6/錠		うつ病・うつ状態	75~100~(200)mg分1~数回

6. 抗うつ薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■SSRI(選択的セロトニン再取り込み阻害剤)【第三代】 24歳以下の患者で自殺念慮、自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため、リスクとベネフィットを考慮すること。				
ジェイゾロフト ＜セルトラリン＞ (ファイザー)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥85.3/錠		うつ病・うつ状態、パニック障害、外傷後ストレス障害	初期用量25mg分1、100mg分1まで漸増【Max:100mg/日】
パキシル ＜パロキセチン＞ (グラクソ・スミスクライン)	10mg/錠 ¥82.8/錠 20mg/錠 【院外のみ】 ¥143.9/錠		①うつ病・うつ状態 ②パニック障害 ③強迫性障害 ④社会不安障害 ⑤外傷後ストレス障害	①20～40mg分1夕食後 10～20mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】 ②30mg分1夕食後 10mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:30mg/日】 ③40mg分1夕食後 20mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:50mg/日】 ④20mg分1夕食後 10mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】 ⑤20mg分1夕食後 10～20mgより開始、1週ごとに10mg/日ずつ増量【Max:40mg/日】
パキシルCR ＜パロキセチン＞ (グラクソ・スミスクライン)	12.5mg/錠 ¥83.2/錠		うつ病・うつ状態	12.5mg分1夕食後 12.5mgより開始、1週ごとに12.5mg/日ずつ増量【Max:50mg/日】
ルボックス ＜フルボキサミン＞ (フットジヤパン)	25mg/錠 ¥31.5/錠		うつ病・うつ状態、強迫性障害、社会不安障害	50～150mg分2
レクサプロ ＜エスシタロプラム＞ (田辺三菱)	10mg/錠 ¥202.3/錠		うつ病・うつ状態、社会不安障害	10mg, 分1夕食後【Max:20mg】

■SNRI(セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤)【第四世代】

24歳以下の患者で自殺念慮、自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため、リスクとベネフィットを考慮すること。

サインバルタ ＜デュロキセチン＞ (塩野義)	20mg/C ¥148.5/C		①うつ病・うつ状態 ②糖尿病性神経障害に伴う疼痛 ③線維筋痛症、慢性腰痛症、変形性関節症に伴う疼痛	①②20mg分1より開始 40mg分1朝食後【Max:60mg/日】 ③20mg分1より開始 60mg分1朝食後
トレドミン ＜ミルナシプラン＞ (旭化成)	25mg/錠 ¥27/錠		うつ病・うつ状態	初期用量25mg分2～3食後、100mg/日まで漸増 【高齢者】初期用量25mg分2～3食後、60mg/日まで漸増

■NaSSA(ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤)

24歳以下の患者で自殺念慮、自殺企図のリスクが増加するとの報告があるため、リスクとベネフィットを考慮すること。

リフレックス ＜ミルタザピン＞ (明治)	15mg/錠 ¥159.8/錠		うつ病・うつ状態	15～30mg分1就寝前 15mgより開始、1週ごとに15mg/日ずつ増量【Max:45mg/日】
--------------------------------	--------------------	--	----------	--

7. 躁病治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
セレンカR <バルプロ酸> (興和創薬)	顆粒(400mg/g) ¥33.5/g		①小発作, 焦点発作, 精神運動発作, 混合発作及びてんかんに伴う性格行動障害(不機嫌, 易怒性等), 躁病, 躁うつ病の躁状態 ②片頭痛発作の発症抑制	①400~1200mg分1 <小児>10~50mg/kg/日 ②400~800mg分1【Max:1000mg】
テグレトール <カルバマゼピン> (ハルeis)	細粒(500mg/g) ¥22/g 200mg/錠 ¥10.3/錠		①てんかん(精神運動発作, 痙攣発作, 強直間代発作, てんかん性格・てんかんに伴う精神障害), 躁病, 躁鬱病の躁状態, 統合失調症の興奮状態 ②三叉神経痛	①200~600mg分1~2【Max:1200mg】 <小児>10~25mg/kg/日 ②200~600mg【Max:800mg】
デパケンR <バルプロ酸> (協和発酵社)	200mg/錠 ¥15.5/錠			①400~1200mg分1~2, <小児>10~50mg/kg/日 ②400~800mg分1~2【Max:1000mg】
デパケン <バルプロ酸> (協和発酵社)	細粒(400mg/g) ¥21.5/g 100mg/錠 ¥9.9/錠 200mg/錠 ¥12.4/錠		①小発作, 焦点発作, 精神運動発作, 混合発作及びてんかんに伴う性格行動障害(不機嫌, 易怒性等), 躁病, 躁うつ病の躁状態 ②片頭痛発作の発症抑制	①400~1200mg分2~3 <小児>10~50mg/kg/日 ②400~800mg分2~3【Max:1000mg】
バレリン <バルプロ酸> (大日本住友)	S Y (50mg/mL) ¥6.7/mL			
リーマス <炭酸リチウム> (大正富山)	200mg/錠 ¥18.8/錠		躁病, 躁うつ病の躁状態	400~1200mg分1~3

8. 抗不安薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■弱作用				
グランダキシ 〈トフィソパム〉 (持田)	50mg/錠 ¥13.6/錠		自律神経失調症, 頭部・頸部損傷, 更年期障害・卵巣欠落症状における頭痛・頭重, 倦怠感, 心悸亢進, 発汗等の自律神経症状	150mg分3
リーゼ 〈クロチアゼパム〉 (田辺三菱) 投与制限: 30日	5mg/錠 ¥6.3/錠		①心身症, 自律神経失調症におけるめまい・肩こり・食欲不振 ②麻酔前投薬	①15~30mg分3 ②10~15mg就寝前または術前
■中等度作用				
アタラックスP 〈ヒドロキシジン〉 (ファイザー)	25mg/C ¥5.8/C		①神経症 ②じんましん, 皮膚疾患に伴う掻痒	①75~150mg分3~4 ②50~75mg分2~3
		25mg(1mL)/管 ¥56/管	神経症, 麻酔前投薬, 術前・術後の悪心・嘔吐の防止	25~50mg/回静注 50~100mg/回筋注
アルプラゾラム 〈アルプラゾラム〉 (東和薬品) 投与制限: 30日	0.4mg/錠 ¥5.6/錠		心身症	1.2~2.4mg分3~4
セディール 〈タンドスピロン〉 (大日本住友)	10mg/錠 ¥26.6/錠		心身症における身体症候・抑うつ・不安・焦燥・睡眠障害, 神経症における抑うつ・恐怖	30mg分3【Max:60mg】
セルシン 〈ジアゼパム〉 (武田) 投与制限: 90日	散(10mg/g) ¥15.3/g 2mg/錠 ¥5.9/錠 5mg/錠 ¥9.2/錠		①神経症, うつ病における不安・緊張, 心身症における身体症候, 不安・緊張・抑うつ ②脳脊髄疾患に伴う筋痙攣・疼痛における筋緊張の軽減 ③麻酔前投薬	①4~20mg分2~4 外来患者は1日15mg以内 〈小児〉0.04~0.2mg/kg/回 ②6~40mg分3~4 ③5~10mg就寝前または術前
セルシン 〈ジアゼパム〉 (武田)		10mg(2mL)/管 ¥88/管	不安・興奮・抑うつの軽減	10mg筋注, 静注, 以後必要に応じ3~4hr毎
メイラックス 〈ロフラゼパ酸エチル〉 (明治) 投与制限: 30日	1mg/錠 ¥16.8/錠		神経症, 心身症	2mg分1~2

8. 抗不安薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■強作用				
エチゾラム <エチゾラム> (エーザイ)	0.5mg/錠 ¥6.3/錠 1mg/錠 ¥6.4/錠		①神経症・うつ病における不安・緊張・睡眠障害 ②心身症, 頸椎症・腰痛症・筋収縮性頭痛における不安・緊張・抑うつ・筋緊張 ③統合失調症における睡眠障害	①3mg分3 ②1.5mg分3 ③1~3mg分1
セバゾン <クロキサゾラム> (第一三共) 投与制限: 30日	1mg/錠 ¥5.6/錠		神経症, 心身症, 術前の不安除去	3~12mg分3
レキソタン <プロマゼパム> (エーザイ) 投与制限: 30日	2mg/錠 ¥5.8/錠		①神経症, うつ病における不安・緊張 ②心身症 ③麻酔前投薬	①6~15mg分2~3 ②3~6mg分2~3 ③5mg就寝前または術前
ロラゼパム <ロラゼパム> (沢井製薬) 投与制限: 30日	0.5mg/錠 ¥5/錠		神経症における不安・緊張・抑うつ, 心身症(自律神経失調症, 心臓神経症)における身体症候並びに不安・緊張・抑うつ	1~3mg分2~3

9. 抗パーキンソン薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アキネトン <ピペリデン> (大日本住友)	1mg/錠 ¥5.6/錠			3~6mg/日
		5mg(1mL)/管 ¥58/管	パ-キンソン病,パ-キンソン症候群,アジ7	5~10mg筋注・(静注)
アーテン <トリヘキシフェニジル> (ファイザ-)	2mg/錠 ¥8.6/錠			2~10mg分3~4
エフピーOD <セレギリン> (エフピー-)	2.5mg/錠 ¥301.9/錠		パ-キンソン病 (レボドパ含有製剤を併用する場合:Yahr重症度ステージI~IV,レボドパ含有製剤を併用しない場合:Yahr重症度ステージI~III)	<レボドパ含有製剤を併用する場合> 始め1日1回2.5mg朝食後以後2週毎に2.5mgずつ漸増し維持量を定める(標準維持量1日7.5mg) 5mg以上の時朝・昼食後 7.5mg以上朝5mg昼2.5mg 【Max:10mg/日】 <レボドパ含有製剤を併用しない場合> 始め1日1回2.5mg朝食後以後2週毎に2.5mgずつ漸増し1日10mg 5mg以上の時朝・昼食後 7.5mg以上朝5mg昼2.5mg 【Max:10mg/日】
カバサール <カベルゴリン> (ファイザ-)	0.25mg/錠 【院外のみ】 ¥67.1/錠		①パ-キンソン病 ②乳汁漏出症,高プロラクチン血性排卵障害,高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ③産褥性乳汁分泌抑制	①始め1日0.25mg朝食後,2週目0.5mg,以後1週毎に0.5mgずつ増量し,維持量を定める 【Max:3.0mg】 ②初回0.25mg/分1就寝前/週1回,漸増投与,維持量0.25mg~0.75mg 【Max:1.0mg】 ③1.0mg/1回のみ,胎児娩出後,食後投与
	1.0mg/錠 ¥221.6/錠			
シンメトレル <アマンタジン> (田辺三菱製薬)	50mg/錠 ¥15.2/錠		①パ-キンソン症候群 ②脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善 ③A型インフルエンザウイルス感染症	①100~200mg分2(~3) 【Max:300mg】 ②100~150mg分2~3 ③100mg分1~2
ドブスOD <ドロキシドパ> (大日本住友)	100mg/錠 ¥59.2/錠		①パ-キンソン病のすくみ足,立ちくらみの改善 ②シャトルーガ-症候群,家族性アミロトホリニューロパチーにおける起立性低血圧	①600mg分3 ②300~600mg分3【Max:900mg】
トレリーフOD <ゾニサミド> (大日本住友)	25mg/錠 ¥948.5/錠		パ-キンソン病(レボドパ含有製剤に他の抗パ-キンソン病薬を使用しても十分に効果が得られなかった場合)	25mg分1(レボドパ含有製剤と併用) <パ-キンソン病における症状の日内変動(wearing-off現象)の改善の場合>50mg分1
ネオドパストン <レボドパ,カルビドパ> (第一三共)	100mg/錠 ¥26.5/錠		パ-キンソン病,パ-キンソン症候群	始め1回50~100mg, 1日100~200mg以後漸増し最適投与量を定め維持量300~600mg分3
パーロデル <プロモクリプチン> (ハ-ルイス)	2.5mg/錠 ¥62.6/錠		①パ-キンソン症候群 ②産褥性乳汁分泌抑制,乳汁漏出症,高プロラクチン血性排卵障害,高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ③末端肥大症,下垂体性巨人症	①7.5~22.5mg分2~3漸増投与 ②5.0~7.5mg分2~3 ③2.5~7.5mg分2~3

9. 抗パーキンソン薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ビ・シフロール <プラミペキソール> (パ・リンガ・)	0.5mg/錠 ¥144.1/錠		①パーキンソン病 ②中等度から高度の特発性ストレスレグス症候群	①0.25mg/日からはじめ、2週目に1日量を0.5mg、以後1週間毎に1日量として0.5mgずつ増量し、1.5~4.5mg/日とする【Max:4.5mg/日】 ②0.125mg/日から開始、0.25mg分1就寝2~3時間前、増量は1週間以上の間隔で【Max:0.75mg/日】
マドパー <レボドパ、ベンセラジド> (中外)	100mg/錠 ¥27.5/錠		パーキンソン病、パーキンソン症候群	始め1回50~100mg、1日100~200mg以後漸増し最適投与量を定め維持量300~600mg分3

10. 脳循環代謝薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■脳血管拡張剤				
イフェンプロジル酒石酸塩錠20mg「トーワ」 <イフェンプロジル> (東和薬品)	20mg/錠 ¥5.8/錠		脳梗塞後遺症、脳出血後遺症に伴うめまいの改善	60mg分3
ケタス <イブジラスト> (杏林)	10mg/C ¥21.2/C		①脳梗塞後遺症に伴う慢性脳循環障害によるめまいの改善 ②気管支喘息	①30mg分3 ②20mg分2
サアミオン <ニセルゴリン> (田辺三菱)	5mg/錠 ¥24/錠		脳梗塞後遺症、脳出血後遺症に伴う慢性脳循環障害による諸症状	15mg分3
ユベラN <ニコチン酸トコフェロール> (エーザイ)	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴症状、高脂血症、閉塞性動脈硬化症に伴う末梢循環障害	300~600mg分3
■脳代謝賦活剤				
アデホス <アデノシン三リン酸> (興和創薬)	20mg/錠 ¥5.6/錠		頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善、心不全、調節性眼精疲労における調整機能の安定化、消化管機能低下のみられる慢性胃炎	120~180mg分3
アデホスーL <アデノシン三リン酸> (興和創薬)		10mg(2mL)/管 ¥59/管	頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善、心不全、筋ジストロフィー症及びその類縁疾患、急性灰白髄炎、脳性小児麻痺(弛緩型)、進行性脊髄性筋萎縮症・その類似疾患、調節性眼精疲労における調整機能の安定化、耳鳴・難聴、消化管機能低下のみられる慢性胃炎、慢性肝疾患における肝機能の改善	静注:1回5~40mg,1日1~2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応): 1回40~80mg,1日1回 <小児>0.5mg/kg急速静注(増量可能)
		40mg(2mL)/管 ¥60/管		
グラマリール <チアプリド> (アストラ)	25mg/錠 ¥19.5/錠		脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行動、精神興奮、徘徊、せん妄の改善、特発性ジストニア・パーキンソン症に伴うジストニア	75~150mg分3
トリノシン <アデノシン三リン酸> (トーアエイヨー)	顆粒(100mg/g) ¥17/g		①心不全、頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善、消化管機能低下のみられる慢性胃炎、調節性眼精疲労における調整機能の安定化 ②メニエル病・内耳障害に基づくめまい	①120~180mg分3 ②300mg分3

10. 脳循環代謝薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■脳保護剤(フリーゾ'カスバ'ンゾ'ヤ)				
エダラボン <エダラボン> (ニプロ)		バッグ30mg(100mL)/袋 ¥1522/袋	脳梗塞急性期に伴う神経症候, 日常生活動作障害, 機能障害の改善	1回30mg(1袋)1日2回点静, 発症後24hr以内に投与 【Max:14日間】
■その他				
エリル <ファスジル> (旭化成)		30mg(2mL)/管 ¥2494/管	颅膜下出血術後の脳血管れん縮・脳虚血症状の改善	60~90mg分2~3, 点静
キサンボンS <オザゲレル> (キッセイ)		40mg/管 ¥1240/管	①颅膜下出血後の脳血管攣縮 ②脳血栓症(急性期)	①80mg, 24hr 静脈内持続投与 ②160mg分2, 持続静注
セレジストOD <タルチレリン> (田辺三菱)	5mg/錠 ¥973.5/錠		脊髄小脳変性症における運動失調の改善	10mg分2
ヒルトニン <プロチレリン> (武田)		0.5mg(1mL)/管 ¥1128/管	①頭部外傷・くも膜下出血(意識障害固定期間3週間以内)に伴う昏睡・半昏睡を除く遷延性意識障害 ②脊髄小脳変性症における運動失調の改善 ③下垂体TSH分泌機能検査	①0.5~2mg分1静注, 点静10日間 ②2mg分1筋注, 静注, 2~3週間投与後2~3週間休薬, 以後反復投与。又は週2~3回 ③0.5mg分1, 静注, 皮下
■アルツハイマー型認知症治療薬 ◆コリンエステラーゼ阻害薬				
ドネペジルOD <ドネペジル> (東和薬品)	3mg/錠 ¥71.4/錠 5mg/錠 ¥104.8/錠 10mg/錠 ¥177.7/錠		アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	3mg分1から開始1~2週後5mg分1 【Max:10mg/日】
■アルツハイマー型認知症治療薬 ◆NMDA受容体拮抗薬				
メマリーOD <メマンチン> (第一三共)	5mg/錠 ¥134.9/錠		中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	5mg分1から開始 5mg/週ずつ増量し維持量20mg分1

1 1. 重症筋無力症治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アンチレクス <エドロホニウム> (杏林)		10mg(1mL)/管 ¥113/管	重症筋無力症の診断	10mg/回静注(2mgを15~30秒かけて注射,45秒後反応をみて必要に応じて8mg注射) <乳児>0.5~1mg静注 <小児>体重35kg未満1mg(追加5mg迄)
ウブレチド <ジスチグミン> (鳥居)	5mg/錠 ¥18.6/錠		①手術後及び神経因性膀胱などの低緊張性膀胱による排尿困難 ②重症筋無力症	①5mg/日 ②5~20mg分1~4
マイテラーゼ <アンペノニウム> (アルファ・ファーマ)	10mg/錠 ¥20.9/錠		重症筋無力症	15mg分3
メスチノン <ピリドスチグミン> (共和)	60mg/錠 ¥23/錠			180mg分3
ワゴスチグミン <ネオスチグミン> (共和薬品工業)		0.5mg(1mL)/管 ¥94/管	①重症筋無力症,クラーレ剤による遷延性呼吸抑制,手術後および分娩後の腸管麻痺,排尿困難 ②非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗	①0.25~3mg分1~3皮下,筋注 ②0.5~2.0mg/日静注ただし,硫酸アトロピンを静脈内により併用

12. 副交感神経興奮薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アトワゴリバース ＜配合剤： ネオスチグミン1m g, アトロピン0.5mg ＞ (テルモ)		3mL/筒 ¥412/筒	非脱分極性筋弛緩剤 の作用の拮抗	1.5～6mL/回緩徐に静注
ワゴスチグミン ＜ネオスチグミン＞ (共和薬品工業)		0.5mg(1mL)/管 ¥94/管	①非脱分極性筋弛緩 剤の作用の拮抗 ②重症筋無力症, ク レブ剤による遷延性呼 吸抑制, 手術後およ び分娩後の腸管麻 痺, 排尿困難	①0.5～2.0mg/日静注ただし, 硫酸ア トロピンを静脈内により併用 ②0.25～3mg分1～3皮下, 筋注

13. その他

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■注意欠陥／多動性障害治療剤				
ストラテラ <アトモキセチン> (日本イライリ-)	5mg/C ¥272.5/C		注意欠陥／多動性障害 (AD/HD)	18歳未満:0.5mg/kg分2より開始 以後増量し維持量1.2~1.8mg/kg/ 日,分2 【Max:1.8mg/kg又は120mg/日】 18歳以上:40mg分1~2より開始 以後増量し維持量80~120mg分1~2 【Max:120mg/日】
	10mg/C ¥324.7/C			
	25mg/C ¥409.5/C			
■末梢性神経障害性疼痛治療薬				
リリカOD <プレガバリン> (ファイザー)	25mg/錠 ¥66.9/錠		①神経障害性疼痛 ②線維筋痛症に伴う疼痛	①初期用量150mg分2,以後1週間以上かけて漸増し300mg分2 【Max:600mg,分2】 ②初期用量150mg分2,以後1週間以上かけて漸増し300~450mg分2 【Max:450mg,分2】
	75mg/錠 ¥111.5/錠			
■その他				
リタリン <メチルフェニデート> (ハルシス) 投与制限:30日	10mg/錠 ¥9.1/錠		ナルコプシー	20~60mg分1~2

【 抗てんかん薬の種類と血中濃度 】

■主な抗てんかん薬の治療域血中濃度と薬物動態

一般名称	略号	薬剤名	維持量		治療域の血中濃度 ($\mu\text{g/mL}$)	半減期(時間)		主な副作用
			成人(mg)	小児(mg/kg)		成人	小児	
フェノバルビタール	PB	フェノバルビタール	30~200	2~7	15~25(~40)	79~117	25~75	眠気、多動、攻撃的
プリミドン	PRM	プリミドン	1500	10~20	3~12	19.4		眠気、めまい、頭痛、肝機能異常
カルバマセピン	CBZ	テグレトール	400~1200	5~25	5~10	10~26	8~20	眠気、失調、複視、発疹(5~10%)
フェニトイン	PHT	アレビアチン	200~300	3~12	7~20	血中濃度 $5\mu\text{g/mL}$ 前後		失調、眼振、歯肉増殖、多毛、ざ瘡
						7~42	2~16	
						血中濃度 $10\mu\text{g/mL}$ 以上		
						20~70	8~30	
ゾニサミド	ZNC	エクセグラン	200~600	4~12	10~30	50~63	16~36	眠気、食欲不振、自発性低下、精神活動緩慢
バルプロ酸	VPA	デパケン バレリンシロップ	400~1200	15~50	50~100	10~19	6~15	食欲不振、肥満、脱毛、血小板減少
バルプロ酸徐放剤	VPA-R	デパケンR セレニカR	400~1200	15~40		12~26	6~12	
エスクシミド	ESM	エピレオプチマル	450~1000	15~40	50~100	40~60	24~41	嘔吐、嘔気、頭痛、汎血球減少
クロナゼハム	CZP	リボトリール	2~6	0.025~0.2	0.02~0.07	26~49	22~33	眠気、唾液分泌増加、筋緊張低下、攻撃性
ニトラゼハム	NZP	ベンザリン	5~15	0.2~0.5	0.02~0.1	24~31		眠気、唾液分泌増加、筋緊張低下
ジアゼハム	DZP	セルシン ダイアアップ		0.1~0.5	0.2~0.5	32~41	8~20	眠気、ふらつき、興奮
クロバザム	CLB (N-DMCLB)	マイスタン	10~40	0.2~1.0	未確定	17~49 (N-DMCLB)36~46	16 (N-DMCLB)15	眠気、ふらつき、めまい(5%以上)
アセタゾラミド	AZM	ダイアモックス	250~750	10~20	10~14	10~15		眠気、食欲不振、多尿、アシドーシス
臭化カリウム	KBr	臭化カリウム	1500~3000	20~80	750~1250	10~13日	5~8日	悪心・嘔吐、頭痛、めまい、ふらつき、ざ瘡
ガバペンチン	GBP	ガバペン	600~2400	5~45	—	6~9		傾眠、めまい、頭痛、複視、倦怠感、痙攣
トピラマート	TPM	トピナ	200~600	4~10	—	20~30	13~20	傾眠、体重減少、めまい、無食欲、大食症候群
ラモトリギン	LTG	ラミクタール	150~400	1~5	—	30~40	19~33	傾眠、めまい、肝機能障害、発疹、複視
VPA併用時			100~200	1~3	—	30~48	45~66	
PB、PRM、PHT、 CBZ併用時			200~400	5~15	—	12~15	7~8	

【抗うつ薬について】

1. 薬物療法の要点

- 1) 単剤を低用量から開始
- 2) 効果発現までに2-3週間を要する
- 3) 有害作用に注意しながら可能な限り速やかに増量
- 4) 十分な最終投与量を投与し、十分期間効果判定を待つ
- 5) 寛解維持期には少なくとも半年程度同量の抗うつ薬を継続
- 6) ベンゾジアゼピン系受容体作動薬併用時は、必要最小限とし、常用量依存に注意

2. 抗うつ薬使用時の留意点

- 1) 抗うつ薬投与初期及び増量時のアクチベーション(焦燥感や不安感の増大、不眠、パニック発作、アカシジア、敵意・易刺激性・衝動性の亢進、躁・軽躁状態の出現等)に注意
- 2) セロトニン症候群(錯乱、軽躁、焦燥、ミオクローヌス、反射亢進、発汗、発熱、下痢、振戦等)に注意

3. 各薬剤の特徴

分類	特徴
三環系 四環系	抗コリン作用による口渇、便秘、排尿障害に注意 抗ヒスタミン作用による眠気に注意 心筋伝導障害を来たす可能性や過量内服時の致死性に注意
デジレル	比較的鎮静作用が強い
スルピリド	錐体外路障害に注意(特に高齢者や女性、小児の場合)
新規抗うつ薬	SSRI 投与初期の悪心に注意(通常は2,3日で消失) 不安を有するうつ病患者に適している(パニック障害や強迫性障害等にも有効) CYP、P糖蛋白関連の相互作用に注意 ※パロキセチン(CYP2D6阻害), フルボキサミン(CYP2C9, 1A2, 3A4阻害)等
	SNRI 投与初期の悪心に注意(通常は2,3日で消失) 痛みを有するうつ病患者に適している 排尿困難が現れることがあるので、高齢男性には注意が必要
	NaSSA 薬物相互作用が少なく、効果発現が早い 食欲増進効果もあり、癌患者のうつ病に適している 抗ヒスタミン作用による眠気に注意

【参考】日本うつ病学会治療ガイドライン, Pocket Drugs2014
(2018年改定)

【睡眠薬および抗不安薬の作用時間と作用特性】

1. 催眠鎮静薬

区分	商品名	一般名	Tmax(時間)	半減期(時間)	筋弛緩作用
超短時間型	ゾルピデム	ゾルピデム	0.7~0.9	2.3	±~+
	ルネスタ	エスゾピクロン	0.5~2.0	5	±~+
	トリアゾラム	トリアゾラム	1.2	2.9	++
短時間型	ブロチゾラム	ブロチゾラム	1.0~1.5	7	+
	エバミール	ロルメゼパム	1~2	10	++
	リスミー	リルマザホン	3	10.5	±~+
中間型	フルニトラゼパム	フルニトラゼパム	1	7	+~+++
	ユーロジン	エスタゾラム	5	24	++
	ベンザリン	ニトラゼパム	1.6~2	27	+~+++
間長時間型	ドラール	クアゼパム	3.4	37~116	±

2. 抗不安薬

区分	商品名	一般名	Tmax(時間)	半減期(時間)	作用特性				
					抗不安	鎮静催眠	筋弛緩	抗痙攣	抗うつ
短時間型	グラндаキシン	トフィソパム	1	47.1分	+	±	-	-	±
	エチゾラム	エチゾラム	3	6	3+	3+	2+	-	2+
	リーゼ	クロチアゼパム	1	6.3	2+	+	±	±	+
中時間型	アルプラゾラム	アルプラゾラム	2	14	2+	2+	+	-	2+
	ロラゼパム	ロラゼパム	2	12	3+	2+	+	-	+
	レキソタン	プロマゼパム	1	8~19	3+	2+	3+	2+	+
長時間型	セルシン	ジアゼパム	1	27~28	2+	3+	3+	3+	+
	コントロール	クロルジアゼポキ	1	6.6~28	2+	2+	+	±	-
	セパゾン	クロキサゾラム	活性代謝物 2~4	11~21	3+	+	+	-	+
	リボトリール	クロナゼパム	2	成人:19~46 小児:13~33	3+	3+	2+	3+	±
間長時間超	メイラックス	ロフラゼパム	1.2	122	2+	2+	+	-	±

【参考】

- ・治療薬マニュアル2017
- ・CURRENT THERAPY 2000 Vol.18 No.17
- ・医薬ジャーナル Vol.53 No.2 (2017)

(2015年3月作成)

(2017年3月改訂)

(2018年2月改訂)

1. 強心薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■強心配糖体				
ジゴシン <ジゴキシン> (中外)	散0.1mg/g 【院内製剤】		うっ血性心不全, 心房細動・粗動による頻脈, 発作性上室性頻拍	i) 急速飽和療法: 初回0.5mg以後0.5mg/6~8時間毎 ii) 維持療法: 0.25~0.5mg 腎排泄型(半減期=36hr) <小児>維持療法: 0.01mg/kg/日, 分2 【DI照会参照】
	¥1.01/g			
	0.125mg/錠 ¥9.6/錠			
	0.25mg/錠 ¥9.6/錠			
		0.25mg(1mL)/管 ¥92/管		
メチルジゴキシン <メチルジゴキシン> (武田テバファーマ)	0.1mg/錠 ¥5.8/錠		先天性心疾患、弁膜疾患、高血圧症、虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症など)に基づくうっ血性心不全、心房細動・粗動による頻脈、発作性上室性頻拍	急速飽和療法(飽和量: 0.6~1.8mg): 初回0.2~0.3mg(2~3錠), 以後0.2mg(2錠)/回, 1日3回, 十分効果が出現するまで続ける。 維持療法: 0.1~0.2mg 腎排泄型(半減期=24hr)
■カテコールアミン類				
イノバン0.3% <ドパミン> (協和発酵キリン)		150mg(50mL)/シリンジ ¥1076/シリンジ*	急性循環不全(心原性ショック, 出血性ショック)	1~5µg/kg/min持続静注 【Max: 20µg/kg/min】
ドブタミン <ドブタミン> (沢井)		100mg(5mL)/管 ¥240/管	急性循環不全	1~5~(20)µg/kg/min点静
ドミニン <ドパミン> (日本新薬)		100mg(5mL)/管 ¥391/管		
プロタノールL <レーイソプロテレノール> (興和創薬)		0.2mg(1mL)/管 ¥216/管	7分ムス・ストークス症候群の発作時, 急性心不全, 術後の低心拍出量症候群, 気管支喘息の重症発作時	0.2~1.0mg点静 <緊急時>0.2mgを静注, 筋注, 皮下 <小児>0.01~0.5~1µg/kg/min点静
■キサンチン類				
ネオフィリン <アミノフィリン> (エーザイ)		250mg(10mL)/管 ¥92/管	気管支喘息, 喘息性(様)気管支炎, 閉塞性肺疾患	0.7~1mg/kg/hr, 点静

1. 強心薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■心筋代謝性				
アデホス ＜アデノシン三リン酸＞ (興和創薬)	20mg/錠 ¥5.6/錠		頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善, 心不全, 調節性眼精疲労における調整機能の安定化, 消化管機能低下のみられる慢性胃炎	120～180mg分3
アデホスール ＜アデノシン三リン酸＞ (興和創薬)		10mg(2mL)/管 ¥59/管 40mg(2mL)/管 ¥60/管	頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善, 心不全, 筋ジストロフィー症及びその類縁疾患, 急性灰白髄炎, 脳性小児麻痺(弛緩型), 進行性脊髄性筋萎縮症・その類似疾患, 調節性眼精疲労における調整機能の安定化, 耳鳴・難聴, 消化管機能低下のみられる慢性胃炎, 慢性肝疾患における肝機能の改善	静注: 1回5～40mg, 1日1～2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応): 1回40～80mg, 1日1回 ＜小児＞0.5mg/kg急速静注(増量可能)
トリノシン ＜アデノシン三リン酸＞ (トーアエイヨー)	顆粒(100mg/g) ¥17/g		①心不全, 頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善, 消化管機能低下のみられる慢性胃炎, 調節性眼精疲労における調整機能の安定化 ②メニール病・内耳障害に基づくめまい	①120～180mg分3 ②300mg分3
■ホスホジエステラーゼ阻害薬				
コアテック ＜オルプリノン＞ (エザイ)		5mg(5mL)/管 ¥4260/管	急性心不全	10 μ g/kgを5分かけて緩徐に静注後, 0.1～0.3 μ g/kg/分, 点静 【Max: 0.4 μ g/kg/分】
ピモベンダン ＜ピモベンダン＞ (トアエイヨー)	1.25mg/錠 ¥57.4/錠		急性・慢性心不全 (軽症～中等症)	5mg分2
■心房性ナトリウム利尿ペプチド				
ハンブ ＜カルペリチド＞ (第一三共)		1000 μ g/瓶 ¥1874/瓶	急性心不全(急性憎悪期を含む)	0.1～(0.2) μ g/kg/min点静

2. 血管収縮薬（昇圧薬）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アドレナリン注0.1%シリンジ <エピネフリン> (TMC)		1mg(1mL)/筒 ¥152/筒	①気管支喘息・百日咳に基づく気管支痙攣の緩解 ②急性低血圧・ショック時の補助治療, 心停止の補助治療	①0.2~1mg/回皮下, 筋注 ②0.25mg/回静注
エホテール <エチレフリン> (サカイ)		10mg(1mL)/管 ¥58/管	起立性低血圧, 急性低血圧・ショック時の補助治療	2~10mg/回皮下, 筋注, 静注
ネオシネジン <フェニレフリン> (興和創薬)		5mg(1mL)/管 ¥58/管	急性低血圧・ショック時, 局麻時の作用延長, 発作性上室頻拍	(1)~2~5~(10)mg皮下, 筋注 <乳児>0.05mg静注 <幼児>0.1~2mg静注
ノルアドリナリン <d-1-ノルエピネフリン> (第一三共)		1mg(1mL)/管 ¥92/管	急性低血圧, ショック時の補助治療	0.1~1 μ g/kg/min点静 0.1~1mg/回皮下
ボスミン <エピネフリン> (第一三共)		1mg(1mL)/管 ¥92/管	気管支痙攣, 急性低血圧, ショック時の補助治療	0.2~1mg/回皮下, 筋注 0.25mg/回静注
メトリジン <ミドドリン> (大正富山)	2mg/錠 ¥31/錠		本態性低血圧, 起立性低血圧	4~8mg分2 <小児>4~6mg分2
リズミック <アメジニウム> (大日本住友)	10mg/錠 ¥22.3/錠		①本態性低血圧, 起立性低血圧 ②透析施行時の血圧低下の改善	①20mg分2, ②10mg/開始時

3. 不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のI a				
アミサリン 〈プロカインアミド〉 (第一三共)		100mg(1mL)/管 ¥92/管	期外収縮(上室性, 心室性), 発作性頻拍(上室性, 心室性), 手術および麻酔に伴う不整脈, 心房細動, 心房粗動(静注のみ)	0.5g/回筋注, 4~6hr毎 0.2~1g/回, 50~100mg/hr 静注 〈小児〉5~15mg/kg, 5分以上で静注
シベノール 〈シベンゾリン〉 (トアイイ)		70mg(5mL)/管 ¥856/管	頻脈性不整脈	0.1mL(1.4mg)/kg/回 血圧及び心電図監視下2~5分間かけて
シベンゾリン 〈シベンゾリン〉 (沢井製薬)	50mg/錠 ¥17.1/錠			300mg分3 【Max: 450mg】
リスモダン 〈ジソピラミド〉 (サファイ)	50mg/C ¥27.5/C		期外収縮, 発作性上室性頻脈, 心房細動	300mg分3 〈小児〉5~15mg/kg/日分3~4
リスモダンR 〈ジソピラミド〉 (サファイ)	150mg/錠 ¥48/錠		頻脈性不整脈	300mg分2
リスモダンP 〈ジソピラミド〉 (サファイ)		50mg(5mL)/管 ¥380/管	期外収縮, 発作性上室性頻拍, 発作性心房細・粗動	50~100mg(1~2mg/kg) 〈小児〉5~10mg/kg, 5分以上で静注 0.4mg/kg/hr, 点静
■Vaughan-William分類のI b				
アスペノン 〈アプリンジン〉 (パイル)	10mg/C ¥42.2/C	100mg(10mL)/管 ¥785/管	頻脈性不整脈	40~(60)mg分2~3 〈小児〉0.5~1.5mg/kg/日, 分2~3
				5%ブドウ糖等で10倍に希釈, 1.5~2mg/kg(希釈液として1.5~2.0mL/kg)/回, 5~10mL/分の速度で静注 【Max: 100mL(100mg)/回】
キシロカイン 〈リドカイン〉 (アスペンジヤパン)		100mg(5mL)/管 (静注用, 2%) ¥92/管	期外収縮(心室性), 発作性頻拍(心室性), 急性心筋梗塞時・手術に伴う心室性不整脈の予防	50~100mg/回静注 1~2~(4)mg/min点静 〈小児〉1~2mg/kg静注 〈維持〉15~50μg/kg/min
メキシチール 〈メキシレチン〉 (パリンガ)	50mg/C ¥16.5/C	100mg/C ¥26.5/C	①頻脈性不整脈(心室性) ②糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛, しびれ感)の改善	①300~(450)mg分3 〈小児〉5~15mg/kg/日, 分3 ②300mg分3
リドカイン静注用2% シリンジ 〈リドカイン〉 (フレ)		100mg(5mL)/筒 ¥151/管	期外収縮(心室性), 発作性頻拍(心室性), 急性心筋梗塞時・手術に伴う心室性不整脈の予防, 期外収縮(上室性), 発作性頻拍(上室性)	50~100mg/回静注(1~2mg/kg) 【Max: 300mg/hr】

3. 不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のI c				
サンリズム <ピルジカイニド> (第一三共)	50mg/C ¥69.9/C		頻脈性不整脈	150mg分3 【Max:225mg/回】
タンボコール <フレカイニド> (エザイ)	50mg/錠 ¥73/錠 細粒(100mg/ g) ¥180.6/g		①頻脈性不整脈(発 作性心房細動・粗 動,心室性) ②小児:頻脈性不整 脈(発作性心房細動 ・粗動,発作性上室 性,心室性)	①100~200mg分2 ②<6ヵ月以上>50~100mg/m ² 分2~3, <6ヵ月未満>50mg/m ² 分2~3 【Max:200mg/m ² /日】
■Vaughan-William分類のII				
インデラル				【B-11参照】
■Vaughan-William分類のIII				
アミオダロン <アミオダロン> (トアイソ)	50mg/錠 ¥80/錠 100mg/錠 ¥138.1/錠		心室細動,心室性頻 拍,心不全(低心機 能)又は肥大型心筋 症を伴う心房細動	<導入期>400mg分1~2 <維持期>200mg分1~2
アンカロン <アミオダロン> (サノイ)		150mg(3mL)/管 ¥3154/管	①心室細動,血行動 態不安定な心室頻拍 (生命に危険のあ る,難治性かつ緊急 を要する場合) ②電気的除細動抵抗 性の心室細動あるい は無脈性心室頻拍に よる心停止	【DI照会参照】
シンビット <ニフェカラント> (ホスピタージャパン)		50mg/瓶 ¥4673/瓶	心室頻拍,心室細動	<単回静注法> 0.3mg/kg/回5分かけて <維持静注法> 心電図の連続監視下に0.4mg/kg/hr を等速度で
ベプリコール <ベプリジル> (第一三共)	50mg/錠 ¥65.2/錠		①他の抗不整脈薬が 使用できないか又は 無効の頻脈性不整脈 (心室性),狭心症 ②他の抗不整脈薬が 使用できないか又は 無効の持続性心房細 動	①200mg分2 ②100mg分2から開始,【Max:200m g】

3. 不整脈用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Vaughan-William分類のIV				
ヘルベッサー 〈ジルチアゼム〉 (田辺三菱)		50mg/瓶 ¥950/瓶	頻脈性不整脈(上室性)【B-12参照】	10mg/回, 約3分間で静注
ワソラン 〈ベラパミル〉 (エーザイ)	40mg/錠 ¥7.1/錠		頻脈性不整脈(心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)【B-14参照】, 狭心症, 心筋梗塞(急性期を除く), その他の虚血性心疾患 〈小児〉頻脈性不整脈(心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)	120~240mg分3 〈小児〉3~6mg/kg/日, 分3 【Max:240mg/日】
		5mg(2mL)/管 ¥250/管	頻脈性不整脈(発作性心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)【B-14参照】	5mg/回静注 〈小児〉0.1~0.2mg/kg/回静注 【Max:5mg/回】 【新生児は慎重投与】
■その他				
アデホスール 〈アデノシン三リン酸〉 (興和創薬)		10mg(2mL)/管 ¥59/管	【適応外:上室性頻拍】	静注:1回5~40mg, 1日1~2回 点滴静注(40mg製剤のみ適応): 1回40~80mg, 1日1回 〈小児〉0.5mg/kg急速静注(増量可能)

4. 冠血管拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■亜硝酸製剤				
一硝酸イソソルビド ＜硝酸イソソルビド (一硝酸塩)＞ (沢井製薬)	20mg/錠 ¥7.6/錠		狭心症	40mg分2【Max:80mg/日】
硝酸イソソルビド ＜硝酸イソソルビド (二硝酸塩)＞ (高田製薬)		5mg(10mL)/管 ¥161/管	①急性心不全 ②不安定狭心症 ③冠動脈造影時の冠 れん縮緩解	①1.5～8mg点静 ②2～5mg/hr点静 ＜小児＞0.5～3～(6)μg/kg/min点静 ③5mg/mlカテーテル内注入
ニトロプロ ＜ニトロプルシドNa ＞ (丸石)		6mg(2mL)/管 【用時購入】 ¥693/管	①手術時の低血圧維持 ②手術時の異常高血 圧の緊急処置	①0.5μg/kg/分で投与開始, 通常2.5μg/kg/分以下で維持 【Max:3μg/kg/分】 ②0.5μg/kg/分で投与開始,通常2.0 μg/kg/分
ニトロペン ＜ニトログリセリン＞ (日本化薬)	0.3mg/錠(PTP 包装) ¥12.9/錠		狭心症, 心筋梗塞, 心 臓喘息7カラジ7の一時 的緩解	0.3～0.6mg/回
フランドルテープS ＜硝酸イソソルビド (二硝酸塩)＞ (ト7E3)		40mg/枚(10cm ×10cm) ¥67.3/枚	狭心症, 心筋梗塞, そ の他の虚血性心疾患	1枚/1～2日, 胸部・上腹部又は背部 に貼付
ミオコール ＜ニトログリセリン＞ (ト7E3)		5mg(10mL)/管 ¥291/管	手術時の低血圧維持 ・異常高血圧の緊急 処置, 急性心不全, 不 安定狭心症	1～5μg/kg/min ＜小児＞5μg/kg/min点静
ミオコールスプレー ＜ニトログリセリン＞ (ト7E3)		7.2g/缶 ¥1661.3/本	狭心症発作の寛解	1噴霧/回
ミリストープ ＜ニトログリセリン＞ (日本化薬)		5mg/枚(4.05cm ×4.5cm) ¥42.6/枚	狭心症, 急性心不全	2枚分2
■その他				
シグマート ＜ニコランジル＞ (中外)		48mg/瓶 ¥3543/瓶	①不安定狭心症 ②急性心不全(慢性 心不全の急性増悪期 を含む)	①2～6mg/hr ②0.2mg/kgを5分程かけて静注し, 引き続き0.05～0.2mg/kg/hr
ジピリダモール ＜ジピリダモール＞ (長生堂)	散(125mg/g) 【院外のみ】 ¥22.9/g		狭心症, 心筋梗塞, う っ血性心不全, そ の他の虚血性心疾患	75mg分3 ＜小児＞5mg/kg/日, 分3
ニコランジル ＜ニコランジル＞ (日医工)	5mg/錠 ¥5.8/錠		狭心症	15mg分3

5. 利尿薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■チアジド系				
フルイトラン <トリクロルメチアジド> (オノキ)	2mg/錠 ¥9.6/錠		高血圧症(本態性,腎性等),悪性高血圧,心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,月経前緊張症	2~8mg分1~2
■ループ利尿薬				
アゾセミド <アゾセミド> (日本ゼネリック)	60mg/錠 ¥16/錠		うっ血性心不全 腎性浮腫,肝性浮腫	60mg分1
フロセミド <フロセミド> (ニプロ)	20mg/錠 ¥6/錠		高血圧症(本態性,腎性等),悪性高血圧,心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,月経前緊張症,末梢血管障害による浮腫,尿路結石排出促進	40~80mg分1 <小児>1~4mg/kg/日分1~4
	40mg/錠 ¥6.3/錠			40~80mg分1 <小児>1~4mg/kg/日,分1~4
フロセミド <フロセミド> (日医工)		20mg(2mL)/管 ¥57/管	高血圧症(本態性,腎性等),悪性高血圧,心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,脳浮腫,尿路結石排出促進	20mg/回静注,筋注
ラシックス <フロセミド> (日医工)	細粒(40mg/g) ¥14.6/g		高血圧症(本態性,腎性等),悪性高血圧,心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,月経前緊張症,末梢血管障害による浮腫,尿路結石排出促進	40~80mg分1 <小児>1~4mg/kg/日分1~4
ルブラック <トラセミド> (大正富山)	4mg/錠 ¥21.9/錠		心性浮腫,腎性浮腫,肝性浮腫	4~8mg/日
■抗アルドステロン薬				
アルダクトンA <スピロノラクトン> (ファイザー)	細粒(100mg/g) ¥86.5/g		高血圧症(本態性,腎性等) 心性浮腫(うっ血性心不全),腎性浮腫,肝性浮腫,特発性浮腫,悪性腫瘍に伴う浮腫及び腹水,栄養失調性浮腫 原発性アルドステロン症の診断及び症状の改善	50~100mg <小児>2~4mg/kg/日,分2~3
	25mg/錠 ¥19.6/錠			
ソルダクトン <カンレノ酸カリウム> (ファイザー)		100mg/管 ¥323/管	原発性アルドステロン症,うっ血性心不全,肝性浮腫,開心術及び開腹術時における水分・電解質代謝異常	100~200mg/回,1~2回/日ゆっくり静注 【Max:600mg】
■炭酸脱水素酵素阻害薬				
ダイアモックス <アセタゾラミド> (三和化学)	250mg/錠 ¥24.1/錠		①緑内障 ②てんかん,メニエル病・メニエル症候群 ③肺気腫における呼吸性アシドーシスの改善	①250~1000mg ②250~750mg <小児>5mg/kg/日,分1 ③250~500mg
		500mg/瓶 ¥582/瓶		

5. 利尿薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非チアジド系				
ナトリックス <インダパミド> (大日本住友)	1mg/錠 ¥10.8/錠		本態性高血圧症	2mg分1 朝食後
■V2-受容体拮抗剤				
サムスカ <トルパブタン> (大塚製薬)	7.5mg/錠 ¥1277.3/錠		①ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ②ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留 ③腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	①1日1回15mg ②1日1回7.5mg ③60mg分2(朝45mg, 夕15mg)で開始し、1週間以上の間隔をあけて段階的に増量【MAX:120mg】
	15mg/錠 ¥1943.1/錠		①ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ②腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	①1日1回15mg ②60mg分2(朝45mg, 夕15mg)で開始し、1週間以上の間隔をあけて段階的に増量【MAX:120mg】
	顆粒(10mg/g) ¥1898.3/g		①ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 ②ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変における体液貯留 ③腎容積が既に増大しており、かつ、腎容積の増大速度が速い常染色体優性多発性のう胞腎の進行抑制	①1日1回15mg ②1日1回7.5mg ③60mg分2(朝45mg, 夕15mg)で開始し、1週間以上の間隔をあけて段階的に増量【MAX:120mg】

6. β 遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非選択性 ◆Prichard分類の1類2群 [ISA(-), MSA(+)]				
インデラル <プロプラノロール> (アストレ [®] 初)	10mg/錠 ¥13.2/錠		①本態性高血圧症 (軽症~中等症) ②狭心症, 褐色細胞 種手術時 ③期外収縮(上室性, 心室性), 発作性頻拍 の予防, 頻拍性心房 細動, 洞性頻脈, 新鮮 心房細動, 発作性心 房細動の予防 ④片頭痛発作の発症 抑制 ⑤右心室流出路狭窄 による低酸素発作の 発症抑制	①30~60mg分3 【Max:120mg】 ②30~90mg分3 ③30~90mg分3 <小児>低容量より開始し 0.5~2mg/kg, 分3~4 【Max:4mg/kg/日, 90mg/日】 ④20~30mg分2~3 【Max:60mg】 ⑤0.5~2mg/kg/日, 分3~4 【Max:4mg /kg/日】
		2mg(2mL)/管 ¥85/管	①狭心症, 期外収縮, 発作性頻拍, 頻拍性 心房細動, 新鮮心房 細動, 褐色細胞種手 術時 ②麻酔に伴う不整 脈, 洞性頻拍	①2~10mg静注 <小児>0.01~0.1mg/kg, 10分以上で 静注 ②1~5mg静注
■非選択性 ◆Prichard分類の1類3群 [ISA(+), MSA(-)]				
小児用ミケラン <カルテオロール> (大塚)	細粒(2mg/g) ¥13.2/g		アアに伴うアア [®] 発 作	0.1~0.3mg/kg/日, 分2

6. β 遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ β 1選択性 ◆Prichard分類の2類4群 [ISA(-), MSA(-)]				
オノアクト <ランジオロール> (小野薬品)		50mg/瓶 ¥4823/瓶	①手術時の心房細動, 心房粗動, 洞性頻脈の頻脈性不整脈に対する緊急処置 ②手術後の循環動態監視下における心房細動, 心房粗動, 洞性頻脈の頻脈性不整脈に対する緊急処置 ③心機能低下例における心房細動, 心房粗動の頻脈性不整脈	①1分間0.125mg/kg/min静脈内持続後, 0.04mg/kg/min静脈内持続 ②1分間0.06mg/kg/min静脈内持続後, 0.02mg/kg/min静脈内持続投与開始。5~10分を目安に目標とする徐拍作用が得られない場合は, 1分間0.125mg/kg/minの速度で静脈内持続投与した後, 0.04mg/kg/minの速度で静脈内持続投与する ③1 μ g/kg/minの速度で静脈内持続投与開始後, 1~10 μ g/kg/minの速度で適宜調節する。
コアベータ <ランジオロール> (小野薬品)		12.5mg/瓶 ¥2709/瓶	コンピュータ断層撮影による冠動脈造影における高心拍数時の冠動脈描出能の改善	0.125mg/kg/回, 1分間で静注
テノーミン <アテノロール> (アストラゼカ)	25mg/錠 ¥23.7/錠 50mg/錠 ¥39.9/錠		本態性高血圧症, 狭心症, 頻脈性不整脈	50~100mg分1
ピソノテープ <ピソプロロール> (トアイコー)		4mg/枚(4.25cm ×4.25cm) ¥81.9/枚	本態性高血圧症	8mg/日, 胸部・上腹部又は背部に貼付【Max:8mg/日】
メインテート <ピソプロロール> (田辺三菱)	2.5mg/錠 ¥28.8/錠 0.625mg/錠 ¥18.2/錠		①本態性高血圧症, 狭心症, 心室性期外収縮 ②虚血性心疾患または拡張型心筋症に基づく慢性心不全【ACE阻害薬又はARB, 利尿薬, ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者】 ③頻脈性心房細動 虚血性心疾患または拡張型心筋症に基づく慢性心不全【ACE阻害薬又はARB, 利尿薬, ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者】	①5mg分1 ②0.625mg分1開始, 以後漸増, 維持量1.25~5mg分1【Max:5mg/日】 ③2.5mg分1開始, 効果不十分な場合5mg分1へ増量【Max:5mg/日】 0.625mg分1開始, 以後漸増, 維持量1.25~5mg分1【Max:5mg/日】
ロプレソール <メトプロロール> (ハルシス)	20mg/錠 ¥12.3/錠		①本態性高血圧症 ②狭心症, 頻脈性不整脈	①60~240mg分3 ②60~120mg分2~3

6. β 遮断薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ α , β -遮断薬 ◆Prichard分類の3類2群 [ISA(-), MSA(+)]				
カルベジロール <カルベジロール> (沢井製薬)	2.5mg/錠 ¥9.9/錠		慢性心不全(虚血性心疾患, 拡張型心筋症) 【ACE阻害薬, 利尿薬, β キレート剤等の基礎治療を受けている患者】	2.5mg分2開始, 以後漸増, 維持量5~20mg分2
	10mg/錠 ¥19.3/錠		①本態性高血圧症, 腎実質性高血圧症 ②腎実質性高血圧症 ③狭心症 ④慢性心不全(虚血性心疾患, 拡張型心筋症) 【ACE阻害薬, 利尿薬, β キレート剤等の基礎治療を受けている患者】	①10~20mg分1 ②20mg分1 ③2.5mg分2開始, 以後漸増, 維持量5~20mg分2

7. Ca拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ジヒドロピリジン誘導体				
アゼルニジピン <アゼルニジピン> (東和薬品)	8mg/錠 ¥12.1/錠		高血圧症	8~16mg分1【Max:16mg/日】
アムロジピンOD <アムロジピン> (東和薬品)	2.5mg/錠 ¥12.4/錠 5mg/錠 ¥22.7/錠		①高血圧症 ②狭心症	①1日1回2.5~5mg【Max:10mg/日】 <小児:6歳以上>1日1回2.5mg 【Max:5mg/日】 ②5mg分1
シルニジピン <シルニジピン> (沢井製薬)	10mg/錠 ¥27.7/錠		高血圧症	5~10mg分1【Max:20mg】
セパミットR <ニフェジピン> (MSD)	細粒(10mg/0.5g/包) ¥16.5/包		①本態性高血圧症 ②狭心症	①20~40mg分2 ②40mg分2
ニカルジピン <ニカルジピン> (沢井製薬)		10mg(10mL)/管 ¥153/管	①手術時異常高血圧 ②高血圧性緊急症 ③急性心不全	①2~10 μ g/kg/minで開始以後血圧をモニターして投与量を調節 ②0.5~6 μ g/kg/min ③0.5~2 μ g/kg/min
ニフェジピンCR <ニフェジピン> (東和薬品)	20mg/錠 ¥11.7/錠		①高血圧症 ②腎実質性高血圧症, 腎血管性高血圧症 ③狭心症, 異型狭心症	①20~40mg分1【Max:40mg/回, 80mg/日】 ②20~40mg分1 ③40mg分1【Max:60mg】
ベニジピン <ベニジピン> (沢井製薬)	4mg/錠 ¥17.3/錠		①高血圧症, 腎実質性高血圧症 ②狭心症	①2~4mg分1【Max:8mg】 ②8mg分2, 朝・夕食後

7. Ca拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■心抑制型				
ジルチアゼム 〈ジルチアゼム〉 (沢井製薬)	30mg/錠 ¥5.6/錠		①本態性高血圧症 ②狭心症, 異型狭心症	①90~180mg分3 ②90mg分3【Max:180mg】 〈小児〉1.5mg/kg/日, 分3
ジルチアゼムR 〈ジルチアゼム〉 (沢井製薬)	100mg/C ¥11.8/C			①100~200mg分1 ②100mg分1【Max:200mg】
ヘルベッサ 〈ジルチアゼム〉 (田辺三菱)		50mg/瓶 ¥950/瓶	①頻脈性不整脈(上室性) ②手術時の異常高血圧 ③高血圧性緊急症 ④不安定狭心症	①10mg/回, 約3分間でiv ②10mg/回, 約1分間でiv, 5~15μg/kg/min, 点静 ③5~15μg/kg/min, 点静 ④1~(5)μg/kg/min, 点静
ワソラン 〈ベラパミル〉 (エーザイ)	40mg/錠 ¥7.1/錠		頻脈性不整脈(心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)【B-14参照】, 狭心症, 心筋梗塞(急性期を除く), その他の虚血性心疾患 〈小児〉頻脈性不整脈(心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)	120~240mg分3 〈小児〉3~6mg/kg/日, 分3【Max:240mg/日】
		5mg(2mL)/管 ¥250/管	頻脈性不整脈(発作性心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍)【B-5参照】	5mg/回静注 〈小児〉0.1~0.2mg/kg/回静注【Max:5mg/回】 【新生児は慎重投与】

8. ACE阻害薬・アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ACE阻害薬				
エナラプリル <エナラプリル> (ファイザー)	2.5mg/錠 ¥9.9/錠 5mg/錠 ¥11.2/錠		①高血圧症 ②慢性心不全	①1日1回2.5~10mg <小児:生後1ヵ月以上> 0.08mg/kg/日,1日1回 【Max:10mg/日】 ②1日1回2.5~10mg
タナトリン <イミダプリル> (田辺三菱)	5mg/錠 ¥50.3/錠		①高血圧症,腎実質性高血圧症 ②1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症	①2.5~10mg分1 <小児>0.1mg/kg/日,分1 ②5mg分1
■アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬				
アジルバ <アジルサルタン> (武田)	20mg/錠 【院外のみ】 ¥138/錠 40mg/錠 【院外のみ】 ¥206.8/錠		高血圧症	20mg分1【Max:40mg】
オルメテックOD <オルメサルタン> (第一三共)	20mg/錠 ¥103.4/錠			5~20mg分1【Max:40mg】
カンデサルタンOD <カンデサルタン> (エルメッドエーザイ)	4mg/錠 ¥13.8/錠		①高血圧症 ②腎実質性高血圧症	①4~8mg分1【Max:12mg】 ②2mg分1【Max:8mg】
パルサルタンOD <パルサルタン> (東和薬品)	40mg/錠 ¥16.6/錠		高血圧症	40~80mg分1【Max:160mg】 <小児:6歳以上> 35kg以上:1日1回40mg 35kg未満:1日1回20mg 【Max:40mg/日】
ミカルディス <テルミサルタン> (アステラス)	20mg/錠 ¥55.7/錠			20~40mg分1【Max:80mg】
ロサルタンK <ロサルタンカリウム> (ファイザー)	50mg/錠 ¥41.2/錠		①高血圧症 ②高血圧及び蛋白尿を伴う2型糖尿病における糖尿病性腎症	①25~50mg分1【Max:100mg】 ②(25~)50mg分1【Max:100mg】

8. ACE阻害薬・アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ARB・Ca拮抗剤合剤				
エックスフォージ配合 OD <バルサルタン, アム ロジピン> (パルテス)	80mg, 5mg/錠 【院外のみ】 ¥96.2/錠		高血圧症	1錠分1
ミカムロAP <テルミサルタン, ア ムロジピン> (アステラス)	40mg, 5mg/錠 ¥107.6/錠			
レザルタスHD <オルメサルタン, ア ゼルニジピン> (第一三共)	20mg/16mg/錠 ¥127.3/錠			1錠分1朝食後

9. その他の血圧降下剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヒドララジン類				
アプレゾリン <ヒドララジン> (パルテリス)	10mg/錠 ¥9.2/錠		本態性高血圧症, 妊娠中毒症による高血圧	30~40~(200)mg分3~4 <小児>0.75~4mg/kg/日, 分3~4
■α1遮断薬				
エブランチル <ウラピジル> (科研)	15mg/C ¥16.4/C		本態性高血圧症, 腎性高血圧症, 褐色細胞腫による高血圧症	30~(120mg)mg分2
ドキサゾシン <ドキサゾシン> (エルメット・エーザイ)	2mg/錠 ¥24.6/錠		高血圧症, 褐色細胞種による高血圧症	0.5mg分1から開始し漸増, 維持量1~4mg分1 【Max:8mg(褐色細胞種は16mg)】
■α2刺激薬				
アルドメット <メチルドパ> (ザイダスファーマ)	250mg/錠 ¥9.6/錠		高血圧症	250~750mg~(2000mg)分1~3
■選択的抗アルドステロン薬				
セララ <エプレレノン> (ファイザー)	25mg/錠 ¥44.7/錠		①高血圧症 ②慢性心不全で、アンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンⅠ受容体拮抗薬、β遮断薬、利尿薬等の基礎治療を受けている患者	①50mg分1【Max:100mg】 ②25mg分1開始、4週以降50mg分1 中等度腎機能障害時:25mg分1隔日【Max:25mg】

10. 高脂血症用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ HMG-CoA 還元酵素阻害薬				
アトルバスタチンOD <アトルバスタチン> (東和薬品)	5mg/錠 【院外のみ】 ¥37.2/錠		①高コレステロール血症 ②家族性高コレステロール血症	①10mg分1 【Max:20mg】 ②10mg分1 【Max:40mg】
	10mg/錠 ¥37.2/錠			
クレストールOD <ロスバスタチン> (アステル 初)	2.5mg/錠 ¥57.6/錠		高コレステロール血症 家族性高コレステロール血症	2.5~5mg分1から開始, 開始4週以降10mgまで増量可 【Max:20mg】
	5mg/錠 ¥110.3/錠			
プラバスタチンNa <プラバスタチン> (東和薬品)	10mg/錠 ¥28.8/錠		高脂血症, 家族性高コレステロール血症	10mg分1~2 【Max:20mg】
ローコール <フルバスタチン> (ハル 行ス)	30mg/錠 ¥80.1/錠		高コレステロール血症 家族性高コレステロール血症	20~30mg分1夕食後 【Max:60mg】
■ PCSK9 阻害薬				
レパーサ <エボロクマブ> (アステラス)		140mg(1mL)/キット ¥23962/キット	家族性高コレステロール血症(①ヘテロ接合体, ②純接合体), ③高コレステロール血症	①③140mg/回, 皮下注, 2週間隔 または420mg/回, 皮下注, 4週間隔 ②420mg/回, 皮下注, 4週間隔, 効果不十分時は420mg/回, 皮下注, 2週間隔 <LDL75%以上の補助として使用時>開始用量として420mg/回, 皮下注, 2週間隔
■ クロフィブラート類				
ベザトールSR <ベザフィブラート> (キッセイ)	200mg/錠 ¥25/錠		高脂血症	400mg分2
■ イオン交換樹脂				
コレバインミニ83% <コレステミド> (田辺三菱)	1.81g/包 ¥85.432/包		高コレステロール血症, 家族性高コレステロール血症	2包分2朝・夕食前 【Max:4g】
■ ニコチン酸類				
ユベラン <ニコチン酸トコフェロール> (エーザイ)	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴症状, 高脂血症, 閉塞性動脈硬化症に伴う末梢循環障害	300~600mg分3
■ 小腸コレステロールトランスポーター阻害剤				
ゼチーア <エゼチミブ> (バイエル)	10mg/錠 ¥177/錠		高コレステロール血症 家族性高コレステロール血症 純接合体性コレステロール血症	10mg分1食後

10. 高脂血症用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イコサペント酸エチル 粒状カプセル <イコサペント酸エチル> (沢井製薬)	900mg/包 ¥39.7/包		①閉塞性動脈硬化症 に伴う潰瘍, 疼痛及 び冷感の改善 ②高脂血症	①1回600mg1日3回 ②1回900mg1日2回または 1回600mg1日3回 【Max: 1回900mg1日3回】

11. 末梢血管拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロスタグランジン類				
アルプロスタジル <アルプロスタジル> (日本ケミファ)		5 μ g(1mL)/管 ¥1409/管 10 μ g(2mL)/管 ¥1313/管	①慢性動脈閉塞症, 進行性全身性硬化症 ・全身性リウマチーデス 糖尿病における皮膚 潰瘍, 振動病 ②動脈管の開存 ③経上腸間膜動脈性 門脈造影	①1~2mL分1静注, 点静 ②5ng/kg/min持続静注 ③1回1mL
アルプロスタジルアル ファデクス <アルプロスタジル> (アルフレッサファーマ)		20 μ g/瓶 ¥363/瓶	I <動脈内投与>慢性 動脈閉塞症における 四肢潰瘍, 安静時疼 痛の改善 II <静脈内投与> ①振動病における末 梢血行障害に伴う自 覚症状の改善ならび に末梢循環・神経・ 運動機能障害の回復 ②血行再建術後の血 流維持 ③動脈内投与が不適 と判断される慢性動 脈閉塞症における四 肢潰瘍ならびに安静 時疼痛の改善 ④動脈管依存性先天 性心疾患における動 脈管の開存 III <陰茎海綿体内投 与>勃起障害の診断	I. 10~15 μ g持続動注 (0.1~0.15ng/kg/min) 0.05~0.2ng/kg/minの間で適宜増減 II. ①-③40~60 μ g点静 (5~10ng/kg/min) ④50~100ng/kg/min持続静注 III. 20 μ g/1ml陰茎海綿体注
プロスタンディン <アルプロスタジル> (小野薬品)		500 μ g/瓶 ¥12685/瓶	手術時の低血圧維持 手術時の異常高血圧 の救急処置	5~10 μ g/kg/min点静 (0.1~0.2 μ g/kg/min)
ベラサスLA <ベラプロスト> (科研)	60 μ g/錠 【院外のみ】 ¥241.5/錠		肺動脈性肺高血圧症	120 μ g分2から開始し, 漸次増量 【Max:360 μ g/日】
ベラプロストNa <ベラプロスト> (東和薬品)	20 μ g/錠 ¥19/錠		①慢性動脈閉塞症に 伴う潰瘍, 疼痛及び 冷感の改善 ②原発性肺高血圧症	①120 μ g分3 ②60~180 μ g分3~4
■ニコチン酸類				
ユベラン <ニコチン酸トコフェ ロール> (エーザイ)	100mg/C ¥5.8/C		高血圧症に伴う随伴 症状, 高脂血症, 閉塞性動脈硬化症に 伴う末梢循環障害	300~600mg分3

12. 肺血管拡張剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロスタグランジン類				
エポプロステノール ＜エポプロステノール ナトリウム＞ (アテリオ)		0.5mg(溶解液なし)/瓶 ¥6419/瓶	肺動脈性肺高血圧症	＜精密持続点滴装置(シリンジポンプ)又は輸液ポンプ)により持続静注＞ 【成人】2ng/kg/分より開始 15分以上の間隔をおいて1～2ng/kg/分ずつ漸増 10ng/kg/分までの範囲で最適投与速度を決定 【小児】0.5～2ng/kg/分より開始 1～4週の間隔をおいて0.5～2ng/kg/分ずつ漸増 20～40ng/kg/分を目安とし最適投与速度を決定
		1.5mg(溶解液なし)/瓶 ¥12099/瓶		
エポプロステノール専用溶解液 ＜生理食塩液＞ (アテリオ)		50ml/瓶 専用溶解液 ¥122/瓶	エポプロステノール静注用の溶解	
■ホスホジエステラーゼ5阻害剤				
レバチオ ＜シルデナフィル＞ (ファイザー)	20mg/錠 ¥1240.2/錠		肺動脈性肺高血圧症	成人：60mg分3 1歳以上の小児：体重20kg超の場合、60mg分3
■選択的プロスタサイクリン受容体作動薬				
ウプロラビ ＜セレキシパグ＞ (日本新薬)	0.2mg/錠 ¥1407.2/錠		肺動脈性肺高血圧症	0.2mg/回, 1日2回食後 7日以上の間隔で0.2mg/回ずつ最大耐用量まで増量し維持量を決定 【Max:1.6mg/回】
	0.4mg/錠 ¥2813.2/錠			
■エンドセリン受容体拮抗薬				
オプスミット ＜マシテンタン＞ (アテリオ ファーマシューティカルズ ジャパン)	10mg/錠 ¥14200.9/錠		肺動脈性肺高血圧症	10mg分1
トラクリア小児用 ＜ボセンタン＞ (アテリオ ファーマシューティカルズ ジャパン)	32mg/錠 ¥4511.8/錠			2mg/kg/回, 1日2回朝夕 【Max:120mg/回, 240mg/日】

13. その他の循環器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■循環系ホルモン				
カルナクリン 〈カリジノゲナーゼ〉 (三和化学)	50単位/錠 ¥19.1/錠		高血圧症・メニエール症候群・閉塞性血栓血管炎(ピュルガ一病)における末梢循環障害の改善 更年期障害・網脈絡膜の循環障害の改善	75~150単位分3
■血栓溶解剤				
ウロナーゼ 〈ウロキナーゼ〉 (持田)		6万単位/瓶 ¥2790/瓶	①脳血栓症 ②末梢動・静脈閉塞症	①6万単位/日, 静注7日間 ②6~24万単位/日, 静注, 7日間
		12万単位/瓶 ¥5749/瓶	急性心筋梗塞	48~96万単位, 冠動脈内注入
クリアクター 〈モンテプラゼ〉 (エーザイ)		40万単位/瓶 ¥44270/瓶	①急性心筋梗塞 ②不安定な血行動態を伴う急性肺塞栓症	①27500単位/kg静注 ②13750~27500単位/kg静注 【Max: 27500単位/kg】
■動脈開存症治療剤				
インダシン 〈インドメタシン〉 (ノバルファーマ)		1mg/瓶 ¥6623/瓶	未熟児の動脈開存症	下記の用量(mg/kg)を12~24hr間隔で, 3回静脈内投与 生後48hr未満: 1回目0.2, 2・3回目0.1 生後2~7日未満: 0.2 生後7日以上: 1回目0.2, 2・3回目0.25
■高カリウム血症用薬				
カリメート 〈ポリステレンスルホン酸カルシウム〉 (興和創薬)	末(5g/包) ¥71/包		高カリウム血症	〈経口〉15~30g, 分2~3 〈注腸〉30g/回
	経口液20%(25g/包) ¥82.5/包		急性および慢性腎不全に伴う高カリウム血症	75~150g(3~6包), 分2~3
ケイキサレート 〈ポリステレンスルホン酸ナトリウム〉 (鳥居)	末(5g/包) ¥85.5/包		高カリウム血症	〈経口〉30g, 分2~3 〈注腸〉30g/回
	DS76%(3.27g/包) ¥49.377/包		急性および慢性腎不全に伴う高カリウム血症	39.24g(12包), 分2~3
■その他				
オビソート 〈アセチルコリン〉 (第一三共)		100mg/管(溶解液2mL付) ¥364/管	【適応外: 冠動脈攣縮の誘発】 【D-13参照】	【DI照会参照】

13. その他の循環器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■高リン血症治療剤				
キックリン <ピキサロマー> (アストラ)	250mg/C ¥29.1/C		慢性腎臓病患者にお ける高リン血症の改善	1500mg分3, 食直前 【Max:7500mg】
沈降炭酸カルシウム <沈降炭酸カルシウム > (三和化学研究所)	500mg/錠 ¥5.7/錠		保存期及び透析中の 慢性腎不全患者にお ける高リン血症の改善	3g分3, 食直後
ホスレノール <ランタン> (パイル)	250mg/包 ¥161.3/包		慢性腎臓病患者にお ける高リン血症の改 善	750mg分3, 食直後 【Max:2250mg】

不整脈用薬

V a u g h a n - W i l l i a m s の分類

ク ラ ス		作用機序	医 薬 品 名 (一般名)
I	N a チ ャ ネ ル 抑 制	I a	APD延長 アミサリン (プロパフェノン) シベノール (シバゾリン) リスモダン (ジロピラミド)
		I b	APD短縮 アスペノン (アプロピジン) アレピアチン (フェニチン) キシロカイン (リドカイン) リドカイン (リドカイン) メキシチール (メキシチン)
		I c	APD不変 サンリズム (ピルジカインド) タンボコール (フレカインド)
II		交感神経受容体遮断 インデラル (プロプラノロール) その他のβ遮断薬 (B-11参照)	
III		APD延長 アミオダロン (アミオダロン) シンビット (ニフェダチン)	
IV		Caチャンネル抑制 ワソラン (ベラパミル) ベプリコール (ベラパミル) ヘルベッサー (ジルチアゼム)	
その他			アデホス-L (アデノシン3リン酸)

APD : 活動電位持続時間

β 遮断薬

Prichard分類

分類		ISA	MSA	医薬品名（一般名）
類	群			
1類 （非選択性）	1群	+	+	
	2群	-	+	インデラル（プロプラノロール）
	3群	+	-	ミケラン（カルテロール）
	4群	-	-	
2類 （β ₁ 選択性）	1群	+	+	
	2群	-	+	
	3群	+	-	
	4群	-	-	テノーミン（アテノロール） メインテート（ビソプロロール） ビソノテープ（ビソプロロール） ロプレソール（メトプロロール） オノアクト（ランゾロール）
3類 （α遮断）	2群	-	+	カルベジロール（カルベジロール）
	4群	-	-	

ISA (intrinsic sympathetic activity) : 内因性交感神経刺激作用

MSA (membrane stabilizing activity) : 膜安定化作用

1. 呼吸促進剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
塩酸ナロキソン <ナロキソン> (アルフレッサ・ファーマ)		0.2mg(1mL)/管 ¥912/管	麻薬による呼吸抑制・覚醒遅延の改善	0.2mg/回, 効果不十分な場合2~3分間隔で1~2回静注 <小児>0.01mg/kg
ドブラム <ドキサブラム> (キッセイ)		400mg(20mL)/瓶 ¥2080/瓶	①麻酔時における呼吸抑制ならびに覚醒遅延 ②中枢神経系抑制剤による中毒時における呼吸抑制ならびに覚醒遅延 ③遷延性無呼吸の鑑別診断 ④急性ハイパーカーブニアを伴う慢性肺疾患 ⑤早産・低出生体重児における原発性無呼吸(未熟児無呼吸発作)(ただしサツチン製剤による治療で十分な効果が得られない場合に限る)	①0.5~1.0mg/kg, 静注, 必要に応じ5分間隔で投与【Max:2.0mg/kg】 または5mg/minで点静【Max:5.0mg/kg】 ②0.5~2.0mg/kg, 静注, 維持量として5~10分間隔で投与, ついで1~2時間間隔で投与を繰り返す または1.0~3.0mg/kg/hrで点静 ③1.0~2.0mg/kg, 静注 ④1.0~2.0mg/kg/hr, 点静【Max:2400mg】 ⑤初回投与:1.5mg/kg, 1時間で点静 維持投与:0.2mg/kg/hr, 点静【Max:0.4mg/kg/hr】
フルマゼニル <フルマゼニル> (マイラン)		0.2mg(2mL)/管 ¥601/管	ベンゾジアゼピン系薬剤による鎮静の解除・呼吸抑制の改善	初回0.2mg静注, 4分以内に覚醒状態が得られない場合0.1mgずつ追加 【Max:1mg, ICU領域は2mg】
■その他				
エラスポール <シベレスタットナトリウム> (小野薬品)		100mg/瓶 ¥4187/瓶	全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の改善	1日量(4.8mg/kg) 24時間持続静注 <14日以内>

2. 鎮咳去痰剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■中枢性麻薬性鎮咳薬				
リン酸コデイン <コデイン> (武田)	散(10mg/g) ¥7.6/g		各種呼吸器疾患における鎮咳, 疼痛時における鎮痛, 激しい下痢症状の改善	60mg分3 <小児>1(〜4)mg/kg/日
■中枢性非麻薬性鎮咳薬				
アスペリン <チペピジン> (田辺三菱)	散(100mg/g) ¥9.6/g S Y (5mg/mL) ¥1.7/mL		急性・慢性気管支炎, 感冒, 上気道炎(咽喉頭炎, 鼻がれ), 肺炎, 肺結核, 気管支拡張症に伴う咳嗽・喀痰咯出困難	60〜120mg分3 <小児>1歳未満: 5〜20mg, 1歳〜2歳: 10〜25mg, 分3
メジコン <デキストロメトर्फ ァン臭化水素酸塩水和 物> (塩野義製薬)	15mg/錠 ¥5.6/錠		①感冒, 急性気管支炎, 慢性気管支炎, 気管支拡張症, 肺炎, 肺結核, 上気道炎に伴う咳嗽 ②気管支造影術及び気管支鏡検査時の咳嗽	1回15〜30mg, 1日1〜4回
■去痰剤				
アンブロキソール <アンブロキソール> (東和薬品)	15mg/錠 ¥5.6/錠		急性・慢性気管支炎, 気管支喘息, 気管支拡張症, 肺結核, 塵肺症, 手術後の喀痰咯出困難, 慢性副鼻腔炎の排膿	45mg分3
カルボシステイン <カルボシステイン> (東和薬品)	500mg/錠 ¥7.8/錠		上気道炎(咽喉頭炎, 喉頭炎), 急性・慢性気管支炎, 気管支喘息, 気管支拡張症, 肺結核の去痰, 慢性副鼻腔炎の排膿	
カルボシステイン <カルボシステイン> (高田製薬)	D S (500mg/1g) ¥10.4/g		<成人>上気道炎(咽喉頭炎, 喉頭炎), 急性・慢性気管支炎, 気管支喘息, 気管支拡張症, 肺結核の去痰, 慢性副鼻腔炎の排膿 <小児>上気道炎(咽喉頭炎, 喉頭炎), 急性・慢性気管支炎, 気管支喘息, 気管支拡張症, 肺結核の去痰, 慢性副鼻腔炎の排膿, 滲出性中耳炎の排液	1500mg分3 <小児>30mg/kg/日, 分3
ブロムヘキシン塩酸塩 <ブロムヘキシン> (テバ)		4mg(2mL)/管 ¥56/管	肺結核, 手術後, 塵肺症における経口投与困難な場合の去痰, 気管支造影後の造影剤の排泄促進	4〜8mg分1〜2筋注, 静注
ムコサール <アンブロキソール> (サノイ)	D S (15mg/g) ¥34.4/g		急性気管支炎, 気管支喘息の去痰	<幼・小児>0.9mg/kg, 分3

3. 気管支拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■β2刺激剤 ◆第3世代				
ツロブテロールテープ 「HMT」 〈ツロブテロール〉 (久光製薬)		0.5mg/枚 ¥22.3/枚 1mg/枚 ¥31.4/枚 2mg/枚 ¥40.7/枚	気管支喘息, 急性気管支炎, 慢性気管支炎, 肺気腫	2mg/日 0.5~3才未満0.5mg 3~9才未満1mg 9才以上2mg
ホクナリン 〈ツロブテロール〉 (マイランEPD)	DS (1mg/g) ¥19.3/枚		気管支喘息, 肺気腫, 急性・慢性気管支炎, 喘息性気管支炎, けい肺症, 塵肺症	0.04mg/kg分2
■キサンチン系				
アブニション 〈アミノフィリン〉 (エザイ)		15mg(3mL)/管 ¥131/管	早産・低出生体重児における原発性無呼吸(未熟児無呼吸発作)	初回0.8~1.2mg/kg 維持量0.4~1.2mL/kg/日分2~3回。 静脈内注射
テオフィリン 〈テオフィリン〉 (沢井製薬)	DS (200mg/g)【小児のみ】 ¥48.4/g		気管支喘息, 喘息性(様)気管支炎	〈小児〉8~16mg/kg分2
テオフィリン徐放錠 〈テオフィリン〉 (沢井製薬)	100mg/錠 ¥5.6/錠 200mg/錠 ¥5.8/錠		気管支喘息, 喘息性(様)気管支炎, 慢性気管支炎, 肺気腫	400~800mg分2 〈小児〉200~400mg分2 400~800mg分2
ネオフィリン 〈アミノフィリン〉 (エザイ)		250mg(10mL)/管 ¥92/管	気管支喘息, 喘息性(様)気管支炎, 閉塞性肺疾患【循環器官用薬B-1参照】	0.7~1mg/kg/hr点静
ユニフィルLA 〈テオフィリン〉 (大塚)	200mg/錠 ¥14.5/錠		気管支喘息, 慢性気管支炎, 肺気腫	400mg分1
レスピア 〈カフェインクエン酸塩〉 (ノバルファーマ)		60mg(3mL)/瓶 ¥810/瓶	早産・低出生体重児における原発性無呼吸(未熟児無呼吸発作)	初回投与: 20mg/kg, 30分かけて静注 維持投与(初回投与から24時間後以降): 5mg/kg, 1日1回, 10分かけて静注 または経口投与 【Max: 10mg/kg】
■α, β刺激剤				
エフェドリン 〈エフェドリン〉 (日医工)		40mg(1mL)/管 ¥92/管	急性・慢性気管支炎, 感冒, 気管支喘息, 上気道炎(咽喉頭炎, 喘息性気管支炎, 肺結核, 鼻カク)に伴う鎮咳	25~40mg/回皮下
■抗アレルギー剤				
【F参照】				

3. 気管支拡張薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ロイコトリエン拮抗薬				
キプレス 〈モンテルカストナト リウム〉 (杏林)	10mg/錠 ¥182.2/錠		①気管支喘息 ②アレルギー性鼻炎	①10mg分1就寝前 ②5~10mg分1就寝前
	細粒(4mg/0.5g/包) 【院外のみ】 ¥175/包		気管支喘息(1歳以上 6歳未満)	4mg分1就寝前
プラナルカスト 〈プラナルカスト〉 (東和薬品)	112.5mg/C ¥25.4/C		気管支喘息 アレルギー性鼻炎	450mg分2,朝夕食後
	DS(100mg/g) ¥35.4/g		気管支喘息	〈小児〉7mg/kg/日,分2朝夕食後 【Max:10mg/kg/日,450mg/日】

4. 吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■呼吸促進剤				
サーファクテン 〈サーファクタント〉 (田辺三菱)		120mg/瓶 ¥80519.4/瓶	呼吸窮迫症候群	120mg/kg気管内注入
■去痰薬				
ブロムヘキシン塩酸塩 〈ブロムヘキシン〉 (テバ)		吸入液(2mg/mL, 45mL/本) ¥7.8/mL	急性気管支炎,慢性 気管支炎,肺結核,塵 肺症,手術後の去痰	6mL分3
■気管支拡張薬(β刺激薬) ◆第2世代				
サルタノールインヘラ ー 〈サルブタモール〉 (グラクソ・スミスクライン)		(24mg/13.5mL(1 8g)/瓶) ¥842/瓶	気管支喘息,小児喘 息,急性・慢性気管支 炎,肺気腫,肺結核	発作時のみ使用 2吸入/回 〈小児〉1吸入/回 【Max:4回/日】
ベネトリン 〈サルブタモール〉 (グラクソ・スミスクライン)		吸入液(5mg/mL, 30mL/本) ¥22.6/mL		0.3~0.5mL/回 〈小児〉0.1~0.3mL/回
■気管支拡張薬(β刺激薬) ◆第3世代				
メブチンキッドエア ー(ドースカウンター付) 〈プロカテロール〉 (大塚)		エアゾール(0.143mg /g,2.5mL/瓶) ¥676.2/瓶	気管支喘息,慢性気 管支炎,肺気腫	発作時のみ使用 4吸入/回 〈小児〉2吸入/回
メブチン吸入液ユニッ ト 〈プロカテロール〉 (大塚)		吸入液(0.1mg/mL, 0.3mL/管) ¥15.8/管 吸入液(0.1mg/mL, 0.5mL/管) ¥21.2/管		0.3~0.5mL/回 〈小児〉0.1~0.3mL/回
■気管支拡張薬(β刺激薬) ◆長時間作用型				
オンブレス 〈インダカテロール〉 (ハルシスファーマ)		吸入用カプセル(15 0μg/1C) ¥142.3/C	慢性閉塞性肺疾患 (慢性気管支炎,肺気 腫)の気道閉塞性障 害に基づく諸症状の 緩解	1C/回,1回/日 【Max:1C/日】

4. 吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ステロイド薬				
パルミコート200タービュヘイラー <ブデソニド> (アストラゼネカ)		トライパルター- (200 μg/吸入, 22.4mg/本) ¥1779.7/本	気管支喘息	100~400 μg/回, 2回/日 【Max: 1600 μg/日】 <小児>100~200 μg/回, 2回/日 【Max: 800 μg/日】
パルミコート吸入液 <ブデソニド> (アストラゼネカ)		吸入液 (0.25mg/ 2mL/管) ¥256.7/管		0.5mg/回, 2回/日又は1mg/回, 1回/日 <6ヶ月以上の乳幼児> 0.25mg/回, 2回/日又は0.5mg/回, 1回/日 【Max: 1mg/日】
フルタイド50エアゾール <フルチカゾン> (ゲラケル・スミスクライン)		エアゾール (50 μg/ 噴霧) ¥1761.7/個		100 μg/回, 2回/日 【Max: 800 μg/日】 <小児>50 μg/回, 2回/日 【Max: 200 μg/日】

4. 吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■気管支拡張薬(β刺激薬)・ステロイド薬 合剤				
アドエア ＜サルメテロール, フルチカゾン＞ (グラクソ・スミスクライン)		トライハ°ウタ°-(サルメテロール:50μg,フルチカゾン:100μg/ブリスター) 【院外のみ】 ¥6235.6/個	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合,小児も可)	1吸入/回,2回/日 【Max:10吸入/日】
		トライハ°ウタ°-(サルメテロール:50μg,フルチカゾン:250μg/ブリスター) ¥7168.7/個	気管支喘息,慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1吸入/回,2回/日 【Max:4吸入/日】
		エア°ール(サルメテロール:25μg,フルチカゾン:125μg/1噴霧) ¥7690.5/瓶		2吸入/回,2回/日
シムビコートタービュヘイラー ＜ホルモテロール, ブデソニド＞ (アステラス)		トライハ°ウタ°-(ホルモテロール:4.5μg,ブデソニド:160μg/ブリスター) ¥5850.2/個	吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合の ①気管支喘息 ②慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)	①1回1吸入1日2回【Max:8吸入/日】 ＜発作時＞維持療法に加え1回1吸入発作持続時はさらに1吸入追加【Max:1回6吸入】 【維持療法と頓用の合計Max:12吸入/日】 ②1回2吸入1日2回
フルティフォーム ＜ホルモテロール, フルチカゾン＞ (杏林)		エア°ール(ホルモテロール:5μg,フルチカゾン:125μg/1噴霧) ¥6346.2/個	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	2~4吸入/回,2回/日
レルベア ＜ピランテロール, フルチカゾン＞ (グラクソ・スミスクライン)		トライハ°ウタ°-(ピランテロール:25μg,フルチカゾン:100μg/ブリスター) ¥5689.4/個	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合) 慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	1吸入/回,1回/日
		トライハ°ウタ°-(ピランテロール:25μg,フルチカゾン:200μg/ブリスター) ¥6353.2/個	気管支喘息(吸入ステロイド剤及び長時間作用型吸入β2刺激剤の併用が必要な場合)	
■抗コリン薬 【長期間作用型】				
エンクラッセエリプタ ＜ウメクリジニウム＞ (グラクソ・スミスクライン)		エリフ°タ(62.5μg/吸入,30吸入用/キット) ¥5877.7/本	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎,肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解	1日1回1吸入
スピリーバレスピマット ＜チオトロピウム＞ (パ°リンガ°)		レスピ°マット(2.5μg/吸入,150μg/本) ¥6481.2/本	慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎,肺気腫),気管支喘息の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解	慢性閉塞性肺疾患:1回2吸入,1日1回 気管支喘息:1回2吸入(症状に応じて1~2吸入),1日1回

4. 吸入薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗コリン薬（長期間作用型）・気管支拡張薬（β刺激薬）合剤				
アノーロエリプタ ＜ウメクリジニウム, ピランテロール＞ (グラクソ・スミスクライン)		30吸入用/キット ¥7924.7/キット	慢性閉塞性肺疾患 (慢性気管支炎, 肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解(長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入 β 2刺激剤の併用が必要な場合)	1日1回1吸入
ウルティプロ ＜グリコピロニウム, インダカテロール＞ (ハルティスファーマ)		吸入用カプセル ¥253.5/C	慢性閉塞性肺疾患 (慢性気管支炎, 肺気腫)の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解(長時間作用性抗コリン剤及び長時間作用性吸入 β 2刺激剤の併用が必要な場合)	1C/回, 1回/日 【Max: 1C/日】
■その他 【遅効性に使用】				
ステリ・ネブ クロモリン ＜クロモグリク酸ナトリウム＞		吸入液(10mg/mL, 2mL/管) ¥34.3/管	気管支喘息	20mg/回, 3~4回/日

5. その他

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗線維化剤				
オフエブ <ニンテダニブ> (日本ベーリンガーインゲルハイム)	100mg/C ¥4382.9/C		特発性肺線維症	1回150mg, 1日2回朝・夕食後 患者の状態により1回100mg1日2回へ 減量
	150mg/C ¥6574.4/C			

1. 消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロトンポンプ阻害剤				
タケキャブ <ボノプラザン> (武田)	10mg/錠 ¥134.4/錠 20mg/錠 ¥201.6/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍 ②逆流性食道炎 ③低用量7ｽﾍﾞﾘﾝ投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ④非ｽﾍﾞﾘﾝ性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑤胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ヒトリ感染胃炎におけるヘルピクター・ヒトリの除菌の補助	①20mg分1 胃潰瘍: 8週間まで 十二指腸潰瘍: 6週間まで ②20mg分1, 4週間まで 効果不十分時: 8週間まで 再発・再燃の維持療法: 10mg分1, 効果不十分時: 20mg分1 ③④10mg分1 ⑤1回にボノプラザン20mg アモキシシリン750mg, クラリスロマイシン200mg の3剤を1日2回, 7日間 <上記による除菌が不成功の場合> 1回にボノプラザン20mg, アモキシシリン750mg, メトニダゾール250mg の3剤を1日2回, 7日間
タケプロン <ランソプラゾール> (武田)		30mg/瓶 ¥437/瓶	出血を伴う胃潰瘍 十二指腸潰瘍, 急性ストラス潰瘍及び急性胃粘膜病変	60mg分2点静, 静注
ネキシウム <エソメプラゾール> (第一三共)	20mg/C ¥121.8/C 顆粒(10mg/包) ¥80.6/包 顆粒(20mg/包) ¥140.3/包		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger-Ellison症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症【10mgCap, 10mg/包】 ④非ｽﾍﾞﾘﾝ性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑤低用量7ｽﾍﾞﾘﾝ投与时における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ⑥胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ヒトリ感染胃炎におけるヘルピクター・ヒトリ除菌の補助	①成人: 1日1回20mg, 小児(1歳以上)20kg未満: 1日1回10mg 20kg以上: 1日1回10-20mg 胃潰瘍, 吻合部潰瘍: 8週間まで 十二指腸潰瘍: 6週間まで ②成人: 1日1回20mg, 再発・再燃の維持療法: 1日1回10~20mg 小児(1歳以上)20kg未満: 1日1回10mg 20kg以上: 1日1回10-20mg 8週間まで ③成人: 1日1回10mg 小児(1歳以上): 1日1回10mg 4週間まで ④⑤1日1回20mg ⑥1回にエソメプラザール20mg アモキシシリン750mg, クラリスロマイシン200~400mg の3剤を1日2回, 7日間 <上記による除菌が不成功の場合> 1回にエソメプラザール20mg アモキシシリン750mg, メトニダゾール250mg の3剤を1日2回, 7日間
ラベプラゾールNa <ラベプラゾール> (東和薬品)	10mg/錠 ¥55.1/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger-Ellison症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症 ④胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピクター・ヒトリ感染胃炎におけるヘルピクター・ヒトリ除菌の補助	①10~20mg分1 胃潰瘍, 吻合部潰瘍: 8週間まで 十二指腸潰瘍: 6週間まで ②<治療>10~20mg分1, 8週間まで 効果不十分時: 20~40mg分2, 8週間追加 【40mg分2は重度粘膜障害に限る】 <再発・再燃の維持療法>10mg分1 効果不十分時: 20mg分2 ③10mg分1, 4週間まで ④1回にラベプラザール10mg アモキシシリン750mg, クラリスロマイシン200~400mg の3剤を1日2回, 7日間 <上記による除菌が不成功の場合> 1回にラベプラザール10mg アモキシシリン750mg, メトニダゾール250mg の3剤を1日2回, 7日間

1. 消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ランソプラゾールOD <ランソプラゾール> (東和薬品)	15mg/錠 ¥26.4/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, Zollinger-Ellison症候群 ②逆流性食道炎 ③非びらん性胃食道逆流症【15mg錠のみ】 ④低用量7ｽﾋﾞﾝ投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制, 非ｽﾋﾞﾝ性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制【15mg錠のみ】 ⑤胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピコバクテリイ感染胃炎におけるヘルピコバクテリイ除菌の補助	①1日1回30mg 胃潰瘍, 吻合部潰瘍:8週間まで 十二指腸潰瘍:6週間まで ②1日1回30mg, 8週間まで 再発・再燃の維持療法:1日1回15~30mg ③1日1回15mg, 4週間まで ④1日1回15mg ⑤1回にランソプラゾール30mg アモキシシリン750mg, クラリスロマイシン200~400mg <上記による除菌が不成功の場合> 1回にランソプラゾール30mg アモキシシリン750mg, メトロニダゾール250mg の3剤を1日2回, 7日間
	30mg/錠 ¥46.5/錠			

■ヘリコバクター・ピロリ除菌治療剤

ボノサップパック400 <ボノプラザン、アモキシシリン、クラリスロマイシン> 略名: AMPC, CAM (武田)	タキヤブ(20)2錠, アモリン(250)6錠, クラリス(20)2錠/シート ¥689.2/シート		胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘルピコバクテリイ感染症、ヘルピコバクテリイ感染胃炎	1回にボノプラザン20mg, アモキシシリン750mg, クラリスロマイシン200mg~400mg の3剤を1日2回(1日1シート), 7日間
--	---	--	--	--

1. 消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■H2受容体拮抗剤				
アシノン <ニザチジン> (ゼリア)	150mg/錠 ¥29.5/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍 ②逆流性食道炎 ③急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん, 出血, 発赤, 浮腫)の改善 《Zollinger-Ellison症候群なし》	①300mg分1就寝前~2朝食後, 就寝前 ②300mg分2朝食後, 就寝前 ③150mg分2朝食後, 就寝前
ファモチジンOD <ファモチジン> (東和薬品)	10mg/錠 ¥9.9/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 逆流性食道炎, 吻合部潰瘍, 上部消化管出血, Zollinger-Ellison症候群 ②胃炎	①40mg分1~2 ②20mg分1~2
	20mg/錠 ¥10.8/錠			
ファモチジン <ファモチジン> (沢井)		10mg/管 ¥95/管	①Zollinger-Ellison症候群, 上部消化管出血, 侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制 ②麻酔前投薬	①40mg分2静注, 点静, 筋注 ②20mg/回, 麻酔導入1時間前に筋注, 静注
		20mg/管 ¥109/管		
プロテカジンOD <ラフチジン> (大鵬)	10mg/錠 ¥30.9/錠		①胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 吻合部潰瘍, 逆流性食道炎 ②急性胃炎, 慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん, 出血, 発赤, 浮腫)の改善 ③麻酔前投薬	①20mg分2 ②10mg分1 ③10mg/回, 手術前日就寝前・手術当日麻酔導入2時間前の2回
■プロスタグランジン類				
サイトテック <ミソプロストール> (ファイザー)	200µg/錠 ¥32.7/錠		非ステロイド性消炎鎮痛剤の長期投与時にみられる胃潰瘍, 十二指腸潰瘍	800µg分4
■抗ペプシン剤				
スクラルファート <スクラルファート> (日医工)	液(100mg/mL, 10mL/包) ¥23/包		胃・十二指腸潰瘍, 胃炎	30mL分3

1. 消化性潰瘍治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■防御因子増強剤				
ガストローム ＜エカベトナトリウム＞ (田辺三菱)	顆粒(667mg/ g, 1.5g/包) ¥26.85/包		胃潰瘍, 胃炎	3.0g分2
サンメール ＜アルギン酸ナトリウム＞ (サト)	液(50mg/mL) ¥0.97/mL		①胃・十二指腸潰瘍、びらん性胃炎における止血及び自覚症状の改善 ②逆流性食道炎における自覚症状の改善 ③胃生検の出血時の止血	①②60～240mL分3～4 ③10～30mL分1経内視鏡的投与もしくは30mL分1経口投与
スルピリド ＜スルピリド＞ (沢井製薬)	50mg/錠 ¥6.3/錠		胃・十二指腸潰瘍	150mg分3
テプレノン ＜テプレノン＞ (東和薬品)	50mg/C ¥6.2/C 細粒(50mg/0.5g/包) ¥5.6/包		胃潰瘍, 胃炎	
ポラプレジンクOD ＜ポラプレジンク＞ (沢井製薬)	75mg/錠 ¥16.7/錠		胃潰瘍	150mg分2
レバミピド ＜レバミピド＞ (エルメット・エーザイ)	100mg/錠 ¥9.9/錠		胃潰瘍, 胃炎	300mg分3
■配合剤				
トーフズレン ＜配合剤＞ (東和薬品)	顆粒(0.67g/包) ¥4.288/包		胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 胃炎	1.5～2g分3～4

2. 制酸剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■吸収性				
炭酸水素ナトリウム <炭酸水素ナトリウム> (マイラン)	末 ¥0.74/g		<経口>胃・十二指腸潰瘍, 胃炎, 上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善, アトピーの改善, 尿酸排泄の促進と痛風発作の予防 <含嗽・吸入>上気道炎の補助療法(粘液溶解)	<経口>1日3~5g数回に分割 <含嗽・吸入>1回量1~2%液100mL, 1日数回

■非吸収性Mg・Al化合物

アシドレス <配合剤> (カゲン)	懸濁液 ¥1.19/mL		胃・十二指腸潰瘍, 胃炎, 上部消化管機能異常	16~48mL分数回
酸化マグネシウム <酸化マグネシウム> (吉田)	0.4g/包 ¥4.68/包		①胃・十二指腸潰瘍, 胃炎, 上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善 ②便秘症 ③尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防	①0.5~1g, 分数回 ②2g分1~3 ③0.2~0.6g/日, 多量の水と共に
	0.6g/包 ¥7.02/包			
	0.8g/包 ¥9.36/包			
	錠(330mg/錠) ¥5.6/錠			

3. 健胃消化薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■健胃消化製剤				
FK散 <配合剤> (扶桑)	末(1.3g/包) ¥8.06/包		食欲不振,胃部不快感,胃もたれ,嘔気・嘔吐の改善	2.6~3.9g分2~3
■乳糖分解酵素製剤				
ガランターゼ <β-ガラクトシダーゼ> (田辺三菱)	散(250mg/0.5g/包) ¥18.4/包		乳糖不耐症	0.25~0.5g/回
■総合消化酵素製剤				
タフマックE <配合剤> (小野薬品)	カプセル ¥5.9/C		消化異常症状の改善	2~60分2~3
ペリチーム <配合剤> (共和薬品工業)	顆粒(1g/包) ¥11.6/包			1.2~3g分3

4. 止瀉・整腸薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■タンニン酸系				
タンニン酸アルブミン <タンニン酸アルブミン> (丸石)	末 ¥7.2/g		下痢症	3~4g分3~4
■その他				
ロペラミド塩酸塩細粒 小児用0.05%「タイヨ ー」 <ロペラミド> (テバ製薬)	小児用細粒(0.5mg/g) ¥11.9/g		急性下痢症	1~2mg分1~2 <小児>0.02~0.04mg/kg, 分2~3
ロペラミド錠1mg「EME C」 <ロペラミド> (エルメット・エザイ)	1mg/錠 ¥7.5/錠		下痢症	
■乳酸菌製剤				
ビオフェルミン <乳酸菌製剤> (ビオフェルミン)	散 ¥6.2/g		腸内菌叢の異常によ る諸症状の改善	3~9g分3
ビオフェルミンR <耐性乳酸菌製剤> (ビオフェルミン)	散 ¥6.2/g		抗生物質, 化学療法 剤投与時の腸内菌叢 の異常による諸症状 の改善	3g分3
	散(1g/包) ¥6.2/包			
ビオフェルミン <乳酸菌製剤> (ビオフェルミン)	錠 ¥5.8/錠		腸内菌叢の異常によ る諸症状の改善	3錠分3
	散(1g/包) ¥6.2/包			
ビオフェルミン <乳酸菌製剤> (ビオフェルミン)	錠 ¥5.6/錠		腸内菌叢の異常によ る諸症状の改善	3~6錠分3
	錠 ¥5.6/錠			

5. 下剤・浣腸用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■塩類性下剤				
酸化マグネシウム ＜酸化マグネシウム＞ (吉田)	0.4g/包 ¥4.68/包		①胃・十二指腸潰瘍、胃炎、上部消化管機能異常における制酸作用と症状の改善 ②便秘症 ③尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防	①0.5～1g, 分数回 ②2g分1～3 ③0.2～0.6g/日, 多量の水と共に
	0.6g/包 ¥7.02/包			
	0.8g/包 ¥9.36/包			
酸化マグネシウム ＜酸化マグネシウム＞ (吉田製薬)	錠(330mg/錠) ¥5.6/錠			
マグコロールP ＜クエン酸マグネシウム＞ (堀井)	50g/包 ¥380/包		大腸検査(X線・内視鏡)前処置における腸管内容物の排除、腹部外科手術時における前処置用下剤	＜高張液投与＞ 40～50g(水120～150mLに溶解)を検査予定時10～15時間前に経口 ＜等張液投与＞ 100gを水に溶解し全量1800mLとし検査予定時間の4時間以上前に200mLずつ約1時間かけて経口
■大腸刺激性下剤				
アローゼン ＜センナ・センナ実＞ (ホーラファルマ)	末(0.5g/包) ¥3.6/包		便秘(痙攣性便秘除く)	0.5～1g/回, 1～2回
センノシド ＜センノサイドA・B＞ (東和薬品)	12mg/錠 ¥5/錠		便秘症	12～24～(48)mg分1
テレミンソフト ＜ピサコジル＞ (味の素)		2mg/坐剤 ¥19.3/個	便秘症、消化管検査時・手術前後の排便促進	＜小児＞1号坐剤1～2個分1～2 3号坐剤1～2個分1～2
		10mg坐剤 ¥20/個		
ピコスルファートナトリウム ＜ピコスルファート＞ (日医工)	液(7.5mg/g, 10mL/本) ¥91/本		①各種便秘症 ②術後排便補助 ③造影剤投与後の排便促進 ④大腸検査前処置における腸管内容物の排除	①10～15滴(0.67～1.0mL)分1, ＜小児＞6か月以下2滴(0.13mL), 7～12か月3滴(0.20mL), 1才～3才6滴(0.40mL), 4～6才7滴(0.46mL) ②10～15滴(0.67～1.0mL)分1, ③6～15滴(0.40～1.0mL) ④検査予定時間の10～15時間前に20mL
■クロライドチャネル活性化下剤				
アミティーザ ＜ルビプロストン＞ (マイランEPD)	24 μ g/C 【院外のみ】 ¥123/C		慢性便秘症(器質的疾患による便秘を除く)	2錠, 分2
■経口末梢性μオピオイド受容体拮抗薬				
スインプロイク錠0.2mg ＜ナルデメジントシル酸塩＞ (塩野義製薬)	0.2mg/錠 ¥272.1/錠		オピオイド誘発性便秘症	1錠, 分1

5. 下剤・浣腸用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■膨張性下剤				
カルボキシメチルセル ロース <カルボキシメチルセ ルロース> (丸石)		1%液 【院内製剤】	便秘症	1.5~6g分3
		2%液 【院内製剤】		
■浣腸剤				
グリセリン <グリセリン> (健栄)		25%液 【院内製剤】	浣腸用薬	30~60mL
ケンエーG 浣腸液 <グリセリン> (健栄)		30mL/本 ¥100.1/本	便秘, 腸疾患時の排 便	10~150mL/回
		60mL/本 ¥107.7/本		
■経口洗腸液				
ニフレック <配合剤> (味の素)	137.155g/包 (2L分) ¥1001.5/袋		大腸内視鏡検査, ハリ ウム注腸X線造影検査 及び大腸手術時の前 処置における腸管内 内容物の排除	1袋を水に溶解2Lとし, 約1L/時間で 経口, 排泄液が透明になった時点で 投与終了【Max: 4L/2袋】
モビプレップ <配合剤> (味の素)	244.212g/袋 (2L分) ¥2136.7/袋		大腸内視鏡検査・大 腸手術時の前処置に おける腸管内容物の 排除	1袋を水に溶解して約2Lの溶解液とし, 約1L/ 時間で経口投与 約1L投与した後, 水又はお茶を約0.5L飲用 排泄液が透明になった時点で投与を終了し, 投与した溶解液量の半量の水又はお茶を飲用 する。【Max: 2L/1袋】

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■肝臓用薬				
アデラビン9号 <配合剤> (三和化学)		2mL/管 ¥248/管	慢性肝疾患, 湿疹・皮膚炎群, 口唇炎・口角炎・口内炎, びまん性表層角膜炎でビタミンB2の欠乏又は代謝障害によるもの, ビタミンB2の需要が増大し, 食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患, 妊産婦, 授乳婦等)	1~2mL/日, 分1~2皮下, 筋注, 静注
強カネオミノファーゲンシーP <グリチルリチン配合剤> (エーザイ)		20mL/管 ¥123/管	①慢性肝疾患における肝機能異常の改善 ②湿疹・皮膚炎, 蕁麻疹, 皮膚そう痒症, 薬疹・中毒疹, 口内炎, 小児ストロフルス, フリクテン	①40~100mL分1静注または点静 ②5~20mL分1静注
強カネオミノファーゲンシー <グリチルリチン配合剤> (エーザイ)		40mL/シリンジ ¥330/シリンジ		
グリチロン <グリチルリチン配合剤> (エーザイ)	錠剤 ¥5.6/錠		慢性肝疾患, 脱毛症	6~9錠分3 <小児>3錠分3
■高アンモニア血症用薬				
カロリールゼリー <ラクツロース> (佐藤)	ゼリー (6.5g/個) 【1個あたりにシロップ10mLに相当】 ¥48.15/個		①高アンモニア血症 ②産婦人科術後の排ガス, 排便	①3~6個分3 ②3~6個分2
ピアーレ <ラクツロース> (日本化薬)	S Y (650mg/mL) ¥4.8/mL		①高アンモニア血症 ②産婦人科術後の排ガス, 排便 ③小児便秘症	①30~60mL分3 ②30~60mL分2 ③0.5~2mL/kg分3
リフキシマ <リファキシミン> (あすか製薬)	200mg/錠 ¥201.6/錠		肝性脳症における高アンモニア血症の改善	1200mg/日, 分3, 食後

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インターフェロン製剤				
スミフェロンDS <インターフェロン- α > (大日本住友)		300万国際単位/ 筒 ¥6549/筒	①腎癌, 多発性骨髄腫, $\text{H}\alpha$ リ-細胞白血病, 慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNA α リマゼ α 陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中HCV RNA量が高い場合を除く) ④C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(セログループ1の血中HCV RNA量が高い場合を除く) ⑤亜急性硬化性全脳炎におけるインシプラバックスとの併用による臨床症状の進展抑制 ⑥HTLV-I脊椎症(HAM)	①300~600万単位/日皮下, 筋注 ②300~600万単位/日皮下, 筋注 ③300~900万単位/日連日または週3回皮下, 筋注 ④600万単位/日連日2週間まで, 以後300~600万単位/日週3回皮下, 筋注 ⑤100~300万単位/日週1~3回髄腔内(脳室内を含む)投与(インシプラバックス併用) ⑥300万単位/日皮下, 筋注
		600万国際単位/ 筒 ¥12424/筒	①腎癌, 多発性骨髄腫, $\text{H}\alpha$ リ-細胞白血病, 慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNA α リマゼ α 陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中HCV RNA量が高い場合を除く) ④C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(セログループ1の血中HCV RNA量が高い場合を除く)	①300~600万単位/日皮下, 筋注 ②300~600万単位/日皮下, 筋注 ③300~900万単位/日連日または週3回皮下, 筋注 ④600万単位/日連日2週間まで, 以後300~600万単位/日週3回皮下, 筋注
ペガシス皮下注 <ペグインターフェロン- α -2a> (中外)		90 μ g/瓶 【用時購入】 ¥14359/瓶	①C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善 ②リバビリンとの併用による以下のいずれかのC型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善 i) セログループ1(ジェノタイプ I (1a) 又は II (1b)) でHCV-RNA量が高い値の患者 ii) インターフェロン単独療法で無効又はインターフェロン単独療法後再燃した患者 ③リバビリンとの併用によるC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 ④B型慢性活動性肝炎におけるウイルス血症の改善	①1回180 μ g, 週1回皮下 ②<リバビリン併用> 1回180 μ g, 週1回皮下 ③<リバビリン併用> 1回90 μ g, 週1回皮下 ④1回90~180 μ g, 週1回皮下

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ペガシス皮下注 <ペグインターフェロ ン- α -2a> (中外)		180 μ g/瓶 【用時購入】 ¥2773/瓶	①C型慢性肝炎にお けるウイルス血症の改善 ②リバビリンとの併用 による以下のいずれ かのC型慢性肝炎に おけるウイルス血症の改 善 i) セクアルプ1(ジェノ タイプ I (1a) 又は II (1 b)) でHCV-RNA量が高 値の患者 ii) インターフェロン単 独療法で無効又はイン ターフェロン単独療法後再燃 した患者 ③B型慢性活動性肝 炎におけるウイルス血 症の改善	①1回180 μ g, 週1回皮下 ②<リバビリン併用> 1回180 μ g, 週1回皮下 ③1回90~180 μ g, 週1回皮下
ペグイントロン <ペグインターフェロ ン- α -2b> (MSD)		100 μ g (0.5mL) / 瓶 ¥30274/瓶	①リバビリンとの併用 による次のいずれか のC型慢性肝炎にお けるウイルス血症の改善 1) 血中HCV RNA量 が高値の患者 2) インターフェロン製 剤単独療法で無効の患 者又はインターフェロ ン製剤単独療法後再燃 した患者 ②リバビリンとの併用 によるC型代償性肝 硬変におけるウイルス 血症の改善 ③悪性黒色腫におけ る術後補助療法	①<リバビリンと併用>1.5 μ g/kg/回, 週 1回皮下 ②<リバビリンと併用>1.0 μ g/kg/回, 週 1回皮下 ③8週目まで: 6 μ g/kg/回, 週1回皮下 9週目以降: 3 μ g/kg/回, 週1回皮下

■抗ウイルス化学療法剤 ◆B型肝炎治療剤

ゼフィックス <ラミブジン> (グラクソ・スミスクライン)	100mg/錠 ¥501.3/錠		B型肝炎ウイルスの増殖 を伴い肝機能の異常 が確認されたB型慢 性肝疾患におけるB 型肝炎ウイルスの増殖抑 制	100mg分1
バラクルード <エンテカビル水和物 > (ブリストル)	0.5mg/錠 【用時購入】 ¥849/錠		B型肝炎ウイルスの増殖 を伴い肝機能の異常 が確認されたB型慢 性肝疾患におけるB 型肝炎ウイルスの増殖抑 制	0.5mg分1, 空腹時 (ラミブジン不応患者には) 1mg分1, 空腹 時
ベムリディ <テノホビル アラフェ ナミドフマル酸塩> (ギリアト・サイエンズ)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥973.7/錠		B型肝炎ウイルスの 増殖を伴い肝機能の 異常が確認されたB 型慢性肝疾患におけ るB型肝炎ウイルス の増殖抑制	25mg, 分1

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ウイルス化学療法剤 ◆C型肝炎治療剤				
エレルサ ＜エルバスビル＞ (MSD)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥25982.5/錠		セログループ1(ジェノタイプ1)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	1回50mg1日1回(ケラゾプリル併用), 12週間
グラジナ ＜グラソプレビル＞ (MSD)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥9281.9/錠			1回100mg1日1回(エンハスビル併用), 12週間
ソバルディ ＜ソホスブビル＞ (ギリアド・サイエンズ)	400mg/錠 【院外のみ】 ¥42238/錠		次のいずれかのC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善 1)セログループ2(ジェノタイプ2)の患者 2)セログループ1(ジェノタイプ1)又はセログループ2(ジェノタイプ2)のいずれにも該当しない患者	1)1回400mg1日1回(リハビリン併用), 12週間 2)1回400mg1日1回(リハビリン併用), 24週間
ハーボニー配合錠 ＜レジパスビル, ソホスブビル＞ (ギリアド・サイエンズ)	錠 【院外のみ】 ¥54685.9/錠		セログループ1(ジェノタイプ1)又はセログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	1日1回1錠, 12週間
マヴィレット配合錠 ＜グレカプレビル, ピプレンタスビル＞ (アウイ) 投与制限: 14日△ (平成30年11月末まで)	錠 【院外のみ】 ¥24180.2/錠		C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	1回1回3錠食後, 12週間(ただし, セログループ1(ジェノタイプ1)又はセログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎の場合8週, 前治療歴に応じて12週)

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
レベトール <リバビリン> (MSD)	200mg/C ¥524.2/C		①インターフェロン-α-2b, ペグインターフェロン-α-2b 又はインターフェロン-βと の併用による次のい ずれかのC型慢性肝 炎におけるウイルス血症 の改善 1) 血中HCVRNA量が 高値の患者 2) インターフェロン製剤単 独療法で無効の患者 又はインターフェロン製剤単 独療法後再燃した患 者 ②ペグインターフェロン-α- 2bとの併用によるC 型代償性肝硬変にお けるウイルス血症の改善 ③ソフィブールとの併用 による次のいずれか のC型慢性肝炎又はC 型代償性肝硬変にお けるウイルス血症の改善 1) ソフィブール2(ジェネ タイプ2)の患者 2) ソフィブール1(ジェネ タイプ1)又はソフィブール2 (ジェネタイプ2)のい ずれにも該当しない患 者 ④オムビダシル水和物 ・パリプロビル水和物 ・リトナビル配合剤との 併用によるソフィブール 2(ジェネタイプ2)のC型 慢性肝炎におけるウ イルス血症の改善	①③④600~1000mg分2 体重60kg以下600mg/日 体重60kg以上80kg以下800mg/日 体重80kg以上1000mg/日 ②600~1000mg分2 投与開始前のヘモグロビン濃度が14g/dL 以上の患者 体重60kg以下600mg/日 体重60kg以上80kg以下800mg/日 体重80kg以上1000mg/日 投与開始前のヘモグロビン濃度が14g/dL 未満の患者 体重60kg以下400mg/日 体重60kg以上80kg以下600mg/日 体重80kg以上800mg/日

■利胆薬

ウルソ <ウルソデオキシコー ル酸> (田辺三菱)	顆粒(50mg/g) ¥7.4/g		①胆道(胆管・胆嚢) 系疾患・肝疾患にお ける利胆, 慢性肝疾 患, 消化不良 ②コレステロール系胆石の 溶解	①150mg分3 <小児>1才40mg, 3才50mg, 分3 ②600mg分3
ウルソデオキシコール <ウルソデオキシコー ル酸> (東和薬品)	100mg/錠 ¥6.5/錠		①胆道(胆管・胆嚢) 系疾患・肝疾患にお ける利胆, 慢性肝疾 患, 消化不良 ②コレステロール系胆石の 溶解 ③原発性胆汁性肝硬 変における肝機能の 改善 ④C型慢性肝疾患に おける肝機能の改善	①150mg分3 <小児>1才40mg, 3才50mg, 分3 ②600mg分3 ③600mg分3 【Max: 900mg】 ④600mg分3 【Max: 900mg】

6. 肝・胆・膵疾患治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■膵酵素阻害薬				
カモスタットメシル酸塩 <カモスタット> (東和薬品)	100mg/錠 ¥9.2/錠		①慢性膵炎における急性症状の緩解 ②術後逆流性食道炎	①600mg分3 ②300mg分3食後
コアヒビター <ナファモスタット> (陽進堂)	10mg/瓶 ¥236/瓶		①急性膵炎,慢性膵炎の急性増悪,術後の急性膵炎,膵管造影後の急性膵炎,外傷性膵炎の改善 ②DIC ③体外循環時の凝固防止	①10mg/回,1日1~2回点静(約2時間) ②0.06~0.2mg/kg/hr,24時間持続点静 ③【DI照会参照】
	50mg/瓶 ¥701/瓶		①DIC ②体外循環時の凝固防止	①0.06~0.2mg/kg/hr,24時間持続点静 ②【DI照会参照】
ミラクリッド <ウリナスタチン> (持田)	2.5万単位/管 ¥908/管		①急性膵炎,慢性再発性膵炎の急性増悪期 ②急性循環不全	①初期量25000~50000単位/回,1~3回/日静注,点静 ②10万単位/回,1~3回/日,静注,点静 <小児>5000単位/kg/回1日2回
	10万単位/管 ¥1993/管			
レミナロン <ガベキサート> (オノキ)	100mg/瓶 ¥143/瓶		①急性膵炎・慢性再発性膵炎の急性増悪期・術後の急性膵炎 ②DIC	①100mg/回,1~3回/日,点静 ②20~39mg/kg/日 24時間持続静注
	500mg/瓶 ¥604/瓶		DIC	20~39mg/kg/日 24時間持続静注

7. 消化管運動調整薬・制吐薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■消化管運動調整薬				
オビソート <アセチルコリン> (第一三共)		100mg/管(溶解液2mL付) ¥364/管	①麻酔後の腸管麻痺 急性胃拡張 ②円形脱毛症	①100mg/回, 1日1~2回皮下, 筋注 ②100g/回/週皮内
ガナトン <イトブリド> (マイランEPD)	50mg/錠 ¥15.4/錠		慢性胃炎に伴う消化器症状	150mg分3
トリメブチンマレイン酸塩 <トリメブチン> (東和薬品)	100mg/錠 ¥5.8/錠		①慢性胃炎 ②過敏性腸症候群	①300mg分3 ②300~600mg分3
ドンペリドン <ドンペリドン> (エルメット・エーザイ)	10mg/錠 ¥5.8/錠		下記疾患および薬剤投与時の消化器症状 <成人>慢性胃炎, 胃下垂症, 胃切除後症候群, 抗悪性腫瘍剤またはレボドパ製剤投与時 <小児>周期性嘔吐症, 上気道感染症, 抗悪性腫瘍剤投与時	1回5~10mg1日3回 <小児>1~2mg/kg/日, 分3 【Max:30mg/日, 6歳以上は1mg/kg/日まで】
ナウゼリン <ドンペリドン> (協和発酵キリン)		10mg坐剤 ¥53.7/個 30mg坐剤 ¥88.5/個 60mg坐剤 ¥121.8/個	消化管機能の亢進	60mg/回, 2回 <小児>30mg/回, 2回 <3歳未満>10mg/回, 2~3回
プリンペラン <メトクロプラミド> (アステラス)	S Y (1mg/mL) ¥3.04/mL			<小児>0.5~0.7mg/kg分2~3
メトクロプラミド <メトクロプラミド> (武田)	5mg/錠 ¥5.6/錠	10mg(2mL)/管 ¥57/管	消化器機能異常, X線検査時のバリウムの通過促進	10mg/回1~2回筋注・静注
モサプリド <モサプリド> (沢井薬品)	5mg/錠 ¥9.9/錠		①慢性胃炎に伴う消化器症状	①15mg分3

7. 消化管運動調整薬・制吐薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■制吐薬 ◆5-HT₃拮抗薬				
アロキシ 〈パロノセトロン〉 (大鵬)		0.75mg(5mL)/瓶 ¥14851/瓶	抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)(遅発期を含む)	0.75mg静注または点静
カイトリル 〈グラニセトロン〉 (中外)	1mg/錠 ¥517.2/錠		抗悪性腫瘍剤投与及び放射線照射に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)	2mg分1
		1mg(1mL)/管 ¥1273/管	①抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐) ②放射線照射に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)	①40 μ g/kg静注,点静 症状改善ない場合同量追加 〈小児〉40 μ g/kg点静 症状改善ない場合同量追加 ②40 μ g/kg点静 【Max:1日2回】
グラニセトロン 〈グラニセトロン〉 (Meiji)		バッグ3mg(100mL)/袋 ¥1751/袋		
ナゼア 〈ラモセトロン〉 (アステラス)		0.3mg(2mL)/管 ¥3838/管	抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐	0.3mg静注, 症状改善ない場合同量追加
ナゼアOD 〈ラモセトロン〉 (アステラス)	0.1mg/錠 ¥1104.9/錠		抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)	0.1mg分1
■制吐薬 ◆選択的NK₁拮抗薬				
イメンド 〈アプレピタント〉 (小野薬品)	80mg/C ¥3359.4/C		抗悪性腫瘍剤投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)(遅発期を含む)	〈他の制吐剤と併用〉 成人及び12歳以上の小児 抗悪性腫瘍剤投与1日目:125mg 2日目以降:80mg,分1
	125mg/C ¥4919.4/C			
プロイメンド 〈ホスアプレピタント〉 (小野薬品)		150mg/瓶 ¥14545/瓶		〈成人及び12歳以上の小児〉 他の制吐剤と併用し,抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回150mg,点静 〈生後6ヵ月以上の乳幼児及び12歳未満の小児〉 他の制吐剤と併用し,抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回3mg/kg,点静【Max:150mg】
■制吐薬 ◆その他				
ノバミン 〈プロクロルペラジン〉 (オノギ)	5mg/錠 ¥9.6/錠		①統合失調症 ②悪心・嘔吐	①15~45mg/日 ②5~20mg/日

8. 鎮痙剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アトロピン注0.05%シリンジ <アトロピン> (テルモ)		0.5mg(1mL)/筒 ¥147/筒	①胃・十二指腸潰瘍における分泌並びに運動亢進, 胃腸の痙攣性疼痛, 痙攣性便秘, 胆管・尿管の痙攣, 副交感神経興奮剤の中毒, 迷走神経性徐脈・迷走神経性房室伝導障害, 麻酔前投薬, その他の徐脈及び房室伝導障害, ECTの前投与 ②有機リン系殺虫剤の中毒	①0.5mg/回皮下, 筋注, 静注 ②軽症:0.5~1mg皮下 中等症:1~2mg皮下, 筋注, 静注 重症:2~4mg静注
塩酸パパベリン <パパベリン> (日医工)		40mg(1mL)/管 ¥92/管	①胃炎, 胆道(胆管・胆嚢)系疾患に伴う内臓平滑筋の痙攣症状, 末梢循環障害, 冠循環障害における血管拡張と症状の改善 ②急性動脈栓塞 ③急性肺栓塞	①30~50mg/回, 100~200mg/日, 皮下, 筋注 ②50mg/回, 動注 ③50mg/回, 静注
トランコロン <メペンゾラート> (アストラ)	7.5mg/錠 【院外のみ】 ¥5.6/錠		過敏大腸症	45mg分3
ブスコパン <ブチルスコポラミン> (サノイ)	10mg/錠 ¥6.6/錠		胃・十二指腸潰瘍, 食道痙攣, 幽門痙攣, 胃炎, 腸炎, 腸痙攣, 痙攣性便秘, 機能性下痢, 胆道疾患, 尿路結石, 膀胱炎, 月経困難症	30~100mg分3~5
ブチルスコポラミン臭化物 <ブチルスコポラミン> (日医工)		20mg(1mL)/管 ¥56/管	胃・十二指腸潰瘍, 食道痙攣, 幽門痙攣, 胃炎, 腸炎, 腸痙攣, 痙攣性便秘, 機能性下痢, 胆のう・胆管炎, 胆石症, 胆道ジスキネジー, 胃・胆のう切除後の後遺症, 尿路結石, 膀胱炎, 月経困難症, 胃切除後の後遺症, 器具挿入による尿道・膀胱痙攣, 分娩時の子宮下部痙攣, 消化管のX線及び内視鏡検査の前処置	10~20mg皮下, 筋注, 静注

9. その他の消化器管薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■炎症性腸疾患用薬				
アサコール ＜メサラジン＞ (協和発酵キリン)	400mg/錠 ¥69.8/錠		潰瘍性大腸炎（重症を除く）	2400mg分3 寛解期は、2400mg分1も可 活動期は、3600mg分3 ★pH7以上で薬剤を放出するpH依存型放出調整製剤 主に回腸末端から大腸全域に薬剤放出
サラゾスルファピリジン ＜サラゾスルファピリジン＞ (テバ製薬)	500mg/錠 ¥8.6/錠		潰瘍性大腸炎、限局性腸炎、非特異性大腸炎	4～8～(16)錠分4～6
ゼンタコート ＜ブテソニド＞ (ゼリ新薬工業)	3mg/C ¥251/錠		軽症から中等症の活動期クローン病	9mg分1朝
プレドネマ ＜プレドニゾロン＞ (杏林)		注腸用 ¥627.9/本	潰瘍性大腸炎、限局性腸炎	1個/回、直腸内注入
ペンタサ ＜メサラジン＞ (杏林)		1g/坐剤 ¥275.4/個	潰瘍性大腸炎（重症を除く）	1日1個、直腸内挿入
		注腸用 ¥654.9/本		1日1個、直腸内注入
		顆粒(1000mg/1.06g/包) ¥159.318/包 顆粒(2000mg/2.12g/包) ¥318.636/包	①潰瘍性大腸炎（重症を除く） ②加齢病	①1日1,500mg、分3(寛解期は分1も可)【Max:2,250mg】 活動期:1日4,000mg、分2 ＜小児＞1日30～60mg/kg、分3【Max:2,250mg】 ②1日1,500mg～3,000mg、分3 ＜小児＞1日40～60mg/kg、分3
メサラジン ＜メサラジン＞ (東和薬品)	500mg/錠 ¥45.7/錠		①潰瘍性大腸炎(重症を除く) ②加齢病	①1500～2250mg分3 寛解期:1500mg分1も可 活動期:4000mg分2(8週まで) ＜小児＞30～60mg/kg/日、分3【Max:2250mg分3】 ②1500～3000mg分3 ＜小児＞40～60mg/kg/日、分3 ★小腸から大腸までの全域で薬剤が放出される時間依存型徐放製剤
リアルダ ＜メサラジン＞ (持田製薬)	1200mg/錠 ¥203.8/錠		潰瘍性大腸炎(重症を除く)	2400mg分1 活動期:4800mg分1
リンデロン ＜ベタメタゾン＞ (オノキ)		0.5mg/坐剤 ¥68.5/個	潰瘍性大腸炎(直腸炎型)	0.5～2mg分1～2、直腸内挿入
		1mg/坐剤 ¥96.7/個		
レクタブル ＜ブテソニド＞ (キッセイ薬品工業) 投与制限:14日△ (平成30年11月末まで)		注腸用 ¥6826.9/瓶	潰瘍性大腸炎（重症を除く）	1プッシュ/回、1日2回直腸内噴射

9. その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■過敏性腸症候群治療剤				
イリボー <ラモセトロン> (アステラス)	2.5 μ g/錠 【院外のみ】 ¥88.3/錠		下痢型過敏性腸症候群	男性:5 μ g分1【Max:10 μ g/日】 女性:2.5 μ g分1【Max:5 μ g/日】
	5 μ g/錠 【院外のみ】 ¥144.2/錠			
コロネル <ポリカルボフィルカルシウム> (アステラス)	細粒(1000mg/ 1.2g/包) 【院外のみ】 ¥28.44/包		過敏性腸症群における便通異常(下痢,便秘)及び消化器症状	1.5~3.0g分3 (錠:3~6錠,細粒:1.8~3.6g)
	500mg/錠 ¥15.3/錠			
リンゼス <リナクロチド> (アステラス)	0.25mg/錠 ¥89.9/錠		便秘型過敏性腸症候群	0.5mg分1食前

9. その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ヒトTNF α モノクローナル抗体				
シンボニー <ゴリムマブ> (ヤンセン)		50mg(0.5mL)/筒 ¥121527/筒	①関節リウマチ(既存治療で効果不十分な場合に限る、アバタセプトの併用は行わないこと) ②潰瘍性大腸炎(既存治療で効果不十分な場合に限る)	①メトトレキサートを併用する場合: 50mgを4週毎に皮下注【Max:100mg】 メトトレキサートを併用しない場合: 100mgを4週毎に皮下注 ②初回投与時200mg, 初回投与2週後100mg皮下注 初回投与6週目以降100mgを4週毎に皮下注
ヒュミラ <アダリムマブ> (エーザイ)		40mg(0.4mL)/筒 ¥62384/筒	①関節リウマチ ②尋常性乾癬, 関節症性乾癬, 膿疱性乾癬 ③強直性脊椎炎 ④多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 ⑤腸管型ペーチェット病 ⑥非感染性の中間部, 後部又は汎ぶどう膜炎 ⑦中等症又は重症の活動期にある加齢病の緩解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る) ⑧中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)	①③40mg/2週皮下注【Max:80mg】 ②初回80mg, 以後40mg/2週皮下注【Max:80mg】 ④体重15~30kg:20mg/2週皮下注 体重30kg以上:40mg/2週皮下注 ⑤⑧初回160mg, 2週後80mg, 4週後以降40mg/2週皮下注 ⑥初回80mg, 1週後40mg, 3週後以降40mg/2週皮下注 ⑦初回160mg, 2週後80mg, 4週後以降40mg/2週皮下注 効果が減弱した場合80mg/2週に増量可
		80mg(0.8mL)/筒 ¥121236/筒	①関節リウマチ ②尋常性乾癬, 関節症性乾癬, 膿疱性乾癬 ③強直性脊椎炎 ④腸管型ペーチェット病 ⑤非感染性の中間部, 後部又は汎ぶどう膜炎 ⑥中等症又は重症の活動期にある加齢病の緩解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る) ⑦中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限る)	①③40mg/2週皮下注【Max:80mg】 ②初回80mg, 以後40mg/2週皮下注【Max:80mg】 ④⑦初回160mg, 2週後80mg, 4週後以降40mg/2週皮下注 ⑤初回80mg, 1週後40mg, 3週後以降40mg/2週皮下注 ⑥初回160mg, 2週後80mg, 4週後以降40mg/2週皮下注 効果が減弱した場合80mg/2週に増量可
レミケード <インフリキシマブ> (田辺三菱)		100mg/瓶 ¥80426/瓶	①関節リウマチ ②ペーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎 ③尋常性乾癬, 関節症性乾癬, 膿疱性乾癬, 乾癬性紅皮症 ④強直性脊椎炎 ⑤腸管型ペーチェット病, 神経型ペーチェット病, 血管型ペーチェット病 ⑥川崎病の急性期 ⑦中等度から重度の活動期または外瘻を有する加齢病の治療及び維持療法 ⑧中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療	①3mg/kg分1, 点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後8週間隔【Max:10mg/kg】 ②⑧5mg/kg分1, 点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後8週間隔 ③5mg/kg分1, 点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後8週間隔<最短の投与間隔4週間> 【投与間隔8週の場合Max:10mg/kg】 【投与間隔短縮の場合Max:6mg/kg】 ④5mg/kg分1点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後6~8週間隔 ⑤⑦5mg/kg分1, 点静 初回投与後, 2週, 6週, 以後8週間隔<最短の投与間隔4週間> 6週の投与以後, 効果減弱の場合:10mg/kg/回で可 投与間隔を短縮する場合:5mg/kg/回 ⑥5mg/kg分1, 単回点静

9. その他の消化器官用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
ガスコン <ジメチコン> (キッセイ)	40mg/錠 ¥5.6/錠 ト・ロップ [®] (20mg/ mL) ¥3.6/mL		①胃腸内消泡剤 ②胃腸管内のガスに 起因する腹部症状の 改善	①40~80mg, 検査15~40分前に約10m Lの水とともに ②120~240mg分3
サリベート <人工唾液> (帝人)		50g/本 ¥569.9/本	シェーグレン症候群によ る口腔乾燥症, 頭頸 部の放射線照射によ る唾液腺障害に基づ く口腔乾燥症	1~2秒間噴霧/回, 4~5回/日口腔内噴霧
トランコロン <メペンゾラート> (アストラ)	7.5mg/錠 【院外のみ】 ¥5.6/錠		過敏大腸症	45mg分3

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非麻薬性鎮痛剤 【麻薬についてはU参照】				
トラマールOD ＜トラマドール＞ (日本新薬)	25mg/錠 ¥36.5/錠		非オピオイド鎮痛剤で治療困難な各種癌における鎮痛, 慢性疼痛	100~300mg分4【Max:100mg/回, 400mg/日】
ワントラム ＜トラマドール＞ (ファイザー)	100mg/錠 ¥113.2/錠			100~300mg分1【Max:400mg/日】
トラムセット ＜トラマドール, アセトアミノフェン＞ (ヤンセンファーマ)	37.5mg/325mg/錠 ¥69.8/錠		＜非オピオイド鎮痛剤で治療困難な場合＞ ①非がん性慢性疼痛 ②抜歯後の疼痛	①4錠分4 ②2錠/回, 4時間以上あけて2錠/回追加投与可 【Max:8錠/日, 2錠/回】
ノルスパンテープ ＜ブプレノルフィン＞ (久光製薬) 投与制限: 14日		5mg/枚 ¥1567.6/枚 10mg/枚 ¥2415.2/枚	非オピオイド鎮痛剤で治療困難な変形性関節症, 腰痛症に伴う慢性疼痛における鎮痛	初回貼付用量: 5mg, 症状に応じて適宜増減【Max:20mg】 7日毎に貼り替え 前胸部, 上背部, 上腕外部又は側胸部に貼付
ソセゴン ＜ペンタゾシン＞ (丸石製薬)		15mg(1mL)/管 ¥62/管	①各種癌, 術後, 心筋梗塞, 胃・十二指腸潰瘍, 腎・尿路結石, 閉塞性動脈炎, 胃・尿路・膀胱検査器具使用時における鎮痛 ②麻酔前投薬・麻酔補助	①15mg/回, 筋注, 皮下, 必要に応じて3~4時間毎に反復注射 ②30~60mg筋注, 皮下, 静注
■感冒用薬				
PL ＜サリチルアミド配合剤＞ (オノキ)	顆粒(1g/包) ¥6.4/包		感冒, 上気道炎	4g分4 【禁忌: 2歳未満の乳幼児】
■頭痛用薬 ◆5-HT_{1B/1D}選択的作用薬				
イミグラン ＜スマトリプタン＞ (グラクソ・スミスクライン)		3mg(1mL)/管 ¥3033/管	片頭痛, 群発頭痛	3mg/回皮下 【Max:3mg/回, 6mg/日】
ゾーミッグRM ＜ゾルミトリプタン＞ (アストラゼネカ)	2.5mg/錠 ¥730.3/錠		片頭痛	2.5mg/回偏頭痛発現時 2時間以上あけて追加投与 次回偏頭痛発現時5mg/回 【Max:10mg/日】
■解熱・鎮痛剤 ◆アスピリン				
アスピリン ＜アスピリン＞ (吉田)	末 ¥2.94/g		関節リウマチ, リウマチ熱, 変形性関節症, 強直性脊椎症などの鎮痛, 解熱	1~4.5g分3
バファリン330mg ＜アスピリン(330mg)・ダイアルミニート＞ (エーザイ)	錠 ¥5.7/錠		①関節リウマチ, リウマチ熱, 症候性神経痛 ②頭痛, 歯痛, 月経痛, 感冒の解熱	①4~12錠分2~3 ②4錠分2

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■解熱・鎮痛剤 ◆ピリン系				
SG ＜配合剤： イソプロピルアンチピ リン150mg アリルイソプロピルア セチル尿素60mg アセトアミノフェン2 50mg 無水カフェイン50m g＞ (オノキ)	顆粒(1g/包) ¥10.4/g		鎮痛, 解熱	3~4g分3~4
メチロン ＜スルピリン＞ (第一三共)		250mg(1mL)/管 ¥92/管	解熱	0.25~0.5~(1)g/回, 皮下, 筋注
■解熱・鎮痛剤 ◆アニリン系				
アセトアミノフェン ＜アセトアミノフェン ＞ (アスチラ)	末 ¥7.6/g		①頭痛, 耳痛, 症候性 神経痛, 腰痛症, 筋肉 痛, 打撲痛, 捻挫痛, 月経痛, 分娩後痛, が んによる疼痛, 歯痛, 歯科治療後の疼痛, 変形性関節症 ②急性上気道炎の解 熱・鎮痛 ③小児科領域におけ る解熱・鎮痛	①300~1000mg/回 投与間隔は4~6 時間以上 【Max: 4000mg/日】 ②300~500mg/回1日2回まで 【Max: 1500mg/日】 ③10~15mg/kg/回, 4~6時間毎 【Max: 60mg/kg/日】
アセリオ ＜アセトアミノフェン ＞ (メル)		1000mg(100mL)/ 袋 ¥323/袋	経口製剤及び坐剤の 投与が困難な場合 における疼痛及び発熱	＜成人における疼痛＞ 1回300~1000mg, 15分かけて静注, 投与間隔4 ~6時間以上【Max: 4000mg/日】 体重50kg未満: 1回15mg/kg【Max: 60mg/kg/ 日】 ＜成人における発熱＞ 1回300~500mg, 15分かけて静注, 投与間隔4~ 6時間以上, 1日2回まで【Max: 1500mg/日】 ＜2歳以上の小児における疼痛及び発熱＞ 1回10~15mg/kg, 15分かけて静注, 投与間隔4 ~6時間以上【Max: 60mg/kg/日】 ＜乳児及び2歳未満の幼児における疼痛及び 発熱＞ 1回7.5mg/kg, 15分かけて静注, 投与間隔4~6 時間以上【Max: 30mg/kg/日】
アンヒバ ＜アセトアミノフェン ＞ (マイランEPD)		100mg/坐剤 ¥19.3/個 200mg/坐剤 ¥26.2/個	小児科領域における 解熱・鎮痛	1歳未満50mg 1~3歳未満50~100mg 3~6歳未満100mg 6~12歳100~200mg分1 【原則5日間】
カロナール ＜アセトアミノフェン ＞ (あゆみ製薬)	200mg/錠 ¥7.1/錠 500mg/錠 ¥9.2/錠		①頭痛, 耳痛, 症候性 神経痛, 腰痛症, 筋肉 痛, 打撲痛, 捻挫痛, 月経痛, 分娩後痛, が んによる疼痛, 歯痛, 歯科治療後の疼痛, 変形性関節症 ②急性上気道炎の解 熱・鎮痛 ③小児科領域におけ る解熱・鎮痛	①300~1000mg/回 投与間隔は4~6 時間以上 【Max: 4000mg/日】 ②300~500mg/回1日2回まで 【Max: 1500mg/日】 ③10~15mg/kg/回, 4~6時間毎 【Max: 60mg/kg/日】
	SY(20mg/m L) ¥4.6/mL		小児科領域における 解熱・鎮痛	10~15mg/kg/回, 4~6時間毎 【Max: 60mg/kg/日】 5kg: 2.5~3.75mL/回 10kg: 5.0~7.5mL/回 20kg: 10~15mL/回 30kg: 15~22.5mL/回

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆アントラニル酸系				
ポンタール ＜メフェナム酸＞ (第一三共)	S Y (32.5mg/ mL) ¥6.4/mL		急性上気道炎での解熱・鎮痛	0.2mL/kg/回 1日2回まで
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆フェニール酢酸系				
セルタッチ ＜フェルピナク＞ (ファイザー)		パップ 70(6枚/ 包) 【院外のみ】 ¥114/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
ジクロフェナクNa ＜ジクロフェナク＞ (東和薬品)	25mg/錠 ¥5.6/錠		関節リウマチ・変形性関節症, 歯痛などの鎮痛・消炎, 解熱	75~100mg分3 頓用25~50mg
ボルタレン ＜ジクロフェナク＞ (パルリス)		25mg/坐剤 ¥42.3/個	関節リウマチ・変形性関節症などの鎮痛, 消炎, 解熱	25~100mg分1~2 ＜小児＞0.5~1mg/kg/回 1~2回/日
		50mg/坐剤 ¥48.8/個		
ジクロフェナク ＜ジクロフェナク＞ (日本臓器製薬)		ゲル(25g) ¥115/本	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛(筋・筋膜性腰痛症等)外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	数回/日, 塗擦
ジクロフェナクNa徐 放カプセル ＜ジクロフェナク＞ (東和薬品)	37.5mg/C ¥6.6/C		関節リウマチ・変形性関節症などの鎮痛, 消炎	75mg分2
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆ピラノ酢酸系				
オステラック ＜エトドラク＞ (あすか)	200mg/錠 ¥23.7/錠		関節リウマチ・変形性関節症などの鎮痛, 消炎	400mg分2

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆プロピオン酸系				
アドフィード ＜フルルビプロフェン＞ (科研)		ハッパ 40mg(6枚/包) ¥100.8/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
ケトプロフェン ＜ケトプロフェン＞ (日医工)		テープ 40mg(7枚/包) ¥117.6/包	腰痛症(筋・筋膜性腰痛症, 変形性脊椎症, 椎間板症, 腰椎捻挫), 変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛, 関節リウマチにおける関節局所の鎮痛	1回/日, 貼付
		ハッパ 30mg(7枚/包) ¥81.9/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
フルルバン ＜フルルビプロフェン＞ (科研)		ハッパ 40mg(6枚/包, 微温感タイプ) ¥100.8/包	変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛, 消炎	2回/日, 貼付
モーラス ＜ケトプロフェン＞ (久光)		ハッパ XR120mg(7枚/包) ¥259.7/包	腰痛症(筋・筋膜性腰痛症, 変形性脊椎症, 椎間板症, 腰椎捻挫), 変形性関節症, 肩関節周囲炎, 腱・腱鞘炎, 腱周囲炎, 上腕骨上顆炎(テニス肘等), 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛, 関節リウマチにおける関節局所の鎮痛	1回/日, 貼付
		ハッパ XR240mg(7枚/包) ¥400.4/包		
		テープ L40mg(7枚/包) ¥258.3/包		
ロキソプロフェンナトリウム ＜ロキソプロフェン＞ (日医工)	60mg/錠 ¥5.6/錠		変形性関節症, 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛・消炎	180mg分3, 頓用60~120mg
		テープ 50mg(7枚/包) 【院外のみ】 ¥89.6/包	変形性関節症, 筋肉痛, 外傷後の腫脹・疼痛の鎮痛・消炎	1日1回
		テープ 100mg(7枚/包) ¥138.6/包		
		ハッパ 100mg(7枚/包) ¥138.6/包		
ロコアテープ ＜エスフルルビプロフェン・ハッカ油＞ (帝人)		テープ 剤(7枚/包) ¥303.1/包	変形性関節症における鎮痛・消炎	1日1回, 患部に貼付

1. 解熱・鎮痛・消炎剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ロピオン <フルルビプロフェン アキセチル> (科研)		50mg(5mL)/管 ¥219/管	手術後,各種癌にお ける鎮痛	50mg/回,静注
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆オキシカム系				
モービック <メロキシカム> (パ・リンガ-)	10mg/錠 ¥48.2/錠		関節リウマチ・変形性関 節症,腰痛症,頸肩腕 症候群,肩関節周囲 炎などの鎮痛・消炎	10mg分1 【Max:15mg/日】
■非ステロイド系抗炎症剤 ◆コキシブ系				
セレコックス <セレコキシブ> (アステラス)	100mg/錠 ¥68.1/錠		①関節リウマチ ②変形性関節症,腰 痛症,肩関節周囲炎, 頸肩腕症候群,腱・腱 鞘炎 ③手術後,外傷後並 びに抜歯後の消炎・ 鎮痛	①1回100~200mg1日2回朝食後 ②1回200mg1日2回朝夕食後 ③初回のみ400mg, 2回目以降1回200mg1日2回 頓用:初回のみ400mg,2回目以降 6時間以上あけて1回200mg
■その他				
アルツディスポ <ヒアルロン酸ナトリ ウム> (科研)		25mg(2.5mL)/筒 ¥1155/筒	変形性膝関節症,肩 関節周囲炎,関節リウ マチにおける膝関節痛	1筒/週,連続5回 膝関節腔内又は肩関節内投与
ノイロトロピン <ワクシニアウイルス 接種家兔炎症皮膚抽出 液> (日本臓器)	4単位/錠 ¥29.8/錠		腰痛症,頸肩腕症候 群,肩関節周囲炎,変 形性関節症, 帯状疱疹後神経痛	4錠分2
リリカOD <プレガバリン> (ファイザー)	25mg/錠 ¥66.9/錠 75mg/錠 ¥111.5/錠		①神経障害性疼痛 ②線維筋痛症に伴う 疼痛	①初期用量150mg分2,以後1週間以上 かけて漸増し300mg分2 【Max:600mg,分2】 ②初期用量150mg分2,以後1週間以上 かけて漸増し300~450mg分2 【Max:450mg,分2】

2. 抗リウマチ剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アザルフィジンEN <サラソスルファピリジン> (参天)	500mg/錠 ¥55.5/錠		関節リウマチ	1000mg分2
リウマトレックス <メトトレキサート> (ファイザー)	2mg/C ¥231.8/C			6mg/週 6mg/日,分1~2,6日間休薬 または2mg/回を初日から2日目にかけて1 2時間間隔で3回投与,5日間休薬 【Max:16mg/週】
リマチル <ブシラミン> (参天)	100mg/錠 ¥56.8/錠			300mg分3

主なNSAIDsの分類

基本構造分類		一般名	採用医薬品	
酸性活性体	サリチル酸系	アスピリン	アスピリン バファリン配合錠A330	
	フェナム酸系	メフェナム酸	ポンタールシロップ	
	アリール 酢酸系	フェニル酢酸系	ジクロフェナク	ジクロフェナク錠・ゲル・SRカプセル ボルタレン坐剤
			フェルビナク	セルタッチパップ
		ピラノ酢酸系	エトドラク	オステラック錠
	プロピオン酸系	ケトプロフェン	モーラスパップXR120/XR240・テープL ケトプロフェンパップ30・テープ	
		フルルビプロフェン アキセチル	ロピオン注	
		フルルビプロフェン	アドフィードパップ フルルバンパップ	
		エスフルルビプロフェン	ロコアテープ	
		ロキソプロフェン	ロキソプロフェン錠 ロキソプロフェンパップ・テープ	
オキシカム系	メロキシカム	モービック錠		
中性活性体	コキシブ系	セレコキシブ	セレコックス錠	

貼付剤一覧

パップ剤	アドフィードパップ・セルタッチパップ・モーラスパップXR120/XR240・ケトプロフェンパップ30(冷感タイプ) ロキソプロフェンパップ(冷感タイプ)・フルルバンパップ(微温感タイプ)
テープ剤	モーラステープL(ケトプロフェンテープ)・ロキソプロフェンテープ・ロコアテープ

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗ヒスタミン薬				
アタラックスP <ヒドロキシジン> (ファイザー)	25mg/C ¥5.8/C		①神経症 ②蕁麻疹、皮膚疾患 に伴う搔痒	①75~150mg分3~4 ②50~75mg分2~3
		25mg(1mL)/管 ¥56/管	神経症、麻酔前投薬、 術前・術後の悪心・嘔 吐の防止	25~50mg/回静注 50~100mg/回筋注
セレスタミン <配合剤： ベタメタゾン0.25 mg, d-クロルフェニラミ ン2mg> (MSD)	錠 ¥9.3/錠		蕁麻疹、湿疹・皮膚炎 群、薬疹、アレルギー性鼻 炎	1~8錠、分1~4
ポララミン <d-クロルフェニラ ミン> (高田製薬)		5mg(1mL)/管 ¥58/管	蕁麻疹、枯草熱、皮膚 疾患に伴うそう痒 (湿疹・皮膚炎、皮膚 そう痒症、薬疹、咬刺 症)、アレルギー性鼻炎、 血管運動性鼻炎	1日1回5mg、皮下・筋注又は静注
■抗アレルギー薬 【抗ヒスタミン作用なし】				
リザベン <トラニラスト> (キッセイ)	100mg/C ¥21.9/C		気管支喘息、アレルギー 性鼻炎、アレルギー性皮膚 炎、かゆい、肥厚性瘢痕	300mg分3 <小児>5mg/kg/日、分3
	細粒(100mg/ g) ¥23.6/g			

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗アレルギー薬 【抗ヒスタミン作用あり】				
アレジオン 〈エピナスチン〉 (パ・リンガ・)	20mg/錠 ¥89.5/錠		①気管支喘息, 蕁麻疹, 湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, 痒疹, 掻痒を伴う尋常性乾癬 ②アレルギー性鼻炎	①20mg分1 ②10~20mg分1
	D S 10mg/g ¥71/g		①アレルギー性鼻炎 ②蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	①<小児>0.25~0.5mg/kg/日, 分1 【Max:20mg/日】 ②<小児>0.5mg/kg/日, 分1 【Max:20mg/日】
アレロック顆粒 〈オロパタジン〉 (協和発酵社)	顆粒(0.5g/包) ¥30.55/包		<成人>アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎, 痒疹, 皮膚掻痒症, 尋常性乾癬, 多形滲出性紅斑)	<成人および7歳以上>10mg分2朝・就寝前 <2歳以上7歳未満>5mg分2朝・就寝前
オロパタジンOD 〈オロパタジン〉 (Meiji)	5mg/錠 ¥16.9/錠		<小児>アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症)に伴う掻痒	<7歳以上>10mg分2朝・就寝前
ザイザル 〈レボセチリジン〉 (グラクサ・スミスクライン)	5mg/錠 ¥87.8/錠		<成人>アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 痒疹, 湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症	5mg分1就寝前【Max:10mg】 <7歳以上の小児>5mg分2, 朝食後就寝前
	S Y (0.5mg/mL) ¥16.3/mL		<小児>アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 湿疹・皮膚炎・皮膚掻痒症に伴う掻痒	10mL分1就寝前【Max:20mL】 <6ヵ月以上1歳未満の小児>2.5mL分1 <1歳以上7歳未満の小児>5mL分2, 朝食後就寝前 <7歳以上の小児>10mL分2, 朝食後就寝前
ザジテン 〈ケトチフェン〉 (第一三共)	D S (1mg/g) ¥32.5/g		気管支喘息, アレルギー性鼻炎, 湿疹・皮膚炎, 蕁麻疹, 皮膚掻痒症	<小児>0.06mg/kg/日, 分2
タリオンOD 〈ベシル酸ベポタスチン〉 (田辺三菱)	10mg/錠 ¥41.4/錠		<成人>アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患に伴うそう痒(湿疹・皮膚炎, 痒疹, 皮膚そう痒症) <小児>アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	7歳以上の小児および成人:1回10mg1日2回
ピラノア 〈ピラスチン〉 (大鵬薬品工業)	20mg/錠 【院外のみ】 ¥75.6/錠		アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	20mg分1空腹時
フェキソフェナジン 〈フェキソフェナジン〉 (日医工)	60mg/錠 ¥30/錠		アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚湿疹に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, アトピー性皮膚炎)	120mg分2
ルパフィン 〈ルパタジンフマル酸塩〉 (田辺三菱製薬) 投与制限:14日△ (平成30年11月末まで)	10mg/錠 【院外のみ】 ¥67.5/錠		アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎, 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	(12歳以上)10mg/回, 1日1回 【Max:20mg/回】

抗アレルギー薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ロイコトリエン受容体拮抗薬				
プラナルカスト 〈プラナルカスト〉 (東和薬品)	112.5mg/C ¥25.4/C		気管支喘息 アレルギー性鼻炎	450mg分2, 朝夕食後
	D S (100mg/g) ¥35.4/g			〈小児〉7mg/kg/日, 分2朝夕食後 【Max:10mg/kg/日, 450mg/日】
■減感作療法薬				
ノイロトロピン 〈ワクシニアウイルス 接種家兎炎症皮膚抽出 液〉 (日本臓器)	4単位/錠 ¥29.8/錠		腰痛症, 頸肩腕症候 群, 肩関節周囲炎, 変 形性関節症, 帯状疱 疹後神経痛	4錠分2
■その他				
アレルギー診断用エキ ス・抗原別各種 〈ー〉 (鳥居)		ハイル 【用時購入】	アレルギー性疾患のアレ ルギ-の確認	【DI照会参照】
アレルギー治療用エキ ス・抗原別各種 〈ー〉 (鳥居)		ハイル 【用時購入】	気管支喘息	
強力ネオミノファーゲ ンシーP 〈グリチルリチン配合 剤〉 (エーザイ)		20mL/管 ¥123/管	①慢性肝疾患におけ る肝機能異常の改善 ②湿疹・皮膚炎, 蕁麻 疹, 皮膚そう痒症, 薬 疹・中毒疹, 口内炎, 小児ストロフルス, フリクテ	①40~100mL分1静注または点静 ②5~20mL分1静注
強力ネオミノファーゲ ンシー 〈グリチルリチン配合 剤〉 (エーザイ)		40mL/シリンジ ¥330/シリンジ		
グリチロン 〈グリチルリチン配合 剤〉 (エーザイ)	錠剤 ¥5.6/錠		慢性肝疾患, 脱毛症	6~9錠分3 〈小児〉3錠分3

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■成長ホルモン剤				
ノルディトロピンS <ソマトロピン> (ホ・ルデ・イシ)		10mg/1.5mL ¥48173/筒	①骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症 ②骨端線閉鎖を伴わないターナー症候群における低身長 ③骨端線閉鎖を伴わない軟骨異栄養症における低身長 ④成人成長ホルモン分泌不全症(重症に限る) ⑤骨端線閉鎖を伴わないSGA (small-for-gestational age) 性低身長症 ⑥骨端線閉鎖を伴わないヌーナン症候群における低身長	①0. 175mg/kg/週, 皮下(分6~7) ②③0. 35mg/kg/週, 皮下(分6~7) ④0. 021mg/kg/週, 皮下(分6~7) 【Max: 0. 084mg/kg/週, 1mg/日】 ⑤⑥0. 23mg/kg/週, 皮下(分6~7) 【Max: 0. 47mg/kg/週】
■ゴナドトロピン剤 <胎盤性性腺刺激ホルモン>				
HCG (持田)		5000単位/管(1mL溶解液付) ¥860/管	【DI照会参照】	
■下垂体後葉ホルモン剤				
アトニンO <オキシトシン> (あすか)		5単位(1mL)/管 ¥154/管	①子宮収縮の誘発・促進, 子宮出血の治療(分娩誘発, 微弱陣痛) ②弛緩出血, 胎盤娩出前後, 子宮復古不全, 流産, 人工妊娠中絶 ③帝王切開術	①5~10単位点静 0. 25~0. 5単位から開始, 陣痛発来・胎児心拍により漸増, 皮下, 筋注 ②5~10単位点静, 静注, 筋注 ③5~10単位点静, 静注, 子宮筋注
デスマプレシン <デスマプレシン> (協和発酵社)		スプレー(125 μ g/5mL/本)(1噴霧=2. 5 μ g) ¥4306. 6/本	中枢性尿崩症	1日1~2回, 1回5~10 μ g鼻腔内投与 <小児>1日1~2回, 1回2. 5~5 μ g鼻腔内投与
ピトレシン <バソプレシン> (第一三共)		20単位(1mL)/管 ¥679/管	①下垂体性尿崩症 ②食道静脈瘤出血の緊急処置 ③下垂体性又は腎性尿崩症の鑑別診断 ④腸内ガスの除去	①2~10単位/回 1日2~3回皮下, 筋注 ②20単位 0. 1~0. 4単位/分持続静注 ③5~10単位皮下, 筋注又は0. 1単位静注 ④5~10単位皮下, 筋注
ミニリンメルトOD <デスマプレシン> (協和発酵社)	120 μ g/錠 ¥192. 6/錠		①尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症 ②中枢性尿崩症	①1回120~240 μ g, 1日1回就寝前 ②1回60~120 μ g, 1日1~3回 【Max: 240 μ g/回, 720 μ g/日】

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■副腎髄質ホルモン剤				
アドレナリン注0.1%シリンジ <エピネフリン> (テルモ)		1mg(1mL)/筒 ¥152/筒	気管支喘息・百日咳に基づく気管支痙攣の緩解, 急性低血圧・ショック時の補助治療, 心停止の補助治療	0.2~1mg/回皮下, 筋注 0.25mg/回静注
ノルアドリナリン <d1ーノルエピネフリン> (第一三共)		1mg(1mL)/管 ¥92/管	急性低血圧, ショック時の補助療法	1mg/回静注 0.1~1mg/回皮下
ボスミン <エピネフリン> (第一三共)		外用液(1mg/mL, 100mL/本) ¥11.9/mL	気管支喘息, 百日咳等に基づく気管支痙攣, 開放隅角緑内障, 虹彩毛様体炎, 出血の予防と治療, 局所麻酔時作用延長	【DI照会参照】
■甲状腺ホルモン剤				
チラーヂンS <レボチロキシン> (あすか)	散(100 μ g/g) ¥58/g		乳幼児甲状腺機能低下症	乳幼児: 10 μ g/kg/日, 分1 未熟児: 5 μ g/kg/日, 分1より開始, 8日目より10 μ g/kg/日, 分1
	25 μ g/錠 【院外のみ】 ¥9.6/錠		甲状腺機能低下症, 甲状腺腫, 粘液水腫, ケリン病	25~400 μ g分1 (開始量25~100 μ g, 維持量100~400 μ g)
	50 μ g/錠 ¥9.6/錠			
■抗甲状腺剤				
チウラジール <プロピルチオウラシル> (田辺三菱)	50mg/錠 ¥9.6/錠		甲状腺機能亢進症	初期量: 300~600mg, 維持量: 50~100mg分1~2 <小児> 初期量: 10~15歳: 200~300mg分2~4, 維持量: 50~100mg分1~2 <妊婦> 初期量: 150~300mg, 維持量: 50~100mg分1~2
メルカゾール <チアマゾール> (武田)	5mg/錠 ¥9.6/錠			初期量: 30~60mg 維持量: 5~10mg分1~2 <小児> 初期量: 10~15歳: 20~30mg分2~4, 維持量: 5~10mg分1~2 <妊婦> 初期量: 15~30mg 維持量: 5~10mg分1~2

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■副腎皮質ホルモン剤				
ケナコルトA <トリアムシノロンアセトニド> (ブリストル)		40mg(1mL)/瓶 ¥815/瓶		【DI照会参照】
コートリル <ヒドロコルチゾン> (ファイザー)	10mg/錠 ¥7.3/錠		【DI照会参照】	10~120mg分1~4
ソルコーテフ <ヒドロコルチゾン> (ファイザー)		100mg(溶解液2mL付)/瓶 ¥308/瓶		【DI照会参照】
		500mg(4mL)/瓶 ¥1249/瓶	急性循環不全(出血性ショック、外傷性ショック)、ショック様状態における救急、気管支喘息	
ソル・メルコート <メチルプレドニゾン> (富士製薬)		40mg/瓶(溶解液1mL付) ¥180/瓶	①急性循環不全(出血性ショック) ②急性循環不全(感染性ショック) ③腎臓移植に伴う免疫反応の抑制 ④受傷後8時間以内の急性脊髄損傷患者(運動機能障害、感覚機能障害を有する場合)における神経機能障害の改善 ⑤初老症候群 ⑥気管支喘息(40mg, 125mg) <他の抗悪性腫瘍薬との併用> ⑦再発又は難治性の悪性リンパ腫(40mg, 125mg, 500mg) ⑧多発性硬化症の急性増悪	①125~2000mg/回静注, 点静 ②1000mg/回1~2回 ③40~1000mg/日静注, 点静 ④30mg/kg/回, 15分間点静 45分間休業後5.4mg/kg/時間23時間点静 ⑤500~1000mg/日静注, 点静 <小児>30mg/kg/日静注, 点静【Max: 1000mg/日】 ⑥40mg~125mg/初回静注, 点静 その後40mg~80mg/4~6時間 <小児>1.0~1.5mg/kg/初回静注, 点静 その後1.0mg~1.5mg/4~6時間 ⑦250~500mg/日, 5日間静注, 点静 3~4週ごとに繰り返す ⑧500~1000mg/日静注, 点静
		125mg/瓶(溶解液2mL付) ¥321/瓶		
		500mg/瓶(溶解液8mL付) ¥964/瓶		
		1000mg/瓶(溶解液16mL付) ¥1769/瓶		
デカドロン <デキサメタゾン> (日医工)	0.1mg/mL ¥4.2/mL		【DI照会参照】	0.5~8mg分1~4 <小児>0.15~4mg分1~4
	0.5mg/錠 ¥5.6/錠			0.5~8mg分1~4
	4.0mg/錠 ¥33.6/錠			
デキサート <デキサメタゾン> (富士製薬)		1.65mg(2mg/0.5mL)/管 ¥56/瓶	【DI照会, 添付文書参照】	【DI照会参照】
		6.6mg(8mg/2mL)/瓶 ¥160/瓶		
ハイドロコートン <ヒドロコルチゾン> (日医工)		100mg(2mL)/瓶 ¥378/瓶	外科的ショック、ショック様状態における救急、術中・術後のショック	100~1000mg/回, 1~数回/日静注, 点静

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
プレドニゾン <プレドニゾン> (武田)	散(10mg/g) ¥7.9/g 5mg/錠 ¥9.6/錠			5~60mg分1~4
プレドニン <プレドニゾン> (オノキ)		20mg/管 ¥194/管	【DI照会参照】	【DI照会参照】
ベタメタゾン <ベタメタゾン> (沢井製薬)	0.5mg/錠 ¥6.3/錠			0.5~8mg分1~4
リンデロン <ベタメタゾン> (オノキ)		2mg(0.5mL)/管 ¥178/管		
フロリネフ <フルドロコルチゾン> (アズノジャパン)	0.1mg/錠 ¥319.2/錠		塩喪失性先天性副腎皮質過形成症, 塩喪失性副腎皮質機能不全(アジソン病)	0.02~0.1mg分2~3 【Max:<新生児>0.025mg/日, <1歳未満>0.05mg/日】
プレドネマ <プレドニゾン> (杏林)		注腸用 ¥627.9/本	潰瘍性大腸炎, 限局性腸炎	1個/回, 直腸内注入
レクタブル <ブデソニド> (キッセイ薬品工業) 投与制限: 14日△ (平成30年11月未まで)		注腸用 ¥6826.9/瓶	潰瘍性大腸炎(重症を除く)	1プッシュ/回, 1日2回直腸内噴射

■男性ホルモン剤

テストノンデポー <テストステロン> (持田)		125mg(1mL)/管 【用時購入】 ¥640/管	①男性性腺機能不全 ②造精機能障害による男子不妊症 ③再生不良性貧血, 骨髄繊維症, 腎性貧血	①100mg/回, 7~10日間毎, 又は250mg/回2~4週間毎筋注 ②50~250mg/回, 2~4週間毎筋注(無精子症迄) ③100~250mg/回, 1~2週間毎筋注
-----------------------------------	--	----------------------------------	---	--

■蛋白同化ホルモン剤

プリモボラン <メテノロン> (パナソニック)	5mg/錠 ¥10.8/錠		骨粗鬆症, 再生不良性貧血	10~20mg分2~3
-----------------------------------	------------------	--	---------------	-------------

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■卵胞ホルモン剤				
エストラーナテープ <エストラジオール> (久光)		テープ (0.72mg/ 枚) ¥101/枚	①更年期障害及び卵巣欠落症状に伴う血管運動神経症状(Hot flush及び発汗), 泌尿生殖器の萎縮症状 ②閉経後骨粗鬆症 ③性腺機能低下症, 性腺摘出又は原発性卵巣不全による低エストロゲン症	①②1回1枚(0.72mg), 下腹部・臀部のいずれかに貼付, 2日毎貼り替え ③1回1枚(0.72mg)から開始, <小児>1回0.09mgから開始, その後0.18mg, 0.36mg, 0.72mgと段階的に増量 下腹部・臀部のいずれかに貼付, 2日毎貼り替え
エストリール <エストリオール> (持田)	1mg/錠 ¥14.7/錠		①更年期障害, 膣炎, 子宮頸管炎, 子宮腔部びらん ②老人性骨粗鬆症	①0.1~2mg分1~2 ②2mg分2
プレマリン <エストロゲン> (ファイザー)	0.625mg/錠 【院外のみ】 ¥18.6/錠		①更年期障害, 卵巣欠落症状, 卵巣機能不全症 ②機能性子宮出血, 膣炎	①0.625~1.25mg/日 ②0.625~3.75mg/日
■黄体ホルモン剤				
デュファストン <ジドロゲステロン> (マイランEPD)	5mg/錠 ¥34.8/錠		①切迫流産, 習慣性流産, 黄体機能不全による不妊症, 月経困難症, 機能性子宮出血, 無月経, 月経周期異常 ②子宮内膜症	①5~15mg分1~3 ②5~20mg
ヒスロンH <メドロキシプロゲステロン> (協和発酵キリン)	200mg/錠 ¥236/錠		①乳癌 ②子宮体癌(内膜癌)	①600~1200mg分3 ②400~600mg分2~3
プロゲデポー <ヒドロキシプロゲステロン> (持田)		125mg(1mL)/管 【用時購入】 ¥178/管	無月経, 機能性子宮出血, 黄体機能不全による不妊症, 切迫流産, 習慣性流産	65~125mg/回筋注
プロベラ <メドロキシプロゲステロン> (ファイザー)	2.5mg/錠 【院外のみ】 ¥25.1/錠		無月経, 月経周期異常, 月経量異常, 機能性子宮出血, 黄体機能不全による不妊症, 切迫流産, 習慣性流産	2.5~15mg分1~3

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■混合ホルモン剤				
プラノバル ＜配合剤： ノルゲストレル0.5 mg, エチニルエストラジ オール0.05mg＞ (あすか)	錠 ¥13.9/錠		①機能性子宮出血 ②月経困難症,月経 周期異常(稀発月経, 頻発月経),過多月 経,子宮内膜症,卵巣 機能不全	①1錠/日,7~10日間 ②1錠/日,月経周期第5日より約3週 間
メノエイドコンビパツ チ ＜エストラジオール,酢 酸ノルエチステロン＞ (あすか製薬)		テープ(直径3.4cm /枚) ¥381.5/枚	更年期障害及び卵巣 欠落症状に伴う血管 運動神経系症状(Ho t flush及び発汗)	1回1枚,週2回(3-4日毎),下腹部に貼 付
ルナベルLD ＜配合剤： ノルエチステロン1m g, エチニルエストラジ オール0.035mg＞ (日本新薬)	錠 【院外のみ】 ¥251.6/錠		月経困難症	1錠/日,21日間投与,7日間休薬
ルナベルULD ＜配合剤： ノルエチステロン1m g, エチニルエストラジ オール0.02mg＞ (日本新薬)	錠 【院外のみ】 ¥314.1/錠			
■経口避妊剤				
トリキュラー21 ＜配合剤, 赤褐色： レボノルゲストレル 0.0050mg エチニルエストラジ オール0.0030mg 白色： レボノルゲストレル 0.075mg エチニルエストラジ オール0.040mg 淡黄褐色： レボノルゲストレル 0.125mg エチニルエストラジ オール0.030mg＞ (パ・イール)	錠 【院外のみ】 ¥1396/錠		避妊	1錠/日,21日間 7日間休薬
■子宮内黄体ホルモン放出システム				
ミレーナ ＜レボノルゲストレル ＞ (パ・イール)		52mg/個 ¥26697.6/個	①避妊【保険適応 外】 ②過多月経 ③月経困難症	1回1個,子宮腔内に装着(装着後は5 年以内に除去又は交換)

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他のホルモン剤				
オクトレオチド酢酸塩 〈オクトレオチド〉 略名：SAS (サンド)		100 μ g(1mL)/管 ¥1229/管	①消化管ホルモン産生腫瘍(VIP産生腫瘍,ガチノイド症候群の特徴を示すガチノイド腫瘍,ガストリン産生腫瘍),先端巨大症・下垂体性巨人症における成長ホルモン,ソマトジンC分泌過剰状態 ②進行・再発癌患者の緩和医療における消化管閉塞に伴う消化器症状の改善	①100~300 μ g分2~3皮下 ②300 μ g/日を24時間持続皮下
クロミッド 〈クロミフェン〉 (オノキ)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥100.2/錠		排卵障害に基づく不妊症の排卵誘発	50~100mg(5日間)
ディナゲスト 〈ジエノゲスト〉 (持田)	1mg/錠 【院外のみ】 ¥362.3/錠		子宮内膜症,子宮腺筋症に伴う疼痛の改善	2mg分2 (月経周期第2~5日より連続投与)
ナサニール 〈ナファレリン〉 (ファイザー)		点鼻液(10mg/5mL/瓶) 【院外のみ】 ¥8062.6/瓶	子宮内膜症,子宮筋腫	1噴霧/回(片鼻腔),2回/日,月経周期1~2日目より投与
プレグランディン 〈ゲメプロスト〉 (小野薬品)		膈坐剤(1mg/個) ¥4031.4/個	妊娠中期における治療的流産	1個/回/3時間毎,後陰門蓋部挿入【1日に5個まで】
プロスタグランジンE ₂ 〈ジノプロストン〉 (科研)	0.5mg/錠 ¥267.4/錠		妊娠末期における陣痛誘発,陣痛促進	1錠/回,1時間毎,6回/1ケル
プロスタルモンF 〈ジノプロスト〉 (小野薬品)		1mg(1mL)/管 ¥640/管	①妊娠末期における陣痛誘発・陣痛促進・分娩促進 ②腸管蠕動亢進 ③治療的流産	①1~2mg(0.1 μ g/kg/min) 静注,点静,持続注入 ②1~2mg(10~20 μ g/min)/回,1日2回点静 ③卵膜外投与【DI照会参照】
ゴナックス 〈デガレリクス〉 (アステラス)		80mg/瓶 ¥23233/瓶 120mg/瓶 ¥28637/瓶	前立腺癌	初回240mg(120mgずつ腹部2カ所に)皮下注 2回目以降80mg皮下注,4週間毎
ゾラデックス 〈ゴセレリン〉 (キヤイ)		1.8mg/筒 ¥25586/キット	子宮内膜症	1筒/4週間毎,前腹部皮下
ゾラデックス 〈ゴセレリン〉 (アストラゼネカ)		3.6mg/筒 ¥32954/キット	前立腺癌,閉経前乳癌	
リュープリン 〈リュープロレリン〉 (武田)		1.88mg/キット ¥26296/キット	子宮筋腫,子宮内膜症	1.88mg(又は3.75mg)/回/4週皮下

ホルモン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
リュープリン <リュープロレリン> (武田)		3.75mg/キット ¥34730/キット	①子宮筋腫, 子宮内 膜症 ②前立腺癌, 閉経前 乳癌	①1.88mg (又は3.75mg)/回/4週皮下 ②3.75mg/回/4週皮下
リュープリンPRO <リュープロレリン> (武田)		22.5mg/キット ¥94108/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌	22.5mg/24週毎, 皮下注
リュープリンSR <リュープロレリン> (武田)		11.25mg/キット ¥60958/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌, 球脊髄性筋萎縮症の 進行抑制	11.25mg/回/12週皮下

生物活性作用時間分類	一般名	商品名	規格	対応量*1 (mg)	力価比 (/コルチゾール)*2		血中半減期 (hr)	生物学的半減期(hr)*3	副作用出現状況				
					抗炎症作用	電解質作用			HPA抑制量 (mg/day)*4	Na蓄積作用の強さ	食欲増加作用	精神変調	筋障害またはミオパチー
短時間型	ヒドロコルチゾン	コートリル錠	10mg	20	1	1	1.5	8~12	30	2+	2+	1+	1+
		ハイドロコートン注	100mg										
		ソルコーテフ注	100mg, 500mg										
中間型	プレドニゾン	プレドニゾン錠	5mg	5	4	0.8	2.75	12(18)~36	7.5	1+	3+	2+	1+
		プレドニゾン散	10mg/g										
		プレドニン注	20mg										
	メチルプレドニゾン	メドロール錠	4mg	4	5	0.5	3	12(18)~36	6	0	2+	1+	1+
		ソル・メルコート注	40mg,125mg, 500mg,1000mg										
	トリアムシロン	ケナコルトA筋注用	40mg	4	5	0	4.2	24~48	6	0	0	-	3+
ケナコルトA皮内用		50mg											
長時間型	デキサメタゾン	デカドロン錠	0.5mg, 4mg	0.75	25~30	0	5	36~54	0.75~1	0	4+	4+	2+
		デカドロンエリキシル	0.1mg/mL										
		デキサート注	1.65mg/0.5mL 6.6mg/2mL										
	ベタメタゾン	ベタメタゾン錠	0.5mg	0.6	25~30	0	5	36~54	0.75~1	0	4+	?	2+
		リンデロン注	2mg/0.5mL										

*1: コルチゾールの1日平均分泌量(20mg)に対応する投与量を示す

*2: 副腎皮質ホルモンのコルチゾールは生理的糖質コルチコイドであり、糖代謝作用、抗炎症作用、および免疫抑制作用をもっている。さらにこの抗炎症作用を目的とするためには無視できない副作用として、ナトリウムの体内貯留など電解質(鉱質コルチコイド作用)を併せもっている

*3: HPA(Hypothalamic-Pituiary-Adrenocortical: 視床下部-下垂体-副腎)系の分泌抑制作用から生物活性の半減期を測定

*4: 長期投与によりHPA系を抑制すると考えられる1日投与量

1. ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンB1製剤				
アリナミンF 〈フルスルチアミン〉 (武田)	25mg/錠 ¥5.8/錠		ビタミンB1欠乏症の予防・治療	25~100mg分1~3
■ビタミンB2製剤				
フラビタン 〈フラビンアデニンジ ヌクレオチド〉 (トアイコー)	5mg/錠 ¥5.6/錠		ビタミンB2欠乏症の予防・治療	5~45mg分1~3
■ビタミンB6製剤				
ビタミンB6 〈ピリドキシン〉 (丸石製薬)	散(100mg/g) ¥20.1/g		ビタミンB6欠乏症の予防及び治療, ビタミンB6の需要が増大し食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患, 妊産婦, 授乳婦など), ビタミンB6依存症(ビタミンB6反応性貧血など), 口角炎, 口唇炎, 舌炎, 急・慢性湿疹, 脂漏性湿疹, 接触皮膚炎, 末梢神経炎, 放射線障害(宿酔)のうちビタミンB6の欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合	10~100mg/日
ピドキサール 〈ピリドキサル〉 (中外)	10mg/錠 ¥5.6/錠		ビタミンB6欠乏症の予防・治療 末梢神経炎	10~60mg分1~3
■ビタミンB12製剤				
メチコパール 〈メコパラミン〉 (エーザイ)	500 μ g/錠 ¥15.7/錠		末梢性神経障害	1500 μ g分3
		500 μ g(1mL)/管 ¥108/管	末梢性神経障害 巨赤芽球性貧血	500 μ g/日, 3回/週, 筋注, 静注
■ビタミンB複合剤				
ビタメジン 〈配合剤〉 (第一三共)	カブセル ¥5.6/C		ビタミン類の欠乏	3~4カブセル/日
		ハイフル ¥117/瓶		1瓶/日, 静注, 点静

1. ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンC製剤				
アスコルビン酸 ＜アスコルビン酸＞ (日医工)		500mg(2mL)/管 ¥82/管	ビタミンC欠乏症の予防・治療	50～2000mg分1～数回皮下・筋肉内・静注
シナール ＜アスコルビン酸・パントテン酸カルシウム＞ (オノキ)	200mg/錠 ¥6.1/錠		ビタミンCの欠乏状態	1～3錠/回, 1～3回/日
ハイシー ＜アスコルビン酸＞ (武田)	顆粒(250mg/g/包) ¥6.2/包		ビタミンC欠乏症の予防・治療	50～2000mg分1～数回
■ビタミンD製剤				
アルファロール ＜アルファカルシドール＞ (中外)	液(0.5μg/mL) ¥63.4/mL		①慢性腎不全, 骨粗鬆症 ②副甲状腺機能低下症, ビタミンD抵抗性ケル病・骨軟化症	①0.5～1μg分1 ＜小児＞0.01～0.03μg/kg/日分1 ②1～4μg分1 ＜小児＞0.05～0.1μg/kg/日分1 ＜乳幼児＞0.008～0.1μg/kg/日分1
オキサロール ＜マキサカルシトール＞ (中外)		5μg(1mL)/管 ¥1232/管	維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症	2.5～10μg/回/週3回 透析回路静脈側に注入(静注)
カルフィーナ ＜アルファカルシドール＞ (共和薬品工業)	0.5μg/錠 ¥5.8/錠		①慢性腎不全, 骨粗鬆症 ②副甲状腺機能低下症, ビタミンD抵抗性ケル病・骨軟化症	①0.5～1μg分1 ＜小児＞0.01～0.03μg/kg/日分1 ②1～4μg分1 ＜小児＞0.05～0.1μg/kg/日分1 ＜乳幼児＞0.008～0.1μg/kg/日分1
ロカルトロール ＜カルシトリオール＞ (杏林)	0.25μg/C ¥19/C		①骨粗鬆症 ②慢性腎不全 ③副甲状腺機能低下症, ビタミンD抵抗性ケル病・骨軟化症	①0.5μg分2 ②0.25～0.75μg分1 ③0.5～2.0μg分1
■ビタミンE製剤				
ユベラ ＜トコフェロール＞ (エーザイ)	50mg/錠 ¥5.6/錠		ビタミンE欠乏症の予防・治療, 末梢循環障害	100～300mg分2～3

1. ビタミン剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビタミンK製剤				
グラケー 〈メナテトレノン〉 (エザイ)	15mg/C ¥28.2/C		骨粗鬆症における骨量・疼痛の改善	45mg分3
ケイツーN 〈メナテトレノン〉 (エザイ)		10mg(2mL)/管 ¥77/管	①ビタミンK欠乏による低プロトロン血症(胆道閉鎖・胆汁分泌不全, カリウム系抗凝薬投与中)分娩時出血 ②新生児低プロトロン血症 ③カリウム系殺鼠剤中毒時における低プロトロン血症	①10~20mg静注 ②1~2mg/回, 静注2~3回 ③20mg/回【Max:40mg/日】
ケイツー 〈メナテトレノン〉 (エザイ)	S Y (2mg/mL/包) ¥26/包		①新生児出血・新生児低プロトロン血症の治療 ②新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症の予防	①2~6mg分1 ②1回2mg, 1日1回 生後1ヶ月までに3回投与
■その他のビタミン				
ニコチン酸アミド 〈ニコチン酸アミド〉 (鳥居)	散(100mg/g) ¥10.8/g		ニコチン酸欠乏症の予防・治療	25~200mg/日
パントール 〈パンテノール〉 (トアエコー)		100mg(1mL)/管 ¥56/管	①パントテン酸欠乏症の予防・治療 ②術後腸管麻痺	①20~200mg分1~2筋注, 静注 ②50~500mg/回, 1~3~(6)回/日筋注, 静注
フォリアミン 〈葉酸〉 (日本製薬)	5mg/錠 ¥9.6/錠		葉酸欠乏症の予防・治療 吸収不全症候群	5~20mg分2~3 〈小児〉5~10mg分2~3
■レボカルニチン製剤				
エルカルチンFF 〈レボカルニチン〉 (大塚)	内用液(100mg/mL) ¥69.8/ml		カルニチン欠乏症	1日1.5~3g分3 〈小児〉25~100mg/kg/日, 分3
■総合ビタミン剤				
パンビタン末 〈ビタミン類〉 (武田)	末 ¥6.2/g		本剤に含まれるビタミン類の需要が増大し, 食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患, 妊産婦, 授乳婦等)	1~2g/日
ビタジェクト 〈ビタミン類〉 (テルモ)		キット(A液5mL, B液5mL) ¥272/キット	経口, 経腸管栄養補給が不能又は不十分で高加リ静脈栄養に頼らざるを得ない場合のビタミン補給	1キット/日点静

2. ミネラル

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■カルシウム剤				
L-アスパラギン酸Ca <アスパラギン酸カルシウム> (沢井製薬)	200mg/錠 【1.3mEq】 ¥5.6/錠		低カルシウム血症に起因するリン-リン関連症状、骨粗鬆症・骨軟化症・発育期・妊娠・授乳時におけるカルシウム補給	6錠分2~3
カルチコール <グルコン酸カルシウム> (日医工)		5mL/管 ¥60/管	【栄養輸液 I-6参照】	
乳酸カルシウム <乳酸カルシウム> (吉田)	末(1g/包) ¥3.77/包		低カルシウム血症に起因するリン、妊婦・産婦の骨軟化症、発育期におけるカルシウム補給	2~5g分2~5
乳酸カルシウム <乳酸カルシウム> (ファイザー)	末 ¥3.77/g			
■カリウム剤				
グルコンサンK <グルコン酸カリウム> (科研)	細粒(937mg/g) 【4mEq】 ¥8.4/g		カリウム補給	30~40mEq分3~4
ケーサプライ <塩化カリウム> (アルフレッサファーマ)	600mg/錠 【8mEq】 ¥5.6/錠		低カルシウム血症の改善	4錠分2
KCL <塩化カリウム> (テルモ)		10mEq/キット(10mL) ¥170/キット	カリウム補給	【栄養輸液 I-6参照】
■鉄剤【含量はFeとしての量を表示】 <内服剤>				
インクレミン <溶性ピロリン酸第二鉄> (アルフレッサファーマ)	S Y 【Fe:6mg/mL】 ¥6.1/mL		鉄欠乏性貧血	<小児>0.6mL(4mg)/kg/日、分2~3、6~15歳10~15mL
クエン酸第一鉄Na <クエン酸第一鉄ナトリウム> (沢井)	50mg/錠 ¥5.6/錠			100~200mg分1~2
フェロミア <クエン酸第一鉄ナトリウム> (エーザイ)	顆粒【Fe:50mg/0.6g】 ¥14.6/g			

2. ミネラル

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鉄剤【含量はFeとして量を表示】 <注射剤>				
フェジン <含糖酸化鉄> (日医工)		2mL/管【Fe:40mg】 ¥60/管	鉄欠乏性貧血	40~120mg静注
■ヨウ素剤				
ヨウレチン <ヨウ素レシチン> (第一薬品産業)	50 μ g/錠 ¥6.1/錠		ヨド不足による甲状腺腫・甲状腺機能低下症, 中心性網膜症・網膜出血・硝子体出血・混濁・網膜中心静脈閉塞症, 小児気管支喘息・喘息様気管支炎	300~600 μ g(10 μ g/Kg)分2~3
■その他				
エレメンミック <配合剤> (味の素)		2mL/管 ¥170/管	高加リ-静脈栄養時の亜鉛・鉄・銅・マンガン・ヨウ素の補給	1管/日点静

1. 栄養剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■半消化態栄養剤				
エネーボ <略> (アボットジャパン)	250mL/缶(300kcal) ¥182.5/缶		経口的食事摂取困難な場合の経腸栄養補給	1000~1667mL/日 経管投与: 62.5~104mL/時間
エンシュア・リキッド <略> (アボットジャパン)	250mL/缶(250kcal) フレーバー: コーヒー ¥135/缶			1500~2250mL/日 経管投与: 100~150mL/時間
エンシュア・H 【用時購入】 <略> (アボットジャパン)	250mL/缶(375kcal) フレーバー: パン・ココア バナナ コーヒー 黒糖 メロン ¥237.5/缶			1000~1500mL/日 経管投与: 50~100mL/時間【Max: 400mL/時間】
ラコールNF <略> (大塚)	200mL/7.5mLパック(200kcal) フレーバー: ミルク コーヒー ¥146/包			1200~2000mL/日を経鼻チューブ、胃瘻又は腸瘻より胃、十二指腸又は空腸に1日12~24時間かけて投与 投与速度75~125mL/hr 経口摂取可能な場合は1日1回又は数回に分けて経口投与することもできる
ラコールNF半固形 <略> (大塚)	300g/7.5mLパック(300kcal) ¥312/包			通常、成人標準量として1日1,200~2,000g(1,200~2,000kcal)を胃瘻より胃内に1日数回に分けて投与する。投与時間は100g当たり2~3分(300g当たり6~9分)とし、1回の最大投与量は600gとする。 また、初めて投与する場合は、投与後によく観察を行い臨床症状に注意しながら増量して数日で標準量に達するようにする。 なお、年齢、体重、症状により投与量、投与時間を適宜増減する。
■成分栄養剤				
エレンタール <略> (味の素)	80g/包 ¥460/包		経口的食事摂取困難な場合の経管栄養補給	1回1包を300mLになるように微温湯に溶かし24時間持続注入、480~640g/日分数回経口
エレンタールP <略> (味の素)	40g/包 ¥255.2/包		新生児・乳幼児の栄養管理	<小児>1歳未満20~30g/kg 1~2歳15~25g/kg 2歳以上3~10g/kgから開始し、投与量を増やし3~10日間で維持量に達する、分数回、24時間持続投与
■肝不全用成分栄養剤				
ヘパネD <略> (味の素)	80g/包 ¥652/包		肝性脳症を伴う慢性肝不全の栄養状態の改善	1回1包を約250mLの温湯に溶かし1日2回食事と共に摂取
■分岐鎖アミノ酸製剤				
リーバクト <略> (味の素)	顆粒(4.15g/包) ¥178.5/包		低アルブミン血症	3包分3

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	会社名	容量 mL	pH	浸透圧比	熱量 kcal/袋	電解質 (mEq/袋)										その他	ブドウ糖g/袋	アミノ酸g/袋	N含量g/袋			
						Na+	K+	Ca ²⁺	Mg ²⁺	Cl-	SO ₄ ²⁻	Ace-	Glu-	Pmg	Zn μ M							
■高カロリー輸液 (Ace- : Acetate-, Glu- : Gluconate-, Lac- : Lactate-)																						
エルネオパNF1号	(大塚)	1500mL/袋 ¥1655/袋	約5.2	約4	840	75	33	6	6	75	6	58	235	45	ビタミン 微量元素	180	30	4.7				
エルネオパNF2号		1500mL/袋 ¥1782/袋	約5.4	約6	1230		41	7.6	7.5		8	72				280	262.5	45	7.05			
フルカリック1号	(千代)	903mL/袋 ¥902/袋	4.5~ 5.5	約4	560	50	30	8.5	10	49	11.9	8.5	250	20	ビタミン	120	20	3.12				
フルカリック2号		1003mL/袋 ¥956/袋	4.8~ 5.8	約5	820											175	30	4.68				
フルカリック3号		1103mL/袋 ¥1081/袋	4.9~ 5.9	約6	1160											250	40	6.24				
ハイカリック1号		700mL/袋 ¥345/袋	3.5~ 4.5	約4	480											150	10	120				
ハイカリック2号		700mL/袋 ¥347/袋		約6	700														175			
ハイカリックRF		500mL/袋 ¥420/袋	4.0~ 5.0	約11	1000											25	3	3	15	3	Lac-: 15	250

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量 mL	pH	浸透 圧比	熱量 kcal/L	電 解 質 (mEq/L)											その他	アミノ酸 濃度 %	N含量 g /L	E/N比	BCAA比 率 %	
					Na+	K+	Ca2+	Mg2+	Cl-	SO4 2-	Ace-	Lac-	Cit-	PnM	ZnμM						
■アミノ酸輸液 (Ace-: Acetate-, Glu-: Gluconate-, Lac-: Lactate-, Cit-: Citrate3-)																					
プロテアミン12 (フレ)	200mL/袋 ¥441/袋	5.7~ 6.7	約5	454	約150				約150									11.36	18.15	0.88	21.3
アミノレバン (大塚)	500mL/袋 ¥702/本	約5.9	約3	319.6	約14				約94									7.99	12.2	1.09	35.5
ネオアミュー (味の素)	200mL/袋 ¥465/袋	6.6~ 7.6	約2	236	約2						約47							5.9	8.1	3.21	42
プレアミンP (扶桑)	200mL/袋 ¥384/袋	6.5~ 7.5	2.3~ 2.8	304	約3						約80							7.6	11.75	1.26	39
ビーフリード (大塚)	500mL/袋 ¥404/袋	約6.7	約3	420	35	10	5	5	35	5	16	20	6	10	5	ブドウ糖: 75g/L チ7シ (VB1): 1.5mg	3	4.7	1.44	30	

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電解質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca ²⁺	Cl ⁻	Lac ⁻	Ace ⁻	その他

■糖質輸液

5%ブドウ糖 (大塚)	20mL/管 ¥65/管	3.5~ 6.5	約1	200							
	50mL/本 ¥123/本										
	100mL/本 ¥123/本										
	250mL/本 ¥174/本										
	500mL/本 ¥174/本										
	10%ブドウ糖 (大塚)				500mL/袋 ¥203/本	約2	400				
20%ブドウ糖 (扶桑)	20mL/管 ¥66/管	約5	800								
50%ブドウ糖 (大塚)	200mL/袋 ¥251/袋	約12	2000								
ブドウ糖注50% シリンジ (テルモ)	20mL/筒 ¥115/管										

■脂肪輸液

イントラリポス 10% (大塚製薬)	250mL/袋 ¥823/袋	6.5~ 8.5	約1	1100							タ [*] 仮 [*] 油:100g/L 卵黄レシチン:12g/L グリセリン:22g/L
--------------------------	-------------------	-------------	----	------	--	--	--	--	--	--	---

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電解質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca ²⁺	Cl ⁻	Lac ⁻	Ace ⁻	その他
■電解質輸液 (Lac ⁻ : Lactate ⁻ 、Ace ⁻ : Acetate ⁻ 、Cit: Citrate ³⁻)											
ヴィーンD (扶桑薬品工業)	500mL/本 ¥193/本	4.0~ 6.5	約2	200	130	4	3	109		28	ブドウ糖:50g/L
生食注シリンジ (大塚)	10mL/筒 ¥95/筒	4.5~ 8.0	約1		154			154			
生理食塩液 (大塚)	20mL/管 ¥61/管	4.5~ 7.0									
	50mL/本 ¥122/本										
	100mL/本 ¥128/本										
生理食塩液キット H (ニプロファーマ)	100mL/本 ¥149/本										
生理食塩液ソフト バック (大塚)	250mL/袋 ¥156/袋										
	500mL/袋 ¥179/袋										
	1000mL/袋 ¥233/袋										
生理食塩液プラボ トル (大塚)	1000mL/本 ¥233/本										
生理食塩液P L (扶桑)	2000mL/袋 ¥408/袋	4.5~ 8.0									
ソルデム1 (テルモ)	200mL/袋 ¥124/袋	4.5~ 7.0		104	90			70	20		ブドウ糖:26g/L
	500mL/袋 ¥157/袋										

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電解質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca ²⁺	Cl ⁻	Lac ⁻	Ace ⁻	その他
ソルデム2 (テルモ)	500mL/袋 ¥160/袋	4.5~ 7.0	約1	58	77.5	30		59	48.5		ブドウ糖:14.5g/L
ソルデム3A (テルモ)	200mL/袋 ¥157/袋 500mL/袋 ¥157/袋	5.0~ 6.5		172	35	20		35	20		
ソルデム3AG (テルモ)	200mL/袋 ¥145/袋 500mL/袋 ¥163/袋		約2	300							
ソラクト(乳酸 リンゲル) (テルモ)	500mL/袋 ¥200/袋	6.0~ 7.5	約0.9		131	4		3	110		28
デノサリン1 (テルモ)	500mL/袋 ¥169/袋	3.5~ 6.0	約1	100	77			77			ブドウ糖:25g/L
ピカーボン (陽進堂)	500mL/袋 ¥206/袋	6.8~ 7.8	0.9~ 1.0		135	4	3	113			Mg ²⁺ :1 HCO ₃ ⁻ :25
フィジオ140 (大塚)	500mL/袋 ¥169/袋	5.9~ 6.2	約1	40	140			115	25		

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電解質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca ²⁺	Cl ⁻	Lac ⁻	Ac ⁻	その他

■ 電解質補正液<注射剤> (Asp⁻: Aspartate⁻、Glu⁻: Gluconate⁻)

カルチコール <グルコン酸カルシウム> (日医工)	5mL/管 ¥60/管	6.0~ 8.2	約0.9				390					Glu ⁻ :390
KCL <塩化カリウム> (テル)	10mEq/キット (10mL) ¥170/キット	5.0~ 6.5	約6			1000						
補正用塩化ナトリウム (大塚)	20mL/管 ¥74/管	5.0~ 7.5	約7		1000			1000				
補正用硫酸マグネシウム (大塚)	20mL/管 ¥93/管	5.5~ 7.5	約2									Mg ²⁺ :1000 SO ₄ ²⁻ :1000
リン酸Na補正液 (大塚)	20mL/管 ¥126/管	6.2~ 6.8	約3		750							P: 10mmol (310mg) /20mL (0.5mmol (15.5mg)/mL)
メイロン (炭酸水素ナトリウム) <炭酸水素ナトリウム> (大塚)	20mL/管 ¥94/管 250mL/袋 ¥226/袋	7.6~ 8.6	約5		833							HCO ₃ ⁻ :833

■ 電解質補正液<経口> <電解質濃度mEq/L (1包を水100mlに溶解した時)>

ソリタ T 顆粒 3号 (味の素)	4g/包 ¥33.3/包			13/包	35	20		30				Mg ²⁺ :3 Po ₄ :5mmol/L Citrate ³⁻ :20
----------------------	-----------------	--	--	------	----	----	--	----	--	--	--	--

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電解質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca2+	Cl-	Lac-	Ace-	その他
■ その他の輸液											
アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液 (大塚製薬)	500mL/袋 ¥1870/袋	約7.3	約1		145	2.8	2.3	129			HC03-: 23.1 ブドウ糖: 0.61g/L
グリセオール (中外)	200mL/袋 ¥237/袋	3.0~ 6.0	約7	637	154			154			濃グリセリン: 100g/L
蒸留水 (注射用水) (大塚)	20mL/管 ¥61/管										
	100mL/本 ¥123/本										
	500mL/本 ¥163/本										
	1000mL/本 ¥216/本										
低分子デキストランL (大塚)	250mL/袋 ¥453/袋	5.0~ 7.5			130		3	109			コロイド浸透圧89.5m mHg 平均分子量4万
ヘスパンダー (フレコスカビジヤパン)	500mL/袋 ¥743/袋	5.0~ 7.0	約1	40	105.6		2.7	92.3	4		ヒドロキシルデンプン (平均分子量7万) 30.0g/袋 コロイド浸透圧18.6m mHg ブドウ糖10g/L
ボルベン (フレコスカビジヤパン)	500mL/袋 ¥942/袋	4.0~ 5.5			154			154			ヒドロキシルデンプン (平均分子量13万) 30.0g/袋
マンニトール 20% (陽進堂)	300mL/本 ¥458/本	4.5~ 7.0	約5								Dマンニトール: 200g/L
ミオテクター冠血管注 (持田製薬)	500mL (A液495mL, B液5mL)/袋 ¥1707/袋	7.6~ 8.0	約1		120	16	2.4	160.4			HC03-: 10.0

2. 輸液・電解質製剤

医薬品名	容量ほか	pH	浸透圧	熱量 kcal/L	電解質 (mEq/L)						
					Na+	K+	Ca ²⁺	Cl ⁻	Lac ⁻	Ace ⁻	その他
■人工透析用剤 (Lac ⁻ : Lactate ⁻ 、Ace ⁻ : Acetate ⁻)											
キンダリー液AF 3号 (扶桑)	A液6L, B液 7.56L ¥2196/本	4.5~ 4.9	0.7~ 0.8					114. 5		8	Mg ²⁺ :1.0 HCO ₃ ⁻ : 25 ブドウ糖:1.5g/L
Dドライ2.5S (日機操)	A剤2670.4 g, B剤661.6 g ¥1328/セット				140	2	2.5	112. 5			Mg ²⁺ :1.0 HCO ₃ ⁻ : 25 ブドウ糖:1.0g/L

1. 止血剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■対血管性止血剤				
アドナ ＜カルバゾクロム＞ (田辺三菱)	30mg/錠 ¥10.2/錠		毛細血管抵抗性の減弱及び透過性亢進による出血(皮膚・粘膜,眼底,腎,子宮,術中・術後の出血)	30~90mg分3
		50mg(10mL)/管 ¥58/管		25~100mg/日静注,点静
■抗プラスミン剤				
トラネキサム酸 ＜トラネキサム酸＞ (陽進堂)	250mg/錠 ¥9.9/錠			750~2000mg分3~4
トランサミン5% ＜トラネキサム酸＞ (第一三共)		250mg(5mL)/管 ¥64/管	線溶亢進が関与すると考えられる出血,薬疹 【その他はDI照会参照】	250~2500mg分1~2筋注,静注,点静
トランサミン10% ＜トラネキサム酸＞ (第一三共)		1000mg(10mL)/管 ¥118/管		
■食道静脈瘤硬化剤				
エトキシスクレロール ＜ポリドカノール＞ (カイゲン)		0.3g/瓶(1%液) ¥17732/瓶	食道静脈瘤の止血・硬化退縮	1穿刺あたり10~30mgを注入 【Max:300mg】
オルダミン ＜オレイン酸モノエタノールアミン＞ (あすか)		1g/瓶 ¥18078/瓶		静脈瘤1条あたり1~5mLを注入 【Max:20mL】

1. 止血剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■凝固因子製剤				
ケイセントラ ＜乾燥濃縮人プロトロンビン複合体＞ (CSLベーリング)		1000国際単位(40mL溶解液付)/瓶 ¥65225/瓶	【特定生物由来製品のため患者さんへの説明および同意書が必要です】 ビタミンK拮抗薬投与中の患者における急性重篤出血時、又は重大な出血が予想される緊急を要する手術・処置の施行時の出血傾向の抑制	①PT-INR2～<4 25IU/kg(BW100kg以下) 2500IU(BW100kg以上) ②PT-INR4～6 35IU/kg(BW100kg以下) 3500IU(BW100kg以上) ③PT-INR>6 50IU/kg(BW100kg以下) 5000IU(BW100kg以上)
トロンビン ＜トロンビン＞ (持田)		液(5000単位/PB) ¥961/キット	毛細管出血	希釈して噴霧、散布、経口投与 【注射厳禁】
経口用トロンビン ＜トロンビン＞ (持田)	細粒(5000単位/包) ¥862.2/包		上部消化管出血	200～400単位/mL経口投与
フィプロガミンP ＜乾燥濃縮人血液凝固第13因子＞ (CSLベーリング)		瓶 【用時購入】 ¥8173/瓶	【特定生物由来製品のため患者さんへの説明および同意書が必要です】 ①先天性及び後天性血液凝固第XIII因子欠乏による出血傾向 ②縫合不全及びろう孔 ③シェンライン・ヘンツ紫斑病	①4～20mL/日静注 ②12～24mL/日静注 【急性炎症、急性感染の消退後、血清総蛋白、血清アルブミン等に異常がなく、縫合不全、ろう孔が存続し血液凝固第13因子が70%以下に低下している患者に使用。5日間投与しても改善が認められない場合は中止】 ③＜小児＞12～24mL分1静注 【血液凝固第13因子が90%以下に低下している患児に使用。原則的に3日間投与】
■その他の製剤				
プロタミン ＜プロタミン＞ (持田)		10mL/瓶 ¥671/瓶	ヘパリンの中和	ヘパリン1000単位に対して1～1.5mLを投与
■外用止血剤				
サージセル ＜酸化セルロース＞ (ジ・ジョン・イント・ジョン)		綿型(2.5cm×5.1cm) ¥1720.9/枚	各種手術時の補助的な止血	出血部位に適当量をあてるか充填、止血の達成後余剰分は可能な限り取り除く
		ニューネット(2.5cm×8.9cm) ¥1928.4/枚		
		ニューネット(15.2cm×22.9cm) ¥2885.7/枚		

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヘパリン製剤				
クレキサソ <エノキサパリンナトリウム> (科研)		2000単位/筒 (0.2mL) ¥1013/筒	股関節全置換術, 膝関節全置換術, 股関節骨折手術下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制 静脈血栓塞栓症の発症リスクの高い, 腹部手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制	2000IU/回, 皮下
ダルテパリン <ダルテパリン> (ニフコ)		5000単位/シリンジ [*] (5mL) ¥689/シリンジ [*]	① 灌流血液の凝固防止 ② DIC	① 【DI照会参照】 ② 75単位/kg/日, 24時間持続静注
ヘパリンNa <ヘパリンナトリウム> (持田)		5000単位/瓶 (5mL) ¥177/瓶	① DIC, 血栓塞栓の治療及び予防 ② 輸血時の血液凝固防止 ③ 血液検査時の血液凝固防止	① APTTが正常の2~3倍になるように調節 皮下, 筋注, 静注, 点静 <小児>100単位/kg/回1日4回静注 ② 血液100mLに対して400~500単位 ③ 血液20mLに対して100単位
フラグミン <ダルテパリン> (キッセイ)		5000単位/瓶 (5mL) ¥1004/瓶	① 灌流血液の凝固防止 ② DIC	① 【DI照会参照】 ② 75単位/kg/日, 24時間持続静注
ヘパフラッシュ <ヘパリンナトリウム> (テルモ)		100単位/mLシリンジ [*] (10mL) ¥126/シリンジ [*]	静脈内留置ルートの血液凝固防止	静脈内留置ルートを充填するのに十分な量
ヘパリンナトリウム <ヘパリンナトリウム> (陽進堂)		5000単位/管 (5mL) ¥145/管	① DIC, 血栓塞栓の治療及び予防 ② 輸血時の血液凝固防止 ③ 血液検査時の血液凝固防止	① APTTが正常の2~3倍になるように調節 皮下, 筋注, 静注, 点静 <小児>100単位/kg/回1日4回静注 ② 血液100mLに対して400~500単位 ③ 血液20mLに対して100単位
ヘパリンカルシウム <ヘパリンカルシウム> (持田)		5000単位/筒 (0.2mL) ¥336/筒	① DIC ② 血栓塞栓の治療及び予防	① 初回15000~20000単位, 以後10000~15000単位/回, 1日2回皮下 ② 5000単位/回1日2回, 7~10日間皮下
ヘパリンカルシウム <ヘパリンカルシウム> (沢井)		20000単位/瓶 (0.8mL) ¥599/瓶		① 5000~10000単位/回, 1日2回皮下 ② 5000単位/回1日2回, 7~10日間皮下
ヘパリンNa透析用 <ヘパリンナトリウム> (ニフコ)		5000単位(20mL)/シリンジ [*] ¥181/シリンジ [*]	血液透析の体外循環装置使用時の血液凝固の防止	全身ヘパリン化法: 透析開始に先だって, 1000~3000単位を投与, 透析開始後は, 1時間当り500~1500単位を持続的に, 又は1時間毎に間歇的に追加。 局所ヘパリン化法: 1時間当り1500~2500単位持続注入し, 体外灌流時に硫酸プロタミンで中和。

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■Xa阻害剤				
イグザレルト <リバーロキサバン> (パイル)	10mg/錠 ¥368.5/錠		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ②深部静脈血栓症及び肺血栓症の治療及び再発抑制	①15mg分1 ②発症後の初期3週間:30mg分2,その後15mg分1
	15mg/錠 ¥524.3/錠			
エリキュース <アピキサバン> (ファイザー)	2.5mg/錠 ¥140.8/錠		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ②静脈血栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓症)の治療及び再発抑制	①10mg分2 腎障害時:腎機能に応じて5mg分2 ②20mg分2 7日間投与後10mg分2
	5mg/錠 ¥257.2/錠			
リクシアナOD <エドキサバン> (第一三共)	15mg/錠 ¥294.2/錠		①非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 ②静脈血栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓症)の治療及び再発抑制 ③膝関節全置換術,股関節全置換術,股関節骨折手術施行患者における静脈血栓症の発症抑制	①②体重60kg以下:1日1回30mg 体重60kg以上:1日1回60mg(腎機能,併用薬に応じて1日1回30mg) ③1日1回30mg(腎機能に応じて1日1回15mg)
	30mg/錠 ¥538.4/錠			
	60mg/錠 ¥545.6/錠			
■経口抗凝固剤				
ワーファリン <ワルファリン> (エーザイ)	顆粒(2mg/g) ¥8.3/g		血栓症の治療及び予防	<成人>1~5mg/日,分1 <小児>12ヵ月未満:0.16mg/kg/日 1歳以上15歳未満:0.04~0.1mg/kg/日 PT(1.5~2.0),TT(10~25)でコントロール(疾患により異なる)
	1mg/錠 ¥9.6/錠			
■直接トロンピン阻害剤				
プラザキサ <ダビガトラン> (日本ペーリカール)	75mg/C ¥136.4/C		非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制	220mg~300mg分2
	110mg/C ¥239.3/C			

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■血液凝固阻止剤				
アコアラン（遺伝子組み換え） ＜アンチトロンビンⅢ＞ （日本血液製剤機構）		600単位/瓶（溶解液12mL付） ¥32558/瓶	①先天性アンチトロンビン欠乏に基づく血栓形成傾向 ②アンチトロンビン低下を伴う播種性血管内凝固症候群（DIC）	①24～72国際単位/kg/日，静注，点静 ②36国際単位/kg/日，静注，点静 【Max:72国際単位/kg/日】
		1800単位/瓶（溶解液36mL付） ¥84035/瓶		
献血ノンスロン（ヒト由来） ＜アンチトロンビンⅢ＞ （日本製薬）		500単位/瓶（溶解液10mL付） ¥23083/瓶	①先天性アンチトロンビンⅢ欠乏に基づく血栓形成傾向 ②アンチトロンビンⅢ低下を伴う汎発性血管内凝固症候群（DIC） ③アンチトロンビンⅢ低下を伴う門脈血栓症	①1000～3000単位（20～60単位/kg）/日，静注，点静 ②1500単位（30単位/kg）/日静注，点静【 α_2 リンと併用】 原則3（～5）日間 ③1500単位（30単位/kg）/日静注，点静（5日間） 本剤投与により血栓縮小傾向認められた場合1500単位（30単位/kg）/日，5日間追加投与（最大2回まで）
		1500単位/瓶（溶解液30mL付） ¥59753/瓶		
リコモジュリン ＜トロンボモデュリンアルファ＞ （旭化成ファーマ）		12800単位/瓶 ¥39379/瓶	汎発性血管内血液凝固症（DIC）	380U/kg分1，点静

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■血小板凝集抑制剤				
イコサペント酸エチル 粒状カプセル <イコサペント酸エチル> (沢井製薬)	900mg/包 ¥39.7/包		①閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛及び冷感の改善 ②高脂血症	①1回600mg1日3回 ②1回900mg1日2回または1回600mg1日3回 【Max:1回900mg1日3回】
エフィエント <プラスグレル> (第一三共)	3.75mg/錠 ¥276.1/錠 20mg/錠 ¥1128.8/錠		経皮的冠動脈形成術が適用される急性冠症候群(不安定狭心症, 非ST上昇心筋梗塞, ST上昇心筋梗塞), 安定狭心症, 陳旧性心筋梗塞	投与開始日1回20mg, 以後1日1回3.75mg
クロピドグレル <クロピドグレル> (日医工)	25mg/錠 ¥29/錠 75mg/錠 ¥70.2/錠		①虚血性脳血管障害(心原性脳塞栓症を除く)後の再発抑制 ②経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される急性冠症候群(不安定狭心症, 非ST上昇心筋梗塞, ST上昇心筋梗塞), 安定狭心症, 陳旧性心筋梗塞 ③末梢動脈疾患における血栓・塞栓形成の抑制	①1日1回75mg ②投与開始日1回300mg, 以後1日1回75mg ③1日1回75mg
サルボグレラート <サルボグレラート> (サンド)	100mg/錠 ¥46.9/錠		慢性動脈閉塞症	300mg分3
シロスタゾールOD <シロスタゾール> (沢井製薬)	100mg/錠 ¥23.5/錠		慢性動脈閉塞症に基づく潰瘍、疼痛及び冷感等の虚血性諸症状の改善 脳梗塞(心原性脳塞栓症を除く)発症後の再発抑制	200mg分2
ノバスタンHI <アルガトロバン> (田辺三菱)		10mg(2mL)/管 ¥2228/管	①慢性動脈閉塞症 ②脳血栓症急性期(発症後48時間以内, ラク除く) ③先天性ATⅢ欠乏患者, ATⅢ低下患者, ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)Ⅱ患者における血液体外循環時の灌流血液の凝固防止(血液透析) ④ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)Ⅱにおける経皮的冠介入セッション施行時の血液の凝固防止 ⑤ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)Ⅱにおける血栓症の発症抑制	①20mg分2点静2~3hr ②2日間60mg24時間持続点適, その後の5日間20mg分2点静3hr ③開始時回路に10mg, 開始後25mg/hrより投与し, 5~40mg/hrを目安 ④0.1mg/kg, 3~5分で静注, 術後4時間まで6μg/kg/min持続静注, 以後継続が必要な場合0.7μg/kg/min持続静注 ⑤0.7μg/kg/minより点静開始し, 持続点静

2. 血液凝固阻止剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
バイアスピリン <アスピリン> (パ・イロ)	100mg/腸溶錠 ¥5.6/錠		①狭心症(慢性安定狭心症, 不安定狭心症), 心筋梗塞, 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作(TIA), 脳梗塞)における血栓・塞栓形成の抑制, 冠動脈バイパス術(CAGB), 経皮経管冠動脈形成術(PTCA)施行後における血栓・塞栓の抑制 ②川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む)	①1錠分1 【Max:300mg】 ②<急性期有熱期間> 30~50mg/kg/日, 分3 <解熱後の回復期から慢性期> 3~5mg/kg/日, 分1
パナルジン <チクロピジン> (サノイ)	100mg/錠 ¥23.6/錠		①手術後血栓・塞栓の治療 ②慢性動脈閉塞症 ③虚血性脳血管障害 ④くも膜下出血術後の脳血管攣縮	①③200~300mg分2~3 ②300~600mg分2~3 (200mg分1も可) ④300mg分3
バファリン81mg <アスピリン(81mg)・ダイアルミネート> (エ・ザイ)	錠 ¥5.6/錠		①狭心症(慢性安定狭心症, 不安定狭心症), 心筋梗塞における血栓・塞栓の抑制 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作(TIA), 脳梗塞)冠動脈バイパス術(CAGB), 経皮経管冠動脈形成術(PTCA)施行後における血栓・塞栓形成の抑制 ②川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む)	①1錠分1 【Max:4錠】 ②<急性期>30~50mg/kg分3 <回復期~慢性期>3~5mg/kg分1
ベラサスLA <ベラプロスト> (科研)	60 μ g/錠 【院外のみ】 ¥241.5/錠		肺動脈性肺高血圧症	120 μ g分2から開始し, 漸次増量 【Max:360 μ g/日】
ベラプロストNa <ベラプロスト> (東和薬品)	20 μ g/錠 ¥19/錠		①慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍, 疼痛及び冷感の改善 ②原発性肺高血圧症	①120 μ g分3 ②60~180 μ g分3~4
リマプロストアルファ デクス <リマプロストアルファデクス> (日医工)	5 μ g/錠 ¥20.6/錠		①閉塞性血栓血管炎 ②腰部脊柱管狭窄症	①30 μ g分3 ②15 μ g分3

3. その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■エリスロポエチン製剤				
エスポー ＜エポエチンアルファ＞ (協和発酵キリン)		750単位(0.5mL)/筒 ¥574/筒	未熟児貧血	【投与対象：Hb12g/dL未満を目安】 1回200単位/kg, 週2回皮下
エスポー皮下用 ＜エポエチンアルファ＞ (協和発酵キリン)		24000単位(0.5mL)/シリンジ ¥19072/シリンジ	①腎性貧血 ②自己血貯血	①【DI照会参照】 ②【Hb13g/dl未満の場合は初回採血1週間前から、13～14g/dlの場合は初回採血後より皮下】 【初回採血は、800mL貯血の場合は手術2週間前、1200mL貯血の場合は手術3週間前を目安とする】 24000単位/回, 週1回
■ダルベポエチン製剤				
ネスプ ＜ダルベポエチンアルファ＞ (協和発酵キリン)		10 μ g(1mL)/シリンジ ¥2307/シリンジ	①腎性貧血 ②骨髄異形性症候群に伴う貧血	①＜血液透析患者＞ 【初回用量】下記を週1回静注 20 μ g/回 EPO製剤からの切替え時：15～60 μ g/回 ＜小児＞0.33 μ g/kg/回 【維持用量】下記を週1回静注 15～60 μ g/回 ＜小児＞5～60 μ g/回 【維持用量(貧血改善後の維持期)】 その時点での1回投与量の2倍量を開始用量として、30～120 μ g/回(小児：10～120 μ g), 2週に1回静注も可【Max:180 μ g/回】 ＜腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者＞ 【初回用量】下記を2週に1回皮下又は静注 30 μ g/回 EPO製剤からの切替え時：30～120 μ g/回 ＜小児＞0.5 μ g/kg(Max:30 μ g)/回 EPO製剤からの切替え時：10～60 μ g/回 【維持用量】下記を2週に1回皮下又は静注 30～120 μ g/回 ＜小児＞5～120 μ g/回 【維持用量(貧血改善後の維持期)】 その時点での1回投与量の2倍量を開始用量として、60～180 μ g(小児：10～180 μ g)/回, 4週に1回皮下注または静注も可【Max:180 μ g/回】 ②240 μ g/回, 週1回皮下注
		20 μ g(1mL)/シリンジ ¥4162/シリンジ		
		30 μ g(1mL)/シリンジ ¥6015/シリンジ		
		40 μ g(1mL)/シリンジ ¥7393/シリンジ		
		60 μ g(0.6mL)/シリンジ ¥10624/シリンジ		
		120 μ g(0.6mL)/シリンジ ¥18744/シリンジ		
		180 μ g(0.9mL)/シリンジ ¥26270/シリンジ		

3. その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■G-C-S-F製剤				
グラン <フィルグラステム> (協和発酵社)		75 μ g(0.3mL)/シリンジ ¥7536/シリンジ	①造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進 ②HIV感染症の治療に支障を来す好中球減少症 ③骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症 ④再生不良性貧血に伴う好中球減少症 ⑤先天性・特発性好中球減少症 ⑥急性白血病【癌化学療法による好中球減少症】 ⑦悪性リンパ腫・小細胞肺癌、胚細胞腫瘍(睾丸腫瘍、卵巣腫瘍等)・神経芽細胞腫、小児がん【癌化学療法による好中球減少症】 ⑧その他のがん腫【癌化学療法による好中球減少症】 ⑨同種及び自家末梢血幹細胞採取時のフィルグラステム単独投与による動員【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑩自家末梢血幹細胞採取時の癌化学療法剤投与終了後のフィルグラステム投与による動員【造血幹細胞の末梢血中への動員】	①300 μ g/m ² ,分1点静<小児>同量 投与開始:造血幹細胞移植施行翌日ないし5日後から 投与中止:好中球数5000/ μ l以上 ②200 μ g/m ² ,分1点静<小児>同量 投与開始:好中球数1000/ μ l未満の時 投与中止:投与期間は2週間を目安とするが、好中球数3000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ③100 μ g/m ² ,分1点静 投与開始:好中球数1000/ μ l未満の時 投与中止:好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ④400 μ g/m ² ,分1点静<小児>同量 投与開始:好中球数1000/ μ l未満の時 投与中止:好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑤50 μ g/m ² ,分1皮下<小児>同量 投与開始:好中球数1000/ μ l未満の時 投与中止:好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑥200 μ g/m ² ,分1点静,100 μ g/m ² ,分1皮下<小児>同量 投与開始:化学療法剤投与終了後(翌日以降)で、末梢血中に骨髓芽球が認められない時 投与中止:好中球数5000/ μ l以上 ⑦50 μ g/m ² ,分1皮下 100 μ g/m ² ,分1点静<小児>同量 投与開始:化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止:好中球数5000/ μ l以上 ⑧50 μ g/m ² ,分1皮下 100 μ g/m ² ,分1点静<小児>同量 投与開始:好中球数1000/ μ l未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満の時また好中球数1000/ μ l未満で発熱(原則38℃以上)あるいは好中球数500未満が観察され、引き続き同一の化学療法を施行する時は次回以降は好中球数1000/ μ l未満 投与中止:好中球数5000/ μ l以上 ⑨400 μ g/m ² ,分1又は分2,5日間連日又は末梢血幹細胞採取終了時まで連日皮下 投与開始:好中球数1500/ μ l(白血球数3000/ μ l)未満 投与中止:好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑩400 μ g/m ² ,分1又は分2 末梢血幹細胞採取終了時まで連日皮下 投与開始:好中球数1000/ μ l(白血球数2000/ μ l)未満 <小児>好中球数500/ μ l(白血球数1000/ μ l)未満 投与中止:好中球数5000/ μ l以上 【詳しくはD I照会参照】
		150 μ g(0.6mL)/シリンジ ¥15091/シリンジ		
グランM <フィルグラステム> (協和発酵社)		300 μ g(0.7mL)/管 ¥19168/管		
ジーラスタ <ベグフィルグラステム> (協和発酵社)		3.6mg(0.36mL)/シリンジ ¥106660/筒	がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制	がん化学療法剤投与終了後の翌日以降に化学療法1サイクルあたり1回3.6mg皮下注

3. その他の血液用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ノイトロジン <レノグラステム> (中外)		250 μ g/瓶 【用時購入】 ¥18197/瓶	①造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進 ②HIV感染症の治療に支障を来す好中球減少症 ③骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症 ④再生不良性貧血に伴う好中球減少症 ⑤先天性・特発性好中球減少症 ⑥免疫抑制療法(腎移植)に伴う好中球減少症 ⑦急性骨髄性白血病, 急性リンパ性白血病【癌化学療法による好中球減少症】 ⑧悪性リンパ種・小細胞肺癌, 胚細胞腫瘍(睾丸腫瘍, 卵巣腫瘍等)・神経芽細胞腫, 小児がん【癌化学療法による好中球減少症】 ⑨その他のがん腫【癌化学療法による好中球減少症】 ⑩免疫抑制療法(腎移植)に伴う好中球減少症【癌化学療法による好中球減少症】 ⑪癌化学療法終了後に末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑫自家末梢血幹細胞移植を目的として本剤単独で末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】 ⑬末梢血幹細胞移植トナに対して本剤単独で末梢血幹細胞を動員する場合【造血幹細胞の末梢血中への動員】	①5 μ g/kg, 分1点静<小児>同 投与開始: 造血幹細胞移植施行翌日ないし5日後から 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ②5 μ g/kg, 分1点静<小児>同 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 投与期間は2週間を目安とするが, 好中球数3000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ③5 μ g/kg, 分1静注 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ④5 μ g/kg, 分1静注 <小児>5 μ g/kg, 分1静注, 皮下 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑤2 μ g/kg, 分1静注・皮下<小児>同 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑥2 μ g/kg, 分1皮下<小児>同 投与開始: 好中球数1500/ μ l(白血球数3000/ μ l)未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上になれば減量あるいは投与中止 ⑦5 μ g/kg, 分1点静, 2 μ g/kg分1皮下<小児>同 投与開始: 化学療法剤投与終了後(翌日以降)で, 末梢血中に骨髄芽球が認められない時 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑧2 μ g/kg, 分1皮下5 μ g/kg, 分1点静<小児>同 投与開始: 化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑨2 μ g/kg, 分1皮下, 5 μ g/kg, 分1点静<小児>同 投与開始: 好中球数1000/ μ l未満で発熱(原則38°C以上)あるいは好中球数500未満の時, また好中球数1000/ μ l未満で発熱(原則38°C以上)あるいは好中球数500未満が観察され, 引き続き同一の化学療法を施行する時は次回以降は好中球数1000/ μ l未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑩2 μ g/kg, 分1皮下 投与開始: 好中球数1500/ μ l(白血球数3000/ μ l)未満 投与中止: 好中球数5000/ μ l以上 ⑪5 μ g/kg, 分1~2, アフェレス終了時まで皮下 【Max: 10 μ g/kg/日】<小児>同 投与開始: 化学療法剤投与終了後(翌日以降) 投与中止: アフェレス終了前に白血球数が50000/ μ l以上に増加した場合は減量し, 減量後, 白血球数が75000/ μ lに達した場合は中止 ⑫10 μ g/kg, 分1~2皮下, 4~6日間アフェレス終了時まで<小児>同 投与中止: アフェレス終了前に白血球数が50000/ μ l以上に増加した場合は減量し, 減量後, 白血球数が75000/ μ lに達した場合は中止 ⑬10 μ g/kg, 分1~2皮下, 4~6日間アフェレス終了時まで 投与中止: アフェレス終了前に白血球数が50000/ μ l以上に増加した場合は減量し, 減量後, 白血球数が75000/ μ lに達した場合は中止 【詳しくはD I 照会参照】
■その他				
セファランチン <セファランチン> (化研生薬)	1mg/錠 【院外のみ】 ¥7.9/錠		①放射線による白血球減少症 ②脱毛症	①3~6mg分2~3 ②1.5~2mg分2~3

1. 解毒剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■出血性膀胱炎防止薬				
ウロミテキサン 〈メスナ〉 (オノキ)		100mg(1mL)/管 ¥375/管 400mg(4mL)/管 ¥882/管	①イブサミド 投与又は ②シメチジン (造血 幹細胞移植の前治 療) 投与に伴う泌尿 器系障害(出血性膀 胱炎, 排尿障害等)の 発現抑制	①1回量300~600mg(イブサミド 1日量の20% 相当量)を1日3回(イブサミド 投与時, 4時間 後, 8時間後)静注, 【Max:イブサミド 1日量 の最大100%相当量】 ②シメチジン 1日量の40%相当量を1回量 とし, 1日3回(シメチジン 投与時, 4時間 後, 8時間後)30分かけて点静
■その他				
球形吸着炭細粒「マイ ラン」 〈球形吸着炭〉 (扶桑薬品)	2g/包 ¥116/包		慢性腎不全(進行性) における尿毒症症状 の改善及び透析導入 の遅延	6g分3
デスフェラール 〈デフェロキサミン〉 (ハルシス)		500mg/瓶 ¥1465/瓶	原発性・続発性ヘモ トシス	1000mg分1~2
デトキソール 〈チオ硫酸ナトリウム 〉 (日医工)		2g(20mL)/管 ¥443/管	①アミン化合物に よる中毒 ②ヒ素剤による中毒	①12.5~25g/回静注 ②1~2g静注
ノベルジン 〈酢酸亜鉛水和物〉 (ノベルファーマ)	50mg/錠 ¥422.3/錠		①ケルシン病(肝臓・核 変性症) ②低亜鉛血症	①150mg分3【Max:250mg】 〈小児〉(6歳以上)75mg分3, (1歳以上6歳未満)5 0mg分2 食前1時間以上又は食後2時間以上あけて投与 ②〈成人及び体重30kg以上の小児〉50~100mg分 2【Max:150mg(1回50mg1日3回)】 〈体重30kg未満の小児〉25mg分1【Max:75mg(1 回25mg1日3回)】 食後に投与
パム 〈プラリドキシムヨウ 化メチル〉 (大日本住友)		500mg(20mL)/管 ¥930/管	有機リン剤の中毒	1g/回静注
バル 〈ジメルカプロール〉 (第一三共)		100mg(1mL)/管 ¥1615/管	ヒ素・水銀・鉛・銅・金・ ビスマス・クロム・アンチモン の中毒	第1日目10mg/kg分4 第2日目以降6日間2.5mg/kg分1 〈重症緊急中毒症状〉 最初2日間15mg/kg分6 3日目10mg/kg分4 以降10日間あるいは回復する迄毎日5mg/kg分 2
薬用炭 〈薬用炭〉 (日医工)	末 ¥8.3/g		自家中毒・薬物中毒 時の吸着・解毒	2~20g分服

2. 痛風治療薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アロプリノール <アロプリノール> (沢井製薬)	100mg/錠 ¥7.7/錠		痛風, 高尿酸血症	200~300mg分2~3
フェブリク <フェブキソスタット> (帝人)	10mg/錠 ¥31.7/錠		①痛風, 高尿酸血症 ②がん化学療法に伴う高尿酸血症	①10mg分1より開始, 維持量40mg分1【Max:60mg】 ②1日1回60mg, 化学療法開始1~2日前から5日目まで, 適宜延長可
	20mg/錠 ¥57.7/錠			
	40mg/錠 ¥108.7/錠			
ユリノーム <ベンズプロマロン> (鳥居)	50mg/錠 ¥19.3/錠		①痛風 ②高尿酸血症	①25~50mg分1 以後維持量50~150mg分1~3 ②50~150mg分1~3

3. 糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インスリン製剤 ◆超速効性				
アピドラ注ソロスター ＜インスリングルリジン＞ (サノフィ)		100単位/mL【3mL】 ¥2173/キット	糖尿病	【DI照会参照】
ノボラピッド注フレックスタッチ ＜インスリンアスパルト＞ (ノボルディック)		100単位/mL【3mL】 ¥1952/キット		
ノボラピッド注イノレット ＜インスリンアスパルト＞ (ノボルディック)		100単位/mL【3mL】 ¥1882/キット		
ヒューマログ注ミリオペン ＜インスリンリスプロ＞ (日本イライリ-)		100単位/mL【3mL】 ¥1470/キット		
■インスリン製剤 ◆速効性				
ノボリンRフレックスペン ＜ヒトインスリン＞ (ノボルディック)		100単位/mL【3mL】 ¥1855/キット	糖尿病	【DI照会参照】
ヒューマリンR ＜ヒトインスリン＞ (日本イライリ-)		100単位/mL【10mL】 ¥2910/瓶		
■インスリン製剤 ◆中間型NPH製剤				
ノボリンNフレックスペン ＜ヒトインスリン＞ (ノボルディック)		100単位/mL【3mL】 ¥1902/キット	糖尿病	【DI照会参照】
■インスリン製剤 ◆二相性製剤				
ノボラピット30ミックス注フレックスペン ＜インスリンアスパルト＞ (ノボルディック)		100単位/mL【3mL】 ¥1948/キット	糖尿病	【DI照会参照】

3. 糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■インスリン製剤 ◆混合型				
ヒューマログミックス 25注ミリオペン <インスリンリスプロ > (日本イライリ-)		100単位/mL【3mL】 ¥1494/キット	糖尿病	【DI照会参照】
ヒューマログミックス 50注ミリオペン <インスリンリスプロ > (日本イライリ-)		100単位/mL【3mL】 ¥1480/キット		
■インスリン製剤 ◆持効型製剤				
インスリン グラルギン BS <インスリングラルギン > (日本イライリ-)		100単位/mL【3mL】 ¥915/キット	インスリン療法が適応となる糖尿病	【DI照会参照】
トレシーバフレックス タッチ <インスリンデグルデク > (ノボ ルディック)		100単位/mL【3mL】 ¥2502/キット	インスリン療法が適応となる糖尿病	
ランタスXR注ソロスタ <インスリングラルギン > (サノイ)		300単位/mL【1.5mL】 ¥2933/キット		
レベミル注300フレックス ペン <インスリンデテミル > (ノボ ルディック)		100単位/mL【3mL】 ¥2493/キット		
レベミル注イノレット <インスリンデテミル > (ノボ ルディック)		100単位/mL【3mL】 ¥2319/キット		
■SU剤				
グリミクロン <グリクラジド> (大日本住友)	40mg/錠 ¥14.5/錠		インスリン非依存型糖尿病	40～120mg分1～2, 食前または食後 【Max:160mg/日】
グリメピリドOD <グリメピリド> (日医工)	0.5mg/錠 ¥9.6/錠		2型糖尿病	1～4mg分1～2朝または朝夕, 食前または食後 【Max:6mg】
	1mg/錠 ¥9.9/錠			

3. 糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ ビグアナイド剤				
メトホルミン塩酸塩 <メトホルミン> (第一三共)	250mg/錠 ¥9.9/錠 500mg/錠 ¥9.9/錠		2型糖尿病	1日500mgより開始 750~1500mg分2~3【Max:2250mg】 10歳以上の小児:1日500mgより開始 500~1500mg分2~3【Max:2000mg】
■ インスリン抵抗性改善剤				
アクトス <ピオグリタゾン> (武田)	15mg/錠 ¥62.8/錠		2型糖尿病	30mg分1朝食前または食後 【Max:45mg】
■ αグルコシダーゼ阻害剤				
セイブル <ミグリトール> (三和化学)	50mg/錠 ¥37.7/錠		糖尿病の食後過血糖 の改善	150mg分3食直前 【Max:225mg】
ボグリボースOD <ボグリボース> (東和薬品)	0.3mg/錠 ¥17/錠			0.6mg分3食直前 【Max:0.9mg】
■ 速効型食後血糖降下剤				
ファスティック <ナテグリニド> (持田製薬)	30mg/錠 ¥16.2/錠 90mg/錠 ¥40.9/錠		2型糖尿病の食後血 糖推移の改善	270mg分3食直前 【Max:360mg】
■ アルドース還元酵素阻害剤				
キネダック <エパルレスタット> (小野薬品)	50mg/錠 ¥87.3/錠		糖尿病性末梢神経障 害 【HbA1c:7.5%以上 の時】	150mg分3食前
■ DPP-4阻害剤				
エクア <ビルダグリプチン> (ハルシスファーマ)	50mg/錠 ¥75.3/錠		2型糖尿病	50mg~100mg分1~2
ジャヌビア <シタグリプチン> (MSD)	25mg/錠 ¥69.9/錠 50mg/錠 ¥129.5/錠			50~100mg分1
テネリア <テネリグリプチン> (第一三共)	20mg/錠 ¥154.6/錠			20~40mg分1

3. 糖尿病用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■GLP-1受容体作動薬				
トルリシテイ <デュラグルチド> (大日本住友)		0.75mg(0.5mL)/ キット ¥3462/キット	2型糖尿病	週1回0.75mg皮下注
ビクトーザ <リラグルチド> (ホ・ルデ・イシ)		18mg(3mL)/キット ¥10245/キット		1日1回0.3mgより開始 1週間以上の間隔で0.3mgずつ増量 維持量1日1回0.9mg皮下注,朝又は夕 【MAX:0.9mg】
■選択的SGLT2阻害剤				
フォシーガ <ダパグリフロジン> (小野薬品)	5mg/錠 ¥198.5/錠		2型糖尿病	5mg分1【Max:10mg】

4. その他の代謝性医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫抑制剤				
アザニン 〈アザチオプリン〉 (田辺三菱)	50mg/錠 ¥129.4/錠		①腎移植における拒否反応の抑制 ②肝・心及び肺移植における拒絶反応の抑制 ③ステロイド依存性の加齢病及び緩解維持並びにステロイド依存症の潰瘍性大腸炎の緩解維持 ④治療抵抗性の下記リウマチ性疾患 全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎, ウェゲナ肉芽腫症, 結節性多発動脈炎, Churg-Strauss症候群, 大動脈炎症候群等), 全身性エリマトデス(SLE), 多発性筋炎, 皮膚筋炎, 強皮症, 混合性結合組織病, 及び難治性リウマチ性疾患	①初期量2~3mg/kg/日, 維持量0.5~1mg/kg/日 ②初期量2~3mg/kg/日, 維持量1~2mg/kg/日 ③50~100mg 〈小児〉1~2mg/kg ④1~2mg/kg/日【Max:3mg/kg/日】
ジレニア 〈フィンゴリモド〉 (ハルティスファーマ)	0.5mg/C ¥8148.7/C		多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制	1日1回0.5mg
ネオオラル 〈シクロスポリン〉 (ハルティス)	25mg/C ¥203.2/C		①腎移植における拒否反応の抑制 ②肝移植における拒否反応の抑制 ③心移植・肺移植・膵移植における拒否反応の抑制 ④小腸移植における拒否反応の抑制 ⑤骨髄移植における拒否反応及び移植片対宿主病の抑制 ⑥アークェット病(眼症状)及びその他の非感染性ぶどう膜炎 ⑦尋常性乾癬, 膿疱性乾癬, 乾癬性紅皮症, 関節症性乾癬 ⑧再生不良性貧血, 赤芽球癆 ⑨初ロゼ症候群(頻回再発型) ⑩初ロゼ症候群(ステロイド抵抗性) ⑪全身型重症筋無力症 ⑫アトピー性皮膚炎	①移植1日前から9~12mg/kg/日分1~2, 以降2mg/kg/日ずつ減量, 維持量4~6mg/kg/日 ②移植1日前から14~16mg/kg/日分2, 徐々に減量し, 維持量5~10mg/kg/日 ③移植1日前から10~15mg/kg/日分2, 徐々に減量し, 維持量2~6mg/kg/日 ④移植1日前から14~16mg/kg/日分2を注射剤で開始, 徐々に減量し, 維持量5~10mg/kg/日, 内服可能時は速やかに経口投与へ切り替える ⑤移植1日前から6~12mg/kg/日分1~2, 3~6ヵ月間継続し, 徐々に減量する ⑥5mg/kg/日分2, 以後1ヵ月毎に1~2mg/kg/日減量又は増量 維持量3~5mg/kg/日 ⑦5mg/kg/日分2, 以後1ヵ月毎に1mg/kg/日減量 維持量3mg/kg/日 ⑧6mg/kg/日分2 ⑨1.5mg/kg/日分2 〈小児〉2.5mg/kg/日分2 ⑩3mg/kg/日分2 〈小児〉5mg/kg/日分2 ⑪5mg/kg/日分2, 徐々に減量し, 維持量3mg/kg/日 ⑫3mg/kg/日分2【Max:5mg/kg/日】
ミゾリピン 〈ミゾリピン〉 (ファイザー)	50mg/錠 【院外のみ】 ¥103.7/錠		①腎移植における拒否反応の抑制 ②ループス腎炎 ③関節リウマチ	①初期量2~3mg/kg/日分1~3, 維持量1~3mg/kg/日分1~3 ②150mg分3 ③150~300mg分3

4. その他の代謝性医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■高カルシウム血症用薬 ◆ビスホスホネート製剤				
ゾレドロン酸点滴静注 <ゾレドロン酸水和物> (ニッロ)		4mg(100mL)/袋 ¥10969/袋	①悪性腫瘍による高カルシウム血症 ②多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変	①4mg/回,点静(15分以上かけて) ②4mg/回,点静(15分以上かけて)3~4週間間隔で
パミドロン酸二Na <パミドロン酸二ナトリウム> (富士製薬工業)		15mg/瓶 ¥4394/瓶	①悪性腫瘍による高カルシウム血症 ②乳癌の溶骨性骨転移(化学療法,内分泌療法,あるいは放射線療法と併用) ③骨形成不全症	①30~45mg/回,点静(4時間以上かけて)1週間以上の間隔で ②90mg/回,点静(4時間以上かけて)4週間間隔で ③1日1回点滴静注(4時間以上かけて),3日間連続【Max:1日60mg】 2歳未満:1回0.5mg/kg,投与間隔2ヵ月 2歳以上3歳未満:1回0.75mg/kg,投与間隔3ヵ月 3歳以上:1回1.0mg/kg,投与間隔4ヵ月
■高カルシウム血症用薬 ◆その他				
エルシトニン <エルカトニン> (旭化成)		40単位/管(1mL) ¥595/管	①高カルシウム血症 ②骨ページェット病	①80単位/日分2筋注,点静(1~2hrかけて) ②40単位/日分1筋注
■骨粗鬆症用薬 ◆ビタミンD製剤				
エディロール <エルデカルシトール> (大正富山)	0.75µg/C ¥97.9/C		骨粗鬆症	0.5~0.75µg分1
■骨粗鬆症用薬 ◆ビスホスホネート製剤				
アクトネル <リセドロン酸ナトリウム> (エーザイ)	17.5mg/錠 ¥554.3/錠 75mg/錠 ¥2528.5/錠		①骨粗鬆症 ②骨ページェット病	①17.5mg,週1回朝起床時(水約180mLとともに) ②17.5mg,分1朝起床時 8週間連日投与(水約180mLとともに) 75mg,月1回朝起床時(水約180mLとともに)
ボナロン <アレンドロン酸ナトリウム> (帝人)	35mg/錠 ¥528.3/錠		骨粗鬆症	35mg,週1回朝起床時(水約180mLとともに)
リクラスト <ゾレドロン酸水和物> (旭化成ファーマ)		5mg(100mL)/瓶 ¥38,548/瓶		5mg/回,点静(15分以上かけて)1年に1回
■骨粗鬆症用薬 ◆SERM				
エビスタ <ラロキシフェン> (日本イライリ)	60mg/錠 ¥98.7/錠		閉経後骨粗鬆症	60mg分1
ビビアント <バゼドキシフェン> (ファイザー)	20mg/錠 ¥100.8/錠			20mg分1

4. その他の代謝性医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■骨粗鬆症用薬 ◆その他				
テリボン <テリパラチド酢酸塩 > (旭化成ファーマ)		56.5 μ g/瓶 ¥10823/瓶	骨折の危険性の高い 骨粗鬆症	56.5 μ g, 週1回皮下注(24ヵ月まで)

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
葛根湯 〈カッコントウ〉 ツム51 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥21/包	自然発汗がなく頭痛、発熱、悪寒、肩こり等を伴う比較的体力のあるものの諸症[感冒、鼻かぜ、熱性疾患の初期、炎症性疾患(結膜炎、角膜炎、中耳炎、扁桃炎、乳腺炎、リパ ^o 節炎)、肩こり、上半身の神経痛、蕁麻疹]	辛温解表・舒筋	7.5g分2~3
加味帰脾湯 〈カミキヒトウ〉 ツム5137 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥67.25/包	虚弱体質で血色の悪いものの諸症[貧血、不眠症、精神不安、神経症]	心脾両虚・肝鬱化火	
加味逍遙散 〈カミショウヨウサン〉 ツム524 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥41.25/包	体質虚弱な婦人で肩がこり、疲れやすく、精神不安等の精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの諸症[冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症]	疏肝解鬱・健脾補血・清熱涼血・利水・調経	
桔梗湯 〈キキョウトウ〉 ツム5138 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥14.25/包	咽喉がはれて痛む扁桃炎、扁桃周囲炎	清熱解毒・去痰排膿	
桂枝加竜骨牡蛎湯 〈ケイシカリユウコツボレイトウ〉 ツム526 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥21.25/包	下腹直腹筋に緊張のある比較的体力の衰えているものの諸症「小児夜尿症、神経衰弱、性的神経衰弱、遺精、陰萎」	補陽安神・収斂	
桂枝茯苓丸 〈ケイシブクリョウガン〉 ツム525 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥21.5/包	体格はしっかりして赤ら顔が多く、腹部は大體充実、下腹部に抵抗のあるものの諸症[子宮並びにその付属器の炎症、子宮内膜炎、月経不順、月経困難、帯下、更年期障害(頭痛、めまい、のぼせ、肩こり等)、冷え症、腹膜炎、打撲症、痔疾患、睾丸炎]	活血化お・消腫・調経	
牛車腎気丸 〈コシャジンキガン〉 ツム5107 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥27.5/包	疲れやすく、四肢が冷えやすく尿量減少または多尿で時に口渴がある次の諸症[下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ]	温補腎陽・温陽利水・活血	
柴胡加竜骨牡蛎湯 〈サイコカリユウコツボレイトウ〉 ツム512 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥52.5/包	比較的体力があり、心悸亢進、不眠、いらだち等の精神症状のあるものの諸症[高血圧症、動脈硬化症、慢性腎臓病、神経衰弱症、神経性心悸亢進症、てんかん、ヒステリー、小児夜啼症、陰萎]	清熱安神・疏肝解鬱・補気健脾	
柴胡桂枝湯 〈サイコケイシトウ〉 ツム510 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥61.75/包	発熱汗出て、悪寒し、身体痛み、頭痛、はきけのあるものの次の諸症[感冒・流感・肺炎・肺結核などの熱性疾患、胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胆のう炎・胆石・肝機能障害・膵臓炎などの心下部緊張疼痛]	和解半表半裏・解表・疏肝解鬱・和胃止痛・清熱	
柴芩湯 〈サイレイトウ〉 ツム5114 (ツム)	エキス顆粒(3.0g/包) ¥138.6/包	吐き気、食欲不振、のどの渇き、排尿が少ないものの諸症[水瀉性下痢、急性胃腸炎、暑気あたり、むくみ]	疏肝解鬱・補気健脾・止嘔・化痰止咳・利水・止瀉	

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
芍薬甘草湯 〈シャクヤクカンソウトウ〉 ツム568 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥17.5/包	急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛, 筋肉・関節痛, 胃痛, 腹痛	解痙止痛	
十全大補湯 〈シュウゼンタイホウトウ〉 ツム548 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥47.5/包	病後の体力低下, 疲労倦怠, 食欲不振, 寝汗, 手足の冷え, 貧血	気血双補	7.5g分2~3
小柴胡湯 〈ショウサイコウトウ〉 ツム59 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥74.75/包	体力中等度で上腹部がはって苦しく, 舌苔を生じ, 口中不中不快, 食欲不振, 時により微熱, 悪心等のあるものの諸症[急性熱性病, 肺炎, 気管支炎, 気管支喘息, 感冒, リンパ節炎, 慢性胃腸障害, 産後回復不全], 慢性肝炎における肝機能障害の改善	疏肝解鬱・補気健脾・止嘔・化痰止咳・清熱(陰虚, 乾燥傾向がある時は使用しない)	
小青竜湯 〈ショウセイリュウトウ〉 ツム519 (ツム)	エキス顆粒(3.0g/包) ¥39.9/包	気管支炎, 気管支喘息, 鼻炎, アレルギー性鼻炎, アレルギー性結膜炎, 感冒における水様の痰, 水様鼻汁, 鼻閉, くしゃみ, 喘鳴, 咳嗽, 流涙	辛温解表・散寒・止咳・平喘	9.0g分2~3
大建中湯 〈タイケンチュウトウ〉 ツム5100 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥22.5/包	腹が冷えて痛み, 腹部膨満感のあるもの	温中散寒・解痙止痛・補気健脾	15g分2~3
当帰芍薬散 〈トウキシャクヤクサン〉 ツム523 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥22.75/包	筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく, 腰脚の冷えやすいものの諸症[貧血, 倦怠感, 更年期障害(頭重, 頭痛, めまい, 肩こり等), 月経不順, 月経困難, 不妊症, 動悸, 慢性腎炎, 妊娠中の諸病(浮腫, 習慣性流産, 痔, 腹痛), 脚気, 半身不随, 心臓弁膜症]	補血活血・健脾利水・調經止痛	7.5g分2~3
麦門冬湯 〈ハクモンドウトウ〉 ツム529 (ツム)	エキス細粒(3.0g/包) ¥51.3/包	痰の切れにくい咳, 気管支炎, 気管支喘息	生津・補気健脾・化痰・止咳	9.0g分2~3
八味地黄丸 〈ハチミジオウガン〉 ツム507 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【院外のみ】 ¥25.25/包	疲労, 倦怠感著しく, 尿利減少または頻数, 口渇し, 手足に交互的に冷感と熱感のあるものの諸症[腎炎, 糖尿病, 陰萎, 坐骨神経痛, 腰痛, 脚気, 膀胱がん, 前立腺肥大, 高血圧]	温補腎陽	
半夏厚朴湯 〈ハンゲコウボクトウ〉 ツム516 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥24/包	気分がふさいで, 咽喉, 食道部に異物感があり, ときに動悸, めまい, 嘔気などを伴う次の諸症[不安神経症, 神経性胃炎, つわり, せき, しわがれ声, 神経性食道狭窄症, 不眠症]	降逆化痰・理気開鬱	7.5g分2~3
半夏瀉心湯 〈ハンゲシャシントウ〉 ツム514 (ツム)	エキス細粒(2.5g/包) ¥57.25/包	みぞおちがつかえ, ときに悪心, 嘔吐があり食欲不振で腹が鳴って軟便または下痢の傾向にあるものの諸症[急・慢性胃腸がん, 醗酵性下痢, 消化不良, 胃下垂, 神経性胃炎, 胃弱, 二日酔, げっぷ, 胸やけ, 口内炎, 神経症]	寒熱併調・化湿・止嘔・健脾・脾胃不和・脾胃湿熱	

漢方製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	適応症	中医学的表現	用法・用量
補中益気湯 〈ホチュウエツキトウ〉 ツム541 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) ¥58.5/包	消化機能が衰え、四肢倦怠感著しい虚弱体質者の諸症[夏やせ、病後の体力増強、結核症、食欲不振、胃下垂、感冒、痔、脱肛、子宮下垂、陰萎、半身不随、多汗症]	補気健脾・昇提・固表・生肌	7.5g分2~3
ヨクイニン 〈ヨクイニンジョウ〉 (コク)	錠 【院外のみ】 ¥5.8/錠	青年性扁平疣贅、尋常性疣贅		9~18錠分3
抑肝散 〈ヨクカンサン〉 ツム554 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【用時購入】 ¥27.5/包	虚弱な体質で神経がたかぶるもの次の諸症[神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症]	平肝熄風・補気血	7.5g分2~3
六君子湯 〈リックンシトウ〉 ツム543 (ツム)	エキス顆粒(2.5g/包) 【用時購入】 ¥46.75/包	胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの諸症[胃炎、胃下垂、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐]	補気健脾・理気化痰	

中医学的表現 (五十音順・中医学用語には下線付け)

安神 (あんしん) : 精神安定・催眠作用。

温中散寒 (おんちゆうさんかん) : 消化器系を温めることで、主に循環改善を通して上部消化管平滑筋のトーンズ上昇を正常化させ、結果として嘔吐・下痢・便秘・腹痛を止める作用

活血化癥 (かつけつお) : 血証を改善すること

→血癥 (けつお) : Blood Stasis Syndrome (BSS)

微小循環障害。静脈系の停滞であるうっ血を主とした病変に相当するが、微小循環系の停滞 (うっ血・充血) 血液粘稠度増大・凝固の昂進・血栓・癒着・繊維化・増殖性病変・癥痕・血腫などのさまざまな病態を含む。血行障害による阻血性疼痛がしばしば症状としてみられ、固定性・持続性であることが多い

→活血薬 : 主として動脈系の血流改善作用をもつ薬。Ca拮抗剤や強心配糖体に近い作用と想定される。

→化癥薬 : 主として静脈系のうっ血を改善する薬。亜硝酸剤に近い作用と想定される

気血双補 (きけつじうほ) : 気血両虚を改善する作用

→気血両虚 (きけつりょうきょ) : 気虚と血虚の症候が同時にある状態。機能面の不足と物質面の不足が併存する状態。

→気虚の症状 : きつい、だるい、疲れやすい、食欲がない、意欲がない

→血虚の症状 : 皮膚のかさつき、爪が脆い、髪が抜ける、過少月経、こむらがり、不眠など

祛痰止咳 (きょたんしけい) :

祛風湿 (きょふうしつ) : 痺証の治法

→痺証 : “しびれ痛み”を主症状とする筋肉・関節疾患の総称。慢性関節リウマチ、変形性・炎症性関節症に相当する。

祛風止痒 (きょふうしやう) : 皮膚の血行を良くして痒みを止める作用

→風 (ふう) : 身体外部環境による病因のひとつ。いわゆる風 (かぜ) にあたって体が冷えたり、皮膚の不感蒸泄がふえ皮膚が乾燥したり、あるいは細菌・ウイルス感染が考えられる。

化湿 (けしつ) : 主に消化管内に停滞した水分を軽度ながら血中に吸収する作用、消化管の蠕動調整・悪心嘔吐の抑制・気道分泌抑制にも働く

化痰止咳 (けたんしけい) : 鎮咳・去痰の作用

→痰 (たん) : 生理的体液の流通が停滞し粘稠となって流動性をうしなった物。現代医学の喀痰よりも広い概念。

→化痰 (けたん) : 喀痰の生成抑制と排出

化痰熄風 (けたんそくふう) :

→熄風 (そくふう) : 内風を止めること

→内風 (ないふう) : 中枢・自律神経系の過度の興奮状態で、ふるえ、しびれ、けいれん、めまいなどの症状をおこす、身体内部で生じた病因のひとつ。肝気鬱結が高じた時などにおこると考えられている。

解毒 (げどく) : 主として細菌・ウイルス感染によりひきおこされた熱や炎症反応を解消すること。

健脾補血 (けんぴじゆうけつ) : 消化吸收機能を高め、造血を促し、血液の生理機能を高める作用。

→脾虚 (ひきょ) : 消化器系の機能低下状態

→脾 (ひ) : 現代医学の脾臓ではなく、上部消化管機能に相当する。食物を体内に取り入れる過程であり、「非自己」を自己化する過程でもあり、免疫やアレルギーとの関連も想定される。

健脾利水 (けんぴりすい) : 消化吸收機能を改善し、消化管内に停滞する余剰水分を血管内に吸収する。この改善が、ひいては全身の組織間内の余剰水分の代謝も改善すると考える。

固表 (こひょう) : 表虚の治法。体表の血行改善, 汗腺の機能正常化による止汗の効果。

→**表虚 (ひょうきょ)** : 細菌やウイルス感染時に, 生体の防御反応のひとつとして熱産生が高まるが, この時おこる体表での末梢血管収縮, 立毛, 汗腺の閉塞などの反射が, 不十分で, 悪風, 自汗などの症状を呈する状態。もともと汗かきで感冒にかかりやすい人にみられやすい。

散寒 (さんかん) : 寒邪を取り除く方法。

→**寒邪 (かんじや)** : 寒け・冷えの状態を引き起こす外因で, グーラーや季節などの寒冷の外部環境や, ウイルスや細菌感染

止嘔 (しお)

止咳 (しがい)

止癢 (しがい)

止痛 (しつう)

消腫 (しょうしゅ)

生津止渴 (しんじんとく) : 津液 (津液参照) を補い, 渇きを止めること。生津には脱水の抑制, 気道粘膜分泌促進などの意味がある。

昇提 (しやうてい) : 平滑筋・骨格筋の緊張を増し, アトニー状態を改善する。胃下垂・下痢, 脱肛, 子宮脱などを改善する作用。脳の興奮性を増す作用も一部考えられる

舒筋 (じょく) : 筋緊張低下作用

辛温解表 (しんおんかいひょう) : 味が辛く温める性質をもつ薬物を用いて発汗させる作用

生肌 (せいぎ) : 良性肉芽の増生による創傷治癒機転の促進効果。

清熱瀉火 (せいねつしゃか) : 消炎・解熱・抗菌・抗ウイルス・鎮静・毛細血管の透過性亢進の抑制などの作用

→**熱証 (ねつしやう)** : 熱感・ほてり・のぼせがあり, 寒冷を好むような状態

①**実熱 (じつねつ)** : 熱邪 (ウイルス・細菌などの病原微生物や暑熱などの外部環境) によって急性に発症する熱証

②**虚熱 (きょねつ)** : 陰虚の異化作用の亢進・自律神経系の興奮に伴う熱証

→**陰虚 (いんきょ)** : 陰液が不足した状態

→**陰液 (いんえき)** : 人体を構成する基本成分を**気・血・津液・精**と考え, 血・津液・精を陰液という

→**血 (けつ)** : 栄養・滋潤作用をもつ基本成分

津液 (しんえき) : 組織液・細胞内液・分泌液など正常な水液

精 (せい) : 生命活動の基本物質。先天的にそなわっている物と消化吸収された栄養物質から精選され・補充されている物があると考え。ホルモン様物質に近い。

気 (き) : 主に人体の生理機能を指すがその機能を発現させる精微物質も含んだ概念。生命エネルギー。

清熱涼血 (せいねつりやうけつ) : 清熱瀉火とほとんど同じ作用と考えてよいが, 感染による病状が深く進展し, 重篤な合併症 (たとえば敗血症や熱性けいれんなど) に及んだ状態を改善する作用。

疏肝解鬱 (そかんかいうつ) : 肝気鬱結を解く作用。疏肝は精神安定作用, 自律神経機能調整作用。解鬱は抑うつ・緊張を緩解させる作用。

→**肝気鬱結 (かんきうけつ)** : 主にストレスにより生じる精神的な緊張・抑うつや自律神経系の機能失調状態

→**肝 (かん)** : 現代医学の肝臓の機能に加えて, 情動などの視床下部・下垂体系, 大脳辺縁系を介した中枢神経系機能あるいは自律神経系の機能を合わせもつと考える。

調経 (ちやうけい) : 月経不順・月経痛・閉経・月経血過多過少など月経に関する不調を調整する作用

平喘 (へいぜん) : 気管支平滑筋のけいれんを解除して呼吸困難を改善する作用。

補気健脾（ほきけんぴ）：

- 補気：身体生理機能や基礎代謝を高めて、元気をつけ抵抗力を高める作用
- 健脾：消化吸收機能を促進して補気の働きを補助する作用

補血活血（ほけつかつけつ）：

- 補血（ほけつ）：血虚（血が不足した状態）を改善する作用。栄養・滋潤の作用と脳の抑制過程を強めて、精神安定・催眠に働く作用が考えられる。
- 活血（かつけつ）：循環改善作用に相当する。

補陽散寒（ほやうさんかん）：

- 補陽（ほやう）：陽虚を改善する作用。機能・代謝を促進し、抵抗力や元気をつけ、循環改善、脳の興奮性を高めて体をあたためる作用。強壯作用もあると考えられる。
- 陽虚（やうきょ）：気虚が進行し、体を温める作用が低下した状態。機能低下に同化作用・異化作用・末梢循環・脳の興奮性が低下したための寒けや冷えなどの寒の症状が加わった状態。
- 気虚（ききょ）：気の不足で、全身の機能・代謝・抵抗力が低下し、脳の興奮性も低下した状態。
- 散寒（さんかん）：血管拡張・血行促進・脳の興奮・局所の刺激などによって、身体全体あるいは局所を温める効果。

補腎益精（ほじんえきせい）：「腎は精を蔵す」と言われており、腎を補う上で、精を補充することが基本となる。

- 腎（じん）：現代医学の腎臓の機能に副腎皮質・髄質の機能、加えて内分泌系全体の機能が包括して考えられる。成長、加齢、性機能、水分代謝・排泄、脳機能、聴覚機能、免疫機能などとの関連が想定される。

利水（りすい）：現代医学の利尿ではなく、主として消化管や組織中の余剰水分を血中にひきこむ作用。結果的に下痢を止めたり、浮腫を減らしたりする。

利水止瀉（りすいししゃ）：利水の効果で下痢を止める

涼血止血（りやうけつしけつ）：病気が重篤な場合の熱をさまし、止血する効果。

<参考文献>

- 森 雄材著「図説・漢方処方の構成と適用」医歯薬出版
- 創医学会術部主編「漢方用語大辞典」燎原
- 「THE KAMPO DIARY」カホリ薬品株式会社
- 花輪壽彦著「漢方治療のレッスン」金原出版

後記

少しでも多くの医師に中医学を理解していただき、漢方エキス製剤の適切な運用に寄与できるようにと意図して、院内採用漢方エキス製剤の中医学的効能とそこに出てくる中医学用語の現代医学的解説を試みた。しかし、この作業が容易なことではないということが感想として残った。

あいまいな表現を極力避けるために、やや強引に言い切った箇所があることをお許しいただきたい。ご批判・ご指摘をお願いしたい。全文に関して、共に学ぶ九州中国医学研究会の仲間と検討したが、文責はまだまだ勉強不足のわたくしにある。

精神科 垣替芳隆

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アルキル化剤 ◆ナイトロジェンマスタード類				
アルケラン <メルファラン> 略名：L-PAM (ゲラクソ・スミスクライン)	2mg/錠 ¥177.6/錠		多発性骨髄腫	i) 2~4mg/日×連日 ii) 6~10mg/日×4~10日間 維持量2mg/日 iii) 6~12mg/日×4~10日間反復
イホマイド <イホスファミド> 略名：IFM (オノキ)		1g/瓶 【用時購入】 ¥2997/瓶	①肺小細胞癌, 前立腺癌, 子宮頸癌, 骨肉腫 ②再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍) ③悪性リンパ腫 <他の抗悪性腫瘍剤との併用> ④悪性骨・軟部腫瘍, 小児悪性固形腫瘍(ユ-イング肉腫ファミリー腫瘍, 横紋筋肉腫, 神経芽腫, 網膜芽腫, 肝芽腫, 腎芽腫等)	①1日1.5~3g(30~60mg/kg), 3~5日間連日, 3~4週間毎 ②1日1.2g/m ² , 5日間連日, 3~4週間毎 ③1日0.8~3g/m ² , 3~5日間連日, 3~4週間毎 【総投与量：1コ-110g/m ² 以下】 【小児：全治療コ-180g/m ² 以下】 ④【DI照会参照】
エンドキサン <シクロホスファミド> 略名：GPA (オノキ)	50mg/錠 ¥31.6/錠		①多発性骨髄腫, 悪性リンパ腫, 乳癌, 急性白血病, 真性多血症, 肺癌, 神経腫瘍(神経芽腫, 網膜芽腫), 骨腫瘍 <他の抗悪性腫瘍剤との併用> 慢性リンパ性白血病, 慢性骨髄性白血病, 咽頭癌, 胃癌, 膀胱癌, 肝癌, 結腸癌, 睾丸腫瘍, 絨毛性疾患, 黄紋筋肉腫, 悪性黒色腫, 子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌 ②治療抵抗性の全身性エリテマトーデス, 全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎, ウェグナー肉芽腫症, 結節性多発動脈炎, Churg-Strauss症候群, 大動脈炎症候群等), 多発性筋炎/皮膚筋炎, 強皮症, 混合性結合組織病, 及び血管炎を伴う難治性リウマチ性疾患 ③初ロ-ゼ'症候群	①100~200mg/日 ②50~100mg/日 ③50~100mg/日, 8~12週間 <小児>2~3mg/kg/日, 8~12週間 【Max: 100mg/日, 総投与量300mg/kg】

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エンドキサン 〈シクロホスファミド〉 略名：CPA (オノキ)		100mg/瓶 ¥320/瓶	①多発性骨髄腫, 悪性リンパ腫, 肺癌, 乳癌, 急性白血病, 真性多血症, 子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌, 神経腫瘍(神経芽腫, 網膜芽腫), 骨腫瘍 〈他の抗悪性腫瘍剤と併用〉 慢性リンパ性白血病, 慢性骨髄性白血病, 咽頭癌, 胃癌, 膀胱癌, 肝癌, 結腸癌, 睾丸腫瘍, 絨毛性疾患, 横紋筋肉腫, 悪性黒色腫, 乳癌(手術可能例における術前あるいは術後) ②褐色細胞腫 ③急性白血病, 慢性骨髄性白血病, 骨髄異形成症候群, 重症再生不良性貧血, 悪性リンパ腫, 遺伝性疾患(免疫不全, 先天性代謝障害及び先天性血液疾患)における造血幹細胞移植の前治療 ④治療抵抗性の全身性エリテマトーデス, 全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎, ウェグナー肉芽腫症, 結節性多発動脈炎, Churg-Strauss症候群, 大動脈炎症候群等), 多発性筋炎/皮膚筋炎, 強皮症, 混合性結合組織病, 及び血管炎を伴う難治性リウマチ性疾患	【DI照会参照】
		500mg/瓶 ¥1254/瓶		

■アルキル化剤 ◆ニトロソウレア類

ギリアデル 〈カルムスチン〉 (エーザイ)		7.7mg/枚 ¥160912.4/枚	悪性神経膠腫	腫瘍切除腔の大きさや形状に応じて、本剤8枚(カルムスチンとして61.6mg)又は適宜減じた枚数を脳腫瘍切除術時の切除面を被覆するように留置
サイメリン 〈ラニムスチン〉 略名：MCNU (田辺三菱)		50mg/瓶 ¥10701/瓶	慢性骨髄性白血病, 真性多血症, 骨髄腫, 悪性リンパ腫, 膠芽腫, 本態性血小板増多症	50~90mg/m ² /日, 6~8週毎 〈成人T細胞白血病リンパ腫に對し他の抗がん剤と併用する場合〉 投与間隔：4週間以上

■アルキル化剤 ◆その他

ダカルバジン 〈ダカルバジン〉 略名：DTIC (アズノブ薬)		100mg/瓶 【用時購入】 ¥3571/瓶	①悪性黒色腫 ②軟部肉腫(軟部肉腫) ③褐色細胞腫	①100~200mg/日×5日間を4週間毎 ②他の抗悪性腫瘍剤と併用し, 375mg/m ² /日を2週間毎×2回 ③シタキマブ, ビンクリスタンと併用し, 600mg/m ² /日×2日間を3週間毎
テモゾロミド 〈テモゾロミド〉 略名：TMZ (日本化薬)	20mg/錠 ¥1321.3/錠		悪性神経膠腫	1. 初発の場合：〈放射線照射との併用〉75mg/m ² 分1.42日間, 4週間休薬 その後, 単独にて150mg/m ² 分1.5日間投与, 23日間休薬 次クールでは1回200mg/m ² に増量可 2. 再発の場合：150mg/m ² 分1.5日間投与, 23日間休薬 次クールで1回200mg/m ² に増量可
	100mg/錠 ¥6587.9/錠			

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■代謝拮抗剤 ◆フルオロウラシル類				
ゼローダ <カペシタピン> (中外)	300mg/錠 ¥358/錠		手術不能又は再発乳癌(A, B) 結腸・直腸癌における術後補助化学療法(B), 治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌(C) 胃癌(C) 直腸癌における補助化学療法(放射線併用)(D)	<A>体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、21日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ケルとし繰り返す 体表面積1.31㎡未満:900mg/回、 体表面積1.31㎡以上~1.64㎡未満:1200mg/回、 体表面積1.64㎡以上:1500mg/回 【DI照会参照】 体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、14日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ケルとし繰り返す 体表面積1.33㎡未満:1500mg/回、 体表面積1.33㎡以上~1.57㎡未満:1800mg/回、 体表面積1.57㎡以上~1.81㎡未満:2100mg/回、 体表面積1.81㎡以上:2400mg/回 【DI照会参照】 <C>体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、14日間連続経口投与し、その後7日間休薬する。これを1ケルとし繰り返す(他の抗癌剤と併用で) 体表面積1.36㎡未満:1200mg/回、 体表面積1.36㎡以上~1.66㎡未満:1500mg/回、 体表面積1.66㎡以上~1.96㎡未満:1800mg/回、 体表面積1.96㎡以上:2100mg/回 【DI照会参照】 <D>体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回朝夕食後、5日間連続経口投与し、その後2日間休薬する。これを繰り返す(放射線照射と併用で) 体表面積1.31㎡未満:900mg/回、 体表面積1.31㎡以上~1.64㎡未満:1200mg/回、 体表面積1.64㎡以上:1500mg/回 【DI照会参照】
ティーエスワン <配合剤: テガフル20mg ギメラシル5.8mg オテラシルカリウム19.6mg> 略名: TS-1 (大鵬)	20mg/C 【院外のみ】 ¥523.7/C			
ティーエスワン <配合剤: テガフル25mg ギメラシル7.25mg オテラシルカリウム24.5mg> 略名: TS-1 (大鵬)	25mg/C 【院外のみ】 ¥631.3/C		胃癌, 結腸・直腸癌, 頭頸部癌, 非小細胞肺癌, 手術不能又は再発乳癌, 膵癌, 胆道癌	初回投与量(1回量)を体表面積に合わせて次の基準とし、1日2回、28日間連続経口投与し、その後14日間休薬する。これを1ケルとし繰り返す 【Max:75mg/回】 体表面積1.25㎡未満:初回基準量(テガフル相当量)40mg/回、 体表面積1.25㎡以上~1.5㎡未満:初回基準量(テガフル相当量)50mg/回、 体表面積1.5㎡以上:初回基準量(テガフル相当量)60mg/回 【DI照会参照】
ティーエスワンOD <配合剤: テガフル20mg ギメラシル5.8mg オテラシルカリウム19.6mg> 略名: TS-1 (大鵬)	20mg/錠 ¥523.7/錠			
ティーエスワンOD <配合剤: テガフル25mg ギメラシル7.25mg オテラシルカリウム24.5mg> 略名: TS-1 (大鵬)	25mg/錠 ¥631.3/錠			

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
5-FU <フルオロウラシル> 略名：5-FU (協和発酵社)		250mg(5mL)/管 ¥313/管	①胃癌, 肝癌, 結腸・直腸癌, 乳癌, 膀胱癌, 子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌 <他の抗腫瘍剤, 放射線と併用> ②食道癌, 肺癌, 咽頭部腫瘍 <他の抗悪性腫瘍剤との併用療法> ③頭頸部癌 <レボ・リナト・フルオウラシル持続静注併用療法> ④結腸・直腸癌, 治癒切除不能な膀胱癌	① i) 5~15mg/kg/日×5日の後, 5~7.5mg/kg/日を隔日 ii) 5~15mg/kg/日隔日 iii) 5mg/kg/日×10~20日 iv) 10~20mg/kg/週 ② 5~10mg/kg, i)に準じ, 又は間歇的に週1~2回動注 ③ 1000mg/m ² /日, 4~5日連続持続点滴, 少なくとも3週間あける ④ 【DI照会参照】
ユーエフティE <テガフル, ウラシル> 略名：UFT (大鵬)	顆粒(200mg/g/包) ¥552.9/包		①頭頸部癌, 肺癌, 胃癌, 肝癌, 胆嚢・胆管癌, 膀胱癌, 直腸・結腸癌, 膀胱癌, 前立腺癌, 乳癌 ②子宮頸癌	①300~600mg分2~3 ②600mg分2~3
ユーエフティ <テガフル, ウラシル> 略名：UFT (大鵬)	100mg/C ¥226.1/C			

■代謝拮抗剤 ◆ヌクレオシド系

ロンサーフ <配合剤：トリフルリジン20mg, チピラシル7.065mg> (大鵬薬品)	15mg/錠 ¥2483.5/錠		治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	初回投与量(1回量)を体表面積に合わせて次の基準量とし(トリフルリジンとして約35mg/m ² /回【DI参照】), 1日2回朝夕食後, 5日間連続経口投与したのち2日間休薬, これを2回繰り返したのち14日間休薬, これを1コースとして投与を繰り返す
ロンサーフ <配合剤：トリフルリジン15mg, チピラシル9.42mg> (大鵬薬品)	20mg/錠 ¥3332.3/錠			

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■代謝拮抗剤 ◆シタラビン類				
キロサイド <シタラビン> 略名：Ara-C (日本新薬)		20mg(1mL)/管 ¥357/管	①急性白血病(赤白血病,慢性骨髄性白血病の急性転化を含む) ②消化器癌(胃癌,胆嚢癌,胆道癌,膵癌,肝癌,結腸癌,直腸癌),肺癌,乳癌,女性性器癌(子宮癌,卵巣癌等) ③膀胱腫瘍	① i)寛解導入:下記投与量を2~3週間連続 0.8~1.6mg/kg/日静注又は点静 <小児>0.6~2.3mg/kg/日静注又は点静 ii)維持(i)の用量を週1回皮下,筋注,静注 iii)髄腔内化学療法:25~40mg/回,1週間に1~2回髄腔内投与 <小児>添付文書参照 ②<他の抗悪性腫瘍剤と併用する時> i)0.2~0.8mg/kg,1週間に1~2回静注 ii)0.2~0.4mg/kg,持続動注 ③<単独>200~400mg, <併用>100~300mg膀胱内注入
		40mg(2mL)/管 ¥683/管		
		200mg(10mL)/管 ¥2670/管		
キロサイドN <シタラビン> 略名：Ara-C (日本新薬)		400mg(20mL)/管 ¥4653/管	①急性骨髄性白血病 ②急性リンパ性白血病 ③悪性リンパ腫	①2g/m ² /回を12時間毎最大6日間連日静注 <小児>3g/m ² /回を12時間毎,3日間連日静注 ②他の抗腫瘍剤と併用し2g/m ² /回を12時間毎最大6日間連日静注 <小児>2g/m ² /回を12時間毎,3日間連日静注 ③他の抗腫瘍剤と併用し2g/m ² /回,1~2回/日1~2日間連日静注 <小児>2g/m ² /回を12時間毎,3日間連日静注
		1000mg(50mL)/瓶 ¥9844/瓶		
ゲムシタピン <ゲムシタピン> 略名：GEM (ヤクルト本社)		200mg/瓶 ¥1845/瓶	①非小細胞肺癌,膵癌,胆道癌,尿路上皮癌,がん化学療法後に増悪した卵巣癌,再発又は難治性の悪性リンパ腫 ②手術不能又は再発乳癌	①1000mg/m ² ,30min点静週1回3週連続4週目休薬を1ケルとする ②1250mg/m ² ,30min点静週1回2週連続3週目休薬を1ケルとする
		1g/瓶 ¥8495/瓶		
スタラシド <シタラビンオクホスファート> 略名：SPAC (日本化薬)	100mg/C 【院外のみ】 ¥645.8/C		①成人急性非リンパ性白血病 ②骨髄異形成症候群	①100~300mg/日×2~3週間連続投与し2~3週間休薬。これを繰り返す ②100~200mg/日×2~3週間連続投与し2~3週間休薬これを繰り返す
フルダラ <フルダラビン> 略名：FL (サファイ)		50mg/瓶 【用時購入】 ¥33203/瓶	①慢性リンパ性白血病(貧血又は血小板減少症を伴う) ②再発又は難治性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫,マントル細胞リンパ腫 ③同種造血幹細胞移植の前治療	①②20mg/m ² /日×5日,23日間休薬,これを1ケルとし繰り返す ③30mg/m ² /日×6日

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量	
■代謝拮抗剤 ◆葉酸代謝拮抗薬					
アリムタ <ペメトレキセド> (日本イライリ-)		100mg/瓶 ¥44248/瓶	①悪性胸膜中皮腫 ②切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌	①スプ ラシとの併用において、1日1回500mg/m ² を10分間かけて点滴静注し、少なくとも20日間休薬、これを1コースとし繰り返す ②1日1回500mg/m ² を10分間かけて点滴静注し、少なくとも20日間休薬、これを1コースとし繰り返す	
アリムタ <ペメトレキセド> (日本イライリ-)		500mg/瓶 ¥185374/瓶			
メソトレキセート <メトトレキサート> 略名：MTX (ファイザ-)	2.5mg/錠 ¥35.9/錠		①急性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病 ②絨毛性疾患 ③<MTX・ロコホリン>の救済療法>肉腫 ④<MTX・ロコホリン>の救済療法>急性白血病(中枢神経系、睾丸への浸潤)悪性リンパ腫(中枢への浸潤) ⑤<MTX・フルオウラシル>交代療法>胃癌 ⑥乳癌 【注射用5mg、50mgのみ】 ⑦尿路上皮癌	① i) 5~10mg/日×3~6日/週 <小児>2.5~5mg/日×3~6日/週 <幼児>1.25~2.5mg/日×3~6日/週 ii) その他の投与経路髄腔 ② 10~30mg/日×5日後7~12日休薬 ③ 100~300mg/kg静注後ロコホリン投与、1~4週毎 ④ 30~100mg/kg静注後ロコホリン投与、1~4週毎 ⑤ MTX100mg/m ² (3mg/kg)静注した後1~3時間後にフルオウラシル600mg/m ² (18m/kg)を静注、その後ロコホリン投与 ⑥ CMF療法 4週毎CPA65mg/m ² /日経口14日間連続MTX40mg/m ² /日静注第1、8日目FU500mg/m ² /日静注第1、8日目 ⑦ M-VAC療法 4週毎MTX30mg/m ² 静注第1、15、22日目VLB3mg/m ² 静注第2、15、22日目DXR30mg/m ² 、GDDP70mg/m ² 静注第2日目	
		5mg/瓶 ¥768/瓶	①<MTX通常療法>急性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病 ②<MTX通常療法>絨毛性疾患 ③<CMF療法>乳癌 ④<MTX・LV救済療法>肉腫 ⑤<MTX・LV救済療法>急性白血病(中枢神経系、睾丸への浸潤)悪性リンパ腫(中枢への浸潤) ⑥<MTX・フルオウラシル>交代療法>胃癌 ⑦<M-VAC療法>尿路上皮癌 【適応規格：④⑤⑥は50mgのみ】	① i) 1週間に3~6回、静注または筋注 <成人>1日5~10mg <小児>1日2.5~5mg <幼児>1日1.25~2.5mg ii) 髄膜白血病には髄注 0.2~0.4mg/kg、2~7日毎 ② 1日10~30mg静注×5日間、7~12日休薬 ③ MTX: 1日40mg/m ² 静注、第1、8日目 FU: 1日500mg/m ² 静注、第1、8日目 CPA: 1日65mg/m ² 経口、14日間連続、4週毎 ④ 週1回100~300mg/kg点滴静注後LV投与、1~4週間隔 ⑤ 週1回30~100mg/kg点滴静注後LV投与、1~4週間隔 ⑥ MTX100mg/m ² (3mg/kg)静注 1~3時間後にフルオウラシル600mg/m ² (18m/kg)、静注または点静、その後LV投与、1週間隔 ⑦ MTX: 30mg/m ² 静注、第1、15、22日目 VLB: 3mg/m ² 静注、第2、15、22日目 DXR: 30mg/m ² およびGDDP: 70mg/m ² 静注、第2日目、4週毎	
		50mg/瓶 ¥2554/瓶	200mg(8mL)/瓶 ¥8673/瓶	<MTX・LV救済療法> ①肉腫 ②急性白血病(中枢神経系、睾丸への浸潤)悪性リンパ腫(中枢への浸潤)	①週1回100~300mg/kg点滴静注後LV投与、1~4週間隔 ②週1回30~100mg/kg点滴静注後LV投与、1~4週間隔
			1000mg(40mL)/瓶 ¥38324/瓶		
■代謝拮抗剤 ◆その他					
ハイドレア <ヒドロキシカルバミド> 略名：HU (ブリストル)	500mg/C ¥279.6/C		慢性骨髄性白血病、本態性血小板血症、真性多血症	500~2000mg/日<維持量>500~1000mg/日	
ビダーザ <アザシチジン> (日本新薬)		100mg/瓶 ¥41961/瓶	骨髄異形成症候群	75mg/m ² 分1皮下または点静7日間、3週間休薬、これを1ケルとし繰り返す	

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■白金系抗癌薬				
アクブラ 〈ネダプラチン〉 略名：CDGP (オノキ)		50mg/瓶 ¥22310/瓶	頭頸部癌, 肺小細胞癌, 肺非小細胞癌, 食道癌, 膀胱癌, 精巣(睾丸)腫瘍, 卵巣癌, 子宮頸癌	80~100mg/m ² /日, 4週間休薬, これを繰り返す
		100mg/瓶 ¥42568/瓶		
オキサリプラチン 〈オキサリプラチン〉 略名：L-OHP (持田製薬)		50mg(10mL)/瓶 ¥9037/瓶	① 治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 ② 結腸癌における術後補助化学療法 ③ 治癒切除不能な膵癌 ④ 胃癌	①②A法またはB法 ③A法 ④B法 〈他の抗悪性腫瘍薬と併用〉 A法：85mg/m ² , 1回/日, 2時間で点静, 少なくとも13日間休薬 B法：130mg/m ² , 1回/日, 2時間で点静, 少なくとも20日間休薬 これを1サイクルとして投与を繰り返す
		100mg(20mL)/瓶 ¥16784/瓶		
		200mg(40mL)/瓶 ¥30018/瓶		
カルボプラチン 〈カルボプラチン〉 略名：CBDCA (日医工)		50mg(5mL)/瓶 ¥2690/瓶	① 頭頸部癌, 肺小細胞癌, 睾丸腫瘍, 卵巣癌, 子宮頸癌, 悪性リンパ腫, 非小細胞肺癌 ② 乳癌 ③ 小児悪性固形腫瘍(神経芽腫・肝芽腫・中枢神経系胚細胞腫瘍, 再発又は難治性のユーンク肉腫ファミリー腫瘍・腎芽腫) ④ 小児悪性固形腫瘍(網膜芽腫)	① 300~400mg/m ² /日, 後4週間休薬, これを繰り返す ② 〈他の抗悪性腫瘍薬との併用〉 300~400mg/m ² /日, 後3週間休薬, これを繰り返す ③ 〈他の抗悪性腫瘍薬との併用〉 635mg/m ² /日, 1日間または400mg/m ² /日, 2日間, 後3~4週間休薬, これを繰り返す ④ 〈他の抗悪性腫瘍薬との併用〉 560mg/m ² /日, 後3~4週間休薬, これを繰り返す 36ヵ月齢以下：18.6mg/kg
		150mg(15mL)/瓶 ¥6472/瓶		
		450mg(45mL)/瓶 ¥11293/瓶		
シスプラチン 〈シスプラチン〉 略名：CDDP (ヤクト)		10mg(20mL)/瓶 ¥946/瓶	睾丸腫瘍, 膀胱癌, 腎盂・尿路腫瘍, 前立腺癌(A, C) 卵巣癌(B, A, C) 頭頸部癌(D, B) 非小細胞肺癌(E, F) 食道癌(B, A) 子宮頸癌(A, E) 神経芽細胞腫, 胃癌(E) 小細胞肺癌(E) 尿路上皮癌(H) 骨肉腫(G) 胆道癌(I) 〈他の抗悪性腫瘍薬と併用〉 胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍)(F) 悪性骨腫瘍, 子宮体癌, 再発・難治性悪性リンパ腫, 小児悪性固形腫瘍(横紋筋肉腫, 神経芽腫, 肝芽腫その他肝原発性悪性腫瘍, 髄芽腫等)	〈A〉15~20mg/m ² ×5日間後, 2週間休薬, これを繰り返す 〈B〉50~70mg/m ² 後, 3週間休薬, これを繰り返す 〈C〉25~35mg/m ² 後, 1週間休薬, これを繰り返す 〈D〉10~20mg/m ² ×5日間後, 2週間休薬, これを繰り返す 〈E〉70~90mg/m ² 後, 3週間休薬, これを繰り返す 〈F〉20mg/m ² ×5日間後, 2週間休薬, これを繰り返す 〈G〉100mg/m ² 後, 3週間休薬, これを繰り返す 〈H〉M-VAC療法【M-4参照】 〈I〉25mg/m ² , 週1回, 2週投与1週休薬, これを繰り返す その他は【DI照会参照】
		25mg(50mL)/瓶 ¥3031/瓶		
		50mg(100mL)/瓶 ¥4113/瓶		
ミリプラ 〈ミリプラチン〉 (大日本住友)		70mg/瓶 ¥46247/瓶	肝細胞癌におけるリビトリゼーション	70mgを懸濁用液3.5mLに懸濁, 1日1回肝動脈内に挿入されたカテーテルより投与 【DI照会参照】
ミリプラ懸濁液 〈ヨード化キシ油〉 (大日本住友)		4mL/管 ¥322/管	ミリプラ動注用70mgの懸濁用	ミリプラチン70mgに対し, 3.5mLを加えて使用

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性抗生物質 ◆アントラサイクリン系製剤				
アクラシノン <アクラルピシン> 略名: ACR (アステラス)		20mg/瓶 【用時購入】 ¥3118/瓶	①急性白血病, 肺癌, 胃癌, 乳癌, 卵巣癌 ②悪性リンパ腫	①20mg/日(0.4mg/kg/日)×10~15日間 ② i) 40~50mg/日(0.8~1mg/kg/日)を2 回/週(1, 2日連日又は1, 4日目) ii) 20mg/日(0.4mg/kg/日)×7日間, 7日間 休薬
アドリアシン <ドキシソルピシン> 略名: DXR (アスペンジ・ジャパン)		10mg/瓶 ¥1694/瓶	①肺癌, 消化器癌(胃 癌, 胆嚢・胆管癌, 膵 臓癌, 肝癌, 直腸癌, 結腸癌等), 乳癌, 骨 肉腫 ②乳癌(手術可能例 における術前, 術後 化学療法), 子宮体癌 (術後化学療法, 転移 ・再発時化学療法), 悪性骨・軟部腫瘍, 悪 性骨腫瘍, 多発性骨 髄腫, 小児悪性固形 腫瘍(ユーンク肉腫ファミ リ腫瘍, 横紋筋肉腫, 神経芽腫, 網膜芽腫, 肝芽腫, 腎芽腫等) ③膀胱腫瘍 ④尿路上皮癌 ⑤悪性リンパ腫(細網 肉腫, リンパ肉腫, 杉キ ン病)	① i) 10mg/日×4~6日, 後7~10日休 薬, 2~3回繰り返す ii) 20mg/日×2~3日, 後7~10日休 薬, 2~3回繰り返す iii) 20~30mg/日×3日, 後18日休薬, 2 ~3回繰り返す 【総投与量500mg/m ² 以下】 ②【DI照会参照】 ③30~60mg/日, 1回/日連日または2 ~3回/週, 膀胱注 ④<M-VAC療法>30mg/m ² /回 ⑤①と同じ 他の抗悪性腫瘍剤との併用【DI照会 参照】
	50mg/瓶 ¥7577/瓶			
イダマイシン <イダルピシン> 略名: IDAR (ファイザー)		5mg/瓶 ¥12022/瓶	急性骨髄性白血病 (慢性骨髄性白血病 の急性転化を含む)	12mg/m ² ×3日間静注後, 骨髄機能回 復迄休薬これを繰り返す
カルセド <アムルピシン> 略名: AMR (日本化薬)		20mg/瓶 ¥6249/瓶 50mg/瓶 ¥13975/瓶	非小細胞肺癌, 小細 胞肺癌	45mg/m ² , 1回/日, 3日間連続静注, 3~ 4週間休薬
ダウノマイシン <ダウノルピシン> 略名: DRC (明治)		20mg/瓶 ¥1567/瓶	急性白血病(慢性白 血病の急性転化を含 む)	0.4~1mg/kg/日, 3~5日間(連日又は隔日) <小児>1mg/kg/日, 3~5日間(連日又は隔日)
ドキシル <ドキシソルピシン> 略名: DXR (ヤンセンファーマ)		20mg/瓶 【用時購入】 ¥98823/瓶	①がん化学療法後に 増悪した卵巣癌 ②エイズ関連がん肉 腫	①50mg/m ² , 1回/1日, 後4週間休薬, こ れを繰り返す ②20mg/m ² /日, 1回/1日, 後2~3週間 休薬, これを繰り返す
ノバントロン <ミトキサントロン> 略名: MIT (日本製薬)		10mg(5mL)/瓶 ¥20340/瓶	①急性白血病(慢性 骨髄性白血病の急性 転化を含む) ②悪性リンパ腫, 乳癌 ③肝細胞癌	①2~5mg/m ² ×5日間/3~4週間毎 ② i) 2~4mg/m ² ×5日間/3~4週間毎 ii) 8~14mg/m ² /3~4週間毎 ③6~12mg/m ² /3~4週間毎
ピノルビン <ピラルピシン> 略名: THP (日本化薬)		10mg/瓶 ¥5683/瓶 20mg/瓶 ¥11099/瓶 30mg/瓶 ¥16610/瓶	頭頸部癌(G, D) 急性白血病(E) 胃癌, 乳癌(A, C) 卵巣癌, 子宮癌(A) 悪性リンパ腫(A, D) 尿路上皮癌(膀胱癌, 腎盂・尿管腫瘍)(A, B)	<A>40~60mg(25~40mg/m ²)投与後, 3~4週間 休薬, これを繰り返す 30~40mg(20~25mg/m ²)×2日間, 3~4週間 休薬, これを繰り返す <C>20~40mg(14~25mg/m ²)×1回/週×2~3 回, 3~4週間休薬, これを繰り返す <D>10~20mg(7~14mg/m ²)×3~5日間, 3~4週 間休薬, これを繰り返す <E>10~30mg(7~20mg/m ²)×5日間, 骨髄回復 迄休薬, これを繰り返す <F>頭頸部癌, 膀胱癌10~20mg(7~14mg/m ²)/ 連日・隔日×5~10回動注 <G>膀胱癌15~30mg×3回/週, 1~2時間把持膀 胱内注入

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エピルビシン <エピルビシン> 略名：EPI (日本化薬)		10mg/瓶 ¥2137/瓶	①急性白血病 ②悪性リンパ腫 ③肝癌 ④表在性膀胱癌 ⑤乳癌、卵巣癌、胃癌、尿路上皮癌(腎盂・尿管腫瘍) <他の抗悪性腫瘍薬と併用> ⑥乳癌(手術可能例における術前あるいは術後)	①15mg/m ² /日×5~7日間、後3週間休薬後、これを2~3回繰り返す ②40~60mg/m ² 後3~4週間休薬後、これを3~4回繰り返す ③60mg/m ² 肝動注後3~4週間休薬後、これを3~4回繰り返す ④60mg/m ² 膀注後4日間休薬、これを2~4回繰り返す ⑤60mg/m ² 後3~4週間休薬後、これを3~4回繰り返す ⑥シクロホスファミド、シクロホスファミド・フルオウラシルと併用：100mg/m ² 、1日1回、20日間休薬。これを4~6回繰り返す
		50mg/瓶 ¥10154/瓶		
ファルモルビシン <エピルビシン> 略名：EPI (ファイザー)		10mg/瓶 ¥3811/瓶	①急性白血病 ②悪性リンパ腫 ③肝癌 ④表在性膀胱癌 ⑤乳癌、卵巣癌、胃癌、尿路上皮癌(腎盂・尿管腫瘍) <他の抗悪性腫瘍薬と併用> ⑥乳癌(手術可能例における術前あるいは術後)	①15mg/m ² /日×5~7日間、後3週間休薬後、これを2~3回繰り返す ②40~60mg/m ² 後3~4週間休薬後、これを3~4回繰り返す ③60mg/m ² 肝動注後3~4週間休薬後、これを3~4回繰り返す <肝動脈化学塞栓療法(TACE)の場合> 10mgにエトコト化ケシ油脂肪酸イソステルを0.5~2mLの割合で加え肝動注、60mg/m ² を適宜増減し腫瘍血管に乳濁液が充満した時点で終了 ④60mg/m ² 膀注後4日間休薬、これを2~4回繰り返す ⑤60mg/m ² 後3~4週間休薬後、これを3~4回繰り返す ⑥シクロホスファミド、シクロホスファミド・フルオウラシルと併用：100mg/m ² 、1日1回、20日間休薬。これを4~6回繰り返す
		50mg/瓶 ¥16499/瓶		

■抗癌性抗生物質 ◆マイトマイシン系製剤

マイトマイシン <マイトマイシンC> 略名：MMC (協和発酵キリン)		2mg/瓶 ¥422/瓶	慢性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、頭頸部腫瘍、肺癌、胃癌、膀胱癌、直腸・結腸癌、膀胱腫瘍、乳癌、子宮頸癌、子宮体癌、肝癌	i) 4~6mg×1~2日/週、静注 ii) 2mg/連日静注 iii) 10~30mg×1回/1~3週間 iv) <他の抗悪性腫瘍剤との併用>2~4mg×1~2/週 v) <その他の投与経路>動注、髄腔内、胸・腹腔内2~10mg 膀胱内注入(膀胱腫瘍) <予防>4~10mg/連日 <治療>10~40mg/連日
		10mg/瓶 ¥1936/瓶		

■抗癌性抗生物質 ◆ブレオマイシン系製剤

ブレオ <ブレオマイシン> 略名：BLM (日本化薬)		15mg/瓶 ¥4852/瓶	悪性リンパ腫(ホジキン病、リンパ肉腫、細網肉腫等)、神経膠腫、頭頸部癌(上顎癌、舌癌、口唇癌、咽頭癌、喉頭癌、口口腔癌等)甲状腺癌、肺癌特に原発性・転移性扁平上皮癌)、食道癌、子宮頸癌、子宮体癌、肝癌	15~30mg×2回/週皮下、筋注、静注 5~15mg×2回/週動注 【総投与量300mg以下】
--------------------------------------	--	-------------------	--	--

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性植物成分 ◆植物アルカロイド				
イリノテカン塩酸塩 〈イリノテカン〉 略名：CPT-11 (大鵬)		40mg(2mL)/瓶 ¥2361/瓶	①小細胞肺癌, 非小細胞肺癌, 乳癌, 有棘細胞癌 ②子宮頸癌, 卵巣癌, 胃癌, 結腸・直腸癌 ③悪性リンパ腫(非ホジキンリンパ腫) ④小児悪性固形腫瘍 ⑤治癒切除不能な膀胱癌	①A法:100mg/m ² /日, 1週間間隔で3~4回点静2週間休薬 ②A法またはB法:150mg/m ² /日, 2週間間隔で2~3回点静3週間休薬 ③C法:40mg/m ² /日, 3日間連日, 1週毎2~3回点静, 2週間休薬 ④D法:20mg/m ² /日, 5日間連日, 1週毎2回点静, 1週間休薬 ⑤E法:180mg/m ² /日, 2週間休薬
		100mg(5mL)/瓶 ¥5302/瓶		
エクザール 〈ピンラスチン〉 略名：VLB (日本化薬)		10mg/瓶 【用時購入】 ¥2761/瓶	①悪性リンパ腫, 絨毛性疾患(絨毛癌, 破壊胎状奇胎, 胎状奇胎) ②再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍) ③ランゲルハンス細胞組織球症 ④尿路上皮癌	①0.1mg/kg/週静注を0.05mg/kgずつ増量し, 0.3mg/kg/週 ②0.11mg/kg/日, 2日間静注, 19~26日間休薬 ③<導入療法>6mg/m ² /回静注, 週1 <維持療法>6mg/m ² /回静注, 2~3週毎 ④<M-VAC療法>3mg/m ² /回静注, 4週毎
オンコピン 〈ピンクリスチン〉 略名：VCR (日本化薬)		1mg/瓶 ¥2638/瓶	①白血病(急性白血病, 慢性白血病の急性転化時を含む), 悪性リンパ腫(ホジキン病, リンパ肉腫, 細網肉腫), 小児腫瘍(神経芽腫, 黄紋筋肉腫, ウイルス腫瘍, 睾丸胎児性癌, 血管肉腫等) <他の抗悪性腫瘍薬と併用> ②多発性骨髄腫 ③悪性星細胞種, 乏突起膠腫成分を有する神経膠腫 ④褐色細胞腫	①0.02~0.05mg/kg/週静注 <小児>0.05~0.1mg/kg/週 【Max: 2mg/回】 ②0.4mg/日, 24時間持続静注, 4日間, 17~24日間休薬 ③1.4mg/m ² /回静注, 3週後2回目, 【Max: 2mg/回】 ④1.4mg/m ² /回静注, 3週後2回目 【Max: 2mg/回】
ナベルピン 〈ピノレルピン〉 略名：NVB (協和発酵キリン)		10mg/瓶(1mL) ¥4525/瓶	①非小細胞肺癌 ②手術不能又は再発乳癌	①20~25mg/m ² , 1週間間隔で静注 【Max: 25mg/m ² 】 ②25mg/m ² , 1週間間隔で2週連続投与, 3週目休薬
		40mg/瓶(4mL) ¥16017/瓶		
ハイカムテン 〈ノギテカン〉 (日本化薬)		1.1mg/瓶 ¥8154/瓶	①小細胞肺癌 ②がん化学療法後に増悪した卵巣癌 ③小児悪性固形腫瘍 ④進行又は再発の子宮頸癌	①1.0mg/m ² /日, 5日間連日点静, 16日間休薬 ②1.5mg/m ² /日, 5日間連日点静, 16日間休薬 ③<他の抗悪性腫瘍剤との併用>0.75mg/m ² /日, 5日間連日点静, 16日間休薬 ④<シスプラチンとの併用>0.75mg/m ² /日, 3日間連日点静, 18日間休薬

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗癌性植物成分 ◆タキサン環類【過誤防止のため、一般名ドセタキセル、又はパクリタキセルで処方のこと】				
ドセタキセル <ドセタキセル> 略名：DOC (ドプロ)		20mg(1mL)/瓶 ¥6113/瓶	①乳癌, 非小細胞肺癌, 胃癌, 頭頸部癌 ②卵巣癌 ③前立腺癌 ④食道癌, 子宮体癌	①60mg/m ² /日, 3~4週間間隔で点静 【Max:75mg/m ² 】 ②70mg/m ² /日, 3~4週間間隔で点静 【Max:75mg/m ² 】 ③75mg/m ² /日, 3週間間隔で点静 ④70mg/m ² /日, 3~4週間間隔で点静
		80mg(4mL)/瓶 ¥21454/瓶		
パクリタキセル <パクリタキセル> 略名：PTX (日本化薬)		30mg(5mL)/瓶 ¥3990/瓶	非小細胞肺癌, 子宮体癌(A) 再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍)(他の抗悪性腫瘍剤併用A法) 乳癌(A, B) 卵巣癌(Aまたはカボプラチン併用C法) 胃癌(AまたはE法) 再発または遠隔転移を有する頭頸部癌, 食道癌, 血管肉腫(B) 進行または再発の子宮頸癌(シスプラチン併用D法)	<A>1日1回210mg/m ² , 3時間で点静, 3週間休薬 1日1回100mg/m ² , 1時間で点静, 週1回, 6週連続2週休薬を1ケル <C>1日1回 80mg/m ² , 1時間で点静, 週1回, 3週連続を1ケルとする <D>1日1回135mg/m ² , 24時間で点静, 3週休薬を1ケルとする <E>1日1回80mg/m ² , 1時間で点静, 週1回, 3週連続2週休薬を1ケル
		100mg(16.7mL)/瓶 ¥12412/瓶		
■抗癌性植物成分 ◆タキサン環類 (アルブミン懸濁型)				
アブラキサン <パクリタキセル> 略名：ABI-007 (大鵬)		100mg/瓶 ¥48884/瓶	乳癌(A), 胃癌(A, D) 非小細胞肺癌(B) 治癒切除不能な膵癌(C)	<A>1日1回260mg/m ² , 30分で点静 20日間以上休薬を1ケルとする 1日1回100mg/m ² , 30分で点静 週1回×3週を1ケルとする <C>1日1回125mg/m ² , 30分で点静 週1回×3週, 4週目休薬を1ケルとする <D>1日1回100mg/m ² , 30分で点静 週1回×3週, 4週目休薬を1ケルとする
■抗癌性植物成分 ◆その他				
エトポシド <エトポシド> 略名：VP-16 (サント)		100mg(5mL)/瓶 ¥2698/瓶	①肺小細胞癌, 悪性リンパ腫, 急性白血病, 膀胱癌, 睾丸腫瘍, 絨毛性疾患 ②胚細胞腫瘍(精巣腫瘍, 卵巣腫瘍, 性腺外腫瘍) <他の抗悪性腫瘍剤との併用> ③小児悪性固形腫瘍(ユイグ肉腫ファミリー腫瘍, 横紋筋肉腫, 神経芽腫, 網膜芽腫, 肝芽腫その他肝原発悪性腫瘍, 腎芽腫その他腎原発悪性腫瘍等)	①60~100mg/m ² /日×5日間後3週間休薬 ②<他の抗悪性腫瘍剤との併用>100mg/m ² /日, 5日間, 16日間休薬, これを繰り返す ③100~150mg/m ² /日, 3~5日間3週間休薬, これを繰り返す
ハラヴェン <エリブリン> (エザイ)		1mg/瓶(2mL) ¥65901/瓶	手術不能又は再発乳癌, 悪性軟部腫瘍	1.4mg/m ² , 1週間間隔で2週連続投与, 3週目休薬
ベブシド <エトポシド> 略名：VP-16 (アリストル)	25mg/C ¥698.4/C		①肺小細胞癌 ②悪性リンパ腫 ③子宮頸癌 ④がん化学療法後に増悪した卵巣癌	①A法:175~200mg×5日間, 3週間休薬 ②A法またはB法:50mg×21日間, 1~2週間休薬 ③B法 ④50mg/m ² ×21日, 1週間休薬

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ホルモン製剤				
アリミデックス ＜アナストロゾール＞ 略名：(ARM) (アストラセーカ)	1mg/錠 ¥403.6/錠		閉経後乳癌	1mg分1
アロマシン ＜エキセメスタン＞ 略名：(EXE) (ファイザー)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥384.7/錠			25mg分1
イクスタンジ ＜エンザルタミド＞ (アステラス)	40mg/C ¥2354.1/錠		去勢抵抗性前立腺癌	160mg分1
エストラサイト ＜エストラムスチン＞ 略名：EMP (日本新薬)	156.7mg/C ¥313.8/C		前立腺癌	560mg分2
オクトレオチド酢酸塩 ＜オクトレオチド＞ 略名：SAS (サンド)		100μg(1mL)/管 ¥1229/管	①消化管ホルモン産生腫瘍(VIP産生腫瘍, ガチノイト症候群の特徴を示すガチノイト腫瘍, ガストリン産生腫瘍), 先端巨大症・下垂体性巨人症における成長ホルモン, ソマトジニン分泌過剰状態 ②進行・再発癌患者の緩和医療における消化管閉塞に伴う消化器症状の改善	①100～300μg分2～3皮下 ②300μg/日を24時間持続皮下
オダイン ＜フルタミド＞ 略名：(NK7205) (日本化薬)	125mg/錠 ¥236.7/錠		前立腺癌	375mg分3
カソデックスOD ＜ピカルタミド＞ 略名：CAS (アストラセーカ)	80mg/錠 ¥715/錠			80mg分1
ゴナックス ＜デガレリクス＞ (アステラス)		80mg/瓶 ¥23233/瓶 120mg/瓶 ¥28637/瓶		初回240mg(120mgずつ腹部2カ所に)皮下注 2回目以降80mg皮下注, 4週間毎
ゾラデックス ＜ゴセレリン＞ 略名：ZOL (アストラセーカ)		3.6mg/筒 ¥32954/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌	3.6mg/4週間毎, 前腹部皮下注
ゾラデックスLA ＜ゴセレリン＞ 略名：ZOL (アストラセーカ)		10.8mg/筒 ¥57489/キット		10.8mg/12～13週毎, 前腹部皮下注
ノルバデックス ＜タモキシフェン＞ 略名：TAM (アストラセーカ)	10mg/錠 ¥133.3/錠		乳癌	20mg分1～2

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ヒスロンH <メドロキシプロゲステロン> 略名：MPA (協和発酵キリン)	200mg/錠 ¥236/錠		①乳癌 ②子宮体癌(内膜癌)	①600~1200mg分3 ②400~600mg分2~3
フェアストン <トレミフェン> 略名：TOR (日本化薬)	40mg/錠 ¥302/錠		閉経後乳癌	40~(120)mg分1
フェマーラ <レトロゾール> 略名：RET (中外)	2.5mg/錠 【院外のみ】 ¥505.9/錠			2.5mg分1
リュープリン <リュープロレリン> (武田)		1.88mg/キット ¥26296/キット	子宮筋腫, 子宮内膜症	1.88mg(又は3.75mg)/4週毎, 皮下注
		3.75mg/キット ¥34730/キット	①子宮筋腫, 子宮内膜症 ②前立腺癌, 閉経前乳癌	①1.88mg(又は3.75mg)/4週毎, 皮下注 ②3.75mg/4週毎, 皮下注
リュープリンSR <リュープロレリン> (武田)		11.25mg/キット ¥60958/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌, 球脊髄性筋萎縮症の 進行抑制	11.25mg/12週毎, 皮下注
リュープリンPRO <リュープロレリン> (武田)		22.5mg/キット ¥94108/キット	前立腺癌, 閉経前乳癌	22.5mg/24週毎, 皮下注

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■分子標的治療薬 ◆チロシンキナーゼ阻害薬				
イレッサ 〈ゲフィチニブ〉 略名：(IRESSA) (アストラゼネカ)	250mg/錠 ¥5323.9/錠		EGFR遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌	250mg分1
グリベック 〈イマチニブ〉 略名：(GLI) (バールティス)	100mg/錠 ¥2303.5/錠		①慢性骨髄性白血病 ②KIT(CD117)陽性消化管間質腫瘍 ③71777染色体陽性急性リンパ性白血病 ④FIP1L1-PDGFR α 陽性の好酸球増多症候群,慢性好酸球性白血病	①慢性期400mg分1【Max:600mg分1】 移行期又は急性期600mg分1【Max:800mg分2】 ②400mg分1 ③600mg分1 ④100mg分1【Max:400mg分1】
ジオトリフ 〈アファチニブ〉 (パナソニック・インゲルハイム)	20mg/錠 ¥5574.7/錠 30mg/錠 ¥8142.4/錠 40mg/錠 ¥10715.2/錠		EGFR遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌	1日1回40mg,空腹時【Max:50mg】
タルセバ 〈エルロチニブ〉 (中外)	150mg/錠 ¥10642.6/錠		切除不能な再発・進行性で,がん化学療法施行後に増悪した非小細胞肺癌,EGFR遺伝子変異陽性の切除不能な再発・進行性で,がん化学療法未治療の非小細胞肺癌	150mg分1 【食事の1時間以上前又は食後2時間以降】

■分子標的治療薬 ◆キナーゼ阻害薬

ヴォトリエント 〈バゾパニブ〉 (グラクソスミスクライン)	200mg/錠 【用時購入】 ¥4142.3/錠		①悪性軟部腫瘍 ②根治切除不能又は転移性の腎細胞癌	800mg分1 【食事の1時間以上前又は食後2時間以降】
スチバーガ 〈レゴラフェニブ〉 (バールティス)	40mg/錠 ¥5579.3/錠		治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌,がん化学療法後に増悪した消化管間質腫瘍,がん化学療法後に増悪した切除不能な肝細胞癌	1日1回160mg,3週間連日投与後1週間休薬
レンビマ 〈レンパチニブ〉 (エーザイ)	4mg/C ¥3956.4/C 10mg/C ¥9354.2/C		①根治切除不能な甲状腺癌 ②切除不能な肝細胞癌 根治切除不能な甲状腺癌	①24mg分1 ②体重60kg以上:12mg分1 体重60kg未満:8mg分1 24mg分1

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■分子標的治療薬 ◆モノクローナル抗体				
アドセトリス ＜ブレンツキシマブ ペ ドチン＞ (武田)		50mg/瓶 ¥465701/瓶	再発又は難治性のCD 30陽性のリンパ腫、 未分化大細胞リン パ腫	3週間に1回1.8mg/kg, 点静
アバステン ＜ベバシズマブ＞ (中外)		100mg (4mL) /瓶 ¥41738/瓶	① 治癒切除不能な進 行・再発の結腸・直 腸癌 ② 扁平上皮癌を除く 切除不能な進行・再 発の非小細胞肺癌 ③ 手術不能又は再発 乳癌 ④ 悪性神経膠腫 ⑤ 卵巣癌 ⑥ 進行又は再発の子 宮頸癌	① <他の抗悪性腫瘍薬と併用> 5mg/kgまたは10mg/kg, 点静, 2週間 以上休薬 または7.5mg/kg, 点静, 3週間以上 休薬 ②⑤⑥<他の抗悪性腫瘍薬と併用> 15mg/kg, 点静, 3週間以上休薬 ③<パクリタセル併用> 10mg/kg, 点静, 2週間以上休薬 ④10mg/kg, 点静, 2週間以上休薬 または15mg/kg, 点静, 3週間以上休 薬
		400mg (16mL) /瓶 ¥158942/瓶		
アービタックス ＜セツキシマブ＞ 略名: C225 (メルケロノ)		100mg (20mL) /瓶 【用時購入】 ¥36742/瓶	① EGFR陽性の治癒切 除不能な進行・再発 の結腸・直腸癌 ② 頭頸部癌	<初回>400mg/m ² /回を2時間 <2回目以降>250mg/m ² /回を1時間 1週間間隔で点静
オブジーボ ＜ニボルマブ (遺伝子 組換え)＞ (小野薬品工業)		20mg (2mL) /瓶 ¥57225/瓶	① 根治切除不能な悪 性黒色腫 ② 切除不能な進行・ 再発の非小細胞肺癌 ③ 根治切除不能又は 転移性の腎細胞癌 ④ 再発又は難治性の 古典的ホジキンリン パ腫 ⑤ 再発又は遠隔転移 を有する頭頸部癌 ⑥ がん化学療法後に 増悪した治癒切除不 能な進行・再発の胃 癌	① <化学療法未治療>3mg/kg, 点静, 2 週間間隔 <化学療法既治療>3mg/kg, 点静, 2 週間間隔 または2mg/kg, 点静, 3 週間間隔 ②③④⑤⑥3mg/kg, 点静, 2週間間隔
		100mg (10mL) /瓶 ¥278029/瓶		
カドサイラ ＜トラスツズマブエム タンシン＞ (中外)		100mg/瓶 ¥231532/瓶	HER2陽性の手術不能 又は再発乳癌	1回3.6mg/kg点静, 3週間間隔
		160mg/瓶 ¥368257/瓶		
キイトルーダ ＜ペムプロリズマブ (遺伝子組換え)＞ (MSD)		100mg (4mL) /瓶 ¥364600/瓶	① 根治切除不能な悪 性黒色腫 ② PD-L1陽性の切除 不能な進行・再発の 非小細胞肺癌 ③ 再発又は難治性の 古典的ホジキンリン パ腫 ④ がん化学療法後に 増悪した根治切除不 能な尿路上皮癌	① 2mg/kg/回点静, 3週間間隔 ②③④200mg/回点静, 3週間間隔
サイラムザ ＜ラムシルマブ＞ (日本イライリ)		100mg (10mL) /瓶 ¥75265/瓶	① 治癒切除不能な進 行・再発の胃癌 ② 治癒切除不能な進 行・再発の結腸・直 腸癌 ③ 切除不能な進行・ 再発の非小細胞肺癌	① 1回8mg/kg, 2週間に1回点滴静注 ② <リノリカン塩酸塩水和物, レボ・リナト, フルロウシと併用> 1回8mg/kg, 2週間に1回点滴静注 ③ <トセキセルと併用> 1回10mg/kg, 3週間に1回点滴静注
		500mg (50mL) /瓶 ¥355450/瓶		

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
テセントリク <アテゾリズマブ(遺伝子組換え)> (中外製薬)		1200mg(20mL)/ 瓶 ¥625567/瓶	切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌	1200mg/回, 初回60分, 2回目以降30分で点静, 3週間間隔
パージェタ <ペルツズマブ> (中外)		420mg/瓶 ¥238491/瓶	HER2陽性の手術不能又は再発乳癌	<トラスツマブ>と他の抗悪性腫瘍剤との併用 初回840mg/回, 2回目以降420mg/回, 1回/日, 3週間間隔で点静
ハーセプチン <トラスツズマブ> (中外)		60mg/瓶 ¥19547/瓶	①HER2過剰発現が確認された乳癌(AまたはB) ②HER2過剰発現が確認された治療切除不能な進行・再発の胃癌(B:他の抗悪性腫瘍薬と併用)	<A>初回4mg/kg/回, 2回目以降2mg/kg/回, 1回/日, 1週間間隔で点静 初回8mg/kg/回, 2回目以降6mg/kg/回, 1回/日, 3週間間隔で点静
		150mg/瓶 ¥45512/瓶		
ベクティビックス <パニツムマブ> (武田)		100mg(5mL)/瓶 ¥77726/瓶	KRAS遺伝子野生型の治療切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	6mg/kg/回を60分以上で点静 2週間間隔
リツキサン <リツキシマブ> 略名: RIT (中外)		100mg(10mL)/瓶 ¥32212/瓶	①CD20陽性のB細胞性非ホジキンリンパ腫, 免疫抑制状態下のCD20陽性のB細胞性リンパ増殖性疾患 ②ガングリオン肉芽腫症, 顕微鏡的多発血管炎 ③難治性のワグナー症候群(頻回再発型あるいはステロイド依存性を示す場合) ④ABO血液型不適合腎移植, 肝移植における抗体関連型拒絶反応の抑制 ⑤インジウム(111In)イbritumマブチキタン(遺伝子組換え)注射液及びイットリウム(90Y)イbritumマブチキタン(遺伝子組換え)注射液投与前投与 ⑥慢性特発性血小板減少性紫斑病	①375mg/m ² /回, 点静, 1週間間隔または他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合1サイクルあたり1回【Max: 8回】 維持療法: 375mg/m ² /回, 点静, 8週間間隔を目安【Max: 12回】 ②③375mg/m ² /回, 点静, 1週間間隔, 4回 ④375mg/m ² /回, 点静, 1週間間隔, 4回【Max: 1回500mg】 ④375mg/m ² /回, 点静 腎移植: 移植術2週間前及び1日前に2回 肝移植: 移植術2週間以上前に1回, 1回投与で抗体価又はB細胞数の減少が不十分な場合には, さらに1回追加投与 ⑤250mg/m ² /回, 点静
		500mg(50mL)/瓶 ¥157855/瓶		

■分子標的治療薬 ◆放射標識モノクローナル抗体

ゼヴァリン イットリウム(90Y) <イットリウム(90Y)イbritumマブチキタン> (富士フィルムRIファーマ)		静注用セット ¥2604870/セット	低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫, マントル細胞リンパ腫	14.8MBq/kg(最大1184MBq), 10分かけて静注 患者状態に応じて11.1MBq/kgに減量
ゼヴァリン インジウム(111In) <インジウム(111In)イbritumマブチキタン> (富士フィルムRIファーマ)		静注用セット ¥1838270/セット	イbritumマブチキタン(遺伝子組換え)の集積部位の確認	130MBq, 10分かけて静注

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■分子標的治療薬 ◆CDK4/6阻害薬				
イブランスカプセル <パルボシクリブ> (ファイザー) 投与制限：14日△ (平成30年11月末まで)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥5576.4/錠 125mg/錠 【院外のみ】 ¥22560.3/錠		手術不能又は再発乳癌	内分泌療法剤と併用、125mg/回、分1、3週間連続食後経口投与、その後1週間休薬
■その他 ◆抗造血器悪性腫瘍剤				
ペサノイド <トレチノイン> 略名：ATRA (中外)	10mg/C【用時購入】 ¥672.6/C		急性前骨髄球性白血病	60～80mg (45mg/m ²)分3
ペラゾリン <ソブゾキサソ> 略名：(MST-16) (全薬)	細粒(400mg/包) ¥1741.5/包		悪性リンパ腫、成人T細胞白血病リンパ腫	1600mg分1～2×5日間、後2～3週間休薬これを繰り返す 【Max:2400mg】
ベルケイド <ボルテゾミブ> (ヤンセンファーマ)		3mg/瓶 ¥137285/瓶	①未治療の多発性骨髄腫 ②再発又は難治性の多発性骨髄腫 ③マンタル細胞リンパ腫 ④原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫	①<他の抗悪性腫瘍剤との併用> 1.3mg/m ² /回静注または皮下注×8回(1・4・8・11・22・25・29・32日目)、以後10日間休薬×4サイクル 5サイクル以降1.3mg/m ² /回静注または皮下注×4回(1・8・22・29日目)、以後13日間休薬×9サイクル ②1.3mg/m ² /回静注または皮下注2回/週×2週間(1・4・8・11日目)、以後10日間休薬、これを繰り返すまたは8サイクル以降維持療法として1回/週×4週間(1・8・15・22日目)、以後13日間休薬 ③<他の抗悪性腫瘍剤との併用> 1.3mg/m ² /回静注または皮下注×4回(1・4・8・11日目)、以後10日間休薬×6サイクル ④1.3mg/m ² /回静注または皮下注×4回(1・4・8・11日目)、以後10日間休薬、これを繰り返す
レナデックス <デキサメタゾン> (セルギン)	4mg/錠 ¥171.7/錠		多発性骨髄腫	40mg分1,4日間
レブラミド <レナリドミド> (セルギン)	5mg/C ¥9339.5/C		①多発性骨髄腫 ②5番染色体長腕部欠失を伴う骨髄異形成症候群 ③再発又は難治性の成人T細胞白血病リンパ腫	①25mg分1,21日間連日投与,7日間休薬,これを1サイクルとし繰り返す ②10mg分1,21日間連日投与,7日間休薬,これを1サイクルとし繰り返す ③25mg分1,連日投与
ロイナーゼ <アスパラギナーゼ> 略名：L-ASP (協和発酵キリン)		5000単位/瓶 【用時購入】 ¥2085/瓶	急性白血病(慢性骨髄性白血病の急性転化を含む),悪性リンパ腫	<静脈内投与> 50～200単位/kg/日,連日・隔日 <筋肉内投与> 10000単位/m ² /日,週3回または25000単位/m ² /日,週1回

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イムノブラダー 〈乾燥BCG〉 (日本ビーズジー)		40mg/瓶 ¥8340/瓶	表在性膀胱癌 膀胱上皮内癌	1回80mg/週, 膀胱内注入8週間繰り返す
塩酸プロカルバジン 〈プロカルバジン〉 略名: PCZ (中外)	50mg/C【用時 購入】 ¥368.3/C		①悪性リンパ腫(ホジキン病, 細網肉腫, リンパ肉腫) 〈他の抗悪性腫瘍薬との併用〉 ②悪性星細胞腫, 乏突起膠腫成分を有する神経膠腫	①150~300mg分3 【総投与量5~7g】 ②60~75mg/m ² /日, 分1~3, 14日間, 6~8週毎繰り返す
サビーン 〈デクスラゾキサン〉 (キッセイ)		500mg/瓶 ¥45593/瓶	アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出	1日1回, 3日間連続, 1~2時間かけて静注 1~2日目: 1000mg/m ² 【Max: 2000mg】 3日目: 500mg/m ² 【Max: 1000mg】 血管外漏出後6時間以内に可能な限り速やかに投与開始, 2日目及び3日目は投与1日目と同時刻に投与を開始
無水エタノール 〈無水エタノール〉 (扶桑)		5mL/管	肝細胞癌における経皮的エタノール注入療法	腫瘍体積により決定する。 【Max: 10mL/日】
ラスリテック 〈ラスブリカーゼ〉 (サノイ)		7.5mg/管(溶解液5mL付) ¥51365/瓶	がん化学療法に伴う高尿酸血症	0.2mg/kg分1, 30分以上かけて点静

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫療法剤 ◆インターフェロン製剤				
スミフェロンDS <インターフェロン- α> (大日本住友)		300万国際単位/ 筒 ¥6549/キット	①腎癌, 多発性骨髄腫, ハリ-細胞白血病, 慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中HCV RNA量が高い場合を除く) ④C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(セログループ1の血中HCV RNA量が高い場合を除く) ⑤亜急性硬化性全脳炎におけるインシプラハクスとの併用による臨床症状の進展抑制 ⑥HTLV-I脊椎症(HAM)	①300~600万単位/日皮下, 筋注 ②300~600万単位/日皮下, 筋注 ③300~900万単位/日連日または週3回皮下, 筋注 ④600万単位/日連日2週間まで, 以後300~600万単位/日週3回皮下, 筋注 ⑤100~300万単位/日週1~3回髄腔内(脳室内を含む)投与(インシプラハクス併用) ⑥300万単位/日皮下, 筋注
		600万国際単位/ 筒 ¥12424/キット	①腎癌, 多発性骨髄腫, ハリ-細胞白血病, 慢性骨髄性白血病 ②HBe抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ③C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善(血中HCV RNA量が高い場合を除く) ④C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(セログループ1の血中HCV RNA量が高い場合を除く)	①300~600万単位/日皮下, 筋注 ②300~600万単位/日皮下, 筋注 ③300~900万単位/日連日または週3回皮下, 筋注 ④600万単位/日連日2週間まで, 以後300~600万単位/日週3回皮下, 筋注

抗悪性腫瘍薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫療法剤 ◆その他				
ピシバニール ＜ピシバニール＞ 略名：OK-432 (中外)		1KE/瓶(溶解液2 mL付) ¥4698/瓶	①胃癌(手術例)患者・ 原発性肺癌患者に おける化学療法との 併用による生存期間 の延長 ②消化器癌患者・肺 癌患者における癌性 胸・腹水の減少 ③他剤無効の頭頸部 癌(上顎癌, 喉頭癌, 咽頭癌, 舌癌), 甲状 腺癌 ④リンパ管腫	①初回0.2～0.5KEで連日・隔日2～3 週間かけて2～5KE維持量2～5KE/回, 1～2回/週, 筋注, 皮下 ②5～10KE/回, 1～2回/週, 漿膜腔内 投与 ③5～10KE/回/連日～数日毎, 腫瘍内 ・腫瘍周辺部注入 ④吸引リンパ管腫液量と同量の0.05～ 0.1KE/mL懸濁溶液を局注 【Max:2KE/回】
		5KE/瓶(溶解液2 mL付) ¥10442/瓶		
ユーゼル ＜ホリナートカルシウ ム＞ 略名：LV (大鵬)	25mg/錠 ¥1716.1/錠		結腸・直腸癌に対す るフル・ウシルの抗 腫瘍効果の増強	75mg分3(約8時間ごと)に28日間連日 投与, その後7日間休薬 ＜ホリナート・フル・ウシル療法＞ 【DI照会参照】
ユニタルク ＜タルク＞ (ノーベルファーマ)		4g/瓶 ¥7105/瓶	悪性胸水の再貯留抑 制	4gを生食50mLで懸濁し胸膜腔内注入
レボホリナート ＜レボホリナート＞ 略名：L-LV (日本化薬)		25mg/瓶 ¥787/瓶	①レボホリナート・フルオウシ ル療法:胃癌, 結腸, 直 腸癌に対するフルオウ シルの抗腫瘍効果の増 強 ②レボホリナート・フルオウシ ル持続静注併用療法: 結腸・直腸癌及び治 癒切除不能な膵癌に 対するフルオウシルの抗 腫瘍効果の増強	①250mg/m ² 2hr点静 開始1hr後5FU600mg/m ² 静注 1回/1週6週間連続2週間休薬を1ケル とする ②【DI照会参照】
		100mg/瓶 ¥2693/瓶		
ロイコボリン ＜ホリナートカルシウ ム＞ 略名：LV (ファイザー)		3mg(1mL)/管 ¥405/管	葉酸代謝拮抗剤の毒 性軽減	＜メトキサート通常療法・CMF療法・メトキサ ート慢性関節リウマチ療法, M-VAC療法＞ 24～48mg分4筋注 ＜メトキサート・ロイコボリン救援療法&メトキサ ート・フルオウシル交代療法＞ 【DI照会参照】

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考	
外用	ウブレチド点眼液	0.5% 5ml/本		毒薬	限定	
	ギリアデル脳内留置用剤	7.7mg	抗癌剤		限定	
内用	アイクルシグ錠	15mg	抗癌剤		限定	
	アフィニトール錠	2.5mg	抗癌剤		限定	
		5mg	抗癌剤		限定	
	アフィニトール分散錠	2mg	抗癌剤		限定	
		3mg	抗癌剤		限定	
	アミオダロン錠	50mg			毒薬	
		100mg			毒薬	
	アリミデックス錠	1mg	抗癌剤			
	アルケラン錠	2mg	抗癌剤	毒薬		
	アレセンサカプセル	20mg	抗癌剤			限定
		40mg	抗癌剤			限定
		150mg	抗癌剤			限定
	アロマシン錠	25mg	抗癌剤			
	イクスタンジカプセル	40mg	抗癌剤			
	イブランスカプセル	25mg	抗癌剤			
		125mg	抗癌剤			
	イムブルビカカプセル	140mg	抗癌剤			限定
	イレッサ錠	250mg	抗癌剤			
	インライタ錠	1mg	抗癌剤			限定
		5mg	抗癌剤			限定
	ヴォトリエント錠	200mg	抗癌剤			
	ウブレチド錠	5mg			毒薬	
	エストラサイトカ [®] セル	156.7mg	抗癌剤			
	エンドキサン錠	50mg	抗癌剤			
	オダイン錠	125mg	抗癌剤			
	カソデックスOD錠	80mg	抗癌剤			
	グリベック錠	100mg	抗癌剤			
	ザイティガ錠	250mg	抗癌剤			限定
	ザーコリカプセル	200mg	抗癌剤			限定
		250mg	抗癌剤			限定
	サレドカ [®] セル	25mg	抗癌剤		毒薬	限定
		50mg	抗癌剤		毒薬	限定
100mg		抗癌剤		毒薬	限定	
ジオトリフ錠	20mg	抗癌剤			限定	
	30mg	抗癌剤			限定	
	40mg	抗癌剤			限定	
	50mg	抗癌剤			限定	
ジャカビ錠	5mg	抗癌剤			限定	
スタラシドカ [®] セル	100mg	抗癌剤				
ステバーガ錠	40mg	抗癌剤				
スーテントカ [®] セル	12.5mg	抗癌剤			限定	
スプリセルカ [®] セル	20mg	抗癌剤			限定	
	50mg	抗癌剤			限定	
ゼローダ錠	300mg	抗癌剤				
ゾリンザカプセル	100mg	抗癌剤			限定	
タイケルブ錠	250mg	抗癌剤			限定	
	250mg	抗癌剤			限定	
タグリッソ錠	40mg	抗癌剤			限定	
	80mg	抗癌剤			限定	
タシグナカ [®] セル	150mg	抗癌剤			限定	
	200mg	抗癌剤			限定	

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
54	タルセバ錠	25mg	抗癌剤		限定
55		100mg	抗癌剤		限定
56		150mg	抗癌剤		
57	ティーエスワンOD錠	20mg	抗癌剤		
58		25mg	抗癌剤		
59	ティーエスワンカ ^o セル	20mg	抗癌剤		
60		25mg	抗癌剤		
61	ティーエスワン顆粒	20mg	抗癌剤		限定
62		25mg	抗癌剤		限定
63	テモゾロミド錠	20mg	抗癌剤	毒薬	
64		100mg	抗癌剤	毒薬	
65	ニンラーロカプセル	2.3mg	抗癌剤	毒薬	限定
66		3mg	抗癌剤	毒薬	限定
67		4mg	抗癌剤	毒薬	限定
68	ネクサバール錠	200mg	抗癌剤		限定
69	ノルバデックス錠	10mg	抗癌剤		
70	ハイドレアカ ^o セル	500mg	抗癌剤		
71	バリキサ錠	450mg		毒薬	限定
72	ヒスロンH錠	200mg	抗癌剤		
73	ファリーダックカプセル	10mg	抗癌剤		限定
74		15mg	抗癌剤		限定
75	フェアストーン錠	40mg	抗癌剤		
76	フェマーラ錠	2.5mg	抗癌剤		
77	フルダラ錠	10mg	抗癌剤		限定
78	フルツロンカ ^o セル	200mg	抗癌剤		限定
79	塩酸プロカルバジンカ ^o セル	50mg	抗癌剤		
80	プロスタール錠	25mg	抗癌剤		
81	ベサノイドカ ^o セル	10mg	抗癌剤		
82	ベプシドカ ^o セル	25mg	抗癌剤		
83	ペラゾリン細粒	400mg/包	抗癌剤		
84	ボシュリフ錠	100mg	抗癌剤		限定
85	ポマリストカ ^o セル	1mg	抗癌剤	毒薬	限定
86		2mg	抗癌剤	毒薬	限定
87		4mg	抗癌剤	毒薬	限定
88	マブリン散	1%	抗癌剤		限定
89	ムンデシンカプセル	100mg	抗癌剤		限定
90	メソトレキセート錠	2.5mg	抗癌剤		
91	ユーエフティカ ^o セル	100mg	抗癌剤		
92	ユーエフティE顆粒	200mg/包	抗癌剤		
93	レブラミドカ ^o セル	5mg	抗癌剤	毒薬	
94	レンビマカプセル	4mg	抗癌剤		限定
95		10mg	抗癌剤		限定
96	ロイケリン散	10%	抗癌剤		限定
97	ロンサーフ配合錠	15mg	抗癌剤		
98		20mg	抗癌剤		
99	動注用アイエーコール	50mg	抗癌剤	毒薬	限定
100		100mg	抗癌剤	毒薬	限定
101	アクプラ静注用	50mg	抗癌剤	毒薬	
102		100mg	抗癌剤	毒薬	
103	アクラシノン注射用	20mg	抗癌剤		
104	アーゼラ点滴静注液	100mg	抗癌剤		限定
105		1000mg	抗癌剤		限定
106	アデル点点滴静注用	10mg		毒薬	限定

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
107	アドセトリス点滴静注用	50mg	抗癌剤		
108	アドリアシン注	10mg	抗癌剤		
109		50mg	抗癌剤		
110	アバスチン点滴静注用	100mg	抗癌剤		
111		400mg	抗癌剤		
112	アービタックス注射液	100mg	抗癌剤		
113	アブラキサン点滴静注用	100mg	抗癌剤	毒薬	
114	アムビゾーム点滴静注用	50mg		毒薬	限定
115	アリムタ注射用	100mg	抗癌剤		
116		500mg	抗癌剤		
117	アルケラン静注用	50mg	抗癌剤	毒薬	限定
118	イダマイシン静注用	5mg	抗癌剤	毒薬	
119	注射用イホマイド注	1g	抗癌剤		
120	イムシスト膀胱注用	81mg	抗癌剤		限定
121	イムノブラダー膀胱注用	40mg	抗癌剤		
122	イムノマックス-γ注	100万単位	抗癌剤		限定
123		300万単位	抗癌剤		限定
124	イリノテカン塩酸塩点滴静注液「タイホウ」	100mg	抗癌剤		
125		40mg	抗癌剤		
126	イントロンA注射用	300万単位	抗癌剤		限定
127		600万単位	抗癌剤		限定
128	エクザール注射用	10mg	抗癌剤		
129	エトポシド点滴静注液「サンド」	100mg	抗癌剤		
130	エピルビシン塩酸塩注射用「NK」	10mg	抗癌剤		
131		50mg	抗癌剤		
132	エムプリシティ点滴静注用	300mg	抗癌剤		限定
133		400mg	抗癌剤		限定
134	注射用エンドキサン注	100mg	抗癌剤		
135		500mg	抗癌剤		
136	オキサリプラチン点滴静注液「ホスピラ」	50mg	抗癌剤	毒薬	
137		100mg	抗癌剤	毒薬	
138		200mg	抗癌剤	毒薬	
139	オクトレオチド酢酸塩皮下注	100μg	抗癌剤		
140	オブジーボ点滴静注	20mg	抗癌剤		
141		100mg	抗癌剤		
142	オンコビン注射用	1mg	抗癌剤		
143	カイプロリス点滴静注用	10mg	抗癌剤	毒薬	限定
144		40mg	抗癌剤	毒薬	限定
145	カドサイラ点滴静注用	100mg	抗癌剤		
146		160mg	抗癌剤		
147	カルセド注射用	20mg	抗癌剤		
148		50mg	抗癌剤		
149	カルボプラチン注射液「日医工」	150mg	抗癌剤	毒薬	
150		450mg	抗癌剤	毒薬	
151		50mg	抗癌剤	毒薬	
152	キイトルーダ点滴静注	100mg	抗癌剤		
153		20mg	抗癌剤		限定
154	キロサイド注	20mg	抗癌剤		
155		40mg	抗癌剤		
156		200mg	抗癌剤		
157	キロサイドN注	400mg	抗癌剤		
158		1g	抗癌剤		

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
159	ゲムシタビン点滴静注用「ヤクルト」	1000mg	抗癌剤		
160		200mg	抗癌剤		
161	コスメゲン静注用	0.5mg	抗癌剤		限定
162	コホリン注用	7.5mg	抗癌剤		限定
163	ゴナックス皮下注用	120mg	抗癌剤		
164		80mg	抗癌剤		
165	注射用サイメリン	50mg	抗癌剤		
166	サイラムザ点滴静注液	100mg	抗癌剤		
167		500mg	抗癌剤		
168	ジェブタナ点滴静注	60mg	抗癌剤	毒薬	限定
169	シスプラチン点滴静注「マルコ」	10mg	抗癌剤	毒薬	
170		25mg	抗癌剤	毒薬	
171		50mg	抗癌剤	毒薬	
172	ジフォルタ注射液	20mg	抗癌剤		限定
173	スキサメトニウム注	100mg		毒薬	
174	スミフェロンDS注	300万単位	抗癌剤		
175		600万単位	抗癌剤		
176	セグァリン イヅウム(111In) 静注用セット		抗癌剤		
177	セグァリン イットリウム(90Y) 静注用セット		抗癌剤		
178	ゾラデックスLAデポ	10.8mg	抗癌剤		限定
179	ゾラデックス・デポ	3.6mg	抗癌剤		
180	ダウノマイシン静注用	20mg	抗癌剤		
181	ダカルバジン注用	100mg	抗癌剤		
182	ダラザレックス点滴静注	100mg	抗癌剤		限定
183		400mg	抗癌剤		限定
184	デノシン点滴静注用	500mg		毒薬	限定
185	テモダール点滴静注用	100mg	抗癌剤	毒薬	限定
186	ドキシル注	20mg	抗癌剤		
187	ドセタキセル点滴静注「ニプロ」	20mg	抗癌剤	毒薬	
188		80mg	抗癌剤	毒薬	
189	トリセノックス注	10mg	抗癌剤	毒薬	限定
190	トーリセル点滴静注	25mg	抗癌剤		限定
191	トレアキシン点滴静注用	100mg	抗癌剤		限定
192		25mg	抗癌剤		限定
193	ナベルビン注	10mg	抗癌剤	毒薬	
194		40mg	抗癌剤	毒薬	
195	ニトプロ持続静注用	6mg		毒薬	
196	ノバントロン注	10mg	抗癌剤	毒薬	
197	ハイカムチン注射用	1.1mg	抗癌剤		
198	パクリタキセル注「NK」	100mg	抗癌剤	毒薬	
199		30mg	抗癌剤	毒薬	
200	ハーセプチン注射用	60mg	抗癌剤		
201		150mg	抗癌剤		
202	ハラヴェン静注	1mg	抗癌剤	毒薬	
203	パージェタ点滴静注	420mg	抗癌剤		
204	ピシバニール注射用	1KE	抗癌剤		
205		5KE	抗癌剤		
206	ビダーザ注射用	100mg	抗癌剤		
207	ピノルビン注射用	10mg	抗癌剤		
208		20mg	抗癌剤		
209		30mg	抗癌剤		
210	フェソロデックス筋注	250mg	抗癌剤		限定

抗癌剤・毒薬など規制医薬品リスト

剤形	医薬品名	規格	抗癌剤	毒薬	備考
211	5-FU注	250mg	抗癌剤		
212		1000mg	抗癌剤		
213	フィルデシン注	1mg	抗癌剤		
214		3mg	抗癌剤		
215	フェロン注射用	100万単位	抗癌剤		限定
216		300万単位	抗癌剤		限定
217		600万単位	抗癌剤		限定
218	ブスルフェクス点滴静注用	60mg	抗癌剤		限定
219	フルダラ静注用	50mg	抗癌剤		
220	ブレオ注射用	15mg	抗癌剤		
221	ベクティビックス点滴静注	100mg	抗癌剤		限定
222	ベクロニウム静注用	4mg		毒薬	
223	ベルケイド注射用	3mg	抗癌剤	毒薬	限定
224	点滴静注用ホスカビル注	6000mg		毒薬	限定
225	ポテリジオ点滴静注	20mg	抗癌剤		限定
226	ボトックス注用	50単位		毒薬	限定
227		100単位		毒薬	限定
228	マイトマイシン注用	2mg	抗癌剤		
229		10mg	抗癌剤	毒薬	
230	マブキャンパス点滴静注	30mg	抗癌剤		限定
231	ミリプラ動注用	70mg	抗癌剤		
232	注射用メソトレキセート	5mg	抗癌剤		
233		50mg	抗癌剤		
234	メソトレキセート点滴静注液	200mg	抗癌剤		
235		1000mg	抗癌剤		
236	ヤーボイ点滴静注液	50mg	抗癌剤		限定
237	リツキサン注	100mg	抗癌剤		
238		500mg	抗癌剤		
239	リツキシマブBS点滴静注「KHK」	100mg	抗癌剤		限定
240		500mg	抗癌剤		限定
241	リュープリン注射用キット	3.75mg	抗癌剤		
242		1.88mg	抗癌剤		
243	リュープリンPRO注射用キット	22.5mg	抗癌剤		
244	リュープリンSR注射用キット	11.25mg	抗癌剤		
245	ロイスタチン注	8mg	抗癌剤		限定
246	ロイナーゼ注用	5000KU	抗癌剤		
247	ロクロニウム臭化物静注液「マルイシ」	50mg		毒薬	

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■MRSA用薬 ☆初回投与時は、「MRSA治療報告書」を提出して下さい。					
キュピシン <ダプトマイシン> (MSD)		350mg/瓶 ¥13530/瓶	①6mg/kg, 24時間毎, 30分かけて点静 または緩徐に静注 ②4mg/kg, 24時間毎, 30分かけて点静 または緩徐に静注	①敗血症, 感染性心内膜炎 ②深在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創 等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感染	メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)
ザイボックス <リネゾリド> 略名: LZD (ファイザー)		600mg (300mL) /袋 ¥14042/袋	1回600mg1日2回12時間毎 <12歳未満の小児>1回10mg/kg8時間 毎【Max: 1回600mg】	①敗血症, 深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 外 傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎②各種 感染症	①メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) ②ハンコ マイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム (VRE)
テイコプラニン <テイコプラニン> 略名: TEIC (ニッポ)		200mg/瓶 ¥2141/瓶	初日400mg又は800mg, 分2点静 以後200mg又は400mg, 分1点静 <乳児・小児>10mg/kgを12時間間隔で 3回 以後6~10mg/kgを24時間毎に30分か けて点静 <新生児>初回16mg/kg, 以後8mg/kgを 24時間毎に30分以上かけて点静	敗血症, 深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 外傷・ 熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎, 膿胸, 慢 性呼吸器病変の二次感染	メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)
ハベカシン <アルベカシン> 略名: ABK (明治)		100mg (2mL) / 管 ¥4543/管	150~200mg, 分1(分2も可)点静, 筋注 <小児>4~6mg/kg/日, 分1(分2も可) 点静	敗血症, 肺炎	メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)
塩酸バンコマイシン <バンコマイシン> 略名: VCM (Meiji Seika)		0.5g/瓶 ¥823/瓶 1g/瓶 ¥1096/瓶	2g, 分2~4点静 <小, 幼児>40mg/kg/日, 分2~4 <新生児>1週迄20~30mg/kg/日, 分2 1ヵ月迄30~45mg/kg/日, 分2 (必ず60分以上かけて点静)	敗血症, 感染性心内膜炎, 外傷・熱傷及び手術 創等の二次感染, 骨髄炎, 関節炎, 肺炎, 肺膿 瘍, 膿胸, 腹膜炎, 化膿性髄膜炎	①メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) ②メチリン耐性コアグラーゼ陰性ブドウ球菌 (MRC NS) ③ハモニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) ④MRSA又はMRCNS感染が疑われる発熱性 好中球減少症
塩酸バンコマイシン <バンコマイシン> 略名: VCM (オノキ)	500mg/瓶 ¥2536.6/瓶		消化管内殺菌: 2~3g, 分4~6 MRSA・C.テトラシクル腸炎: 0.5~2g, 分4	感染性腸炎(偽膜性大腸炎を含む)	メチリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA), クロストリッ ウム・テトラシクル

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■ペニシリン系					
アモキシシリン ＜アモキシシリン＞ 略名：AMPC (東和薬品)	250mg/C ¥8.6/C		750～1000mg, 分3～4 ＜小児＞20～40mg/kg/日, 分3～4 【Max: 90mg/kg】 ヘリコバクター・ピロリ除菌の補助 【D-2 参照】	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感染, 乳腺炎, 骨髄炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 淋菌感染症, 梅毒, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 涙囊炎, 麦粒腫, 中耳炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎, 猩紅熱, 胃潰瘍・十二指腸潰瘍MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃におけるヘリコバクター・ピロリ感染症, ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎	ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, 大腸菌, プロテウス・ミドリリス, インフルエンザ菌, ヘリコバクター・ピロリ, 梅毒トレポネマ
オーグメンチン ＜アモキシシリン, クラバン酸カリウム＞ (グラクソ・スミスクライン)	375mg/錠 ¥36.1/錠		1回1錠, 1日3～4回6～8時間毎	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 淋菌感染症, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 中耳炎	ブドウ球菌属, 淋菌, 大腸菌, クレブシエラ属, プロテウス属, インフルエンザ菌, バクテロイデス属, プレシテラ属(プレシテラ・ヒビアを除く)
スルバシリン ＜アンピシリン, スルバクタム＞ 略名：ABPC/SBT (Meiji Seika)		0.75g/瓶 ¥256/瓶 1.5g/瓶 ¥294/瓶	①6g, 分2静注, 点静 【Max: 1回3g1日4回(12g/日)(重症感染症の場合)】 ②3g, 分2静注, 点静 ＜小児＞60～150mg, 分3～4静注, 点静	①肺炎, 肺膿瘍, 腹膜炎 ②膀胱炎	ブドウ球菌属, 大腸菌, プロテウス属, インフルエンザ菌
タゾピペ ＜タゾバクタム, ピペラシリン＞ 略名：TAZ/PIPC (Meiji Seikaファルマ)		2.25g＜タゾバクタム0.25g, ピペラシリン2.0g＞ ¥685/瓶 4.5g＜タゾバクタム0.5g, ピペラシリン4.0g＞ ¥1015/瓶	①1回4.5g1日3回点静又は静注 肺炎: 1回4.5g1日3～4回 ＜小児＞112.5mg/kg/回, 1日3回点静又は静注 【小児Max: 4.5g/回】 ②1回4.5g1日2～3回点静又は静注 ＜小児＞112.5mg/kg/回, 1日2～3回点静又は静注 【小児Max: 4.5g/回】 ③1回4.5g1日4回点静又は静注 ＜小児＞90mg/kg/回, 1日4回点静又は静注 【小児Max: 4.5g/回】	①敗血症, 肺炎, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎及び胆管炎 ②腎盂腎炎, 複雑性膀胱炎 ③発熱性好中球減少症	ブドウ球菌属, レイネ球菌属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(フランハム)・カタールリス, 大腸菌, シロバクター属, クレブシエラ属, エンテロバクター属, セリチア属, プロテウス属, プロピテツシア属, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシトバクター属, ヘクトストレプトコッカス属, クロストリジウム属(クロストリジウム・デフィシルを除く), バクテロイデス属, プレシテラ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ピクシリン <アンピシリン> 略名：ABPC (明治)		0.25g/瓶 ¥151/瓶	250mg～1000mg/回を1日2～4回筋注 1～2g/日,分1～2静注 1～4g/日,分1～2点静 <小児>100～200mg/kg/日,分3～分4 静注,点静【Max:400mg/kg/日】 <新生児>50～200mg/kg/日,分2～4静 注,点静	敗血症,感染性心内膜炎,表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ節炎,慢性膿 皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,乳 腺炎,骨髄炎,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管 支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二 次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,淋菌感染症,腹膜 炎,肝膿瘍,感染性腸炎,子宮内感染,化膿性髄 膜炎,眼瞼膿瘍,角膜炎(角膜潰瘍を含む),中 耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎 炎,抜歯創・口腔手術創の二次感染,猩紅熱,炭 疽,放線菌症	グトウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,腸球 菌属,淋菌,髄膜炎菌,炭疽菌,放線菌,大 腸菌,赤痢菌,フドウ・ミドリシ,インフルエン 菌,リステリア・モノサイトゲータ
		0.5g/瓶 ¥219/瓶			
		1g/瓶 ¥353/瓶			
ペニシリンG <ベンジルペニシリン > 略名：PCG (明治)		100万単位/瓶 ¥317/瓶	①1回30～60万単位,1日2～4回筋注 ②1回400万単位,1日6回点静 ③1回400万単位,1日6回点静 【Max:500単位/回,3000万単位/日】 ④1回300～400万単位,1日6回点静	①敗血症,表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リンパ管 ・リンパ節炎,乳腺炎,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎, 肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,淋菌感 染症,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱,炭疽,ジフテリア(抗毒素併 用),鼠咬症,破傷風(抗毒素併用),ガス壊疽(抗毒素併 用),放線菌症,回帰熱,ワイル病 ②化膿性髄膜炎 ③感染性心内膜炎 ④梅毒	グトウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,腸球 菌属,淋菌,髄膜炎菌,ジフテリア菌,炭疽菌, 放線菌,破傷風菌,ガス壊疽菌群,回帰熱ホ レリア,ワイル病プロトセラ,鼠咬症スピリルム,梅毒ト レボネマ
ペントシリン <ペペラシリン> 略名：PIPC (大正富山)		1g/瓶 ¥388/瓶 2g/瓶 ¥648/瓶	2～4g,分2～4静注または筋注 【Max:1回4g,1日4回(難治性または 重症感染症)】 <小児>50～125mg/kg/日,分2～4静注 【Max:300mg/kg,分3(難治性または 重症感染症)】	敗血症,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢 性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎, 胆嚢炎,胆管炎,パルチン腺炎,子宮内感染,子宮 付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎	グトウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,腸球 菌属,大腸菌,シロバクテラ属,肺炎桿菌,インテ ロバクテラ属,セラチア属,フドウ属,モルガネ ー,プロテソニア属,インフルエン菌,緑膿菌,バク テロイデス属,プロテラ属(プロテラヒビアを除 く)
ユナシン <スルタミシリン> 略名：SBTPC (ファイザー)	375mg/錠 ¥53.2/錠		750～1125mg,分2～3	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リンパ管・リン パ節炎,慢性膿皮症,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気 管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎,腎盂腎炎,淋菌感染症,子宮内感染,涙嚢 炎,角膜炎(角膜潰瘍を含む),中耳炎,副鼻腔炎	グトウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,腸球 菌属,淋菌,大腸菌,フドウ・ミドリシ,インフル ン菌
ワイドシリン <アモキシシリン> 略名：AMPC (Meiji Seikaファル マ)	細粒(200mg/ g) ¥12.7/g		750～1000mg,分3～4 <小児>20～40mg/kg/日,分3～4 【Max:90mg/kg】 ヘルコバクター・ヒトリの除菌の補助 【D-2 参照】	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ 節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,び らん・潰瘍の二次感染,乳腺炎,骨髄炎,咽頭・喉頭炎,扁 桃炎,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),精巣上体 炎(副睾丸炎),淋菌感染症,梅毒,子宮内感染,子宮付属 器炎,子宮旁結合織炎,涙嚢炎,麦粒腫,中耳炎,歯周組織 炎,歯冠周囲炎,顎炎,猩紅熱,胃潰瘍・十二指腸潰瘍にお けるヘルコバクター・ヒトリ感染症	グトウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,腸球 菌属,淋菌,大腸菌,フドウ・ミドリシ,インフル ン菌,ヘルコバクター・ヒトリ,梅毒トレボネマ

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■セフェム系 第1世代					
ケフラール <セファクロル> 略名：CCL (共和薬品工業)	250mg/C ¥53.7/C		750～1500mg, 分3	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 麦粒腫, 中耳炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎, 猩紅熱	ブドウ球菌属, レイ球菌属, 肺炎球菌, 大腸菌, クレブシエラ属, プロテウス・ミラビリス, インフルエンザ菌
	細粒(100mg/g) ¥43.5/g		<小児>20～40mg/kg/日, 分3		
セファゾリン <セファゾリン> 略名：CEZ (日医工)		0.5g/瓶 ¥97/瓶	1～3g, 分2～3筋注, 静注, 点静 <小児>20～40～(100)mg/kg/日 分2～3筋注, 静注, 点静	敗血症, 感染性心内膜炎, 表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感染, 乳腺炎, 骨髄炎, 関節炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトルン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 眼内炎(全眼球炎を含む)中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎	ブドウ球菌属, レイ球菌属, 肺炎球菌, 大腸菌, 肺炎桿菌, プロテウス・ミラビリス, プロピテソニア属
		1g/瓶 ¥109/瓶			
■セフェム系 第2世代					
セフメタゾールNa <セフメタゾール> 略名：CMZ (日医工)		0.25g/瓶 ¥95/瓶	1～2～(4)g, 分2～4静注, 点静 <小児>25～100～(150)mg/kg/日, 分2～4静注, 点静	敗血症, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトルン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎	黄色ブドウ球菌, 大腸菌, 肺炎桿菌, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, プロピテソニア属, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属, プレオテラ属(プレオテラ・ビビアを除く)
		0.5g/瓶 ¥143/瓶			
		1g/瓶 ¥246/瓶			
フルマリン <フロモキシセフ> 略名：FMOX (オノキ)		1g/瓶 ¥1263/瓶	1～2～(4)g分2～4静注, 点静 <小児>60～80～(150)mg/kg/日分3～4静注, 点静 <未熟児, 新生児> 生後3日まで40～60～(150)mg/kg/日 分2～3～(4)静注, 点静 生後4日以降60～80～(150)mg/kg/日 分3～4静注, 点静	敗血症, 感染性心内膜炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 尿道炎, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトルン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 中耳炎, 副鼻腔炎	ブドウ球菌属, レイ球菌属, 肺炎球菌, 淋菌, モラクセラ(プランハダ)・カテラリス, 大腸菌, クレブシエラ属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, プロピテソニア属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属, プレオテラ属(プレオテラ・ビビアを除く)
■セフェム系 第3世代					
クラフォラン <セフトキシム> 略名：CTX (サノア)		500mg/瓶 ¥510/瓶	1～2g, 分2静注または筋注 【Max: 4g, 分2～4】 <小児> 50～100mg/kg/日, 分3～4静注 【Max: 150mg/kg】 化膿性髄膜炎300mg/kg/日	敗血症, 感染性心内膜炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトルン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 化膿性髄膜炎	レイ球菌属, 肺炎球菌, 大腸菌, シロハカテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セリア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニ, プロピテソニア属, インフルエンザ菌, ペプトストレプトコッカス属, ハクテロイテス属
		1g/瓶 ¥745/瓶			

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
セフカペンピボキシル ＜セフカペンピボキシル＞ 略名：CFPN-PI (東和薬品)	細粒(100mg/g) ¥96.5/g		300mg,分3【Max:150mg/回】 ＜小児＞9mg/kg/日,分3	＜成人＞表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リハ管・リハ節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,尿道炎,子宮頸管炎,胆嚢炎,胆管炎,バルトリン腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,涙嚢炎,麦粒腫,睑板腺炎,外耳炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎 ＜小児＞表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リハ管・リハ節炎,慢性膿皮症,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,膀胱炎,腎盂腎炎,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱	＜成人＞ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,淋菌,モクセラ(ブランハメラ)・カタールリス,大腸菌,シロハクター属,クレブシエラ属,エンテロハクター属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロピテツシア属,インフルエンザ菌,ヘプトストレプトコッカス属,ハクトロイテス属,フレボテラ属(フレボテラ・ビビアを除く),アクネ菌 ＜小児＞ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モクセラ(ブランハメラ)・カタールリス,大腸菌,シロハクター属,クレブシエラ属,エンテロハクター属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロピテツシア属,インフルエンザ菌,ヘプトストレプトコッカス属,ハクトロイテス属,フレボテラ属(フレボテラ・ビビアを除く),アクネ菌
	100mg/錠 ¥28/錠			表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リハ管・リハ節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,尿道炎,子宮頸管炎,胆嚢炎,胆管炎,バルトリン腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,涙嚢炎,麦粒腫,睑板腺炎,外耳炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,淋菌,モクセラ(ブランハメラ)・カタールリス,大腸菌,シロハクター属,クレブシエラ属,エンテロハクター属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロピテツシア属,インフルエンザ菌,ヘプトストレプトコッカス属,ハクトロイテス属,フレボテラ属(フレボテラ・ビビアを除く),アクネ菌
セフジトレンピボキシル ＜セフジトレンピボキシル＞ 略名：CDTR-PI (東和薬品)	MS細粒(100mg/g) ¥101.1/g		＜成人＞1回100～200mg,1日3回 ＜小児＞肺炎,中耳炎,副鼻腔炎:1回3～6mg/kg,1日3回 その他の疾患:1回3mg/kg,1日3回【Max:600mg/日】	＜成人＞表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リハ管・リハ節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,胆嚢炎,胆管炎,バルトリン腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,眼瞼膿瘍,涙嚢炎,麦粒腫,睑板腺炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎 ＜小児＞表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リハ管・リハ節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,肛門周囲膿瘍,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,顎炎,猩紅熱,百日咳	＜成人＞ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モクセラ(ブランハメラ)・カタールリス,大腸菌,シロハクター属,クレブシエラ属,エンテロハクター属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロピテツシア属,インフルエンザ菌,ヘプトストレプトコッカス属,ハクトロイテス属,フレボテラ属,アクネ菌 ＜小児＞ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モクセラ(ブランハメラ)・カタールリス,大腸菌,シロハクター属,クレブシエラ属,エンテロハクター属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロピテツシア属,インフルエンザ菌,百日咳菌,ヘプトストレプトコッカス属,ハクトロイテス属,フレボテラ属,アクネ菌
	100mg/錠 ¥32.2/錠		300～(600)mg,分3 ＜小児＞9mg/kg/日,分3	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リハ管・リハ節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,胆嚢炎,胆管炎,バルトリン腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,眼瞼膿瘍,涙嚢炎,麦粒腫,睑板腺炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モクセラ(ブランハメラ)・カタールリス,大腸菌,シロハクター属,クレブシエラ属,エンテロハクター属,セラチア属,モルガネラ・モルガニ,プロピテツシア属,インフルエンザ菌,ヘプトストレプトコッカス属,ハクトロイテス属,フレボテラ属,アクネ菌
セフジニル ＜セフジニル＞ 略名：CFDN (沢井製薬)	細粒(100mg/g) ¥58.5/g		300mg,分3 ＜小児＞9～18mg/kg/日,分3	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リハ管・リハ節炎,慢性膿皮症,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,膀胱炎,腎盂腎炎,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モクセラ(ブランハメラ)・カタールリス,大腸菌,クレブシエラ属,プロテウス・ミラビリス,インフルエンザ菌

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
セフトアジジム <セフトアジジム> 略名：CAZ (マイラン)		0.5g/瓶 ¥341/瓶	1~2~(4)g,分2~4静注,点静 <小児>40~100~(150)mg/kg/日 分2~4静注,点静	敗血症,感染性心内膜炎,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),腹膜炎,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,ハルトリン腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,中耳炎,副鼻腔炎	ブドウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,大腸菌,シロバクテラ属,クレブシエラ属,エンテロバクテラ属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロビデンスシア属,インフルエンザ菌,シュートモリス属,緑膿菌,パーキルリア・セバシア,ステノトロモナス(ザントモナス)・マルトフィリア,アシネバクテラ属,ヘプトストレプトコッカス属,ハクテロイテス属,フレボテラ属(フレボテラ・ヒビアを除く)
		1g/瓶 ¥378/瓶			
セフトリアキソンNa <セフトリアキソン> 略名：CTRX (日医工)		0.5g/瓶 ¥176/瓶	1~2g,分1~2静注,点静【Max:4g】 <小児>20~60mg/kg/日,分1~2静注,点静【Max:120mg/kg】 <未熟児・新生児> 0~3日齢:1回20mg/kg,1日1回 4日齢以降:1回20mg/kg,1日2回静注又は点静 【Max:1回40mg/kg1日2回,生後2週間以内は1日50mg/kgまで】	敗血症,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,精巣上体炎(副睾丸炎),尿道炎,子宮頸管炎,骨盤内炎症性疾患,直腸炎,腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,ハルトリン腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,角膜炎(角膜潰瘍を含む),中耳炎,副鼻腔炎,顎骨周辺の蜂巣炎,顎炎	ブドウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,淋菌,大腸菌,シロバクテラ属,クレブシエラ属,エンテロバクテラ属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロビデンスシア属,インフルエンザ菌,ヘプトストレプトコッカス属,ハクテロイテス属,フレボテラ属(フレボテラ・ヒビアを除く)
		1g/瓶 ¥274/瓶			
セフポドキシムプロキセチル <セフポドキシムプロキセチル> 略名：CPDX-PR (東和薬品)	100mg/錠 ¥35.1/錠		200~400mg分2	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リハ管・リンパ節炎,慢性膿皮症,乳腺炎,肛門周囲膿瘍,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,尿道炎症,ハルトリン腺炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎	ブドウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,淋菌,モラクセラ(プランハメラ)・カタールリス,大腸菌,シロバクテラ属,クレブシエラ属,エンテロバクテラ属,プロテウス属,プロビデンスシア属,インフルエンザ菌,ヘプトストレプトコッカス属
ワイスタール <セフォペラゾン/スルバクタム> 略名：CPZ/SBT (ニプロファーマ)		1g/瓶 ¥304/瓶	1~2~(4)g,分2静注,点静 <小児>40~80~(160)mg/kg/日 分2~4静注,点静	敗血症,感染性心内膜炎,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,ハルトリン腺炎,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎	ブドウ球菌属,大腸菌,シロバクテラ属,クレブシエラ属,エンテロバクテラ属,セラチア属,プロテウス属,プロビデンスシア・レットケリ,モルガネラ・モルガニ,インフルエンザ菌,緑膿菌,アシネバクテラ属,ハクテロイテス属,フレボテラ属

■セフェム系 第4世代

ファーストシン <セフォゾプラン> 略名：CZOP (武田)		1g/瓶 ¥1240/瓶	1~2~(4)g,分2~4静注,点静 <小児>40~80~(160)mg/kg/日,分3~4点静 髄膜炎200mg/Kg/日, 【Max:4g/日】	敗血症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む),肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,複雑性膀胱炎,腎盂腎炎,前立腺炎(急性症,慢性症),腹膜炎,腹腔内膿瘍,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,眼窩感染,角膜炎(角膜潰瘍を含む),眼内炎(全眼球炎を含む),中耳炎,副鼻腔炎,化膿性唾液腺炎	ブドウ球菌属,レン球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,モラクセラ(プランハメラ)・カタールリス,大腸菌,シロバクテラ属,クレブシエラ属,エンテロバクテラ属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロビデンスシア属,インフルエンザ菌,シュートモリス属,緑膿菌,パーキルリア・セバシア,ステノトロモナス(ザントモナス)・マルトフィリア,アシネバクテラ属,ヘプトストレプトコッカス属,ハクテロイテス属,フレボテラ属
---	--	-----------------	---	---	---

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
マキシピーム <セフェピム> 略名：CFPM (フリストル)		1g/瓶 ¥676/瓶	1~2~(4)g, 分2静注, 点静 発熱性好中球減少症: 4g分2静注, 点静	敗血症, 深在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肛門周囲膿瘍, 扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む), 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, 子宮内感染, 子宮旁結合織炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 発熱性好中球減少症	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, モラクセラ(フランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロウレンシア属, モルガネラ・モルガニ, フロピデンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, ハーケルテリア・セハシア, ステノトロモリス(ザントモリス)・マルティリア, アシネバクテラ属, ヘプトストレプトコッカス属, ハクトロイテス属, プレボテラ属(プレボテラ・ピビアを除く)

■カルバペネム系

カルベニン <パニペネム> 略名：PAPM/BP (第一三共)		0.25g/瓶 ¥952/瓶	1~(2)g, 分2点静 <小児>30~60~(100)mg/kg/日, 分3~4点静 【Max: 2g/日】	敗血症, 感染性心内膜炎, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肛門周囲膿瘍, 骨髄炎, 関節炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, ハルトリ腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 化膿性髄膜炎, 眼窩感染, 眼内炎(全眼球炎を含む), 中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(フランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロウレンシア属, モルガネラ・モルガニ, フロピデンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, ハーケルテリア・セハシア, ヘプトストレプトコッカス属, ハクトロイテス属, プレボテラ属
		0.5g/瓶 ¥1356/瓶			
チエナム <イミペネム> 略名：IPM/CS (MSD)		0.5g/瓶 ¥1264/瓶	0.5~1~(2)g, 分2~3点静 <小児>30~80~(100)mg/kg/日, 分3~4点静	敗血症, 感染性心内膜炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 骨髄炎, 関節炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, ハルトリ腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 角膜炎(角膜潰瘍を含む), 眼内炎(全眼球炎を含む)	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロウレンシア属, モルガネラ・モルガニ, フロピデンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, ハーケルテリア・セハシア, アシネバクテラ属, ヘプトストレプトコッカス属, ハクトロイテス属, プレボテラ属
フィニバックス <ドリペネム> 略名：DRPM (オキ)		0.25g/瓶 ¥1100/瓶	1回0.25g, 1日2~3回点静 重症・難治性感染症: 1回0.5~1.0g, 1日3回点静 【Max: 1g/回, 3.0g/日】 <小児>1回20mg/kg, 1日3回点静 重症・難治性感染症: 1回40mg/kg, 1日3回点静 【Max: 1g/回, 3.0g/日】	敗血症, 感染性心内膜炎, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 骨髄炎, 関節炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 化膿性髄膜炎, 眼窩感染, 角膜炎(角膜潰瘍を含む), 眼内炎(全眼球炎を含む), 中耳炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属(エンテロコッカス・フェシウムを除く), モラクセラ(フランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロウレンシア属, モルガネラ・モルガニ, フロピデンシア属, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシネバクテラ属, ヘプトストレプトコッカス属, ハクトロイテス属, プレボテラ属
		0.5g/瓶 ¥1517/瓶			
メロペネム <メロペネム> 略名：MEPM (ファイ)		0.5g/瓶 ¥581/瓶	①1日0.5~1g, 分2~3回点静 【Max: 1回1g, 1日3g(重症・難治性感染症)】 <小児>1日30~60mg/kg, 分3点静 【Max: 1日120mg/kgまたは1日3g(重症・難治性感染症)】 ②1日6g, 分3点静 <小児>1日120mg/kg, 分3点静 【Max: 1日6g】 ③1日3g, 分3点静 <小児>1日120mg/kg, 分3点静 【Max: 1日3g】	①敗血症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肛門周囲膿瘍, 骨髄炎, 関節炎, 扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む), 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 化膿性髄膜炎, 眼内炎(全眼球炎を含む), 中耳炎, 副鼻腔炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎 ②化膿性髄膜炎 ③発熱性好中球減少症	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 髄膜炎菌, モラクセラ(フランチマ)・カタールリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, セラチア属, フロウレンシア属, フロピデンシア属, インフルエンザ菌, シュートモリス属, 緑膿菌, ハーケルテリア・セハシア, ハクトロイテス属, プレボテラ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■アミノグリコシド系					
ゲンタシン <ゲンタマイシン> 略名：GM (MSD)		10mg(1mL)/管 ¥114/管 60mg(1.5mL)/管 ¥301/管	3mg/kg/日,分3,筋注または点静 【Max:5mg/kg/日,分3~4】 <小児>1回2.0~2.5mg/kg,1日2~3回,筋注または点静	敗血症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,肺炎,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,中耳炎	ブドウ球菌属,大腸菌,クレブシエラ属,エンテロバクター属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロピテリウム属,緑膿菌
トブラシン <トブラマイシン> 略名：TOB (ジエトール)		60mg(1.5mL)/管 ¥400/管	120~180mg,分2~3筋注,点静 <小児>3mg/kg/日,分2~3筋注,点静	敗血症,深在性皮膚感染症,慢性膿皮症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎	大腸菌,クレブシエラ属,エンテロバクター属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロピテリウム属,緑膿菌
ハベカシン <アルベカシン> 略名：ABK (明治)		100mg(2mL)/管 ¥4543/管	150~200mg,分1(分2も可)点静,筋注 <小児>4~6mg/kg/日,分1(分2も可)点静	敗血症,肺炎	メチリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)
硫酸アミカシン <アミカシン> 略名：AMK (日工)		100mg(1mL)/管 ¥341/管	100~400mg,分1~2筋注,点静 <小児>4~8mg/kg/日,分1~2筋注,点静	敗血症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎	大腸菌,シロバクター属,クレブシエラ属,エンテロバクター属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニ,プロピテリウム属,緑膿菌
■ニューキノロン系					
アベロックス <モキシフロキサシン> 略名：MFLX (富士フイルムファーマ)	400mg/錠 ¥468.1/錠		400mg,分1	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,慢性呼吸器病変の二次感染,副鼻腔炎	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モラクセラ(フランシセラ)・カタールリス,大腸菌,クレブシエラ属,エンテロバクター属,プロテウス属,インフルエンザ菌,レジオネラ・ニューモフィラ,アクネ菌,肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニ),肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニ)
オゼックス小児用 <トスフロキサシン> 略名：TFLX (大正富山)	150mg/g ¥451.6/g		<小児>6mg/kg/回,分2 【Max:1回180mg,1日360mg,分2】	肺炎,コレラ,中耳炎,炭疽	肺炎球菌(ペニシリン耐性肺炎球菌を含む),モラクセラ(フランシセラ)・カタールリス,炭疽菌,コレラ菌,インフルエンザ菌(βラクタム耐性インフルエンザ菌を含む),肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニ)

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
クラビット 〈レボフロキサシン〉 略名：LVFX (第一三共)		500mg (100mL) /袋 ¥5052/袋	500mg, 分1点静	外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 腸チフス, パラチフス, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 炭疽, プルセラ症, ヘルペス, 野兔病, Q熱	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(フランシム)・カタリス, 炭疽菌, 大腸菌, チフス菌, パラチフス菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, インテロバクテラ属, セラチア属, フロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロテジテンシア属, ペスト菌, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシトバクテラ属, レジオネラ属, プルセラ属, 野兔病菌, ヘルペストレプトコッカス属, プレボテラ属, Q熱リキチア(コクシエラ・ブルネイ), トロコマクラミジア(クラミジア・トロコマティス), 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
グレースビット 〈シタフロキサシン水和物〉 略名：STFX (第一三共)	50mg/錠 ¥169.3/錠		100mg分1~2 200mg分1	咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 中耳炎, 副鼻腔炎, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 尿道炎, 子宮頸管炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(フランシム)・カタリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, インテロバクテラ属, セラチア属, フロテウス属, モルガネラ・モルガニー, インフルエンザ菌, 緑膿菌, レジオネラ・ニューモフィラ, ヘルペストレプトコッカス属, プレボテラ属, ホルフィロモナス属, フリハケリウム属, トロコマクラミジア(クラミジア・トロコマティス), 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
ジェニナック 〈ガレノキサシン〉 略名：GRNX (アステラ)	200mg/錠 ¥214.8/錠		400mg分1	咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 中耳炎, 副鼻腔炎	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌(ペニシリン耐性肺炎球菌を含む), モラクセラ(フランシム)・カタリス, 大腸菌, クレブシエラ属, インテロバクテラ属, インフルエンザ菌, レジオネラ・ニューモフィラ, 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
シプロキサン 〈シプロフロキサシン〉 略名：CPFX (バイエル)	200mg/錠 【院外のみ】 ¥62.8/錠		200~600mg, 分2~3 炭疽:800mg, 分2	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 尿道炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 感染性腸炎, バルトリ腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 炭疽	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, 炭疽菌, 大腸菌, 赤痢菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, インテロバクテラ属, セラチア属, フロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロテジテンシア属, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシトバクテラ属, レジオネラ属, ヘルペストレプトコッカス属
パシル 〈パズフロキサシン〉 略名：PZFX (大正富山)		500mg (100mL) /袋 ¥1468/袋	600~1000mg分2点静 敗血症, 肺炎球菌による肺炎, 重症・難治性の呼吸器感染症(肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染に限る):2000mg分2	敗血症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎	ペニシリンに感性的なブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ(フランシム)・カタリス, 大腸菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, インテロバクテラ属, セラチア属, フロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロテジテンシア属, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシトバクテラ属, レジオネラ属, バクテロイテス属, プレボテラ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
レボフロキサシン 〈レボフロキサシン〉 略名：LVFX (第一三共)	500mg/錠 ¥135.6/錠		500mg, 分1 腸チフス・パルチフス: 500mg, 分1 14日間	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, さ瘡(化膿性炎症を伴うもの), 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症・慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 尿道炎, 子宮頸管炎, 胆嚢炎, 胆管炎, 感染性腸炎, 腸チフス・パルチフス, コレラ, ハルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎, 炭疽, プルラ症, ヘルペス, 野兔病, 肺結核及びその他の結核症, Q熱	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, モラクセラ(フランシゼラ)・カタリス, 炭疽菌, 大腸菌, 赤痢菌, サルモネラ属, チフス菌, パルチフス菌, シロハクター属, クレブシエラ属, インテロハクター属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガネー, プロピオンバクテリウム属, ヘリコバクテリウム属, コレラ菌, インフルエンザ菌, 緑膿菌, アシネトバクテリウム属, レジオネラ属, プルラ菌, 野兔病菌, カンピロバクテリウム属, ヘルペストレプトコッカス属, アクネ菌, Q熱リケッチア(コクシエラ・ブルネティ), トラコマクラミジア(クラミジア・トラコマティス), 肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ), 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

■ホスホマイシン系

ホスミンS 〈ホスホマイシン〉 略名：FOM (明治)		0.5g/瓶 ¥355/瓶	2~4g, 分2静注, 点静 〈小児〉100~200mg/kg/日, 分2~4静注, 点静	敗血症, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, ハルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎	ブドウ球菌属, 大腸菌, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガネー, プロピオンバクテリウム属, レジオネラ属, 緑膿菌
		2g/瓶 ¥847/瓶			
ホスミン 〈ホスホマイシン〉 略名：FOM (明治)	500mg/錠 ¥62.9/錠		2~3g, 分3~4 〈小児〉40~120mg/kg/日, 分3~4	深在性皮膚感染症, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 感染性腸炎, 涙嚢炎, 麦粒腫, 瞼板腺炎, 中耳炎, 副鼻腔炎	ブドウ球菌属, 大腸菌, 赤痢菌, サルモネラ属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガネー, プロピオンバクテリウム属, レジオネラ属, カンピロバクテリウム属
	D S (400mg/g) ¥84.6/g				

■マクロライド系

エリスロシン 〈エリスロマイシン〉 略名：EM (マイランEPD)	D S W (200mg/g) ¥21.6/g		800~1200mg, 分4~6 〈小児〉25~50mg/kg/日, 分4~6	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 外傷・熱傷および手術創等の二次感染, 乳腺炎, 骨髄炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 腎盂腎炎, 尿道炎, 淋菌感染症, 梅毒, 子宮内感染, 中耳炎, 猩紅熱, シンジチア, 百日咳	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 淋菌, 髄膜炎菌, シンジチア菌, 百日咳菌, 梅毒トレポネーマ, トラコマクラミジア(クラミジア・トラコマティス), マイコプラズマ属
	100mg/錠 ¥8.1/錠			表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 乳腺炎, 骨髄炎, 扁桃炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 腎盂腎炎, 尿道炎, 淋菌感染症, 軟性下疳, 梅毒, 子宮内感染, 中耳炎, 歯冠周囲炎, 猩紅熱, シンジチア, 百日咳, 破傷風	ブドウ球菌属, レジオネラ属, 肺炎球菌, 淋菌, 髄膜炎菌, シンジチア菌, 軟性下疳菌, 百日咳菌, 破傷風菌, 梅毒トレポネーマ, トラコマクラミジア(クラミジア・トラコマティス), マイコプラズマ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
クラリスロマイシン <クラリスロマイシン> 略名：CAM (Meiji Seikaファルマ)	小児用50mg/ 錠 ¥24.8/錠		<小児> ①10～15mg/kg/日,分2～3 レゾリス菌：15mg/kg/日,分2～3 ②15mg/kg/日,分2	①一般感染症(表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷および手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,感染性腸炎,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱,百日咳) ②後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコプラズマ・アピウムコンプレクス(MAC)症	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス,インフルエンザ菌,レジオネラ菌,百日咳菌,カンピロバクター属,クラミジア属,マイコプラズマ属, MAC
	200mg/錠 ¥36.6/錠		①400mg,分2 ②800mg,分2 ③400mg,分2【Max:800mg,分2】	①一般感染症(表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷および手術創等の二次感染,肛門周囲膿瘍,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,尿道炎,子宮頸管炎,感染性腸炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎) ②MAC症を含む非結核性抗酸菌症 ③ヘルペスウイルス感染症【D-2参照】	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス,インフルエンザ菌,レジオネラ属,カンピロバクター属,ペプトストレプトコッカス属,クラミジア属,マイコプラズマ属,マイコプラズマ属,マイコプラズマ属,ヘリコバクター・ヒロリ
クラリスロマイシン <クラリスロマイシン> 略名：CAM (東和薬品)	DS(100mg/ g) ¥45.3/g		<小児> ①10～15mg/kg/日,分2～3 レゾリス菌：15mg/kg/日,分2～3 ②15mg/kg/日,分2	①一般感染症(表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ節炎,慢性膿皮症,外傷・熱傷および手術創等の二次感染,咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,感染性腸炎,中耳炎,副鼻腔炎,猩紅熱,百日咳) ②後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコプラズマ・アピウムコンプレクス(MAC)症	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス,インフルエンザ菌,レジオネラ菌,百日咳菌,カンピロバクター属,クラミジア属,マイコプラズマ属, MAC
ジスロマック <アジスロマイシン> 略名：AZM (ファイザー)		500mg/瓶 ¥2435/瓶	1日1回500mg,点静	肺炎,骨盤内炎症性疾患	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,淋菌,モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス,インフルエンザ菌,レジオネラ・ニューモフィラ,ペプトストレプトコッカス属,フレボテラ属,クラミジア属,マイコプラズマ属
	250mg/錠 ¥229.6/錠		①1日1回500mg,3日間 ②1000mg1回 ③注射剤による治療後,1日1回250mg	①深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ節炎,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎 ②尿道炎,子宮頸管炎 ③骨盤内炎症性疾患	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス,インフルエンザ菌,レジオネラ・ニューモフィラ,ペプトストレプトコッカス属,フレボテラ属,クラミジア属,マイコプラズマ属,淋菌
ジスロマックSR <アジスロマイシン> 略名：AZM (ファイザー)	ドライシロップ(2g/ 瓶) ¥2020/瓶		2g分1空腹時 1回,用時懸濁	深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ節炎,咽頭・喉頭炎,扁桃炎(扁桃周囲炎,扁桃周囲膿瘍を含む),急性気管支炎,肺炎,肺膿瘍,慢性呼吸器病変の二次感染,尿道炎,子宮頸管炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,淋菌,モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス,インフルエンザ菌,ペプトストレプトコッカス属,クラミジア属,マイコプラズマ属
ルリッド <ロキシシロマイシン> 略名：RXM (サノフィ)	150mg/錠 ¥57.7/錠		300mg,分2	表在性皮膚感染症,深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ節炎,慢性膿皮症,ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの),咽頭・喉頭炎,扁桃炎,急性気管支炎,肺炎,中耳炎,副鼻腔炎,歯周組織炎,歯冠周囲炎,顎炎	ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,モラクセラ(フランハメラ)・カタールリス,アクネ菌,肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■リンコマイシン系					
ダラシンS ＜クリンダマイシン＞ 略名：CLDM (77イザ-)		300mg (2mL) / 管 ¥393/管 600mg (4mL) / 管 ¥571/管	600～1200～(2400)mg, 分2～4点静 ＜小児＞15～25～(40)mg/kg/日, 分3～4点静	敗血症, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 中耳炎, 副鼻腔炎, 顎骨周辺の蜂巣炎, 顎炎	ブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, ペプトストربتコッカ属, バクテロイデス属, フレブテラ属, マイコプラズマ属
■グリシルサイクリン系					
タイガシル ＜チゲサイクリン＞ (77イザ-)		50mg/瓶 ¥12536/瓶	初回100mg 以後12時間毎に1回50mg点静	深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, びらん・潰瘍の二次感染, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎	大腸菌, シロハクター属, クラブシエラ属, エンテロバクテラ属, アシネバクテラ属 (他の抗菌薬に耐性を示した菌株に限る)
■テトラサイクリン系					
ミノサイクリン塩酸塩錠 ＜ミノサイクリン＞ 略名：MINO (東和薬品)	50mg/錠 ¥13.5/錠		初回100～200mg, 以後100mg, 分1～2 ＜小児＞2～4mg/kg/日, 分1～2	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 乳腺炎, 骨髄炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎(扁桃周囲炎を含む), 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎(急性症, 慢性症), 精巣上体炎(副睾丸炎), 尿道炎, 淋菌感染症, 梅毒, 腹膜炎, 感染性腸炎, 外陰炎, 細菌性膣炎, 子宮内感染, 涙のう炎, 麦粒腫, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 上顎洞炎, 顎炎, 炭疽, つつが虫病, オム病	ブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, 炭疽菌, 大腸菌, 赤痢菌, シロハクター属, クラブシエラ属, エンテロバクテラ属, プロテウス属, モルガネラ・モルガネー, フロピデンスシア属, 緑膿菌, 梅毒トレポネマ, リケッチア属(オリエンチア・ツツガムシ), クラミジア属, 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
ミノサイクリン ＜ミノサイクリン＞ 略名：MINO (日医工)		100mg/瓶 ¥151/瓶	初回100～200mg 以後100mg, 分1～2点静	敗血症, 深在性皮膚感染症, 慢性膿皮症, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 炭疽, つつが虫病, オム病	黄色ブドウ球菌, レンサ球菌属, 肺炎球菌, 腸球菌属, モラクセラ・ラクナータ(モラー・アクセンフェルト菌), 炭疽菌, 大腸菌, クラブシエラ属, エンテロバクテラ属, インフルエンザ菌, シュート・モリス・フロレンセン, 緑膿菌, パーケルテリア・セシア, ステノトモリス(サントモリス)・マルトフィリア, アシネバクテラ属, フラホバクテリウム属, レジオネラ・ニューモフィラ, リケッチア属(オリエンチア・ツツガムシ), クラミジア属, 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
レダマイシン ＜デメチルクロルテトラサイクリン＞ 略名：DMCTC (ホーファアルマ)	150mg/C ¥18.4/C		450～600mg, 分2～4	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 乳腺炎, 骨髄炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 尿道炎, 淋菌感染症, 軟性下疳, 性病性(鼠径)リンパ肉芽腫, 子宮内感染, 涙のう炎, 外耳炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 猩紅熱, 炭疽, 百日咳, 野兔病, ガス壊疽, ワイル病, 発疹チフス, 発疹熱, つつが虫病	ブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, 腸球菌属, 淋菌, 炭疽菌, 大腸菌, クラブシエラ属, プロテウス属, モルガネラ・モルガネー, フロピデンスシア属, インフルエンザ菌, 軟性下疳菌, 百日咳菌, 野兔病菌, ガス壊疽菌群, ワイル病レプトスピラ, リケッチア属, クラミジア属, 肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
■サルファ剤					
バクタ <スルファメトキサゾール, トリメトプリム> 略名: ST (オギ)	顆粒(1g/包) ¥77.4/包 錠 ¥67.9/錠		①4錠(g), 分2 ②<治療>9~12錠(g), 分3~4 小児: (トリメトプリムとして)15~20mg/kg/日, 分3~4 <発症抑制>1日1回1~2錠(g), 連日又は週3日 小児: (トリメトプリムとして)4~8mg/kg/日, 分2, 連日又は週3日	①一般感染症(肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染, 複雑性膀胱炎, 腎盂腎炎, 感染性腸炎, 腸チフス, パラチフス) ②ニューモシス肺炎の治療及び発症抑制	腸球菌属, 大腸菌, 赤痢菌, チフス菌, パラチフス菌, シロバクテラ属, クレブシエラ属, エンテロバクテラ属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロビデンスシア・レグテリ, インフルエンザ菌, ニューモシス・イロペチ
バクトラミン <スルファメトキサゾール, トリメトプリム> 略名: ST (中外)		スルファメトキサゾール 400mg, トリメトプリム 80mg/5mL/管 ¥498/管	トリメトプリムとして15~20mg/kg/日, 分3, 1管あたり125mLに溶解し, 1~2hrかけて点静	カリ肺炎	ニューモシス・カリニ
■抗結核薬					
イスコチン <イソニアジド> 略名: INH (第一三共)	100mg/錠 ¥9.6/錠		200~500mg(4~10mg/kg), 分1~3 【Max: 成人1g, 13才未満20mg/kg】	肺結核およびその他の結核症	結核菌
エサンブトール <エサンブトール> 略名: EB (サト)	250mg/錠 ¥17.2/錠		①750~1000mg, 分1~2 ②500~750mg, 分1 【Max: 1000mg】	①肺結核およびその他の結核症 ②マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症	マイコバクテリウム属
ストレプトマイシン <ストレプトマイシン> 略名: SM (明治)		1g/瓶 ¥389/瓶	①<他の抗結核薬と併用> 1日1g筋注, 週2~3回, あるいははじめの1~3カ月は毎日, その後週2回 ②1日0.75~1g筋注, 週2~3回 ③1日1~2g, 分1~2, 筋注	①肺結核及びその他の結核症 ②マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症 ③感染性心内膜炎(ペニシリン又はアンピシリンと併用の場合に限る), パスト, 野兔病, ワイル病	マイコバクテリウム属, 結核菌, パスト菌, 野兔病菌, ワイル病レプトスピラ
ピラマイド <ピラジナミド> 略名: PZA (第一三共)	原末 ¥30.1/g		1.5~2.0g/日, 分1~3 他の抗結核薬と併用すること	肺結核およびその他の結核症	結核菌

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
リファジン <リファンピシン> 略名：RFP (第一三共)	150mg/C ¥26.4/C		①450mg, 分1 ②450mg, 分1【Max:600mg/日】 ③600mg/回, 1~2回/月または450mg/回, 分1連日	①肺結核およびその他の結核症 ②マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症 ③ハンセン病	マイコバクテリウム属
■抗真菌薬					
アネメトロ <メトロニダゾール> (ファイザー)		500mg/瓶 ¥1252/瓶	1回500mg1日3回点静 難治性又は重症感染症:1回500mg1日4回	①嫌気性感染症(敗血症, 深在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 骨髄炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 骨盤内炎症性疾患, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 胆嚢炎, 肝膿瘍, 化膿性髄膜炎, 脳膿瘍) ②感染性腸炎 ③アトピー赤痢	①ハプトストロフトコッカス属, バクテロイデス属, フレネテラ属, ホルフィロモナス属, フゾバクテリウム属, クロストリジウム属, ユーバクテリウム属 ②クロストリジウム・デフィシル
アムピゾーム <アムホテリシンBリポソーム> (大日本住友)		50mg/瓶 ¥9794/瓶	①2.5mg/kg, 分1点静, 1~2時間以上かけて 【Max:5mg/kg, クリプトコッカス髄膜炎は6mg/kg】 ②2.5mg/kg, 分1点静, 1~2時間以上かけて ③免疫能正常:2.5mg/kg, 分1点静, 1~2時間以上かけて, 投与1~5日目連日・14・21日目 免疫不全:4mg/kg, 分1点静, 1~2時間以上かけて, 投与1~5日目連日・10・17・24・31・38日目	①真菌血症, 呼吸器真菌症, 真菌髄膜炎, 播種性真菌症 ②真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 ③リシムニア症	アスペルギルス, カンジダ, クリプトコッカス, ムーコル, アブシジニア, リゾプス, リゾムーコル, クラトスポリウム, クラトヒアロホーラ, ホンセカエア, ヒアロホーラ, エクソフィアラ, コクシオイトリス, ヒストプラズマ, プラストミセス
イトリゾール <イトラコナゾール> 略名：ITGZ (ヤンセンファーマ)	50mg/C ¥315.6/C		50~200mg, 分1 爪白癬ハ療法:400mg, 分2×7日, 3週休薬(3サイクル)	真菌血症, 呼吸器真菌症, 消化器真菌症, 尿路真菌症, 真菌髄膜炎, スポロトリコシス, クロモコシス, 白癬, カンジダ症, 癩風, マラセチア毛包炎, 爪白癬	皮膚糸状菌(トリコフィトン属, ミクロスポルム属, エピデルモフィトン属), カンジダ属, マラセチア属, アスペルギルス属, クリプトコッカス属, スポロトリコシス属, ホンセカエア属
	10mg/mL ¥100.9/mL		①④200mg(20mL)分1, 空腹時【Max:400mg(40mL)分2】 ②200mg(20mL)分1, 空腹時 ③<イトラコナゾール注射液から切り替え>200mg(20mL)分1, 空腹時【Max:400mg(40mL)分2】	①真菌感染症(真菌血症, 呼吸器・消化管・尿路真菌症, 真菌髄膜炎, プラストミセス属, ヒストプラズマ属) ②口腔咽頭カンジダ, 食道カンジダ ③真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 ④好中球減少が予測される血液悪性腫瘍又は造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	アスペルギルス属, カンジダ属, クリプトコッカス属, プラストミセス属, ヒストプラズマ属
ハリゾン <アムホテリシンB> 略名：AMPH (富士製薬工業)	S Y (100mg/mL, 24mL/瓶) ¥53.6/mL		100mg/回を1日2~4回 <小児>50~100mg/回	消化管におけるカンジダ異常増殖	カンジダ
ファンガード <ミカファンギン> 略名：MCFG (アステラス)		50mg/瓶 ¥4965/瓶	①アスペルギルス症:50~150mg分1静注【Max:300mg】 カンジダ症:50mg分1静注【Max:300mg】 ②50mg分1静注, 小児:1mg/kg	①真菌血症, 呼吸器真菌症, 消化管真菌症 ②造血幹細胞移植患者におけるアスペルギルス症及びカンジダ症の予防	アスペルギルス属, カンジダ属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ブイフェンド ＜ポリコナゾール＞ 略名：VRCZ (ファイザー)	50mg/錠 ¥858.2/錠		＜成人(体重40kg以上)＞ 初日：600mg, 分2, 食間 【Max:800mg】 以降：300～400mg, 分2, 食間 【Max:600mg】 ＜成人(体重40kg未満)＞ 初日：300mg, 分2, 食間 以降：200mg, 分2, 食間 【Max:300mg】 ＜小児(2歳以上12歳未満及び12歳以上で体重50kg未満)＞ プイフェント注による治療後 18mg/kg, 分2, 食間 効果・忍容性が不十分の場合には1mg/kgずつ増減 【Max:700mg】 ＜小児(12歳以上で体重50kg以上)＞ プイフェント注による治療後 400mg, 分2, 食間 【Max:600mg】	①重症又は難治性真菌感染症 ②造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防	アスペルギルス属, カンジダ属, クリプトコックス属, フサリウム属, ステプトスポリウム属
		200mg/瓶 ¥11375/瓶	＜成人＞ 初日：12mg/kg, 分2点静 以後：6～8mg/kg, 分2点静 ＜小児(2歳以上12歳未満及び12歳以上で体重50kg未満)＞ 初日：18mg/kg, 分2点静 以後：16mg/kg, 分2点静 効果・忍容性が不十分の場合には1mg/kgずつ増減 ＜小児(12歳以上で体重50kg以上)＞ 初日：12mg/kg, 分2点静 以後：8mg/kg, 分2点静		
ポリコナゾール ＜ポリコナゾール＞ 略名：VRCZ (第一三共)	50mg/錠 ¥368.6/錠		＜成人(体重40kg以上)＞ 初日：600mg, 分2, 食間 【Max:800mg】 以降：300～400mg, 分2, 食間 【Max:600mg】 ＜成人(体重40kg未満)＞ 初日：300mg, 分2, 食間 以降：200mg, 分2, 食間 【Max:300mg】	重症又は難治性真菌感染症	アスペルギルス属, カンジダ属, クリプトコックス属, フサリウム属, ステプトスポリウム属

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
フラジール <メトロニダゾール> (オノキ)	250mg/錠 ¥35.5/錠		①1回250mg1日2回,10日間 ②1回500mg1日3~4回 ③1回250mg1日4回または 1回500mg1日3回,10~14日間 ④1回250mg1日3回または 1回500mg1日2回,7日間 ⑤1回フラジール:250mg, サリシン:750mg プロトンポンプ阻害剤の3剤を1日2 回,7日間 ⑥1回500mg1日3回,10日間 ⑦1回250mg1日3回,5~7日間	①トリコモナス(腔トリコモナスによる感染症) ②嫌気性菌感染症(真在性皮膚感染症,外傷・熱傷 及び手術創等の二次感染,骨髄炎,肺炎,肺膿瘍,骨 盤内炎症性疾患,腹膜炎,腹腔内膿瘍,肝膿瘍,脳膿 瘍) ③感染性腸炎 ④細菌性膣症 ⑤胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血 小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治 療後胃,ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎におけるヘリコバク ター・ピロリ感染症 ⑥アトピー性皮膚炎 ⑦ラブラマシラ毛虫感染症	①腔トリコモナス ②ヘプトストレプトコッカス属,ハクトロイテス属,プレ ボテラ属,ホドフィロモナス属,フソバクテリウム属,クロスト リジウム属,ユーバクテリウム属 ③クロストリジウム・テフィシル ④ヘプトストレプトコッカス属,ハクトロイテス・フラシリ ス,プレボテラ・ヒドリア,モヒルカス属,ガードネラ・ハ ジナリス ⑤ヘリコバクター・ピロリ
フルコナゾール <フルコナゾール> 略名:FCZ (沢井)	100mg/C ¥306.8/C		①カンジダ:50~100mg,分1 <小児>3mg/kg,分1 クリプトコッカス:50~200mg分1 <小児>3~6mg/kg,分1 <新生児の投与間隔> 生後14日まで:72時間毎 生後15日以降:48時間毎 【Max:400mg,小児:12mg/kg】 ②400mg,分1 <小児>12mg/kg,分1 【Max:400mg】	①真菌血症,呼吸器真菌症,消化管真菌症,尿 路真菌症,真菌髄膜炎 ②造血幹細胞移植患者における深在性真菌症 の予防	カンジダ属,クリプトコッカス属
プロジフ <ホスフルコナゾール > 略名:FCZ (ファイザー)		100mg(1.25m L)/瓶 ¥5373/瓶 200mg(2.5mL) /瓶 ¥9965/瓶 400mg(5mL)/ 瓶 ¥18648/瓶	50~400~(800)mg,分1静注	真菌血症,呼吸器真菌症,真菌腹膜炎,消化管 真菌症,尿路真菌症,真菌髄膜炎	カンジダ属,クリプトコッカス属
フロリード <ミコナゾール> 略名:MCZ (持田)	2%カール経口用 (5g/1本) ¥482/本		200~400mg,分4	口腔カンジダ症,食道カンジダ症	カンジダ

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ラミシール <テルピナフィン> (ハルティス)	125mg/錠 【院外のみ】 ¥167.7/錠		125mg, 分1	白癬性肉芽腫, ストトリコシス, 加モコシス, 白癬, カンジダ症	皮膚糸状菌(トリコイトン属, ミクロスポルム属, エピデルモイトン属), カンジダ属, ストリックス属, ホセカエラ属

■抗ウイルス薬

アシクロビル <アシクロビル> 略名: ACV (日本ケミファ)		250mg (10mL) / 管 ¥487/管	①髄膜炎, 脳炎, 15mg/kg, 分3点静 【Max: 30mg/kg】 その他15mg/kg, 分3点静, 7日間 <小児>15mg/kg, 分3点静 【Max: 60mg/kg】 ②30mg/kg, 分3点静, 10日間 【Max: 60mg/kg】	①免疫機能の低下した患者(悪性腫瘍・自己免疫疾患など)に発症した単純疱疹・水痘・帯状疱疹, 脳炎・髄膜炎 ②新生児単純ヘルペスウイルス感染症	単純ヘルペスウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス
シナジス <パリピズマブ> (ホッパジヤパン)		50mg/瓶 ¥61336/瓶 100mg/瓶 ¥120801/瓶	RSウイルス感染 15mg/kg, 月1回, 筋注	RSウイルス (Respiratory Syncytial Virus) 感染による重篤な下気道疾患の発症抑制【DI照会参照】	RSウイルス (Respiratory Syncytial Virus)
ゾビラックス <アシクロビル> 略名: ACV (グラクソ・スミスクライン)	200mg/錠 ¥101.5/錠		骨髄移植後の単純疱疹の発症抑制: 1000mg, 分5 帯状疱疹: 4000mg, 分5	単純疱疹, 骨髄移植における単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制, 帯状疱疹	単純ヘルペスウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス
バラシクロビル <バラシクロビル> 略名: VACV (日医工)	顆粒 (500mg/g) ¥203.9/g		①1000mg, 分2 5日間(初発型性器ヘルペスは最長10日間) ②3000mg, 分3 7日間 ③500mg, 分1 (HIV感染症の成人: 1000mg, 分2) ④小児: 75mg/kg, 分3, 5日間 【Max: 3000mg/日】 成人: 3000mg, 分3 5~7日間 ⑤1000mg, 分2 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで	①単純疱疹 ②帯状疱疹 ③性器ヘルペスの再発抑制 ④水痘 ⑤造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制	単純ヘルペスウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス
	500mg/錠 ¥155.4/錠		①1000mg, 分2 5日間(最長10日間) ②3000mg, 分3 7日間 ③500mg, 分1 (HIV感染症の成人: 1000mg, 分2) ④3000mg, 分3 成人: 5~7日間, 小児: 5日間 ⑤1000mg, 分2 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで	①単純疱疹 ②帯状疱疹 ③性器ヘルペスの再発抑制 ④水痘(成人と体重40kg以上の小児) ⑤造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制	

1. 感染症治療薬（経口・注射）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	用法・用量	適応症	適応菌種
ファムビル <ファムシクロビル> 略名：FCV (マル林)	250mg/錠 ¥394.1/錠		単純疱疹:750mg,分3 帯状疱疹:1500mg,分3	単純疱疹, 帯状疱疹	単純ヘルペスウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルス

■抗HIV薬

アイセントレス <ラルテグラビルカリ ウム> 略名：RAL (MSD)	400mg/錠 ¥1553.6/錠		2錠,分2	HIV感染症	
ツルバダ <配合剤：エムトリシ タピン200mg,フ マル酸テノホビルジソ プロキシル300mg > 略名：FTC/TFV (鳥居)	錠 ¥3863.6/錠		1錠,分1	HIV感染症	

2. 感染症治療薬（外用）

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鼻腔内MRSA除菌剤				
バクトロバン鼻腔用 <ムピロシン> (ゲラクソ・スミスクライン)		軟膏(3g/本) ¥1648.2/本	鼻腔内のMRSAの除菌	1日3回鼻腔内塗布

3. インフルエンザウイルス用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■抗インフルエンザウイルス剤				
イナビル 〈ラニナミビル〉 (第一三共)		(20mg/キット) ¥2139.9/キット	①A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の治療 ②A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の予防(自費診療)	①10歳以上:2キット/回 10歳未満:1キット/回 ②10歳以上:2キット/回単回投与または1キット/回, 2日間 10歳未満:1キット/回
シンメトレル 〈アマンタジン〉 (田辺三菱製薬)	50mg/錠 ¥15.2/錠		A型インフルエンザウイルス感染症	①100~200mg分2(~3) 【Max:300mg】 ②100~150mg分2~3 ③100mg分1~2
タミフル 〈オセルタミビル〉 (中外)	D S (30mg/g) ¥200.2/g		①A型又はB型インフルエンザウイルス感染症 ②65歳以上または基礎疾患を有する者のA型又はB型インフルエンザウイルス感染症の予防(自費診療)	①<成人>150mg分2, 5日間, <幼児>4mg/kg/日, 分2, 5日間 <新生児, 乳児>6mg/kg/日, 分2, 5日間 【Max:75mg/回】 【1歳未満, 8.1kg未満は脳へ移行するため慎重投与】 ②<成人>75mg分1日, 7~10日間 <幼児>2mg/kg分1, 10日間【Max:75mg/回】
	75mg/C ¥272/C		①A型又はB型インフルエンザウイルス感染症(成人及び体重37.5kg以上の小児) ②65歳以上または基礎疾患を有する者のA型又はB型インフルエンザウイルス感染症の予防(自費診療)	①150mg分2, 5日間, ②75mg分1日, 7~10日間(成人), 10日間(小児)
ラピアクタ 〈ペラミビル〉 (オノキ)		300mg (60mL)/袋 ¥6216/袋	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症	300mg分1, 単回点滴静注 重症化するおそれのある患者には600mg分1, 単回点滴静注, 連日反復投与可能 <小児>10mg/kg/日 分1【Max:600mg/回】
リレンザ 〈ザナミビル〉 (グラクソ・スミスクライン)		(5mg/ブリストア) ¥147.1/BL	①A型・B型インフルエンザウイルス感染症 ②A型・B型インフルエンザウイルス感染症の予防(自費診療)	①10mg (2ブリストア)/回 2回/日, 5日間 (小児も同量) ②10mg (2ブリストア)/回 1回/日, 10日間
■ワクチン類				
インフルエンザHAワクチン 〈インフルエンザHAワクチン〉		1mL/瓶 ¥3500/回	インフルエンザの予防	〈アストラ(1mL)〉 〈田辺三菱(0.5mL, 1mL)〉 2~4週間の間隔をおいて2回皮下, 6ヶ月以上3歳未満0.25mL/回, 3歳以上13歳未満0.5mL/回, 1回又は1~4週間の間隔をおいて2回皮下, 13歳以上0.5mL/回 〈第一三共(0.25mL, 0.5mL, 1mL)〉 2~4週間の間隔をおいて2回皮下, 1歳以上3歳未満0.25mL/回, 3歳以上13歳未満0.5mL/回, 1回又は1~4週間の間隔をおいて2回皮下, 13歳以上0.5mL/回
		0.5mL/筒 ¥3500/回		
		0.25mL/筒 ¥3500/回		

オーダリング上細菌検査の感受性検査で表示する抗菌薬略号について(*を表示) (H30.3)
No.1

系統	報告書略号	一般名	商品名	用法		菌種別の感受性検査対象薬剤					当院採用	使用届制
				注射	内服	腸内細菌群 大腸菌など	緑膿菌	ブドウ球菌 腸球菌	連鎖球菌	ヘモフィ ルス		
P	ABPC	アンピシリン	ピクシリン	○		*		*	*	*	○	
	PCG	ペンシリン	ベニシリンG	○				*	*		○	
	PIPC	ピペラシリン	ペントシリン	○		*	*				○	
	AMPC	アモキシシリン	アモキシシリン		○						○	
	A/S	アンピシリン/スルバクタム	スルバシリン	○		*	*	*		*	○	
	A/C	アモキシシリン/クラバン酸	オーゲメンチン		○	*		*	*	*	○	
	P/T	ピペラシリン/タゾバクタム	タゾピペ	○		*	*				○	
	MPIPC	オキサシリン					*				×	
C-1	CEZ	セファゾリン	セファゾリン	○		*		*			○	
	CCL	セファクロール	ケフラル		○	*				*	○	
C-2	CTM	セフォチアム	ハンスホリン(T)	○	○	*			*	*	×	
CM	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾール	○		*		*			○	
OC	FMOX	フロモキシセフ	フルマリシリン	○		*					○	
C-3	CTX	セフトアックス	クラフォラン	○		*			*	*	○	
	CAZ	セフトアジジム	セフトアジジム	○		*	*				○	
	CTRX	セフトリアキソン	セフトリアキソン	○		*		*	*	*	○	
	S/C	スルバクタム/セフォペラゾン	ワイスターール	○		*	*				○	
	CFDN	セフジニル	セフジニル		○						○	
	CPDX	セフトロキシムプロキセチル	セフトロキシム		○	*					○	
	CFPN	セフカペンピホキシル	セフカペンピホキシル		○						○	
	CDTR	セフトレンピホキシル	セフトレンピホキシル		○	*			*	*	○	
	CZOP	セフトゾフラン	ファーストシン	○			*		*	*	○	
C-4	CFPM	セフエピム	マキシピーム	○		*	*	*	*	*	○	
MoB	AZT	アストレオナム	アザクタム	○		*	*				(限定)	
CarP	IPM	イミペネムシラスタチン	チエナム	○		*	*	*			○	○
	MEPM	メロペネム	メロペネム	○		*	*	*	*	*	○	○
	PAPM	パニペネムヘタミフロシリン	カルベニン	○							○	○
	DRPM	ドリペネム	フィニハックス	○			*				○	○
	ETP	エルタペネム		○		*					×	
Pe	FRPM	ファロペネム	ファロム		○						(限定)	

系統記号の意味

P; ペニシリン系 C-1; 第1世代セフェム C-2; 第2世代セフェム C-3; 第3世代セフェム C-4; 第4世代セフェム
CM; セファマイシン系 OC; オキサセフェム系 MoB; モノバクタム CarP; カルバペネム系 Pe; ペネム系

オーダリング上細菌検査の感受性検査で表示する抗菌薬略号について(*を表示) (H30.3)
No.2

系統	報告書略号	一般名	商品名	用法		菌種別の感受性検査対象薬剤					当院採用	使用届制
				注射	内服	腸内細菌群 大腸菌など	緑膿菌	ブドウ球菌 腸球菌	連鎖球菌	ヘモフィルス		
AG	AMK	アミカシ	硫酸アミカシ	○		*	*				○	
	ISP	イセパシ	エクサシ	○							×	
	GM	ゲンタマイシ	ゲンタシ	○		*	*	*			○	
	TOB	トブラマイシ	トブラシ	○			*				○	
	ABK	アルペカシ	ハペカシ	○				*			○	
	KM	カナマイシ	カナマイシ	○	○						×	
M	EM	エリスロマイシ	エリスロシ		○			*	*		○	
	CAM	クラリスロマイシ	クラリスロマイシ		○					*	○	
	AZM	アジスロマイシ	ジスロマック	○	○				*		○	
LM	CLDM	クリンダマイシ	ダラシ	○	○			*	*		○	
TC	MINO	ミノサイクリ	ミノサイクリ	○	○	*	*	*	*	*	○	
	DMCT	ジメチルクロルテトラサイクリ	レダマイシ		○						○	
	TGC	チケサイクリ	タイガシル	○		*	*				○	
CP	CP	クロラムフェニコール	クロロマイセチ	○	○		*		*	*	×	
Fo	FOM	ホスホマイシ	ホスミン	○	○	*	*	*			○	
NQ	LVFX	レボフロキサシ	クラビット、レボフロキサシ	○	○	*	*	*	*	*	○	
	CPFX	シプロフロキサシ	シプロキサ		○	*	*			*	○	
	PZFX	ハズフロキサシ	ハシル	○							○	
PP	VCM	バンコマイシ	塩酸バンコマイシ	○	○			*	*		○	○
	TEIC	テイコプラニ	タゴシット	○				*			○	○
	CL	コリスチ	オルトレブ、メタコリマイシ	○	○		*				×	
他	LZD	リネゾリット	サイボックス	○	○			*			○	○
	DAP	ダプトマイシ	キュービシ	○				*			○	○
	ST	スルファメキサザールトリメプリ	ハクトラミン、ハクタ	○	○	*	*	*	*	*	○	
	RFP	リファンピシ	リファジン		○			*	*	*	○	
	MUP	ムピロシ	ハクトロバン		外用			*			○	

系統記号の意味

AG;アミノ配糖体系 M;マクロライド系 LM;リコマイシ系 TC;テトラサイクリン系 Fo;ホスホマイシ系
NQ;ニューキノロン系 PP;ポリペプチド系 CP;クロラムフェニコール

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■縮瞳剤				
サンピロ <ピロカルピン> (参天)		1%液(5mL) ¥123.6/本	緑内障・縮瞳	3~5回点眼/日
		2%液(5mL) ¥147.1/本		
■散瞳剤※閉塞隅角緑内障および閉塞隅角緑内障を起こす素因のある患者には禁忌				
アトロピン <アトロピン> (日点)		1%液(5mL) ¥218.3/本	散瞳・調節麻痺	1~3回点眼/日
アトロピン <アトロピン>		0.5%液(5mL) 【院内製剤】		
サイプレジン <シクロペントラート> (参天)		1%液(10mL) ¥821/本		1~2回(1回目5~10分後)点眼
ネオシネジン <フェニレフリン> (興和創薬)		5%液(10mL) ¥438/本	散瞳	1回点眼
ミドリンM <トロピカミド> (参天)		0.4%液(5mL) ¥103.5/本	①散瞳 ②調節麻痺	①1回点眼 ②3~5分おきに2~3回点眼
ミドリンP <トロピカミド・フェニレフリン> (参天)		液(10mL) ¥283/本		①3~5分おきに1~2回点眼 ②3~5分おきに2~3回点眼
■緑内障眼圧降下薬 ◆副交感神経刺激薬(縮瞳)				
サンピロ <ピロカルピン> (参天)		1%液(5mL) ¥123.6/本	緑内障, 縮瞳	3~5回点眼/日
		2%液(5mL) ¥147.1/本		
■緑内障眼圧降下薬 ◆α1遮断薬				
デタントール <ブナゾシン> (参天)		0.01%液(5mL) ¥1288.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■緑内障眼圧降下薬 ◆β遮断薬				
チモプトール <チモロール> (MSD)		0.5%液(5mL) ¥1065/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日
チモプトールXE <チモロール> (MSD)		0.5%液(2.5mL) ¥1571/本		1回点眼/日
ミケランLA <カルテオロール> (大塚)		2%液(2.5mL) ¥1231.25/本		
■緑内障眼圧降下薬 ◆α1β遮断薬				
ハイパジール <ニプラジロール> (興和創薬)		0.25%液(5mL) ¥1604.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日
■緑内障眼圧降下薬 ◆プロスタグランジン製剤				
キサラタン <ラタノプロスト> (ファイザー)		0.005%液(2.5mL) ¥1514.25/本	緑内障, 高眼圧症	1回点眼/日
タプロス <タフルプロスト> (参天)		0.0015%液(2.5mL) ¥2363.25/本		
トラバタンズ <トラボプロスト> (ハルシスファーマ)		0.004%液(2.5mL) ¥2407.75/本		
■緑内障眼圧降下薬 ◆プロスタミド誘導体制剤				
ルミガン <ピマトプロスト> (千寿)		0.03%液(2.5mL) ¥2275/本	緑内障, 高眼圧症	1回点眼/日
■緑内障眼圧降下薬 ◆炭酸脱水酵素阻害薬				
エイソプト <プリンゾラミド> (ハルシスファーマ)		1%液(5mL) ¥1747/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日 【Max: 3回まで】
ダイアモックス <アセタゾラミド> (三和化学)	250mg/錠 ¥24.1/錠	500mg/瓶 ¥582/瓶	緑内障	250~1000mg
				250~1000mg静注, 筋注
トルソプト <ドルゾラミド> (MSD)		1%液(5mL) ¥1133/本		3回点眼/日

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■緑内障眼圧降下薬 ◆アドレナリンα2受容体作動薬				
アイファガン <プリモニジン> (千寿)		点眼液 (5mL) ¥2244.5/本	緑内障, 高眼圧症	2回点眼/日
■白内障治療薬				
カリーユニ <ピレノキシニン> (参天)		0.005%液 (5mL) ¥63.7/本	初期老人性白内障	3~5回点眼/日
■角膜保護剤				
ヒアレイン <ヒアルロン酸ナトリウム> (参天)		0.1%液 (5mL) ¥366.6/本	角結膜上皮障害	5~6回点眼/日
ムコスタUD <レバミピド> (大塚)		2%液 (0.35mL) ¥27/本	ドライアイ	4回点眼/日
■ステロイド系抗炎症薬				
ネオメドロールEE <配合剤: メチルプレドニゾロン・フラジオマイシン> (ファイザー)		軟膏 (3g) ¥143.1/本	外眼部・前眼部の炎症性疾患, 外耳の湿疹・皮膚炎・耳鼻咽喉科領域における術後処置	1~数回点眼・塗布/日
フルメトロン <フルオロメトロン> (参天)		0.1%液 (5mL) ¥247.5/本	外眼部, 前眼部の炎症性疾患	2~4回点眼/日
プレドニン <プレドニゾロン> (オノキ)		眼軟膏 (5g) ¥230.5/本	外眼部・前眼部の炎症性疾患(眼瞼炎, 結膜炎, 角膜炎, 強膜炎, 上強膜炎, 前眼部ブドウ膜炎, 術後炎症)	1~数回塗布
リンデロン <ベタメタゾン> (オノキ)		0.1%液 (5mL) 点 眼点耳用 ¥328/本	外眼部・前眼部の炎症性疾患, 外耳・中耳(耳管含む), 上気道の炎症・アレルギー性疾患, 術後処置	3~4回点眼/日, 1~数回点耳・点鼻・耳浴/日, ネライザ ー, タンポン

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■非ステロイド抗炎症薬				
ジクロード 〈ジクロフェナク〉 (わかもと)		0.1%液(5mL) ¥361/本	白内障手術時の術後の炎症症状, 術中・術後合併症	眼手術前4回(3時間前, 2時間前, 1時間前, 30分前), 眼手術後3回点眼
ネバナック 〈ネパフェナク〉 (ハルシスファーマ)		0.1%液(5mL) ¥914/本	内眼部手術における術後炎症	眼手術前日より1滴/回, 3回/日点眼 眼手術当日は術前3回, 術後1回点眼
プロナック 〈プロムフェナク〉 (千寿)		0.1%液(5mL) ¥498/本	外眼部・前眼部の炎症性疾患の対症療法(眼瞼炎, 結膜炎, 強膜炎(上強膜炎を含む), 術後炎症)	2回点眼/日
■抗アレルギー薬				
パタノール 〈オロパタジン〉 (協和発酵社)		0.1%液(5mL) ¥925/本	アレルギー性結膜炎	4回点眼/日
リザベン 〈トラニラスト〉 (キッセイ)		0.5%液(5mL) ¥581.9/本		
リボスチン 〈レボカバステン〉 (参天)		0.025%液(5mL) ¥610/本		

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■手術用・検査用薬				
アイリーア ＜アフリベルセプト＞ (参天)		2mg/0.05mL/瓶 ¥138653/瓶	①中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症 ②網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 ③病的近視における脈絡膜新生血管 ④糖尿病黄斑浮腫	①2mg(0.05mL)/回、硝子体内投与 導入期:1ヵ月毎に連続3ヵ月間 維持期:2ヵ月毎に1回 1ヵ月以上間隔をあけて ②③2mg(0.05mL)/回、硝子体内投与 1ヵ月以上間隔をあけて ④2mg(0.05mL)/回、硝子体内投与 導入期:1ヵ月毎に連続5回 維持期:2ヵ月毎に1回 1ヵ月以上間隔をあけて
オペガードネオキッド ＜オキシグルタチオン＞ (大塚)		液(500mL/袋) 【用時購入】 ¥3943/袋	手術(白内障、硝子体、緑内障)時の眼灌流・洗浄	用時、オシグ®ルタチオン液と希釈液を混合し用いる。用量は症例により一定でない。
オペガン ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (参天)		1%液(1.1mL) ¥6716/筒	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続施行時 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.4～1.0mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.6mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ④0.1～0.5mL前房内注入、提供眼の移植片角膜コーティング約0.1mL
オペガンハイ ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (参天)		1%液(0.85mL) ¥5848.7/筒	①白内障手術 ②眼内レンズ挿入術 ③全層角膜移植術	①0.2～0.75mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.4mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ④0.1～0.6mL前房内注入、提供眼の移植片角膜コーティング約0.1mL
オペリッド ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (千寿)		1%液(1.1mL) ¥6267.7/筒	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.4～1.0mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.6mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL ④0.1～0.5mL前房内注入、提供眼の移植片角膜コーティング約0.1mL
シェルガン ＜ヒアルロン酸ナトリウム、コンドロイチン硫酸ナトリウム＞ (参天)		液(0.5mL) ¥5206.3/筒	①超音波乳化吸引法による白内障摘出術 ②眼内レンズ挿入術	①0.1～0.4mL前房内注入 ②0.1～0.3mL前房内注入、眼内レンズのコーティング約0.1mL
スコピゾル15 ＜配合剤＞ (千寿)		液(15mL/本) ¥1500/本	眼科診断の際・光凝固手術時、特殊コンタクトレンズ類の角膜装着を容易・密にする	レンズ凹面1～2滴滴下し角膜に装着
ディスコビスク ＜ヒアルロン酸ナトリウム、コンドロイチン硫酸ナトリウム＞ (日本7ルン)		1mL/筒 ¥9394/筒	水晶体再建術の手術補助	白内障摘出時・眼内レンズ挿入時:0.1～0.4mL前房内注入 眼内レンズコーティング:約0.1mL
ビーエスエスプラス ＜オキシグルタチオン＞ (参天)		液(500mL) ¥3473.1/本	手術(白内障、硝子体、緑内障)時の眼灌流・洗浄	【症例により一定でない】
ビスダイン ＜ベルテポルフィン＞ (ハルバース)		15mg/瓶 ¥187663/瓶	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症	6mg/m ² (体表面積)を静注し、投与開始から15分後にレーザー光を治療スポットに照射

1. 眼科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ヒーロン ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (ファイザー)		1%液(0.4mL) ¥4484.6/筒	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術 ④全層角膜移植術	①0.2～0.75mL前房内注入, 眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.4mL前房内注入 ③0.1～0.5mL前房内注入, 眼内レンズのコーティング約0.1mL ④0.1～0.6mL前房内注入, 提供眼の移植片角膜コーティング約0.1mL
ヒーロンV ＜ヒアルロン酸ナトリウム＞ (ファイザー)		2.3%液(0.6mL) ¥8964.7/本	①白内障手術・眼内レンズ挿入術を連続して施行する場合 ②白内障手術 ③眼内レンズ挿入術	①0.3～0.6mL前房内注入, 眼内レンズのコーティング約0.1mL ②0.1～0.3mL前房内注入 ③0.1～0.4mL前房内注入, 眼内レンズのコーティング約0.1mL
マキュエイド ＜トリアムシノロンアセトニド＞ (わかもと)		40mg/瓶 ¥8213/瓶	【硝子体内投与】 ①硝子体手術時の硝子体可視化 ②糖尿病黄斑浮腫 【テノン嚢下投与】 ③糖尿病黄斑浮腫, 網膜静脈閉塞症, 非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫の軽減	①10mg/mlに用時懸濁後, 0.5mg/0.05ml～4mg/0.4ml硝子体内注入 ②40mg/mlに用時懸濁後, 4mg/0.1ml硝子体内注入 ③40mg/mlに用時懸濁後, 20mg/0.5mlテノン嚢下投与
マクジェン ＜ペガブタニブナトリウム＞ (ボッシュ)		0.3mg(90μL)/筒 ¥109648/筒	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症	0.3mg/回を6週間毎に硝子体内投与
ルセンチス ＜ラニピズマブ＞ (ハルダース)		0.5mg/0.05mL/筒 ¥157776/筒	①中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症 ②網脈静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫 ③病的近視における脈絡膜新生血管 ④糖尿病黄斑浮腫	①＜導入期＞0.5mg(0.05mL)/回, 1ヵ月毎に連続3ヵ月間硝子体内投与 ＜維持期＞0.5mg(0.05mL)/回, 1ヵ月以上の間隔で適宜調節 ②③④0.5mg(0.05mL)/回, 1ヵ月以上の間で硝子体内投与

■表面麻酔薬

ベノキシル ＜オキシブプロカイン＞ (参天)		0.4%点眼液(10mL) ¥134/本	表面麻酔	1～4滴点眼/日
----------------------------------	--	-------------------------	------	----------

■その他

アダプチノール ＜ヘレニエン＞ (パイール)	5mg/錠 【院外のみ】 ¥42.3/錠		網膜色素変性症における一時的な視野・暗順応の改善	10～20mg分2～4
サンコバ ＜シアノコバラミン＞ (参天)		0.02%液(5mL) ¥87.2/本	調節性眼精疲労における微動調節の改善	3～5回点眼/日
PA・ヨード ＜ヨウ素, ポリビニルアルコール＞ (日本点眼薬研究所)		点眼・洗眼液0.2%液(20mL) ¥442/瓶	角膜ヘルペス, 洗眼殺菌	原液(有効成分濃度0.2%)を通常, 精製水又は0.9%食塩水で4～8倍に希釈して用いる

2. 抗生物質・抗菌剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
エコリシン <コリスチン・エリス ロマイシン> (参天)		眼軟膏(3.5g) ¥160.3/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 角膜炎 (角膜潰瘍を含む)	数回塗布
ガチフロ <ガチフロキサシン> (千寿)		0.3%液(5mL) ¥612.5/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎(角膜潰瘍 を含む), 眼科周術期 の無菌化療法	3回点眼/日 手術前5回点眼
クラビット <レボフロキサシン> (参天)		1.5%液(5mL) ¥504/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎(角膜潰瘍 を含む), 眼科周 術期の無菌化療法	3回点眼/日
タリビッド <オフロキサシン> (参天)		眼軟膏(3.5g) ¥389.9/本	眼瞼炎, 麦粒腫, 涙の う炎, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎, 角膜潰 瘍, 術後感染症	3回塗布
トスフロ <トスフロキサシン> (日東メディック)		0.3%液(5mL) ¥517/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎(角膜潰瘍 を含む), 眼科周術期 の無菌化療法	3回点眼/日
ベガモックス <モキシフロキサシン > (ハルシファーマ)		0.5%液(5mL) ¥624/本	眼瞼炎, 涙囊炎, 麦粒 腫, 結膜炎, 瞼板腺 炎, 角膜炎(角膜潰瘍 を含む), 眼科周 術期の無菌化療法	3回点眼/日 手術前5回点眼/日, 術後3回点眼/日
ベストロン <セフメノキシム> (千寿)		0.5%液(5mL) ¥269/本		4回点眼/日

3. 抗ウイルス剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ゾビラックス <アシクロビル> (ゲラケイ・スミスクライン)		眼軟膏 (5g) ¥2707.5/本	単純ヘルペスに起因する 角膜炎	5回塗布

4. 抗真菌剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ジフルカン <フルコナゾール>		0.2%液(5mL) 【院内製剤】	真菌性角膜炎	6回点眼/日
ピマリシン <ピマリシン> (千寿)		眼軟膏(5g) ¥2969/本	角膜真菌症	4~5回/日塗布
		5%点眼液(5mL) ¥3084.5/本		1~2滴/回, 6~8回/日
フロリード <ミコナゾール>		0.1%液(5mL) 【院内製剤】	真菌性角膜炎	6回点眼/日

1. 耳鼻用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■鎮暈薬				
イソバイド ＜イソソルピド＞ (興和創薬)	70%液20mL/包 ¥95.3/包 70%液30mL/包 ¥142/包		①メニール病 ②脳腫瘍, 頭部外傷時の脳圧亢進, 腎・尿管結石(利尿), 緑内障(眼圧降下)	①90~120mL(1.5~2.0mL/kg)分3 ②70~140mL分2~3
セファドール ＜ジフェニドール＞ (日本新薬)	25mg/錠 ¥11.7/錠		内耳障害に基づくめまい	3~6錠分3
トラベルミン ＜ジフェンヒドラミン(40mg)ジプロファミリン(26mg)＞ (エーザイ)	錠 ¥5.8/錠		動揺病, メニール症候群に伴う悪心・嘔吐・めまい	1回1錠, 1日3~4回
ベタヒスチン ＜ベタヒスチン＞ (東和薬品)	6mg/錠 ¥6/錠		メニール病, メニール症候群, 眩暈症	3~6錠分3
■耳鳴緩和剤				
ストミンA ＜ニコチン酸アミド, 塩酸パパベリン＞ (ゾン林・ド)	錠 【用時購入】 ¥5.6/錠		内耳及び中枢障害による耳鳴	6錠分3
■外用薬 <ステロイド系抗炎症薬>				
ネオメドロールEE ＜配合剤: メチルプレドニゾロン・フラジオマイシン＞ (ファイザー)		軟膏(3g) ¥143.1/本	外耳の湿疹・皮膚炎・術後処置, 外眼部・前眼部の細菌感染症	1~数回点眼/日, 塗布
リンデロン ＜ベタメタゾン＞ (オノキ)		0.1%液(5mL)点 眼点耳用 ¥328/本	①外眼部・前眼部の炎症性疾患 ②外耳・中耳(耳管含む), 上気道の炎症・アレルギー性疾患, 術後処置	①3~4回点眼/日 ②1~数回点耳・点鼻・耳浴/日, ネライザ, タホン
■外用薬 <点耳用>				
ジオクチルソジウムスルホサクシネート ＜ジオクチルソジウムスルホサクシネート＞ (武田)		5%液(10mL)耳科用 ¥5220/本	耳垢の除去	外耳へ塗布 除去困難時, 数滴点耳後5~29分後に微温湯で洗浄 高度耳垢栓塞時, 3回/日, 1~2日連続点耳後微温湯で洗浄
タリビッド ＜オフロキサシン＞ (第一三共)		0.3%液(5mL)耳科用 ¥546/本	外耳炎, 中耳炎	6~10滴/回, 2回/日点耳 点耳後約10分間耳浴

1. 耳鼻用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■外用薬 <点鼻用>				
アラミスト <フルチカゾン> (ゲラケル・ミスクリン)		点鼻液 (27.5 μ g /噴霧, 56回分) ¥1893.9/瓶	アレルギー性鼻炎	1日1回両鼻腔に各2噴霧 <小児>1日1回両鼻腔に各1噴霧
エリザス <デキサメタゾン> (日本新薬)		点鼻粉末 (200 μ g /噴霧, 28回分) ¥1669/瓶		1日1回両鼻腔に各1噴霧
ナゾネックス <モメタゾン> (MSD)		点鼻液 (5mg/10g /瓶, 56回分) ¥1791.6/瓶		1日1回両鼻腔に各2噴霧 <小児> 12歳未満には1日1回両鼻腔に各1噴霧 12歳以上には1日1回両鼻腔に各2噴霧
プリピナ耳科用 <ナファゾリン> (ハルティス)		0.05%液 (5mL) ¥20.5/本	①上気道の諸疾患の 充血・うっ血 ②上気道粘膜の表面 麻酔時	①鼻腔内2~4滴/回, 咽頭・喉頭1~2mL/回, 数回/日, 塗布・噴霧 ②局麻剤1mLあたり2~4滴添加

2. 口腔用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■含嗽薬				
アズノール ＜アズレン＞ (日本新薬)		液(5mL) ¥201/本	咽頭炎,扁桃炎,口内炎,急性歯肉炎,舌炎,口腔創傷	1回押し切り分、又は5～7滴/回、数回/日、約100mLに溶解後含嗽
ポビドンヨードガージェル ＜ポビドンヨード＞ (Meiji Seika ファルマ)		液(30mL) ¥66/本	咽頭炎,扁桃炎,口内炎,抜歯創を含む口腔創傷の感染予防,口腔内の消毒	15～30倍に希釈し1日数回含嗽
■口腔用薬				
アフタシールS ＜トリアムシノロンアセトニド＞ (大正富山)		0.025mg/枚(附着フィルム) ¥38.1/枚	777性口内炎	1患部に1枚/回,1～2回/日
オラドル ＜ドミフェン＞ (大洋薬品)	0.5mg/錠 ¥5.8/錠		咽頭炎,扁桃炎,口内炎,抜歯創を含む口腔創傷感染予防	0.5mg/回,3～6回/日,口中で溶解
ケナログ ＜トリアムシノロンアセトニド＞ (ブリistol)		軟膏(5g) ¥325/本	慢性剥離性歯肉炎,糜爛・潰瘍を伴う難治性口内炎,舌炎	1～数回患部に塗布
サラジェン ＜ピロカルピン＞ (キッセイ)	5mg/錠 ¥127.5/錠		①頭頸部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善 ②シェーグレン症候群患者の口腔乾燥症状の改善	15mg分3
サリベート ＜人工唾液＞ (帝人)		50g/本 ¥569.9/本	シェーグレン症候群による口腔乾燥症,頭頸部の放射線照射による唾液腺障害に基づく口腔乾燥症	1～2秒間噴霧/回,4～5回/日 口腔内噴霧
デキサルチン ＜デキサメタゾン＞ (日本化薬)		軟膏(5g) ¥261/本	糜爛・潰瘍を伴う難治性口内炎,舌炎	1～数回患部に塗布

1. 肛門用薬・泌尿器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■痔疾用剤				
ネリプロクト ＜ジフルコルトロン： リドカイン（0.2mg： 40mg）＞ （パ・イール）		坐剤 ¥34/個	痔核の症状の緩解	2個分2肛門内挿入
		軟膏（2g） ¥61.4/本		1日2回適量を肛門内に注入
強力ポステリザン ＜大腸菌死菌浮遊液・ ヒドロコルチゾン＞ （マル林）		軟膏（2g） ¥44.2/本	内痔核、肛門周囲の 湿疹・皮膚炎、軽度な 直腸炎の症状の緩解	1日1～3回適量を患部に塗布、注入
■泌尿器用薬 ◆植物・アミノ酸製剤				
ウロカルン ＜ウラジロガシ＞ （日本新薬）	225mg/錠 ¥8.5/錠		腎結石・尿管結石の 排出促進	1350mg分3
エビプロスタット配合 錠DB ＜配合剤：オオウメガ サソウエキス、 ハコヤナギエキス、 セイヨウオキナグサエ キス、 スギナエキス、 コムギ胚芽油＞ （日本新薬）	錠 ¥40/錠		前立腺肥大に伴う排 尿障害、残尿（感）、頻 尿	3錠分3
■泌尿器用薬 ◆α1遮断薬				
エブランチル ＜ウラピジル＞ （科研）	15mg/C ¥16.4/C		①前立腺肥大症に伴 う排尿障害 ②神経因性膀胱に伴 う排尿困難	①30mg～（90mg）分2 ②30mg～60mg分2【Max:90mg】
タムスロシンOD ＜タムスロシン＞ （東和薬品）	0.2mg/錠 ¥41.3/錠		前立腺肥大症に伴う 排尿障害	0.2mg分1
フリバスOD ＜ナフトピジル＞ （旭化成）	50mg/錠 ¥81.9/錠			50～75mg分1
ユリーフ ＜シロドシン＞ （第一三共）	4mg/錠 ¥72.1/錠			8mg分2
■泌尿器用薬 ◆ホスホジエステラーゼ5阻害薬				
ザルティア ＜タダラフィル＞ （日本イライリ-）	5mg/錠 ¥218/錠		前立腺肥大症に伴う 排尿障害	5mg分1

1. 肛門用薬・泌尿器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■泌尿器官用薬 ◆頻尿治療薬				
ネオキシテープ 〈オキシブチニン〉 (久光製薬)		73.5mg/枚 (6cm ×6cm) ¥186.7/枚	過活動膀胱における 尿意切迫感、頻尿及 び切迫性尿失禁	1枚/日、下腹部・腰部又は大腿部に 貼付
バップフォー 〈プロピペリン〉 (大鵬)	20mg/錠 ¥98.2/錠		神経因性膀胱、神経 性頻尿、不安定膀胱、 膀胱刺激状態におけ る頻尿、尿失禁 過活動膀胱における 尿意切迫感、頻尿及 び切迫性尿失禁	20mg分1 【Max:40mg】
ブラダロン 〈フラボキサート〉 (日本新薬)	200mg/錠 ¥19.8/錠		神経性頻尿、慢性前 立腺炎、慢性膀胱炎 に伴う頻尿・残尿感	600mg分3
ベシケアOD 〈ソリフェナシン〉 (アステラス)	5mg/錠 ¥183.9/錠		過活動膀胱における 尿意切迫感、頻尿及 び切迫性尿失禁	5mg分1 【Max:10mg】
■泌尿器官用薬 ◆その他				
ウプレド 〈ジステグミン〉 (鳥居)	5mg/錠 ¥18.6/錠		①手術後及び神経因 性膀胱などの低緊張 性膀胱による排尿困 難 ②重症筋無力症	①5mg/日 ②5～20mg分1～4
■勃起不全治療薬				
バイアグラ 〈シルденаフィル〉 (ファイザー)	25mg/錠 【院外のみ】 ¥1100/錠 50mg/錠 【院外のみ】 ¥1300/錠		勃起不全	25mg～50mg分1

2. 生殖器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■生殖器官用薬				
エストリール ＜エストリオール＞ (持田)		0.5mg錠 ¥18.7/錠	膣炎(老人,小児,非特異性),子宮頸管炎,子宮腔部びらん	0.5~1mg分1腔内挿入
オキナゾール ＜オキシコナゾール＞ (田辺三菱)		600mg錠 ¥306.4/錠	カンジダに起因する膣炎・外陰膣炎	1錠(600mg)週1回,腔内挿入
フラジール ＜メトロニダゾール＞ (オノキ)		250mg錠 ¥36.7/錠	①トリコモナス膣炎 ②細菌性膣症	①1日1回250mg,10~14日間腔内挿入 ②1日1回250mg,7~10日間腔内挿入
■子宮収縮剤				
エルゴメトリンF ＜エルゴメトリン＞ (富士製薬)		0.2mg/管(1mL) ¥92/管	①子宮収縮の促進,子宮出血の予防・治療,帝王切開術,弛緩出血【緊急時,他療法が無効の場合に使用】 ②【適応外】冠攣縮の誘発	①0.2mg/回,皮下,筋注,静注 ②【DI照会参照】
メチルエルゴメトリン ＜メチルエルゴメトリン＞ (あすか)	0.125mg/錠 ¥9.9/錠		子宮収縮の促進,子宮出血の予防・治療	0.25~1.0mg分2~4
■切迫早産治療薬				
ウテメリン ＜リトドリン＞ (キッセイ)	5mg/錠 ¥65.5/錠		切迫早産	15mg分3
マグセント ＜硫酸マグネシウム, ブドウ糖＞ (東亜薬品)		各10g/100mL/本 ¥2117/本	切迫早産における子宮収縮の抑制,重症妊娠高血圧症候群における子癇の発症抑制及び治療	初回量40mLを20分以上かけて静注後10mL/hrで持続静注【Max:20mL/hr】
リトドリン ＜リトドリン＞ (日医工)		50mg/管(5mL) ¥183/管	緊急に治療を必要とする切迫流・早産	50~150 μ g/min,点静【Max:200 μ g/min】

2. 生殖器用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■プロラクチン分泌抑制薬				
カバサール <カベルゴリン> (ファイザー)	0.25mg/錠 【院外のみ】 ¥67.1/錠		①乳汁漏出症, 高プロラクチン血性排卵障害, 高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ②産褥性乳汁分泌抑制	①初回0.25mg/分1就寝前/週1回, 漸増投与, 維持量0.25mg~0.75mg【Max:1.0mg】 ②1.0mg/1回のみ, 胎児娩出後, 食後投与
	1.0mg/錠 ¥221.6/錠			
パーロデル <プロモクリプチン> (ハルティス)	2.5mg/錠 ¥62.6/錠		①産褥性乳汁分泌抑制, 乳汁漏出症, 高プロラクチン血性排卵障害, 高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科処置不要な場合のみ) ②末端肥大症, 下垂体性巨人症 ③パーキンソン症候群	①5.0~7.5mg分2~3 ②2.5~7.5mg分2~3 ③7.5~22.5mg分2~3漸増投与

1. 皮膚科用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■免疫抑制剤				
ネオーラル <シクロスポリン> (パルテ)	25mg/C ¥203.2/C		①尋常性乾癬, 膿疱性乾癬, 乾癬性紅皮症, 関節症性乾癬 ②アトピー性皮膚炎	①5mg/kg/日分2, 以後1ヵ月毎に1mg/kg/日減量 維持量3mg/kg/日 ②3mg/kg/日分2 【Max:5mg/kg/日】
■その他				
チガソン <エトレチナート> (中外)	10mg/C 【院外のみ】 ¥302.6/C		難治性皮膚疾患, 口腔乳頭腫・口腔扁平苔癬	【同意書要】 導入:40~50mg分2~3を2~4週間 【Max:75mg/日】 <小児>1mg/kg分1~3 維持量:10~30mg分1~3 <小児>0.6~0.8mg/kg分1~3
プロペシア <フィナステリド> (MSD)	1mg/錠 【院外のみ】 ¥250/錠		男性における男性型脱毛症の進行遅延	0.2mg分1 【Max:1mg】

2. 外皮用薬 [褥瘡・潰瘍治療剤]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
アクトシン <ブクラデシンナトリウム> (マルホ)		軟膏(30g) ¥1362/本	褥瘡, 皮膚潰瘍	1~2回貼布, 塗布
アズノール <アズレン> (日本新薬)		0.033%軟膏(500g) ¥2.73/g	湿疹, 熱傷, びらん・潰瘍	数回塗布
フィブラストスプレー <トラフェルミン(遺伝子組み換え)> (科研)		500 μ g/瓶(溶解液5mL付) ¥9107.9/瓶	褥瘡, 皮膚潰瘍	1Vを添付溶解液に溶かし潰瘍面から約5cm離して5噴霧
プロスタンディン <アルプロスタジル> (小野薬品)		軟膏(10g) ¥496/本		2回貼付, 塗布
メイスパン <ポピドンヨード, 白糖> (Meiji Seikaファルマ)		軟膏(100gチューブ) ¥1100/本	褥瘡、皮膚潰瘍(熱傷潰瘍、下腿潰瘍)	1~2回貼付, 塗布

3. 外皮用薬 [乾癬・皮膚軟化・腐蝕用]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ウレパール <尿素> (大塚)		10%クリーム(20g) ¥122/本	アトピー性皮膚, 老人性 乾皮症	2~3回塗布
オキサロール <マキサカルシトール> (マルホ)		軟膏(10g) ¥1055/本	尋常性乾癬, 魚鱗癬, 掌蹠角化症, 掌蹠膿 疱症	1日2回塗布 【Max:10g/日】
		ローション(10g) 【院外のみ】 ¥1055/本		1日2回塗擦 【Max:10g/日】
サリチル酸ワセリン <サリチル酸> (東豊)		軟膏(10%, 500g) ¥2.52/g	乾癬, 白癬(頭部浅在 性白癬, 小水疱性斑 状白癬, 汗疱状白癬, 頑癬), 癬風, 紅色皰 糠疹, 紅色陰癬, 角化 症(尋常性魚鱗癬, 先 天性魚鱗癬, 毛孔性 苔癬, 先天性手掌足 底角化症(腫), ダリエ 病, 遠山連環状皰糠 疹)湿疹(角化を伴 う), 口囲皮膚炎, 掌 蹠膿疱症, ヘルペス 皰糠疹, アトピー性皮 膚炎, さ瘡, せつ, 腋臭 症, 多汗症, その他角 化性の皮膚炎	1~2回塗布
硝酸銀 <硝酸銀> (マイラン)		5%液 【院内製剤】	口内炎, 潰瘍面の不 良肉芽	用時適用
スピール膏M <サリチル酸> (ニチバン)		絆創膏 ¥85.4/枚	疣贅, 鶏眼, 胼胝腫の角質剥離	患部に貼付
ドボネックス <カルシポトリオール> (鳥居)		軟膏(10g) ¥1032/本	尋常性乾癬	1日2回塗布 【Max:90g/週】
ドボベット <カルシポトリオー ル, ベタメタゾン> (協和発酵キリン)		軟膏(15g) ¥3712.5/本		1日1回塗布 【Max:90g/週】
尿素クリーム <尿素> (ファイザー)		20%クリーム(25g) ¥120/本	魚鱗癬, 老人性乾皮 症, アトピー皮膚, 進 行性指掌角皮症(主 婦湿疹の乾燥型), 足 趾部皸裂性皮膚炎, 掌蹠角化症, 毛孔性 苔癬	1~数回塗擦

4. 外皮用薬 [鎮痛・鎮痒・収斂・消炎]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オイラックス <クロタミトン> (ハルファ)		クリーム(500g) ¥3.91/g	湿疹,じん麻疹,神経 皮膚炎,皮膚掻痒症, 小児スチロム	1日数回塗布,塗擦
グリメサゾン <デキサメタゾン,グ リテール> (第一三共)		軟膏(5g) ¥187.5/本	湿疹・皮膚炎群(進行 性指掌角皮症,ヒター ル苔癬,放射線皮膚 炎,日光皮膚炎を含 む),皮膚掻痒症,尋 常性乾癬,虫さされ	1日1~数回塗布,塗擦,貼付
サトウザルベ <亜鉛華軟膏> (佐藤)		10%軟膏(500g) ¥2.07/g	皮膚疾患の収斂・消 炎・保護・防腐	1日1~数回塗擦,貼付
フェノール亜鉛華リニ メント(カチリ) <配合剤> (健栄)		リメント ¥1.68/g	皮膚掻痒症,汗疹,蕁 麻疹,小児スチロム,虫 さされ	1日1~数回塗布
レスタミン <ジフェンヒドラミン > (興和創薬)		クリーム(1kg) ¥2.95/g	蕁麻疹,湿疹,小児ス チロム,皮膚掻痒症,虫 さされ	数回患部に塗布

5. 外皮用薬 [副腎皮質ホルモン剤]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
【mild】				
アルメタ <アルクロメタゾン> (オノキ)		軟膏(5g) ¥168/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿胞症, 薬疹・中毒疹, 慢性円板状エリマトーシス, その他	【DI照会参照】
キンダベート <クロベタゾン> (ゲラケル・スミスクライン)		軟膏(5g) ¥117.5/本	湿疹・皮膚炎群	
リドメックス <プレドニゾン> (興和創薬)		軟膏(5g) ¥86.5/本 ローション(10g) ¥173/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿胞症	
ロコイド <ヒドロコルチゾン> (鳥居)		クリーム(5g) ¥69/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 乾癬, 掌蹠膿胞症	
【strong】				
ドレニゾン <フルドロキシコルチド> (大日本住友)		テープ(7.5cm×10cm/枚) ¥75.7/枚	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 乾癬, 掌蹠膿胞症, 慢性円板状エリマトーシス, 皮膚アモイトーシス, その他	【DI照会参照】
リンデロンV <ベタメタゾン> (オノキ)		軟膏(5g) ¥128.5/本	湿疹・皮膚炎群, 乾癬, 掌蹠膿胞症, その他	
リンデロンVG <ベタメタゾン, ゲンタマイシン> (オノキ)		ローション(10mL) ¥272/本		

5. 外皮用薬 [副腎皮質ホルモン剤]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
【very strong】				
アンフラベート ＜ベタメタゾン＞ (日医工)		クリーム(5g) ¥62.5/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿胞症, 薬疹・中毒疹, 慢性円板状エリテマトーシス, 皮膚アミロイドーシス, 天疱瘡・類天然痘, その他	【DI照会参照】
		軟膏(5g) ¥62.5/本		
		ローション(10g) ¥125/本		
ネリゾナ ＜ジフルコルトロン＞ (パリエル)		ソリューション(10mL) ¥253/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 乾癬, 掌蹠膿胞症, 慢性円板状エリテマトーシス, 皮膚アミロイドーシス, その他	
		軟膏(5g) ¥126.5/本		
		ユニバーサルクリーム(5g) ¥126.5/本		
マイザー ＜ジフルプレドナート＞ (田辺三菱)		クリーム(5g) ¥92.5/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿胞症, 薬疹・中毒疹, 慢性円板状エリテマトーシス, その他	
		軟膏(5g) ¥92.5/本		
【strongest】				
デルモベート ＜クロベタゾール＞ (ガラクソ・スミスクライン)		スカルプ(10g) 【院外のみ】 ¥250/本	湿疹・皮膚炎群, 乾癬	【DI照会参照】
		軟膏(5g) ¥122.5/本	湿疹・皮膚炎群, 痒疹群, 虫さされ, 乾癬, 掌蹠膿胞症, 薬疹・中毒疹, 慢性円板状エリテマトーシス, 皮膚アミロイドーシス, 天疱瘡・類天然痘, その他	

6. 外皮用薬 [化膿性疾患用剤]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■細菌性				
アクアチム <ナジフロキサシン> (大塚)		クリーム(10g) ¥345/本	①表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, ②ざ瘡(化膿性炎症 を伴うもの)	①1日2回塗布 ②1日2回洗顔後塗布
		軟膏(10g) ¥345/本	表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症	1日2回塗布
クロマイP <配合剤: プレドニゾ ロン・クロラムフェニ コール・フラジオマイ シン> (第一三共)		軟膏(25g) ¥845/本	湿疹・糜爛・結痂, 二 次感染を伴う湿疹・ 皮膚炎群, 熱傷	1日1~数回塗布, 塗擦
ゲーベン <スルファジアジン銀 > (田辺三菱)		クリーム(100g) ¥12.6/g	熱傷, 皮膚潰瘍	1日1回塗布, 貼付
ゼビアックス <オゼノキサシン> (マル林)		ロション2%(10g) ¥769/本	①表在性皮膚感染症 ②ざ瘡(化膿性炎症 を伴うもの)	①1日1回塗布 ②1日1回洗顔後塗布
ソフラチュール <フラジオマイシン> (テカ製薬)		ガーゼ(10×10cm /枚) ¥55.1/枚	外傷・熱傷・その他の 二次感染	1~数枚貼付
バラマイシン <バシトラシン, フラ ジオマイシン> (小野薬品)		軟膏(10g) ¥67/本	膿痂疹, 毛のう炎, 尋 常性毛瘡, せつ, よ う, その他の膿皮症, 外傷・熱傷・その他の 疾患によるびらん・ 潰瘍及び術後の二次 感染, 感染予防, 腋臭 症	1日1~数回塗布, 貼付
フシジンレオ <フシジン酸ナトリウ ム> (第一三共)		軟膏(10g) ¥176/本	膿皮症, 外傷・熱傷・ 縫合創・植皮創にお ける二次感染	1日数回適量を患部に塗布, 貼付
ロゼックスゲル <メトロニダゾール> (ガレム)		ゲル0.75%(50g) ¥5055/本	がん性皮膚潰瘍部位 の殺菌・臭気の軽減	1日1~2回潰瘍面を清拭後塗布
■ウイルス性				
アラセナA <ピダラビン> (持田)		軟膏(5g) ¥1336.5/本	帯状疱疹, 単純疱疹	1日1~4回塗布, 貼付
ベセルナ <イミキモド> (持田)		クリーム(250mg/包) ¥1163.7/包	①尖圭コンジローマ(外 性器又は肛門周囲に 限る) ②日光角化症(顔面 又は禿頭部に限る)	適量を1日1回, 週3回, 就寝前に塗布 塗布後はそのままの状態を保ち, 起床後に塗 布した薬剤を石鹸を用い, 水又は温水で洗い 流す ①疣贅部位に塗布 ②治療部位に塗布, 4週間塗布後4週間休業し, 効果不十分の場合はさらに4週間塗布

7. 外皮用薬 [寄生性皮膚疾患用薬]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
-----------	-----	-------	-----	-------

【白癬用】

サリチル酸ワセリン ＜サリチル酸＞ (東豊)		軟膏(10%, 500g) ¥2.52/g	白癬(頭部浅在性白癬, 小水疱性斑状白癬, 汗疱状白癬, 頑癬), 癬風	1~2回塗布
----------------------------------	--	--------------------------	--------------------------------------	--------

【白癬・カンジダ用】 イミダゾール系

アスタット ＜ラノコナゾール＞ (マル林)		軟膏(1%, 10g) ¥340/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 間擦疹・指間びらん症, 爪囲炎	1日1回
ニゾラール ＜ケトコナゾール＞ (ヤンセンファーマ)		クリーム(2%, 10g) ¥334/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 間擦疹・指間びらん症, 乳児寄生菌性紅斑, 脂漏性皮膚炎	
		ローション(2%, 10g) ¥334/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 間擦疹・指間びらん症, 乳児寄生菌性紅斑	
ルリコン ＜ルリコナゾール＞ (ボーマファルマ)		液(1%, 10mL) ¥524/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 皮膚カンジダ症, 間擦疹・指間びらん症	
		クリーム(1%, 10g) ¥524/本		
クレナフィン ＜エフィナコナゾール＞ (科研)		爪外用液(10%, 3.56g(4mL)) ¥5712.02/本	爪白癬	1日1回罹患爪全体に塗布

【白癬・カンジダ用】 その他

ゼフナート ＜リラナフタート＞ (鳥居)		クリーム(2%, 10g) ¥386/本	足白癬, 体部白癬, 股部白癬	1日1回
ペキロン ＜アモロルフィン＞ (杏林)		クリーム(0.5%, 10g) 【院外のみ】 ¥331/本	足部白癬, 股部白癬, 手部白癬, 体部白癬, 癬風, 皮膚カンジダ症, 間擦疹・指間びらん症, 乳児寄生菌性紅斑, 爪囲炎	
ラミシール ＜テルビナフィン＞ (ハルヒス)		クリーム(1%, 10g) ¥324/本	足部白癬, 股部白癬, 体部白癬, 癬風, 皮膚カンジダ症, 間擦疹・指間びらん症, 乳児寄生菌性紅斑	

8. 外皮用薬 [その他]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アトピー性皮膚炎治療剤				
プロトピック小児用 ＜タクロリムス＞ (アステラ)		軟膏(0.03%, 5g) 【院外のみ】 ¥667/本	アトピー性皮膚炎	1～2回塗布 【Max:5g/回】
プロトピック ＜タクロリムス＞ (アステラ)		軟膏(0.1%, 5g) ¥539/本		

8. 外皮用薬 [その他]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他				
イオウ・カンフルローション <イオウ・カンフル> (丸石)		液(100mL) ¥242/本	ざ瘡, 酒さ	1日2回塗布 朝は上澄み液, 夜は混濁液を使用
エキザルベ <ヒドロコルチゾン配合剤> (マル林)		0.25%軟膏(5g) ¥113.5/本 0.25%軟膏(100g) 【院外のみ】 ¥22.7/g	湿疹・皮膚炎群, 熱傷, 術創, 湿疹様変化を伴う膿皮症	1~数回患部に塗布塗擦, 貼付
ザーネ <ビタミンA油> (エザイ)		軟膏(0.5%, 500g) ¥3.1/g	角化性皮膚疾患	2~3回塗擦
ディフェリン <アダパレン> (塩野義)		ゲル(15g) 【院外のみ】 ¥1428/本	尋常性ざ瘡	1日1回洗顔後塗布
ヒルドイドソフト <ヘパリン類似物質> (マル林)		軟膏(25g) ¥555/本	皮脂欠乏症, 進行性指掌角皮症, 凍瘡, 肥厚性瘢痕・加齢, 血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患, 血栓性静脈炎(痔核を含む), 外傷後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎, 筋性斜頸	1~数回塗擦, 貼付
ヒルドイドローション <ヘパリン類似物質> (マル林)		(25g) ¥555/本		
フロジン <カルプロニウム> (第一三共)		5%液(30mL) 【院外のみ】 ¥849/本	脱毛防止・発毛促進, 乾性脂漏, 尋常性白斑	2~3回塗布
ベピオ <過酸化ベンゾイル> (マル林)		ゲル(15g) 【院外のみ】 ¥1731/本	尋常性ざ瘡	1日1回洗顔後塗布
ヘマンジオール <プロプラノロール塩酸塩> (マルホ)	S Y (3.75mg/mL, 120mL/瓶) ¥260.2/mL		乳児血管腫	1mg~3mg/kg分2、空腹時を避けて経口投与 1mg/kg/日から開始、2日以上の間隔をあげ1mg/kgずつ増量、3mg/kg/日で維持
ペルニオ軟膏 <配合剤>		軟膏 【院内製剤】	凍瘡	塗布

9. 外皮用薬 [製剤原料]

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オリブ油 <オリブ油> (健栄)		(25mL) ¥2.75/mL	軟膏剤, 硬膏剤, リント剤などの基剤, 皮膚粘膜の保護	乳剤, 軟膏, 基剤, また塗擦剤として脱脂綿, ガーゼ等に浸して用いる
親水クリーム <親水クリーム> (健栄)		クリーム(500g) ¥2.27/g	軟膏剤の基剤, 皮膚の保護剤	
水酸化カリウム <水酸化カリウム> (エース)		5%液 【院内製剤】		
白色ワセリン <白色ワセリン> (健栄)		(500g) ¥2.34/g	軟膏剤の基剤, 皮膚の保護剤	

10. 殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■アルコール系				
アルウエッティBOX E <エタノール> (材料メディカル)		4cm×4cm, 50枚/ 個	【消毒剤指針参照のこと】	
アルウエッティone2エ タノール <エタノール> (材料メディカル)		4cm×4cm, 2枚/ 包, 200包/箱		
エタノール <エタノール> (健栄)		95%液(500mL) ¥2.18/mL		
消毒用エタプロコール <エタノール: 76. 9~81.4vol %, 及び添加物として イソプロパノール> (丸石)		76.9~81.4%液 (500mL) ¥0.63/mL		
ハイポエタノール <チオ硫酸ナトリウ ム, グラニオール変性 アルコール> (アトルファーマ)		2%液(500mL) ¥0.65/mL		
無水エタノール <エタノール> (丸石)		99.5%液(500mL) ¥2.24/mL		
■アルデヒド系				
ディスオーパ <フタラル> (ジヨンソク・イント・ジヨンソク)		0.55%液(3.8L) ¥8000/本	【消毒剤指針参照のこと】	
パラホルムアルデヒド <ホルムアルデヒド> (和光)		顆粒(くん蒸用) ¥2000/本		
ホルマリン <ホルムアルデヒド>		5%ホルマリンアルコール 【院内製剤】		
ホルマリン <ホルムアルデヒド> (健栄)		液(500mL) ¥0.88/mL		

10. 殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ヨウ素系				
希ヨードチンキ ＜ヨードチンキ, エタノール＞ (丸石)		チンキ(500mL) ¥1.41/mL	【消毒剤指針参照のこと】	
複方ヨードグリセリン ＜ヨードグリセリン＞ (丸石)		液(500mL) ¥1.66/mL		
ポビドンヨード ＜ポビドンヨード＞ (Meiji Seika ファルマ)		10%液(250mL) ¥287.5/本 10%ゲル(4g) ¥16.04/本		
ポビドンヨードスクラフ ＜ポビドンヨード＞ (Meiji Seika ファルマ)		7.5%液(500mL) ¥1060/本		
ヨードホルムガーゼ ＜ヨードホルム＞ (ハザウ)		ガーゼ(30cm×8m) ¥8000/瓶		
■塩素系				
ニューアロマ ＜次亜塩素酸ナトリウム＞ (丹平)		5%液(1.8L) ¥390/本	【消毒剤指針参照のこと】	
■陽性界面活性剤				
ウエルパス ＜ベンザルコニウム, エタノール＞ (丸石)		0.2%液(300mL) ¥1470/本 0.2%液(1L) ¥4750/本	【消毒剤指針参照のこと】	
デアミトール水 ＜ベンザルコニウム＞ (丸石)		0.025%液(500mL) ¥280/本 0.025%液(5L) ¥2800/本		
デアミトール ＜ベンザルコニウム＞ (丸石)		10%液(500mL) ¥320/本		
■両性界面活性剤				
エルエイジー10 ＜アルキルジアミノエチルグリシン＞ (吉田)		10%液(500mL) ¥325/本	【消毒剤指針参照のこと】	

10. 殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ビグアナイド系				
ウエルアップハンドロ ーション1% ＜クロルヘキシジン グルコン酸塩＞ (丸石製薬)		1%液(1L)	【消毒剤指針参照の こと】	
ヒビスクラブ ＜クロルヘキシジン＞ (大日本住友)		4%液(500mL) ¥3600/本		
ヒビスコール液A(噴射 ポンプ付) ＜クロルヘキシジン, エタノール＞ (サヤ)		0.2%, 83%液(1L) ¥3350/本		
ヒビテン ＜クロルヘキシジン＞ (大日本住友)		5%液(500mL) ¥950/本		
ヒビテングルコネート ＜クロルヘキシジン＞ (大日本住友)		20%液(100mL) ¥489/本		
マスクンR・エタノール ＜クロルヘキシジン, エタノール＞ (丸石)		0.5%液(500mL) ¥315/本		
マスクン水 ＜クロルヘキシジン＞ (丸石)		0.05%液(500mL) ¥285/本		
■過酸化物系				
アセサイド ＜過酢酸＞ (リンパステイカシステム ズ)		第一液:750mL(6 %過酢酸液), 第二液:750mL (pH調整及び安 定化) ¥13000/セット	【消毒剤指針参照の こと】	
オキシフル ＜オキシドール＞ (第一三共)		液(500mL) ¥385/本		
■フェノール系				
液状フェノール ＜フェノール＞ (丸石)		液(500mL/本) ¥650/瓶	【消毒剤指針参照の こと】	

10. 殺菌消毒薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■色素系				
アクリノール ＜アクリノール＞		0.02%液(500mL) 【院内製剤】	【消毒剤指針参照のこと】	
(健栄)		0.1%液(500mL) ¥325/本		
■石鹼				
カリ石鹼 ＜カリ石鹼＞		10%液 【院内製剤】	【消毒剤指針参照のこと】	
(エース)				
■その他				
イオウ・サリチル酸・ チアントール ＜イオウ配合剤＞		軟膏(500g) ¥6/g	【消毒剤指針参照のこと】	
(丸石)				
BBオイラックス ＜クロタミトン, 安息 香酸＞		軟膏 【院内製剤】		

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ X線造影剤 ◆イオン (ヨド系)				
ウログラフィン60% ＜アミドトリゾ酸＞ (パイル)		20mL/管 ¥455/管	逆行性尿路撮影, 内視鏡的逆行性膵胆管撮影, 経皮経肝胆道撮影, 関節撮影	【DI照会参照】
ピリスコピンDIC ＜イオトロクス酸メグルミン＞ (パイル)		100mL/瓶 ¥2280/瓶	胆のう・胆管撮影	1回100mL, 30～60分点滴静注

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ X線造影剤 ◆非イオン(3-D系)				
イオパミロン300シリンジ <イオパミドール> (パイル)		100mL/筒 ¥5725/筒	脳血管撮影, 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピュータ断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影, 逆行性尿路撮影	【DI照会参照】
イオパミロン370シリンジ <イオパミドール> (パイル)		100mL/筒 ¥6541/筒	血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む), 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピュータ断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影	
イオプロミド300注シリンジ「FRI」 <イオプロミド> (富士フィルムリアーマ)		100mL/筒 ¥5554/筒	脳血管撮影, 胸部血管撮影, 腹部血管撮影, 四肢血管撮影, デジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピュータ断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影	
イオプロミド370注シリンジ「FRI」 <イオプロミド> (富士フィルムリアーマ)		100mL/筒 ¥6335/筒		
イソピスト240 <イオトロラン> (パイル)		10mL/瓶 ¥5836/瓶	脊髓撮影, 脊髓撮影コンピュータ断層撮影における脳室, 脳槽, 脊髓造影	
オイパロミン300 <イオパミドール> (富士製薬)		20mL/瓶 ¥940/瓶	脳血管撮影, 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピュータ断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影, 逆行性尿路撮影	
		50mL/瓶 ¥1931/瓶		
		100mL/瓶 ¥3730/瓶		
オイパロミン300シリンジ <イオパミドール> (富士製薬)		50mL/筒 ¥2607/筒		
		100mL/筒 ¥3921/筒		

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
オイパロミン370 <イオパミドール> (富士製薬)		20mL/瓶 ¥1016/瓶	血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む), 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, デイジタル線撮影法による動脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影	【DI照会参照】
		50mL/瓶 ¥1987/瓶		
		100mL/瓶 ¥3675/瓶		
オイパロミン370シ リンジ <イオパミドール> (富士製薬)		100mL/筒 ¥4426/筒		
オムニパーク240 <イオヘキソール> (第一三共)		10mL/瓶 ¥693/瓶	コンピューター断層撮影による脳槽造影, コンピューター断層撮影による脊髓造影, 頸部脊髓撮影, 胸部脊髓撮影, 腰部脊髓撮影	
オムニパーク300P B <イオヘキソール> (第一三共)		100mL/瓶 ¥5879/瓶	脳血管撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による動脈性血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影	
オムニパーク300シ リンジ <イオヘキソール> (第一三共)		50mL/筒 ¥3270/筒		
		100mL/筒 ¥5605/筒		
		150mL/筒 ¥8876/筒		
オムニパーク350シ リンジ <イオヘキソール> (第一三共)		100mL/筒 ¥6498/筒	血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む), 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, デイジタル線撮影法による静脈性血管撮影, コンピューター断層撮影における造影, 静脈性尿路撮影, 小児血管心臓撮影(肺動脈撮影を含む)	
ビジパーク270 <イオジキサノール> (第一三共)		20mL/瓶 ¥1853/瓶	脳血管撮影, 四肢血管撮影, 逆行性尿路撮影, 内視鏡的逆行性膵胆管撮影	

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ X線造影剤 ◆油性 (ヨード系)				
リピオドールウルトラフルイド <ヨード化ケシ油> (富士製薬工業)		10mL/管 ¥11132/管	リンパ系撮影, 子宮卵管撮影, 医薬品又は医療機器の調製	【DI照会参照】
■ X線造影剤 ◆経口 (ヨード系)				
ガストログラフィン <アミドトリゾ酸> (パール)	100mL ¥14.4/mL		消化管撮影, コンピュータ断層撮影における上部消化管造影	【DI照会参照】
■ X線造影剤 ◆経口 (非ヨード系)				
エネマスター注腸 <硫酸バリウム> (伏見)	散(98.1%/350g) 【用時購入】 ¥507.5/本		消化管(大腸)撮影	検査部位及び検査方法に応じ, 本剤の適量に適量の水(200mL~2000mL)を加えて適当な濃度(20~130w/v%)とし, その適量を注腸する。 【DI照会参照】
コロンフォート <硫酸バリウム> (伏見製薬)	液(25%32mL/瓶) ¥497.1/瓶		腸内容物の標識による大腸コンピュータ断層撮像の補助	1回32mL(硫酸バリウムとして8g)を検査前日から毎食後に3回経口投与。
バムスターS100 <硫酸バリウム> (カイケンファーマ)	液100%(400mg/400mL/本) ¥516/本		消化管撮影	検査部位及び検査方法に応じ, 本剤をそのまま又は本剤の適量に適量の水を加えて適当な濃度とし経口投与又は注腸 【DI照会参照】
バリテスターA <硫酸バリウム> (伏見)	散(98.5%/350g) 【用時購入】 ¥476/本		食道・胃・十二指腸二重造影撮影	100gに対し水18~26mLを加えて200w/v%~240w/v%の濃度の懸濁液とし, 経口投与。 【DI照会参照】
	散(98.5%/1.2kg/本) 【用時購入】 ¥1632/本			
	散(98.5%/3.6kg/本) 【用時購入】 ¥4896/本			

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■MRI用造影剤				
EOB・プリモビスト ＜ガドキセト酸ナトリウム＞ (パイル)		5mL/筒 ¥14042/筒	磁気共鳴コンピュータ断層撮影における肝腫瘍の造影	0.1mL/kg静注
		10mL/筒 ¥20917/筒		
ガドピストシリンジ ＜ガドブトロール＞ (パイル)		5mL/筒 ¥5018/筒	磁気共鳴コンピュータ断層撮影における脳・脊髄造影, 躯幹部・四肢造影	
		7.5mL/筒 ¥7298/筒		
		10mL/筒 ¥9517/筒		
ボースデル ＜塩化マンガン＞ (協和発酵科学)	10mg/250mL/袋 ¥1075.7/袋		磁気共鳴胆道膵管撮影における消化管陰性造影	
マグネスコープシリンジ ＜ガドテル酸メグルミン＞ (富士製薬工業)		10mL/筒 ¥4902/筒	磁気共鳴コンピュータ断層撮影における脳・脊髄造影, 躯幹部・四肢造影	0.2mL/kg静注, (腎臓の場合0.1mL/kg)
		15mL/筒 ¥6537/筒		
		20mL/筒 ¥8578/筒		
■超音波診断用造影剤				
ソナゾイド ＜ペルフルブタンマイクロバブル＞ (第一三共)		16μL/瓶 ¥13372/瓶	超音波検査における肝腫瘍性病変の造影	0.015mL/kgを静脈内投与
レボビスト ＜ガラクトース・パルミチン酸混合物＞ (パイル)		2.5g/瓶 ¥8427/瓶	①心エコー図検査における造影 ②ドプラ検査における造影 ③子宮卵管エコー図検査における造影	①濃度300mg/mLで5mL静注 ②心臓血管：濃度200mg/mLで4～8mL, 頭・頸部, 躯幹部・四肢：300mg/mLで5mL静注 ③濃度200mg/mLで5～18mL子宮腔内投与

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■造影補助剤 ◆経口				
ニフレック <配合剤> (味の素)	137.155g/包 (2L分) ¥1001.5/袋		大腸内視鏡検査、バリウム注腸X線造影検査及び大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除	1袋を水に溶解2Lとし、約1L/時間で経口、排泄液が透明になった時点で投与終了【Max:4L/2袋】
バリエース発泡顆粒 <炭酸水素ナトリウム、酒石酸> (伏見)	5g/本 ¥69/本		胃・十二指腸の透視・撮影の造影補助	100~400mLの炭酸ガスの発生量に相当する量を経口
マグコロールP <クエン酸マグネシウム> (堀井)	50g/包 ¥380/包		大腸検査(X線・内視鏡)前処置における腸管内容物の排除、腹部外科手術時における前処置用下剤	<高張液投与> 40~50g(水120~150mLに溶解)を検査予定時10~15時間前に経口 <等張液投与> 100gを水に溶解し全量1800mLとし検査予定時間の4時間以上に200mLずつ約1時間かけて経口
モビブレップ <配合剤> (味の素)	244.212g/袋 (2L分) ¥2136.7/袋		大腸内視鏡検査・大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除	1袋を水に溶解して約2Lの溶解液とし、約1L/時間で経口投与 約1L投与した後、水又はお茶を約0.5L飲用 排泄液が透明になった時点で投与を終了し、投与した溶解液量の半量の水又はお茶を飲用する。【Max:2L/1袋】
■造影補助剤 ◆注射				
コアベータ <ランジオロール> (小野薬品)		12.5mg/瓶 ¥2709/瓶	コンピューター断層撮影による冠動脈造影における高心拍数時の冠動脈描出能の改善	0.125mg/kg/回, 1分間で静注

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■機能診断用薬				
アルギニン 〈アルギニン〉 (味の素)		300mL/袋 ¥2082/袋	下垂体機能検査	5mL/kg, 点静
アンチレクス 〈エドロホニウム〉 (杏林)		10mg(1mL)/管 ¥113/管	①重症筋無力症の診断 ②筋弛緩剤投与後の遷延性呼吸抑制の作用機序の鑑別	①10mg/回静注 (2mgを15~30秒かけて注射, 45秒後反応をみて必要に応じて8mg注射) 〈小児〉0.5~1mg静注 〈小児〉体重35kg未満1mg(追加5mg迄) ②5~10mg/回30~40秒静注 (判定:改善されれば非脱分極性ブロック, 増強されれば脱分極性ブロック) 必要あれば5~10分以内に同量を反復投与
インジゴカルミン 〈インジゴカルミン〉 (第一三共)		20mg/管(5mL) ¥241/管	①腎機能検査(分腎機能測定による) ②乳癌, 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定	①20~40mg静注後, 膀胱鏡で初排泄時間調べる ②乳癌:20mg以下を皮下投与 悪性黒色腫:4~12mgを皮内投与
LH-RH 〈ゴナドレリン〉 (田辺三菱)		0.1mg/管 ¥3742/管	下垂体LH分泌機能検査	0.1mg/回, 皮下・筋注・静注
エルゴメトリンF 〈エルゴメトリン〉 (富士製薬)		0.2mg/管(1mL) ¥92/管	【適応外】冠攣縮の誘発	【DI照会参照】
グルカゴン 〈グルカゴン〉 (カイケンファーマ)		1単位/瓶(溶解液1mL付) ¥1689/瓶	①成長ホルモン分泌機能検査 ②インスリンの診断 ③肝糖原検査 ④低血糖時の救急処置 ⑤消化管X線・内視鏡検査の前処置	①1単位又は0.03単位/kg, 皮下・筋注 ②1単位, 静注 ③1単位, 3分で静注 〈小児〉0.03単位/kg, 筋注 ④1単位, 筋注・静注 ⑤0.5~1単位, 筋注・静注
ジアグノグリーン 〈インドシアニングリーン〉 (第一三共)		25mg/瓶 ¥572/瓶	①肝機能検査 ②循環機能検査 ③脳神経外科手術時における脳血管の造影 ④乳癌, 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定	①0.5mg/kg, 静注 ②【DI照会参照】 ③5mLの注射用水で溶解後, 0.1~0.3mg/kg静注 ④5mLの注射用水で溶解後, 乳癌:5mL以下, 皮下投与 悪性黒色腫:1mL, 皮内投与
CRH 〈コルチコレリン〉 (田辺三菱)		100µg/瓶(溶解液1mL付) 【用時購入】 ¥18918/瓶	視床下部・下垂体・副腎皮質系ホルモン分泌機能検査	100µg静注 〈小児〉1.5µg/kg
注射用GHRP科研 〈ラルモレリン〉 (科研製薬)		100µg/瓶 ¥8366/瓶	成長ホルモン分泌不全症の診断	4歳以上18歳未満では2µg/kg(但し, 体重が50kgを超える場合は100µg)を, 18歳以上では100µgを空腹時・静脈内に緩徐に注射
ヒルトニン 〈プロチレリン〉 (武田)		0.5mg(1mL)/管 ¥1128/管	①下垂体TSH分泌機能検査 ②頭部外傷・くも膜下出血(意識障害固定期間3週間以内)に伴う昏睡・半昏睡を除く遷延性意識障害 ③脊髄小脳変性症における運動失調の改善	①0.5mg分1静注・皮下 ②〈頭部外傷〉0.5~2mg分1静注・点静10日間 〈くも膜下出血〉2mg分1静注・点静10日間 ③0.5~2mg分1, 筋注・静注, 2~3週間投与後2~3週間休薬, 以後反復投与又は週2~3回

診断用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■その他の診断用薬				
ゴナスティックW (持田製薬)		20テスト/箱 ¥6000/箱	妊娠診断の補助	尿に3秒間浸し、3~4分後判定
精製ツベルクリン1人用 <精製ツベルクリン> (ビーズ・ザ・ライ)		0.25 μ g/瓶 ¥795/瓶	結核の診断	0.1mL皮内注
トレランG <デンプン部分加水分解物> (味の素)		75g/瓶(225mL) ¥205.1/瓶	糖尿病診断時の糖負荷試験	75g/回, 経口 <小児>1.75g/kg/回
フルオレサイト <フルオレセイン> (パルティスファーマ)		500mg/瓶 ¥1141/瓶	葡萄膜・網膜・視神経等の疾患の診断	200~500mg肘静注
プロナーゼMS <プロナーゼ> (科研)	散(2万単位/ 0.5g/包) ¥128.8/包		色素散布法による胃内視鏡検査における胃内粘液の溶解除去	2万単位/回, 検査15~30分前, 炭酸水素ナトリウム1gと共に50~80mLの水に溶かし経口
ミンクリア <イモメントール> (日本製薬)		20mL/筒 ¥859.3/筒	上部消化管内視鏡時の胃蠕動運動の抑制	20mLを内視鏡の鉗子口より胃幽門前庭部に散布
ユービット <尿素(13C)> (大塚)	100mg/錠 ¥2744.6/錠		ヘリコクター・ピロリの感染診断 (13C-尿素呼吸試験法薬)	100mg(1錠)を空腹時に100mLの水で, 経口投与
アラベル <アミノレブリン酸塩酸塩> (ノーベルファーマ)	1.5g/瓶 ¥90377.8/瓶		悪性神経膠腫の腫瘍摘出術中における腫瘍組織の可視化	20mg/kgを手術時の麻酔導入前3時間(範囲:2~4時間)に水に溶解して経口投与

1. 生物学的製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■ワクチン類				
アクトヒブ ＜乾燥ヘモフィルスb 型ワクチン＞ (第一三共)		10 μ g/瓶(溶解 液0.5mL付) ¥4500/瓶	インフルエンザ菌b型によ る感染症の予防	添付溶剤0.5mLで溶解し、その全量 を使用 初回免疫：4～8週間の間隔で3回皮 下(必要時3週間隔も可) 追加免疫：初回免疫後の1年の間隔 を以て1回皮下
イモバックスポリオ皮 下注 ＜不活化ポリオワクチ ン＞ (サノファ・スワール)		0.5mL/シリンジ [*] ¥5450/シリンジ [*]	急性灰白髄炎の予防	＜初回免疫＞0.5mL/回皮下、生後3ヶ月 から初回接種開始し、3週間以上間隔 を以て3回接種 ＜追加免疫＞初回免疫から6ヶ月以上 の間隔で0.5mL、1回皮下
インフルエンザHAワ クチン ＜インフルエンザHA ワクチン＞		0.25mL/筒 ¥3500/回	インフルエンザ [*] の予防	＜75 μ g(1mL)＞ ＜田辺三菱(0.5mL、1mL)＞ 2～4週間の間隔を以て2回皮下、 6ヶ月以上3歳未満0.25mL/回、 3歳以上13歳未満0.5mL/回、 1回又は1～4週間の間隔を以て2回皮下、 13歳以上0.5mL/回 ＜第一三共(0.25mL、0.5mL、1mL)＞ 2～4週間の間隔を以て2回皮下、 1歳以上3歳未満0.25mL/回、 3歳以上13歳未満0.5mL/回、 1回又は1～4週間の間隔を以て2回皮下、 13歳以上0.5mL/回
		0.5mL/筒 ¥3500/回		
		1mL/瓶 ¥3500/回		
乾燥弱毒生おたふくか ぜワクチン ＜乾燥弱毒生おたふく かぜワクチン＞ (武田)		0.7mL/瓶 ¥2830/瓶	おたふくかぜの予防	0.5mL、1回皮下 1歳以上(24～60ヵ月)
クアトロバック皮下注 シリンジ ＜沈降精製百日せきジ フテリア破傷風不活化 ポリオ(セービン株) 混合ワクチン＞ (化血研)		0.5mL/シリンジ [*] ¥6500/シリンジ [*]	百日せき、ジフテリア、破 傷風及び急性灰白髄 炎の予防	＜初回免疫＞小児に0.5mL/回皮下、3週 間以上の間隔で3回 ＜追加免疫＞初回免疫から6ヶ月以上 の間隔で0.5mL、1回皮下
サーバリックス ＜組換え沈降2価ヒト パピローマウイルス様 粒子ワクチン＞ (グラクサ・スミスクライン)		0.5mL/シリンジ [*] 【用時購入】 ¥16800/回	ヒトパピローマウイルス(HP V)16型及び18型感 染に起因する子宮頸 癌(扁平上皮細胞 癌、腺癌)及びその 前駆病変(子宮頸部 上皮内腫瘍(CIN)2 及び3)の予防	10歳以上の女性に1回0.5mLを0、1、6 ヵ月後、上腕の三角筋部に筋注
ジェービックV ＜乾燥細胞培養日本脳 炎ワクチン＞ (田辺三菱)		0.7mL/瓶 ¥3250/瓶	日本脳炎の予防	＜初回免疫＞0.5mL/回皮下、1～4週間 間隔で2回 3歳未満0.25mL/回 ＜追加免疫＞初回免疫から約1年後に 0.5mL、1回皮下 3歳未満0.25mL/回
乾燥弱毒生水痘ワクチ ン ＜乾燥弱毒生水痘ワク チン＞ (田辺三菱)		0.7mL/瓶 ¥4500/瓶	水痘及び50歳以上の 者に対する帯状疱疹 の予防	0.5mL、1回皮下

1. 生物学的製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド(DT) 〈沈降ジフテリア破傷風混合ワクチン〉 (化血研)		1mL/瓶 ¥1750/瓶	ジフテリア, 破傷風の予防	〈初回免疫〉0.5mL/回皮下, 3~8週毎2回 10歳以上0.1mL/回 〈追加免疫〉初回免疫後12~18ヵ月間に0.5mL, 1回, 10歳以上0.1mL以下/回
沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン(DPT) 〈沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン〉 (第一三共)		0.5mL/シリンジ* ¥1400/シリンジ*	百日咳, ジフテリア, 破傷風の予防	〈初回免疫〉0.5mL/回皮下, 3~8週毎3回 〈追加免疫〉初回免疫後12~18ヵ月間に0.5mL, 1回
ニューモバックスNP 〈肺炎球菌ワクチン〉 (MSD)		0.5mL/瓶 【用時購入】 ¥4623/瓶	2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険性が高い次のような患者・個人, i. 脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防, ii. 肺炎球菌による感染症の予防(保険適応外)	0.5mL/回皮下, 筋注
ビームゲン 〈B型肝炎ワクチン〉 (化血研)		0.25mL/瓶 ¥2141/瓶 0.5mL/瓶 ¥2382/瓶	①B型肝炎の予防 ②B型肝炎ウイルス母子感染の予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用) ③HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)	①0.5mLずつ4週間間隔で2回, 20~24週経過後1回皮下, 筋注 〈10歳未満〉0.25mL/回 ②生後2~3ヶ月後, 及び初回注射後1ヶ月後, 3ヶ月後に0.25mL/回皮下 ③事故発生後7日以内及び初回注射後1ヶ月後, 3ヶ月後0.5mL/回皮下, 筋注 〈10歳未満〉0.25mL/回
乾燥弱毒生風疹ワクチン 〈乾燥弱毒生風疹ワクチン〉 (武田)		0.7mL/瓶 ¥2830/瓶	風疹の予防	0.5mL, 1回皮下
プレベナー 〈沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン〉 (ファイザー)		0.5mL/シリンジ* ¥7200/本	①高齢者:肺炎球菌(血清型1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F及び23F)による感染症の予防 ②小児:肺炎球菌(血清型1, 3, 4, 5, 6A, 6B, 7F, 9V, 14, 18C, 19A, 19F及び23F)による侵襲性感染症の予防	①高齢者:0.5mL/回筋注 ②小児:〈初回免疫〉0.5mL/回皮下, 27日間以上の間隔で3回 〈追加免疫〉初回免疫後60日以上の間隔において0.5mL/回皮下, 1回
乾燥弱毒生麻疹ワクチン 〈乾燥弱毒生麻疹ワクチン〉 (第一三共)		0.7mL/瓶 ¥2800/瓶	麻疹の予防	0.5mL, 1回皮下 第1期:12~24ヵ月 第2期:5~7才 第3期:13才となる年度(平成25年3月31日まで) 第4期:18才となる年度(平成25年3月31日まで)

1. 生物学的製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ミールビック 〈乾燥弱毒生麻疹風疹 混合ワクチン〉 (田辺三菱)		0.7mL/瓶 ¥6050/瓶	麻疹・風疹の予防	0.5mL, 1回皮下
ロタリックス内用液 〈弱毒性ヒトロタウイ ルスワクチン〉 (第一三共)	液(1.5mL/本) ¥10000/本		ロタウイルスによる胃腸炎 の予防	1.5mL/回経口接種, 生後6週から初回 接種開始し, 少なくとも4週間の間隔 をおいて2回目を接種
■トキソイド類				
沈降破傷風トキソイド キット 〈沈降破傷風トキソイ ド〉 (武田)		0.5mL/筒 ¥615/筒	破傷風の予防	〈初回免疫〉筋注, 皮下0.5mL/回, 3~8 週間間隔で2回 〈追加免疫〉筋注, 皮下0.5mL/回, 初回 免疫後12~18ヶ月の間に
■抗毒素類				
乾燥まむし抗毒素 〈乾燥蝮ウマ抗毒素〉 (化血研)		6000単位/瓶 ¥32981/瓶	蝮咬傷の治療	早期に約6000単位, 症状軽減しない時, 2~3時間後3000 ~6000単位追加筋注(皮下), 静注

2. 血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■グロブリン製剤				
ヴェノグロブリンIH <人免疫グロブリンG> (田辺三菱)		2.5g/50mL/瓶 ¥20525/瓶 5g/100mL/瓶 ¥38547/瓶	①低並びに無ガンマグロブリン血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期(重症であり冠動脈障害の発生の危険がある場合) ⑤多発性筋炎・皮膚筋炎における筋力低下の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る) ⑥慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロンを含む)の筋力低下の改善 ⑦全身型重症筋無力症(ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る) ⑧天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合) ⑨血清IgG2値の低下を伴う肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎、急性気管支炎又は肺炎の発症抑制(ワクチン接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず発症を繰り返す場合に限る) ⑩水疱性類天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合) ⑪ギラン・バレー症候群(急性増悪期で歩行困難な重症例)	①200~600mg(4~12mL)/kg/回, 3~4週間隔, 点静または静注 ②2500~5000mg(50~100mL)/回, 点静または静注 <小児>100~150mg(2~3mL)/kg/回 ③200~400mg(4~8mL)/kg/回, 点静または静注 ④400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静または静注 または2000mg(40mL)/kg/回, 点静 ⑤400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静 ⑥400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静または静注 ⑦⑧400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静 ⑨初回300mg(6mL)/kg, 2回目以降200mg(4mL)/kg, 4週間間隔 ⑩⑪400mg(8mL)/kg/日, 5日間, 点静
ガンマグロブリン <人免疫グロブリン> (日本製薬)		450mg/瓶 ¥1551/瓶	①低・無ガンマグロブリン血症 ②麻疹・A型肝炎・ポリオの予防・症状の軽減	①100~300mg/kg1回/月筋注 ②15~50mg/kg/回筋注
献血ベニロンI <乾燥スルホ化人免疫グロブリン> (帝人ファーマ)		500mg/瓶 ¥4533/瓶 2500mg/瓶 ¥20560/瓶 5000mg/瓶 ¥40068/瓶	①低・無ガンマグロブリン血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期(重症・冠動脈障害の発生危険がある場合) ⑤ギラン・バレー症候群, チャーグ・ストラウス症候群, アレルギー性肉芽腫性血管炎における神経障害の改善	①200~600mg/kg/回静注, 点静3~4週間隔 ②2.5~5g/回静注, 点静【総量10g迄】 <小児>50~150mg/kg/回 ③200~400mg/kg/日 ④200mg/kg/日【5日間】 ⑤400mg/kg/日【5日間】

2. 血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
献血ポリグロビンN注 5% <pH4処理酸性人免疫グロブリン> (日本血液製剤機構)		500mg(10mL)/瓶 ¥4877/瓶	①低・無カクマクロブリン血症 ②重症感染症における抗生物質との併用 ③ITP ④川崎病の急性期(重症・冠動脈障害の発生危険がある場合)	①200~600mg/kg/回静注,点静3~4週間隔 ②2.5~5g/回静注,点静【総量10g迄】 <小児>50~150mg/kg/回 ③400mg/kg/日静注,点静 ④200mg/kg/日静注,点静【5日間】又は2000mg/kg/回,点静(12時間以上)
献血ポリグロビンN注 10% <pH4処理酸性人免疫グロブリン> (日本血液製剤機構)	5g(50mL)/瓶 ¥40438/瓶	10g(100mL)/瓶 ¥77660/瓶		

■抗HBsグロブリン製剤

乾燥HBグロブリン <抗HBs人免疫グロブリン> (日本製薬)		1000単位/瓶 ¥36267/瓶	①HBs抗原陽性血液の汚染事故後のB型肝炎発症予防 ②新生児のB型肝炎予防(沈降B型肝炎ワクチンとの併用)	①5~10mL/回筋注 <小児>0.16~0.24mL/kg,事故発生48時間(~7日)以内 ②初回:0.5~1.0mL/回筋注 生後12時間(~5日)以内 追加:0.16~0.24mL/kg
ヘパトセーラ筋注200単位 <抗HBs人免疫グロブリン> (化血研)		200単位/瓶 ¥8996/瓶		

■抗D(Rho)グロブリン製剤

抗Dグロブリン <乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン> (日本製薬)		1000倍/2mL/瓶 ¥19789/瓶	D(Rho)陰性で以前にD(Rho)因子で感作を受けていない女性に対する、D(Rho)因子投与による感作抑制 ①分娩後,流産後,人工妊娠中絶後,異所性妊娠後,妊娠中の検査・処置後(羊水穿刺,胎位外回転術等)又は腹部打撲後等のD(Rho)感作の可能性がある場合 ②妊娠28週前後	①72時間以内に1瓶筋注 ②1瓶筋注
--	--	-------------------------	--	-----------------------

■抗破傷風グロブリン製剤

テタノブリンIH <抗破傷風人免疫グロブリン> (田辺三菱)		250単位/瓶 ¥3899/瓶	①破傷風の発症予防 ②発症後の症状軽減のための治療	①250単位静注,点静 重症外傷例1500単位 ②軽~中等症:1500~3000単位 重症例:3000~4500単位
--	--	--------------------	------------------------------	---

■ハプトグロビン製剤

ハプトグロビン <人ハプトグロビン> (田辺三菱)		2000単位/瓶 ¥43569/瓶	熱傷・火傷,輸血,体外循環下開心術等の溶血反応を伴うヘモリチン血症,ヘモグロビン尿症の治療	4000単位/回 点静,灌流液注入
-------------------------------------	--	----------------------	---	----------------------

2. 血液製剤

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■組織接着剤				
タコシール <配合剤> (CSLパージング)		9.5cm×4.8cm/ 枚 ¥57675.7/枚	組織の接着・閉鎖： (肝臓外科、肺外科、 心臓血管外科、産婦 人科、泌尿器外科領 域)	適切な大きさにし、乾燥状態のまま あるいは生理食塩液でわずかに濡ら し、その活性成分固着面を接着・閉鎖 部位に貼付し、通常3～5分圧迫する。
ベリプラスPコンビ セット <配合剤> (CSLパージング)		5mL/セット ¥54701.1/セット	組織の接着・閉鎖	組織に対し各1mL/10cm ² を滴下・噴 霧、混合して患部に使用
ポルヒール <配合剤> (化血研)		0.5mL/セット ¥6774.2/セット		
		3mL/セット ¥33009.9/セット		

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
-----------	-----	-------	-----	-------

【注】中毒時の処置

- ①ベンゾジアゼピン系拮抗薬（アネキセート）：初回0.2mg静注，4分以内に覚醒状態が得られない場合1～2回追加
 ②麻薬拮抗薬（塩酸ナロキソン）：0.2mg/回，効果不十分な場合2～3分間隔で1～2回静注。小児の場合0.01mg/kg

■アヘンアルカロイド系

アンペック ＜モルヒネ＞ (大日本住友) 投与制限：30日		10mg/坐剤 ¥314.3/個		20～120mg分2～4
MSコンチン 【徐放性】 ＜モルヒネ＞ (オノキ) 投与制限：30日	10mg/錠 ¥241.1/錠		激しい疼痛を伴う各種癌における鎮痛	20～120mg分2
塩酸モルヒネ 【速効性】 ＜モルヒネ＞ (第一三共) 投与制限：30日	10倍散(100mg/g) 【院内製剤】 ¥218.6/g 原末 ¥2203/g		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静，激しい咳嗽発作における鎮咳，激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管蠕動運動の抑制	5～10mg/回，15mg/日
塩酸モルヒネ 【速効性】 ＜モルヒネ＞ (大日本住友) 投与制限：30日	10mg/錠 ¥125.8/錠		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静，激しい咳嗽発作における鎮咳，激しい下痢症状の改善および手術後等の腸管蠕動運動の抑制	
塩酸モルヒネ ＜モルヒネ＞ (第一三共)		10mg(1mL)/管 ¥299/管 50mg(5mL)/管 ¥1346/管 200mg(5mL)/管 ¥4973/管	＜皮下及び静脈内投与＞ 激しい疼痛時における鎮痛・鎮静，激しい咳嗽発作における鎮咳，激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管蠕動運動の抑制，麻酔前投薬，麻酔の補助，中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛 ＜硬膜外及びくも膜下投与＞ 激しい疼痛時における鎮痛，中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	＜皮下及び静脈内投与＞ 5～10～(50～200)mg/回皮下，静注 ＜硬膜外投与＞ 2～6mg/回，硬膜外腔注入，2～10mg/回，硬膜外腔持続注入 ＜くも膜下投与＞ 0.1～0.5mg/回，くも膜下腔注入
オプソ内服液 【速効性】 ＜モルヒネ＞ (大日本住友) 投与制限：30日	5mg(2.5mL)/包 ¥115.3/包		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	30～120mg分6
モルベス 【徐放性】 ＜モルヒネ＞ (藤本) 投与制限：30日	2%細粒(10mg/0.5g/包) ¥198.9/包		激しい疼痛を伴う各種癌における鎮痛	20～120mg分2

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■合成麻薬				
レミフェンタニル 〈レミフェンタニル〉 (第一三共)		2mg/瓶 ¥1080/瓶	全身麻酔の導入及び維持における鎮痛	【DI照会参照】
アブストラル 〈フェンタニル〉 (協和発酵社) 投与制限：14日	100 μ g/錠 ¥564.4/錠 200 μ g/錠 ¥790.9/錠		強オピオイド鎮痛剤を定時投与中の癌患者における突出痛の鎮痛	1回100～800 μ g、舌下投与 1日4回まで【MAX:800 μ g/回】
アルチバ 〈レミフェンタニル〉 (ヤンセンファーマ)		2mg/瓶 ¥2165/瓶	〈成人〉全身麻酔の導入及び維持における鎮痛 〈小児〉全身麻酔の維持における鎮痛	【DI照会参照】
ケタラール 〈ケタミン〉 (第一三共)		200mg(20mL)/瓶 ¥705/瓶	麻酔導入・維持	
タペンタ 〈タペンタドール〉 (ヤンセンファーマ) 投与期限：30日	25mg/錠 ¥108.7/錠 50mg/錠 ¥206.3/錠		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	50～400mg分2
ペチジン 〈ペチジン〉 (武田)		35mg(1mL)/管 ¥335/管	①激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮痙 ②麻酔前投薬 ③麻酔の補助 ④無痛分娩	①35～50mg/回、必要時3～4時間毎皮下、筋注 ②50～100mg、麻酔前30～90分前 ③10～15～(50)mg静注 ④【DI照会参照】
メサペイン 〈メサドン〉 (テルモ) 投与制限：14日	5mg/錠 ¥183/錠 10mg/錠 ¥347.6/錠		他の強オピオイド鎮痛剤で治療困難な中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	1回5～15mg、1日3回 (他の強オピオイド鎮痛剤から切り替えて使用)
フェンタニル 〈フェンタニル〉 (第一三共)		0.1mg(2mL)/管 ¥279/管	全身麻酔、全身麻酔における鎮痛 局所麻酔における鎮痛の補助 激しい疼痛(術後疼痛、癌性疼痛など)に対する鎮痛	【DI照会参照】
フェントステープ 【徐放性】 〈フェンタニル〉 (協和発酵社) 投与制限：30日		1mg/枚 ¥567.7/枚 2mg/枚 ¥1056.8/枚 4mg/枚 ¥1970.9/枚 8mg/枚 ¥3677.1/枚	中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛、中等度から高度の慢性疼痛	1枚/1日毎 (他剤から切り替えて投与)

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ペチロルファン ＜配合剤：ペチジン50mg・レバロルファン0.625mg＞ (武田)		1mL/管 ¥350/管	①鎮痛・鎮静・鎮痙 ②麻酔前投薬 ③麻酔の補助 ④無痛分娩	①35～50mg/回必要時3～4時間毎皮下,筋注,静注 ②50～100mg,麻酔前30～90分前 ③10～15～(50)mg静注 ④70～100mg/回皮下,筋注

■その他のアヘンアルカロイド系

オキシコドン 【徐放性】 ＜オキシコドン＞ (第一三共) 投与制限：30日	5mg/錠 ¥98.2/錠		中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	10～80mg分2
	10mg/錠 ¥181.1/錠			
	20mg/錠 ¥331.1/錠			
	40mg/錠 ¥605.1/錠			
オキノーム 【速効性】 ＜オキシコドン＞ (オノキ) 投与制限：30日	散2.5mg(0.5g/包) ¥57.6/包			10～80mg分4
	散5mg(1.0g/包) ¥115.9/包			
	散10mg(2.0g/包) ¥230.2/包			
オキファスト ＜オキシコドン＞ (オノキ)		10mg(1mL)/管 ¥348/管		7.5mg～250mg/日,持続静注又は持続皮下注
		50mg(5mL)/管 ¥1585/管		
ナルサス 【徐放性】 ＜ヒドロモルフォン＞ (第一三共) 投与制限：30日	2mg/錠 ¥202.8/錠			4～24mg分1
	6mg/錠 ¥530.2/錠			
ナルラピド 【速効性】 ＜ヒドロモルフォン＞ (第一三共) 投与制限：30日	1mg/錠 ¥110.6/錠		4～24mg分4～6	
	2mg/錠 ¥202.8/錠			

麻薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
■癌性疼痛治療剤（非麻薬性鎮痛剤）				
トラマールOD <トラマドール> (日本新薬)	25mg/錠 ¥36.5/錠		非オピオイド鎮痛剤 で治療困難な各種癌 における鎮痛, 慢性 疼痛	100~300mg分4【Max: 100mg/回, 400mg/日】
ワントラム <トラマドール> (ファイザー)	100mg/錠 ¥113.2/錠			100~300mg分1【Max: 400mg/日】
ソセゴン <ペンタゾシン> (丸石製薬)		15mg(1mL)/管 ¥62/管	①各種癌等における 鎮痛 ②麻酔前投薬および 麻酔補助	①15mg/回, 筋注, 皮下, 必要に応じて3~4時間毎反復注射 ②30~60mg/回, 筋注, 皮下, 静注

当院採用のオピオイド換算表

分類	医療用麻薬											非麻薬性がん性疼痛治療薬		
	モルヒネ			オキシコドン			ヒドロモルフォン	フェンタニル			タベンタドール	メサドン	トラマドール	リン酸コデイン
成分名	モルヒネ			オキシコドン			ヒドロモルフォン	フェンタニル			タベンタドール	メサドン	トラマドール	リン酸コデイン
剤形	経口徐放製剤	注射剤	坐剤	経口徐放製剤	注射剤		経口徐放剤	貼付剤	貼付剤	注射剤	経口徐放剤	経口剤	経口剤	経口剤
当院採用品目	MSコンチン錠10mg モルベス細粒10mg	塩酸モルヒネ注 10・50・200mg	アンベック坐剤 10mg	オキシコドン徐放錠 5・10・20・40mg	オキファスト注 10・50mg		ナルサス錠 2・6mg	デュロテップMTパッチ 2.1・4.2mg (3日毎貼り替え)	フェントステープ 1・2・4・8mg (1日毎貼り替え)	フェンタニル注0.1mg	タベンタ錠 25・50mg	メサペイン錠 5・10mg	トラマールカプセル 25mg ワントラム錠100mg	リン酸コデイン散1%
					経口オピオイド/ フェンタニル貼付・注射剤※8 より切り替え時	モルヒネ注射 より切り替え時								
投与量	30mg	15mg	20mg	20mg	15mg	}	6mg	2.1mg	1mg	0.3mg	100mg	推奨されない	150mg	通常用量：60～160mg/日 (120mg＝経口モルヒネ20mg相当) 天井効果があるため、 鎮痛効果不十分となった場合は 他のオピオイドへ切り替える。
	}	20mg	}	}	}	25mg	}	}	}	}	}		}	
	60mg	30mg	40mg	40mg	30mg	}	12mg	4.2mg	2mg	0.6mg	200mg	15mg	300mg	
	}	40mg	}	}	}	}	50mg	}	}	}	}	}	}	
	120mg	60mg	80mg	80mg	60mg	}	75mg	24mg	4mg	1.2mg	初回投与量として 400mg/日を超える用 量は推奨されない。	}	1日量400mgを超える 場合は、他のオピオイド へ切り替える。	
	}	80mg	}	}	}	}	}	}	}	}				
	180mg	90mg	120mg	120mg	90mg	}	100mg	36mg	6mg	1.8mg				
}	100mg	}	}	}	}	125mg	}	}	}	}	}	}		
240mg	120mg	160mg	160mg	120mg	}	150mg	48mg	16.8mg ※6	8mg ※6	2.4mg	}	}		
換算比 ※経口モルヒネを 1とする	1	1/2	2/3	2/3	1/2	—	1/5	1/150	1/100	1/100	3.3	—	5	6

- ※1 変更したオピオイドの使用量は、計算した等鎮痛量の70%の量を目安とする。
- ※2 ローテーションの方法として、変更する日に全て新しいオピオイドに変更する方法と、2～3日かけて1/2～1/3くらいずつ変更していく方法がある。
特に高容量オピオイド使用時は、2～3日かけて徐々に変更していく方法が適している。
- ※3 ローテーション後も鎮痛の程度を細かく確認し、可能であれば日中に行う方が安全である。
- ※4 傾眠や呼吸抑制が出現する等オピオイドが過量である場合は、20～30%減量する。
- ※5 腎機能が低下している患者では、オキシコドンやフェンタニルからモルヒネ類に変更すると、モルヒネが排泄されず過度の鎮静や呼吸抑制が起きる危険性がある。
- ※6 フェンタニル貼付剤は他のオピオイド鎮痛剤から切り替えて使用する。また、切り替え後の初回貼付用量として、高容量のフェンタニル貼付剤は推奨されない。
- ※7 他のオピオイド鎮痛剤からフェンタニル貼付剤への切り替え時は、フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため、少なくとも2日間は増量を行わない。
また、鎮痛効果が得られるまで時間を要するため、下記を参考に切り替え前に使用していたオピオイド鎮痛剤の投与を行うことが望ましい。

使用していたオピオイド 鎮痛剤の投与回数	オピオイド鎮痛剤の使用法
1日1回投与	投与12時間後にフェンタニル貼付を開始する。
1日2～3回投与	フェンタニル貼付開始と同時に1回量を投与する。
1日4～6回投与	フェンタニル貼付開始と同時に及び4～6時間後に1回量を投与する。
持続投与	フェンタニル貼付開始後6時間まで継続して持続投与する。

- ※8 フェンタニル貼付剤からオキシコドン注射剤に切り替える場合は、剥離後にフェンタニルの血中濃度が適切な濃度に低下するまで時間をあけるとともに、オキシコドン注射剤は低用量から開始する。

(参考文献)
 各薬剤添付文書
 がんの痛みケア・ノート(2007年、照林社)
 フェントステープポケット換算表(協和発酵キリン株式会社)
 オキファスト注投与量換算の目安(シオノギ製薬)

1. 寄生動物用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
コンバントリン <ピランテル> (佐藤)	10% D S (100mg/1g/包) 【院外のみ】 ¥78.3/包		蟻虫・回虫・鉤虫・東洋毛様線虫の駆除	10mg/kg分1, 1回のみ投与 50kg以上: 500mg/日【Max】
ストロメクトール <イベルメクチン> (マル林)	3mg/錠 ¥678.8/錠		①腸管糞線虫症 ②疥癬	①200μg/kgを2週間間隔で2回 ②200μg/kgを1回
フラジール <メトロニダゾール> (オノキ)	250mg/錠 ¥35.5/錠		①トリコモナス症(腔トリコモナスによる感染症) ②嫌気性菌感染症(真在性皮膚感染症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 骨髓炎, 肺炎, 肺膿瘍, 骨盤内炎症性疾患, 腹膜炎, 腹腔内膿瘍, 肝膿瘍, 脳膿瘍) ③感染性腸炎 ④細菌性膣症 ⑤胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃, ヘルピコクター・ピロリ感染胃炎におけるヘルピコクター・ピロリ感染症 ⑥アモバ赤痢 ⑦ランブル鞭毛虫感染症	①1回250mg1日2回, 10日間 ②1回500mg1日3~4回 ③1回250mg1日4回または1回500mg1日3回, 10~14日間 ④1回250mg1日3回または1回500mg1日2回, 7日間 ⑤1回フラジール: 250mg, サリリン: 750mg, フロムソドン・インヒターの3剤を1日2回, 7日間 ⑥1回500mg1日3回, 10日間 ⑦1回250mg1日3回, 5~7日間

2. 公衆衛生用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
安息香チンキ <アンソッコウ> (司生堂製薬)		200%液(500mL) ¥2.17/mL	創傷の防腐, 製剤の 乳化, 製剤原料	適量を水剤等に混和し外用

3. 調剤用薬

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
塩化ナトリウム ＜塩化ナトリウム＞ (大塚)	末 ¥0.65/g		食塩喪失時の補給, 皮膚・創傷・粘膜面の 洗浄・湿布, 含嗽・噴 霧吸入剤として気管 支粘膜洗浄・喀痰排 出促進, 医療用器具 の洗浄	【DI照会参照】
オリーブ油 ＜オリーブ油＞ (健栄)		液(500mL) ¥2.75/mL	皮膚・粘膜の保護, 製 剤原料	
グリセリンBC ＜グリセリン＞ (吉田)		液(500mL) ¥2100/本	浣腸液の調整, 溶剤・ 軟膏基材・湿潤・粘滑 剤として調剤に使用	
蒸留水 ＜蒸留水＞ (大塚)		20mL/管 ¥61/管 100mL/本 ¥123/本 500mL/本 ¥163/本 1000mL/本 ¥216/本	粉末注射剤の溶解剤	
単シロップ ＜単シロップ＞ (健栄)	液(500mL) ¥0.78/mL		矯味目的	【DI照会参照】
乳糖 ＜乳糖＞ (マイラン)	末 ¥1.86/g		賦形剤として製剤に 使用	
白色ワセリン ＜白色ワセリン＞ (健栄)		(500g) ¥2.34/g	軟膏剤の基剤	
バレイショデンプン ＜バレイショデンプン＞ (健栄)	末 ¥0.74/g		賦形剤として製剤に 使用	

4. 治療を目的としない医薬品

医薬品名(会社名)	内用薬	注射薬ほか	適応症	用法・用量
ACD-A液 <クエン酸ナトリウム, クエン酸, ブドウ糖> (テルモ)		500mL/本 ¥700/本	血液保存	血液量100mLにつき, 本品15mLの割合で使用する.
チャンピックス <バレニクリン> (ファイザー)	0.5mg/錠 【院外のみ】 ¥136.4/錠 1mg/錠 【院外のみ】 ¥244.2/錠			第1~3日目は0.5mg分1, 第4~7日目は1mg分2, 第8日目以降2mg分2 12週間まで
ニコチネルTTS <ニコチン> (ハルバース)		10:17.5mg/枚 ¥349.4/枚 20:35mg/枚 ¥368.1/枚 30:52.5mg/枚 ¥393.8/枚	禁煙の補助	1日1枚24時間貼付 最初の4週間ニコチネルTTS30を貼付, 次の2週間ニコチネルTTS20を貼付, 最後の2週間ニコチネルTTS10を貼付

医薬品集＜付録＞

改訂第14版

I. 薬剤投与期間の改訂

II. 医薬品情報特別版

1. 抗血液凝固薬の休薬の目安

1-1: 抗血液凝固薬の休薬の目安（後発医薬品を含む）

1-2: 新規経口抗凝固薬（NOAC）の腎機能に応じた休薬の目安

1-3: 手術前に注意が必要な薬剤

2. 医薬品とグレープフルーツジュースとの相互作用

3. 各種輸液製剤の予備用量について

4. 感染症治療薬の点滴速度

5. バイアル入り注射剤および消毒剤等の開封後の安定性について

6. パクリタキセル注（タキソール注）の投与時における

「フィルター付き点滴セット」の使用について

7. 抗MRSA薬のTDMについて

8. 透析患者禁忌の薬剤について

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

III. 処方せんの書き方（発行）等

IV. 静注・点滴静注薬リスト：投与方法による分類

V. 中毒110番電話番号

VI. 保険診療の注意事項

独立行政法人 地域医療機能推進機構

九州病院

投与期間の制限が設けられている院内採用医薬品（追加・訂正）

■追加・訂正（2018年4月1日現在）

【14日分を限度とされる内服薬および外用薬】

(1) 麻薬	(3) 新採用医薬品
アブストラル舌下錠100・200 μ g	2018年5月まで
メサペイン5・10mg(院内のみ)	インチュニブ錠1mg (限定・院外のみ)
ナルサス錠2・6mg	スインプロイク錠0.2mg
ナルサス錠24mg(限定)	ニンラーロカプセル2.3・3・4mg (限定)
ナルラピド錠1・2mg	ムンデシンカプセル100mg(限定)
ナルラピド錠4mg(限定)	
(2) 向精神薬	
サノレックス錠0.5mg	2018年11月まで
(限定・院外のみ)	イブランスカプセル25・125mg (院外のみ)
ダイアップ坐剤4mg	マヴィレット配合錠(院外のみ)
ダイアップ坐剤6mg	ルパフィン錠10mg(院外のみ)
ダイアップ坐剤10mg	レクタブル2mg注腸フォーム14回 (院外のみ)
ルピアール坐剤50mg	
ノルスパンテープ5・10mg	

【30日分を限度とされる内服薬および外用薬】

(1) 麻薬	(2) 向精神薬
アンベック坐薬10mg	a) 催眠鎮静薬
MSコンチン錠10mg	エチゾラム錠0.5・1mg
塩酸モルヒネ末	エバミール錠1mg
塩酸モルヒネ散10%《院内製剤》	コントロール散10%(限定・院外のみ)
塩酸モルヒネ錠10mg	ゾルピデム酒石酸塩0D錠5mg
オプソ内服液5mg	ドラール錠15mg
モルベス細粒10mg	トリアゾラム錠0.25mg
オキシコドン錠5mg	フルニトラゼパム錠1mg
オキシコドン錠10mg	プロチゾラム0D錠0.25mg
オキシコドン錠20mg	ユーロジン錠2mg
オキシコドン錠40mg	
オキノーム散2.5mg	b) 抗不安薬
オキノーム散5mg	アルプラゾラム錠0.4mg
オキノーム散10mg	セパゾン錠1mg
タペンタ錠25・50mg	メイラックス錠1mg
フェントステープ1mg	リーゼ錠5mg
フェントステープ2mg	レキソタン錠2mg
フェントステープ4mg	ロラゼパム錠0.5mg
フェントステープ8mg	
	c) その他
	コンサータ錠18mg・27mg・36mg (限定)
	ベタナミン錠10mg(限定・院内のみ)
	リタリン錠10mg

【90日分を限度とされる内服薬】

セルシン錠2mg
セルシン錠5mg
セルシン散1%
フェノバルビタール散10%
フェノバルエリキシル0.4%
フェノバル錠30mg
ベンザリン錠2mg
ベンザリン錠5mg
ベンザリン細粒1%
マイスタン細粒1%(限定・院外のみ)
マイスタン錠10mg
リボトリール錠0.5mg
リボトリール細粒0.1%
リボトリール錠2mg(院外のみ)

〈 注意 〉

- ①催眠鎮静薬のリスミー錠2mgやルネスタ錠2mgは、向精神薬の指定をうけていません。したがって、投与期間の制限はありません。
- ②添付文書等に投与日数の制限のある場合は、その投与日数に限定されます。
例：ジスロマック錠250mg 3日間
タミフルカ[®]セル・ト[®]ライソップ[®] 5日間
など

1. 血液凝固作用薬の作用発現時間、休薬の目安

	薬品名	休薬の目安	作用持続時間	作用の可逆性	Tmax(hr)	半減期(hr)	効果発現(hr)	主な作用機構
抗凝固薬	ワルファリン	3～4日前	2～3日	非可逆的	3～9	36	12～24で発現、36～48時間後に十分な効果が得られる	ビタミンK代謝サイクルの中のビタミンK依存性エポキシドレダクターゼとビタミンKキノンレダクターゼを阻害
	プラザキサ	別紙参照	—	可逆的	0.5～2.0	13～27 ※腎機能低下により延長	2	直接トロンビン阻害
	イグザレルト		24時間	可逆的	4	5.8	0.5～4	第Xa因子阻害
	エリキュース		24～48時間で作用消失	可逆的	3～3.5	8～10	3～3.5	第Xa因子阻害
	リクシアナ	24時間以上前	24時間で作用消失	可逆的	1～2	9～11	PT、APTTは1時間で最大延長、24時間後には前値に回復	第Xa因子阻害
抗血小板薬	アスピリン	7日前	7～10日	不可逆的	0.39	0.4	24	血小板のシクロオキシゲナーゼの阻害
	クロピドグレル		8～10日	不可逆的	1.9	6.9		血小板膜上のADP受容体に結合し、PI3キナーゼの活性化を抑制、GP II b/III aの活性化を阻害。さらに、各種血小板凝集因子による凝集反応を抑制
	パナルジン		8～10日	不可逆的	2	1.6	24	血小板のアデニレートシクラーゼ活性増強、血小板のGP II b/III a受容体へのフィブリノーゲンの結合を抑制
	エフィエント		8～10日	不可逆的	0.6 ※活性代謝物	20mg単回:4.9 3.75mg反復:0.9 ※活性代謝物	20mg負荷投与時:1時間 3.75mg連日投与時:5日間	血小板膜上のADP受容体P2Y12を選択的かつ非可逆的に阻害
	シロスタゾール	2日前	0.5～1日	可逆的	3	18	3	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
	ベラプロスト	1日前	6時間	可逆的	1.42	1.11	1	プロスタグランジン受容体への結合からアデニレートシクラーゼ活性化
	リマプロストアルファテックス	1日前	3時間	可逆的	1	7	1	プロスタグランジン受容体への結合からアデニレートシクラーゼ活性化
	サルホクレラート塩酸塩	1日前	12時間	可逆的	0.92	0.69	1.5	血小板の5-HT ₂ レセプター阻害
	イコサペント酸エチル	7～10日前	7～10日	不可逆的(EPAが血小板膜に取り込まれる)	6	6	1～2週間後	血小板膜リン脂質中のEPA含量を増加させ、血小板膜からのアラキドン酸代謝を競合的に阻害する
	ロトリガ			不可逆的(EPAが血小板膜に取り込まれる。DHAの抗血小板作用はEPAより弱い。)	6			
	ロコルナール	2日前	24時間	可逆的	1	1.35	4～6時間	ホスホジエステラーゼ活性阻害、トロンボキサンA ₂ 合成阻害
	コメリアン	2日前	不明	可逆的	0.5～1.0	4	1～2	血小板のホスホリパーゼ活性阻害
	ペルサンチン	2日前	不明	可逆的	1.22	1.7	不明	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
	ジピリダモール							
	ケタス	3日前	不明	不明	4	12	不明	血小板のホスホジエステラーゼ活性阻害
イフェンプロジル	2日前	不明	可逆的	0.74～1.77	1.33～1.4	1～3	血小板のα ₂ -レセプターを介する作用	

腎機能別にみた手術/侵襲的手技前における投与中止期間

腎機能 (CCr、 mL/min)	プラザキサ		イグザレルト		エリキュース	
	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)	出血リスク (Standard)	出血リスク (High)
≥80	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
50～80	≥36時間	≥72時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
30～50	≥48時間	≥96時間	≥24時間	≥48時間	≥24時間	≥48時間
15～30	禁忌		≥36時間	≥48時間	≥36時間	≥48時間
<15	禁忌					

参考資料:各医薬品インタビューフォーム
Eur Heart J 2013 34:2094-2106

2) プラザキサカプセルと他の抗凝固薬の切り替えについて

プラザキサカプセルから、他の抗凝固薬（注射剤：ヘパリン等）へ切り替える際には、下記要領で切り替えをお願いします。

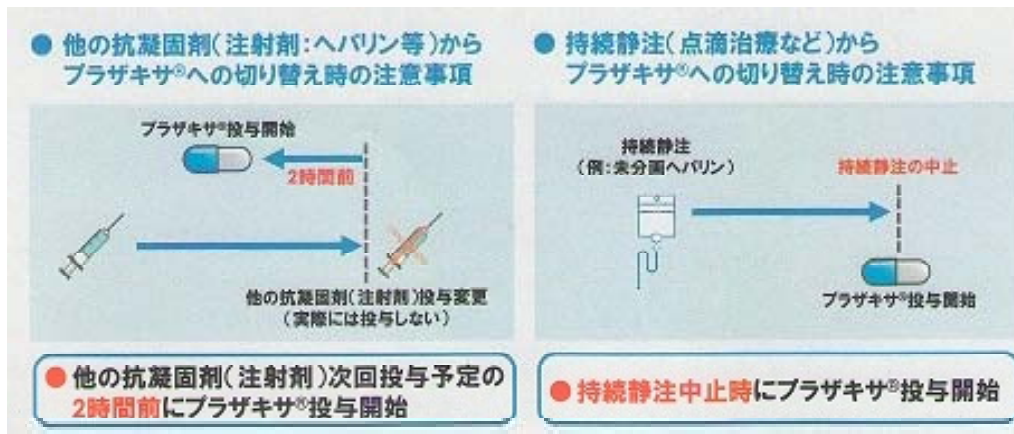
① プラザキサから他の抗凝固薬（注射剤）への切り替え

プラザキサ最終投与から12時間の間隔をあけて、他の抗凝固薬開始。



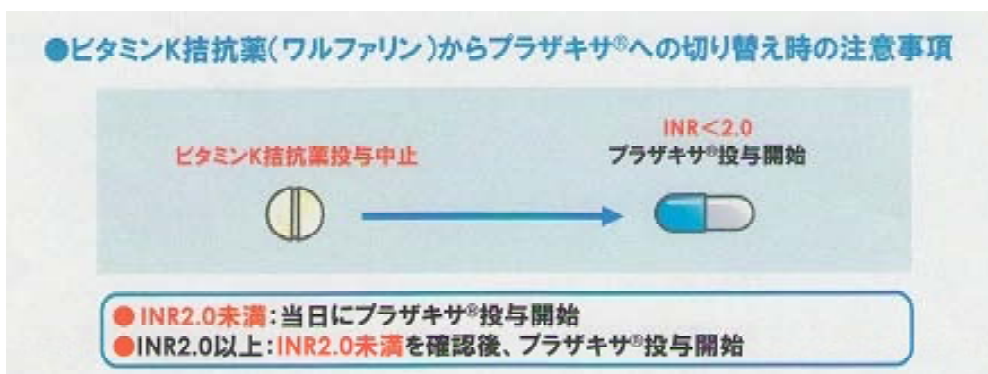
② 他の抗凝固薬（注射剤）からプラザキサへの切り替え

他の抗凝固薬の次回投与予定時間の2時間前から、あるいは持続静注中止時に、プラザキサ投与開始。



③ ワーファリンからプラザキサへの切り替え

ワーファリンからの切り替え時は、INRが2.0未満を確認した時点で、投与開始可能です。



(2011年5月作成 薬剤部)

1-3. 手術前に注意が必要な薬剤

* 一般的な目安です。詳しくは主治医および麻酔科医師の指示に従って下さい。

術前内服評価のタイミング	薬効分類	主な薬剤名(当院採用薬)	継続または中断により増加する主なリスク	継続または中止の目安	備考
数週間前	喫煙		術後肺合併症	術前4~8週間禁煙	
	経口避妊薬(低用量ピル)	トリキュラー、プラノバル、ルナベル、ヤーズ	深部静脈血栓・肺塞栓症	添付文書を参照。薬剤により、術前4週間~術後2週間(大手術または下肢の手術において)	腹腔鏡下手術など小手術に関しては、血栓症のリスクを伴わなければ休薬の必要はない
	ホルモン補充療法	デュファストン、プロベラ、プロスタール ヒスロン、メノエイド			
	免疫抑制剤(メトトレキサート)	リウマトレックス	創部感染	MTX12.5mg/週以上の高用量では1週間前から中止	低用量では休薬の必要なし
	免疫抑制剤(TNF阻害剤)	レミケード	創部感染	最終投与の4週間後から全身麻酔による手術可能	
	パーキンソン病治療薬(MAO阻害剤)	エフピー	術中の交感神経刺激薬投与による高血圧、高体温、けいれん	3週間前から専門医と相談し、中止などを検討	麻酔をMAO sage technique で行う場合は休薬の必要なし
	ハーブ、サプリメント	イチョウ葉エキス、朝鮮人参、ニンニク、アロエ、魚油、ノギリヤシ、ビタミンE	出血	2~3週間前から中止	
		カバ、バレリアン、セントジョーンズ・ワート	麻酔作用増強		
抗血小板薬	(付録 抗血液凝固薬休薬の目安 参照)	出血	(付録 抗血液凝固薬休薬の目安 参照)		
数日前	骨粗鬆症治療薬(ホルモン剤)	エビスタ	深部静脈血栓・肺塞栓症	手術3日前から完全に歩行可能になるまで中止	
	NSAIDs	アスピリン(低用量を除く)、オステラック、セレコックス、ボルタレン、ジクロフェナク、ポンタール、モービック、ロキソプロフェン	出血	通常は継続して問題なし。中止をするならば48時間前	
	ジギタリス製剤	ジゴシン、ラニラピッド	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	心臓手術では48時間前、非心臓手術では24時間前に中止 ※上室性頻拍の抑制に使用している場合は手術当日まで継続する	
	ワルファリン	ワーファリン	出血	(別紙参照)	
	ED治療薬(PDE5阻害剤)	シアリス、バイアグラ	-	手術前36時間から中止	
	ステロイド(長期投与)	コートリル、デカドロン、プレドニゾン、フロリネフ、リンデロン、ベタメタゾン、レナデックス	中断後の手術侵襲による急性副腎不全(副腎クレーゼ)	当日朝まで内服することが望ましい 必要に応じてステロイドカバーを行う	

1-3. 手術前に注意が必要な薬剤

* 一般的な目安です。詳しくは主治医および麻酔科医師の指示に従って下さい。

術前内服評価のタイミング	薬効分類	主な薬剤名(当院採用薬)	継続または中断により増加する主なリスク	継続または中止の目安	備考
手術当日朝	インスリン	(K. 代謝性医薬品 3. 糖尿病用薬 参照)	-		
	経口血糖降下薬	アクトス、グリメピリド、エクア、グリミクロン、グルファスト、ジャスピア、セイブル、ファスティック、ベイスン、メホルミン、トラゼンタ、オングリザ、テネリア、スーグラ、フォシーガ、カナグル、ジャディアンス	低血糖	絶食時または術当日より、スライディングスケールによる管理を行う	※長時間作用のSU剤(オウグルン、グリミクロン)などは効果が2~3日継続することを考慮し、術前2~3日前よりインスリンに切り替える
	降圧薬 (ACE阻害薬・ARB)	オルメテック、タナトリル、バルサルタン、カンデサルタン、ロサルタン、ミカルディス、エナラプリル 【配合剤】エックスフォージ、エカード、プレミネント、ミカムロ、レザルタス、ユニシア	血圧低下、腎機能低下	当日朝の内服は中止	
	パーキンソン病治療薬 (レボドパ製剤)	ネオドパストン、マドパー	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	前日夜まで内服可能、経口摂取開始とともに速やかに再開	
	パーキンソン病治療薬 (ドパミン作動薬)	カバサル、パーロデル、ピ・シフロール、ミラベックス	不整脈、虚血性心疾患・高血圧	術前12時間以上中止、経口摂取開始とともに速やかに再開	
	利尿薬	アルダクトン、サムスカ、アゾセミド、ダイアモックス、ナトリックス、フルイトラン、フロセミド、ルブラック 【配合剤】プレミネント	脱水、低カリウム血症		
	降圧薬 (β遮断薬)	カルベジロール、インデラル、セレクトール、テノーミン、ロブレゾール、ミケラン、メインテート	中断による心拍数増加、反跳性高血圧		
	降圧薬 (カルシウム拮抗薬)	ニフェジピン、セバミット、アムロジピン、シルニジピン、アゼルニジピン、ベニジピン、ジルチアゼム、ワゾラン 【配合剤】エックスフォージ、ミカムロ、レザルタス	中断による高血圧性臓器障害		
	降圧薬 (Kチャネル開口薬)	ニコランジル	-		
	脂質異常症治療薬 (スタチン系)	クレストール、プラバスタチン、ピタバスタチン、アトルバスタチン、ローコール	術中術後の心筋梗塞、脳梗塞	当日朝まで内服することが望ましい	
	甲状腺薬 (T4製剤、抗甲状腺薬)	チラーヂン、メルカゾール、チウラジール	代謝異常、循環不全		
	向精神薬	(A. 神経系 5. 抗精神病薬 参照)	中断による術中異常高血圧等		血圧低下、心電図異常、電解質異常、肝機能異常、抗コリン作用等に注意が必要
	抗けいれん薬	アレビアチン、イーケブラ、エクセグラン、エビレオプチマル、ザロンチン、ガバペン、サプリル、セルシン、セレニカ、テグレートール、デバケン、トピナ、パレリン、ビムパット、フィコンパ、フェンパール、プリミドン、マイスタン、ラミクタール、リボトリール	術中術後のてんかん発作		
呼吸器系吸入薬	アドエア、インターール、エンクラッセ、ステリ・ネブクロモリン、キュバル、サルタノール、シープリ、ウルティプロ、シムビコート、スピリーバ、バルミコート、ビソルボン、プロムヘキシシ、フルタイド、ベネトリン、メプチン、フルティフォーム	術中術後の喘息発作、肺合併症	当日朝まで継続が望ましい		

<参考文献> 周術期管理チームテキスト(日本麻酔科学会), 周術期管理の薬学管理(南山堂), Q & A on oral contraceptives(帝国臓器製薬)

2. 医薬品とグレープフルーツジュースとの相互作用

グレープフルーツジュースの飲用により、種々の医薬品（Ca拮抗薬、HMG-CoA還元酵素阻害薬、免疫抑制剤など）の血中濃度が上昇して効果が増強されるとともに、時に副作用が増加するとの報告が数多くなされています。

①発現機序

グレープフルーツジュースに含まれる成分（フラノクマリン）による消化管粘膜のチトクロームP450(CYP)3A4（薬物の解毒代謝酵素）やP-糖蛋白質に対する抑制効果に基づくバイオアベイラビリティの上昇が考えられます。

②相互作用の程度

バイオアベイラビリティの違いにより同効医薬品でも異なります。

例えば、Ca拮抗薬では、最大血中濃度が約4倍に上昇するニソルジピン（当院未採用）からほとんど変化のないアムロジンまで、様々です。

③グレープフルーツの果肉との相互作用

代謝阻害物質（フラノクマリン）は、グレープフルーツの果肉の部分にも存在しているためグレープフルーツジュースと同様に注意が必要です。

④グレープフルーツの近縁種との相互作用

スイーティ、ポメロ（ブンタンなどを含む）、サワーオレンジ（ダイダイなどを含む）はフラノクマリンを含有し、チトクロームP450(CYP)3A4の活性を阻害します。

一方、バレンシアオレンジ、レモン、カボス、温州ミカンには、フラノクマリンはほとんど含まれていません。

⑤患者への服薬指導

グレープフルーツジュースと薬物との併用で重篤な相互作用の報告はありませんが、グレープフルーツジュースをコップ1杯程度飲用してもバイオアベイラビリティに影響を及ぼすこと、あるいはその効果が10時間程度持続するなどの報告があります。

そのため、特にチトクロームP450(CYP)3A4で代謝される医薬品を服薬している患者に対しては、グレープフルーツジュースの飲用について説明し、その多量の摂取を控えさせるなどの服薬指導が必要です。

添付文書にグレープフルーツジュース併用注意の記載のある医薬品（当院採用薬）

分類	医薬品名
Ca拮抗薬	アゼルジピン、アムロジピン、エクスフォーシ OD配合錠、カルロット(限)、シムジピン、ニフェジピン、ベニジピン、セパミットR、レザルタス配合錠、ワラン、ミカモ配合錠、ユニア配合錠(限)
肺高血圧症用薬	アドシルカ(限)、トラクリア(限)
高脂血症用薬	アトルバスタチン
抗血小板剤	シロスタゾール
免疫抑制剤	ネオラル(限)、サンテイムン(限)、フロクダラフ(限)、グセラプター(限)
精神神経用薬	テグレトール
抗癌剤	アイクルシグ(限)、アフィニール(限)、アムノレイク(限)、イブランス、イムブルビカ(限)、イレッサ、イリノテカン注、インライタ(限)、グオトリエント、グリベック、サルティア、スーテント(限)、スプリセル(限)、タイケルブ(限)、タシグナ(限)、タルセバ(限)、トーリセル注(限)、ボシユリア(限)
麻薬	アブストラル舌下錠
その他	サムスカ、シアリス(限)、センタコート、メチルエルゴメトリン、メファキン(限)、ルパフィン、レスピア経口静注液、レミッチ(限)、レミニルOD錠(限)、レグパラ(限)、レルパックス(限)、ロサセン(限)、レクタブル2mg注腸フォーム14回

(2018年2月改訂 薬剤部)

(医薬品情報2004年2月号より抜粋・改訂)

3. 各種輸液製剤の予備容量について

輸液剤は、他の注射薬を混合して使用されることが、多くあります。このときに、その輸液剤に混合可能な注射薬容量を予備容量といいます。

今回、本院採用の輸液製剤について、それぞれの予備容量(混合可能容量)を調べ、一覧表としました。この予備容量はおおよその値ですが、輸液剤の処方や、外来・病棟等での注射剤混合の際に、参考としてください。

予備用量
(混合可能用量)



表1. 各種輸液製剤の予備容量(混合可能容量)

輸液剤名	予備用量	輸液剤名	予備用量
アミノレバン(500 mL)	160 mL	ネオアミュー(200 mL)	180 mL
ヴィーンD(500 mL)	150 mL	ハイカリック1号(700 mL)	670 mL
エルネオパNF1号(1500mL)	2450mL	ハイカリック2号(700 mL)	670 mL
エルネオパNF2号(1500mL)	2450mL	ハイカリックRF(500 mL)	750 mL
蒸留水(100 mL)	60 mL	ビーフリード(500 mL)	1200 mL
生食(50 mL)	30 mL	ビカーボン(500 mL)	230 mL
生食(100 mL)	60 mL	フィジオ140(500mL)	160 mL
生食(250 mL)	140 mL	5%ブドウ糖(50 mL)	30 mL
生食(500 mL)	160 mL	5%ブドウ糖(100 mL)	70 mL
生食キットH(100 mL)	20 mL	5%ブドウ糖(250 mL)	165 mL
生食(1000 mL)	650 mL	5%ブドウ糖(500 mL)	160 mL
ソルデム1(200 mL)	100 mL	10%ブドウ糖(500 mL)	160 mL
ソルデム1(500 mL)	160 mL	50%ブドウ糖(200 mL)	460mL
ソルデム2(500 mL)	160 mL	フルカリック1号(903 mL)	total 2900 mL
ソルデム3A(200 mL)	100 mL	フルカリック2号(1003 mL)	total 2900 mL
ソルデム3A(500 mL)	160 mL	フルカリック3号(1103 mL)	total 2900 mL
ソルデム3AG(200 mL)	100 mL	プロテアミン12(200 mL)	110 mL
ソルデム3AG(500 mL)	160 mL	ヘスパンダー(500 mL)	200 mL
ソラクト(500 mL)	160 mL	ハイカリックIVHバッグ(2000 mL)	400mL
低分子デキストラン(250 mL)	140 mL	ハイカリックIVHバッグ(3000 mL)	400mL
デノサリン(500 mL)	160 mL		

(2018年2月改訂 薬剤部)
 (2017年2月改訂 薬剤部)
 (2016年11月改訂 薬剤部)
 (2016年3月改訂 薬剤部)
 (2012年10月改訂 薬剤部)
 (2011年2月改訂 薬剤部)
 (2008年4月21日作成 薬剤部)
 (医薬品情報2007年4月号抜粋)

4. 感染症治療薬の点滴速度（当院採用薬）

分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)		
1	M R S A用薬	キュビシン	ダ [○] プトマイシ ^ン	30分かけて,または緩徐に静注		12時間(生食・リンゲル液)	48時間(生食・リンゲル液)	
2		ザイボックス	リネ [○] リド [○]	30分~2時間かけて (10mL/kg/hr以下)	ブドウ糖水和物5%を含有するため			
3		テイコプラニン	テイコ [○] プラニ ^ン	30分以上かけて	ショック及びレッドマン症候群が報告されているため			
4		塩酸バンコマイシン	バンコ [○] マイシ ^ン	1時間以上	ヒスタミンが遊離されてredneck症候群、 血圧低下などを起こす	24時間(希釈後)	24時間(希釈後)	
5	ペニシリン系	スルバシリン	アンピ [○] シリン,スル ^バ バ [○] クタム	出来るだけ遅くする	血管痛、血栓又は静脈炎を起こすことが ある			
6		タゾピペ	タゾ [○] バ [○] クタム,ピ [○] ペ [○] ラシリン	できるだけ遅く				
7		ピクシリン	アンピ [○] シリン	1~2時間かけて				
8		ペニシリンG	ペ [○] ニシリン,ペ [○] ニシ ^{リン} G	できるだけ遅く			9時間	48時間
9		ペントシリン	ピ [○] ペ [○] ラシリン	1~2時間かけて				24時間
10	セフェム系	クラフォラン	セ [○] フトリアキソ ^ン	およそ1時間かけて	静脈内大量投与により血管痛、血栓性静 脈炎等を起こすことがある			
11		セファゾリン	セ [○] フトゾ ^{リン}	できるだけ遅く			48時間(遮光)	48時間(遮光)
12		セフトアジジム	セ [○] フトアジジ ^ム	30分~2時間かけて			6時間	72時間
13		セフトリアキソン	セ [○] フトリアキソ ^ン	30分以上かけて				
14		セフメタゾール	セ [○] フトメタゾ ^{ール}	できるだけ遅く			24時間	
15		ファーストシン	セ [○] フトゾ ^{リン}	30分~2時間かけて			12時間	12時間
16		フルマリン	フル [○] マ ^{リン}	できるだけ遅く			6時間	24時間
17		マキシピーム	セ [○] フトピ ^{ーム}	30分~1時間かけて				
18		ワイスタール	セ [○] フトペ [○] ラソ ^ン ,ス ル ^バ クタム	できるだけ遅く			6時間	48時間
19	アミノグリコシド系	アミカシン	アミ [○] カシ ^ン	30分~1時間かけて	眩暈、耳鳴り、難聴などの第8脳神経障 害を起こす恐れあり			
20		ゲンタシン	ゲン [○] タシ ^ン	30分~2時間かけて				
21		トブラシン	ト [○] ブラシ ^ン	30分~2時間かけて 1回90mgの場合は1時間以上かけて				
22		ハベカシン	アル [○] ベ ^{カシ} ン	成人:30分~2時間,小児:30分				
23	パニマイシン (限定)	ジ [○] ベ ^{カシ} ン	30分~1時間	静脈内投与により、ときに血管痛を起こ すことがある				
24	カルバペネム系	オメガシン (限定)	ピ [○] ア ^ベ 私 ^ム	30分~1時間かけて		6時間以内に投与終了	24時間以内に投与終了	
25		カルベニン	バ [○] ニ ^ベ 私 ^ム	30分以上かけて 1回1gのときは60分以上かけて	痙攣、意識障害などの中枢神経症状があ らわれることがある	6時間		
26		チエナム	イ [○] ミ ^ベ 私 ^ム	30分以上かけて		4時間		
27		フィニバックス	ド [○] リ ^ベ 私 ^ム	30分以上かけて		8時間	24時間	

	分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)
28	カルバペネム系	メロペネム	メロペム	30分以上かけて	5%ブドウ糖液との配合は力価がより早く低下する	6時間(生食)	24時間(生食)
29	ホスホマイシン系	ホスミシンS	ホスマイシン	1~2時間かけて	血管痛、血栓又は静脈炎を起こすことがある		
30	マクロライド系	ジスロマック	アジスロマイシン	2時間かけて	注射部位疼痛が発現する可能性がある(注射溶液濃度は1.0mg/mLを超えない)	24時間	
31	リンコマイシン系	ダラシンS	クリンダマイシン	30分~1時間	急速静注では心停止をきたす恐れあり		
32	グリシルサイクリン系	タイガシル	チゲサイクリン	30~60分かけて		18時間	
33	テトラサイクリン系	ミノサイクリン	ミノサイクリン	30分~2時間かけて	血管痛・血栓性静脈炎をおこすことがある	12時間以内に投与終了	12時間以内に投与終了
34	ニューキノロン系	クラビット	レボフロキサシ	およそ1時間かけて			
35		パシル	パズフロキサシ	30分~1時間かけて 1回1000mgの場合は1時間以上かけて			
36	サルファ剤	バクトラミン	スルファメトキサゾール、トリメトロム	1~2時間かけて			
37	モノバクタム系	アザクタム(限定)	アステロナム	出来るだけ遅くする	静脈内大量投与により血管痛、静脈炎、灼熱感を起こすことがある	24時間	48時間
38	抗結核薬	ストレプトマイシン	ストレプトマイシン	筋注のみ	眩暈、耳鳴り、難聴などの第8脳神経障害を起こす恐れあり		
39	抗ウイルス薬	アシクロビル	アシクロビル	1時間以上かけて	血管痛、血管の脆弱化があらわれることがある 1アンプルあたり100mL以上の補液で希釈する(用時調製)。		冷所保管不可(結晶析出)
40		シナジス	パリビズマブ	筋注のみ		6時間	6時間
41		デノシン(限定)	ガンシクロビル	1時間以上かけて	強アルカリ性を呈することから、血管痛・静脈炎があらわれることがある(希釈10mg/mL以下)	24時間	冷所保管不可(結晶析出)
42		ホスカビル(限定)	ホスカネット	60mg/kg/回:1時間以上 90~120mg/kg/回:2時間以上	中心静脈投与:希釈不要 末梢静脈投与:血管への刺激を軽減するため5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液にて2倍希釈(12mg/mL)	24時間	
43	抗真菌薬	アムビゾーム	アムテリシンB	1~2時間以上かけて	投与時間連反応(発熱、悪寒、悪心、嘔吐、頭痛、背部痛、骨痛等)が発現した場合は、点滴を一時中断し、患者の様子をみながら点滴速度を遅らせて投与を再開するなどの措置をとること。		24時間(注射用水で溶解) 6時間(5%TZに希釈)
44		カンサイダス(限定)	カスプファンギン	約1時間かけて緩徐に	点滴速度とヒスタミン遊離作用に相関が認められるため(発疹・血管浮腫・アレルギー症状などが予測される)		
45		ファンガード	ミカファンギン	75mg以下:30分以上かけて 75mgを超える:1時間以上かけて	調整後6時間以降は遮光	24時間(遮光)	

	分類	医薬品名	一般名	点滴速度	理由	溶解後の安定性(室温)	溶解後の安定性(冷所)
46	抗真菌薬	ブイフェンド	ホ ^レ リコナゾ ^ル	3mg/kg/時間を超えない速度で	添加物の血漿中濃度の上昇に伴い、アナフィラキシー様反応を起こす恐れあり	溶解または希釈後25℃以下で24時間以内	溶解または希釈後25℃以下で48時間以内
47		プロジフ	ホスフルコナゾ ^{ール}	10mL/分を超えない速度で静注			
48	嫌気性菌感染症治療剤	アネメトロ	メトロニタゾ ^{ール}	20分以上かけて			
49	抗インフルエンザウイルス剤	ラピアクタ	ペ ^ラ ミビ ^ル	15分以上			

(医薬品情報2004年8月号抜粋・改訂)
(2018年2月改訂 薬剤部)

5. バイアル入り注射剤および消毒剤等の開封後の安定性について

2009年度医療監視の際、バイアル入り注射剤等の開封後の使用期限について指摘がありましたので、再度徹底をお願いいたします。

当院におけるバイアル入り注射剤および消毒剤・軟膏剤・点眼剤の容器開封後の使用期限に関する取り決めは、以下の通りとなっています。

1. 注射剤

1) 保存剤を含まないバイアル入り注射剤（抗生剤等）

開封（溶解）後速やかに使用すること。

（原則として、1回あるいは1日以内の使用）

2) 保存剤を含むバイアル入り注射剤

（ヘパリンCa(2万単位瓶)、ヘパリンNa(5千単位瓶)、キシロカインエピレナミン含有、インスリン等）開封後30日以内に使用すること。

【バイアル入り注射剤使用の手順と注意】

- ・手順① 開封した日付をバイアルに記入(確認)
- ② ゴム栓部分のアルコール綿での清拭
- ③ ゴム栓部分の同一箇所を避けて穿刺すること
- ④ 汚染の無い場所での保管
- ・細菌汚染・異物混入を避ける操作を行う。
- ・保存剤を含むバイアルは、開封後は約30日間の使用が可能であるが、頻回に穿刺する場合は、速やかに使い切るようにする。

2. 消毒剤

1) 希釈滅菌消毒剤

(0.05%マスキン水、0.025%チアミトール水、0.02%アクリノール液等)

原則として容器開封後3ヶ月まで有効とする。

2) 消毒剤原液

(消毒用エタプロコール、ポビドンヨード外用液、エルエイジー10液、チアミトール10%、0.1%アクリノール液等)

原則として容器に記載されている使用期限まで有効とする。

【消毒剤使用時の注意】

- ・いずれについても室温保存の下、清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
- ・容器の注ぎ口やキャップの内側に手指が触れた場合（特に希釈消毒剤）には、廃棄処分すること。

3. 軟膏剤

原則として容器に記載されている**使用期限まで有効とする。**

【軟膏剤使用時の注意】

- ・薬剤毎に定められた保存方法（冷所、室温等）に従い、清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
- ・小分けや混合した軟膏については、なるべく速やかに使用し、変色・分離・敗油臭があるときは廃棄処分すること。

4. 点眼剤

開封後**30日以内**に使用すること。

【点眼剤使用時の注意】

- ・点眼剤は、薬剤毎に定められた条件下で保存し（冷所、室温等）、開封後は清潔かつ適切に取り扱うことを前提とする。
- ・開封後の保存方法について、必ず冷所で保存するもの（キサラン点眼、ベストロン点眼等）や冷所保存を避けるもの（リザベン点眼）があるため、薬剤毎に確認すること。
- ・用時溶解する点眼剤で使用期限が限定されているもの（ベストロン点眼）は、溶解した日付を書き込み、期限をすぎた時点で廃棄処分とする。
- ・検査用点眼剤など不特定多数の患者に対して使用する場合、点眼瓶のノズルが患者の睫毛や皮膚に接した時には廃棄処分とする。
- ・院内製剤品は使用期限を遵守すること。

参考文献

- 1) 第14改正 日本薬局方（2001）
- 2) 注射剤—その基礎と調剤と運用—, 南山堂（1995）
- 3) 改訂版 消毒剤の選び方と使用上の留意点, 薬業時報社（1998）
- 4) 増補 消毒と滅菌のガイドライン, へるす出版（2002）
- 5) 第11改訂 調剤指針, 薬事日報社（2002）
- 6) 臨眼, Vol. 50, No. 3, p411-414（1996）

（2009年11月作成 薬剤部）

（2018年3月改定 薬剤部）

6. パクリタキセル注（タキソール注）の投与時に「フィルター付き点滴セット」の使用

先日（5/16）、ブリストル・マイヤーズ（株）より、「パクリタキセル（タキソール）注射液 100mg」バイアル中に微小な浮遊物があるとの報告、及び現時点でのメーカーとしての見解の連絡を受けました。

報告と見解の概要は次の通りです。

- 1) 分析の結果、浮遊物はシリコンであった。
- 2) 原因としては、ゴム栓由来のシリコンが考えられる。
- 3) 浮遊物は、輸液フィルターを使用することにより除去される。
- 4) 現在までに、浮遊物が原因と考えられる副作用等の報告はない。

加えて、次の要請を受けました

「パクリタキセル（タキソール）注射液の投与に際しては、添付文書（※）に記載されている通り、0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通しての投与をお願いいたします。」

パクリタキセル注（タキソール注）の投与時には「フィルター付き点滴セット」の使用をお願いします。

**当院では、フィルター付き点滴セット
（JE-PFPW801L02）が該当します**

本件の問い合わせ先 : 薬剤部医薬品情報室 内線 2725

※：（添付文書）本剤投与時には、0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。また、点滴用セット等で本剤の溶解液が接触する部分に、可塑剤としてDEHP [di-(2-ethylhexyl) phthalate : フタル酸ジ-(2-エチルヘキシル)] を含有しているものの使用を避けること。

点滴セットの注意書きは、他にアビゾーム、イントラファット、エルネパ、パルクス、ビタジエクト、フルカリック、プロモフォル、ベプシド、ミプラ、リポドール、リポカがあります。

追記：2008年4月17日、ブリストル・マイヤーズ（株）より、タキソール注射液のシリコン浮遊物の発生を防止するために、天面部分（針刺し部）をフッ素樹脂でラミネートしている新ゴム栓へ変更したもののへ切り替えると連絡がありました。0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通しての投与は引き続き行ってください。

（2011年2月2日改訂 薬剤部）
（医薬品情報2007年6月号より抜粋）

7. 抗MRSA薬のTDMについて

抗MRSA薬の薬物治療モニタリング（TDM）について、2016年5月、日本化学療法学会、日本TDM学会より「抗菌薬TDMガイドライン2016」が発表されました。
バンコマイシン及びテイコプラニンについて、その概略をご紹介します。

商品名	バンコマイシン注	テイコプラニン注
一般名(略号)	バンコマイシン（VCM）	テイコプラニン（TEIC）
採血 タイミング	トラフ値(投与前30分以内) ルーチンでのピーク値測定は推奨しない	トラフ値(投与前30分以内) ピーク値測定の意義はない
目標 血中濃度	目標トラフ値: 10-15 $\mu\text{g/mL}$ * 菌血症、心内膜炎、骨髄炎、髄膜炎、肺炎(院内肺炎、医療・介護関連肺炎)、重症皮膚軟部組織感染においては、トラフ値は15-20 $\mu\text{g/mL}$ を推奨する。ただし、小児においてトラフ値15-20 $\mu\text{g/mL}$ とした場合の有効性及び安全性は確立していない。	目標トラフ値: 15-30 $\mu\text{g/mL}$ 重症例や複雑性感染症(心内膜炎、骨関節感染症など)では、良好な効果を得るために目標トラフ値を20 $\mu\text{g/mL}$ 以上に設定する。
初回TDM	腎機能正常で1日2回投与の場合、 4-5回投与直前(3日目) にTDMを行う。	負荷投与を行った症例では腎機能に関わらず3日間投与後、 4日目 にTDMを行う。
2回目以降の TDM	1週間に1回 のTDM実施を推奨する。病態次第では頻回な実施を考慮する。	通常は 1週間に1度 であるが、病態次第では頻回な実施を考慮する。
半減期	約5時間	46~56時間
組織移行性	◎胸水、腹水 ○肺組織(血中濃度の1/3~1/5)、髄液、骨組織、関節液	◎心臓、肺組織、骨、皮下組織 △髄液
中毒域	トラフ値20 $\mu\text{g/mL}$ 以上は腎毒性の発現が高率となり推奨されない。 透析患者において、有害事象が高率となる血中濃度に関してはコンセンサスが得られていない。	トラフ値が30 $\mu\text{g/mL}$ 以上で、有効率が高まるとの報告はない。 トラフ値が40~60 $\mu\text{g/mL}$ 以上では、腎障害、血液毒性、肝障害などの副作用が報告されている。
備考	トラフ値15~20 $\mu\text{g/mL}$ を目標値とする場合、安全性を考慮し、初回投与は通常投与量またはトラフ値10~15 $\mu\text{g/mL}$ を目標とした投与設計で投与を開始し、実測値、臨床経過をもとに15~20 $\mu\text{g/mL}$ を目指した投与設計を行う。	初回投与時は腎機能に関わらず、負荷投与を含め3日間は腎機能正常者と同量の投与を行う。

* バンコマイシンの添付文書には、「トラフ値は10 $\mu\text{g/mL}$ を超えないことが望ましい。」と記載されています。

トラフ値10-15 $\mu\text{g/mL}$ で投与した場合においても、腎機能等には十分に注意をお願いいたします。

2012年10月作成/2018年3月更新

8. 透析患者への投与禁忌薬剤について～第5版～

1. 抗血液凝固薬

商品名	理由（添付文書記載事項）
イグザレルト錠 （リバ-ロキサバン）	CCr15mL/min未満の患者における使用経験がない。
プラザキサカ [®] 栓 （ダビガトラン）	本剤は主に腎臓を介して排泄されるため、血中濃度が上昇し出血の危険性が増大するおそれがある。
リクシアナ錠 （エドキサバントシル酸塩）	<循環器適応>CCr15mL/min未満のある患者では、使用経験がない。 また、ベネフィットを上回る出血のリスクが生じるおそれがある。 <整形適応>CCr30mL/min未満の患者では、使用経験が少ない。また、静脈血栓塞栓症発症抑制効果を上回る出血のリスクを生じるおそれがある。
アリクストラ皮下注 （フォンダパリヌクス） 【限定採用薬】	重篤な腎障害（Ccr<30mL/min）のある患者の場合、本剤は腎臓を介して排泄されるので、血中濃度が上昇し、出血の危険性が増大するおそれがある。
クレキサン注 （エキサパリンナトリウム）	重度の腎障害（CCr30mL/min未満）のある患者では、血中濃度が上昇し、出血の危険性が増大するおそれがある。
エリキユース錠 （アピキサバン）	<非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制> CCr15mL/min未満の患者における使用経験がない。 <静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療及び再発抑制> 重度の腎障害（CLcr 30mL/min未満）の患者における使用経験が少ない。

2. 循環器用薬

①不整脈薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
リスモダンR錠 （ジフルピラミド）	本剤は主に腎臓で排泄されるため、血中半減期が延長することがあるので、徐放性製剤の投与は適さない。
シベンゾリン錠 シベノール注 （コハク酸ベンゾリン）	本剤は透析ではほとんど除去されない。 急激な血中濃度上昇により意識障害を伴う低血糖などの重篤な副作用を起こしやすい。
ソタコール錠 （塩酸ソロール） 【限定採用薬】	重篤な腎障害（Ccr<10mL/min）のある患者の場合、本剤は腎臓から排泄されるため、血中濃度が高くなることにより、重篤な副作用が発現するおそれがある。

②ACE阻害薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
タナトリル錠 （塩酸イダプリル） エナラプリル錠 （マレイン酸エナプリル） カプトリル錠 （カプトプリル） 【限定採用薬】	1. デキストラン硫酸固定化セルロース、トリプトファン固定化ポリビニルアルコール又はポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器によるアフエレーシスを施行中の患者：ブラジキニンの蓄積により血圧低下、潮紅、嘔気、嘔吐、腹痛、しびれ、熱感、呼吸困難、頻脈等のショック症状を起こすことがある。 2. アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜（AN69）

ロンゲス錠 (リソパ®リル) 【限定採用薬】	を用いた血液透析施行中の患者：ブラジキニンの代謝が妨げられ蓄積することによるアナフィラキシー様症状を発現することがある。
------------------------------	--

※なお、「デキストラン硫酸固定化セルロース、トリプトファン固定化ポリビニルアルコール又はポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器によるアフェレーシス」および「アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜 (AN69) による血液透析」は、当院では行われておりません。

③持続性ARB／利尿薬(ヒドクロロチアジド：HCTZ) 合剤

商品名	理由（添付文書等記載事項）
エカード配合錠LD エカード配合錠HD (カデサルタンシルセチル/HCTZ) 【限定採用薬】	ヒドロクロロチアジドの効果が期待できない。 血清クレアチニン値が2.0mg/dLを超える腎機能障害患者においては、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。

④高脂血症用薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
ベザトールSR錠 (ベサフィブラート)	本剤投与中、急激な腎機能の悪化を伴う横紋筋融解症があらわれることがある。この症状は透析患者、腎不全などの重篤な腎機能障害を有する患者であらわれやすいため、これらの患者には投与しないこと。
リピディル錠 (フェフィブラート) 【限定採用薬】	腎機能障害を有する患者においては、AUCの増加、Cmaxの上昇、及びT1/2の延長傾向がみられる。また、他のフィブラート系薬剤において、横紋筋融解症発現症例の多くが腎機能障害を有する患者であったことが報告されているため、目安としてSCr2.5mg/dL以上の患者には投与しないこと。

⑤利尿薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
フルイトラン錠 (トリコルメチアジド)	GFRが30mL/min以下では無効である（ただし、ループ利尿剤と併用すると相乗効果が認められる）。無尿患者には禁忌。
アルダクトンA錠 (スピロラクトン)	腎機能を更に悪化させるおそれがある。また、腎からのカリウム排泄が低下しているため高カリウム血症を誘発又は増悪させるおそれがある。無尿患者には無効である。
ソルダクトン注 (カルノ酸カリウム)	
フロセミド錠・注 (フロセミド)	無尿患者には効果がないため投与しない。
ルプラック錠 (トラセミド)	無尿患者には効果がないため投与しない。
アゾセミド錠 (アゾセミド)	
ナトリックス錠 (インダパミド)	GFRが30mL/min以下では無効である。

⑥抗アルドステロン薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
セララ錠	中等度以上の腎機能障害（クレアチニンクリアランス50mL/分未満）

(エプレノン) 満のある患者)は、高カリウム血症を誘発させるおそれがある。

⑦硝酸薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
ニトプロ注 (ニトプロシドナトリウム)	腎循環が抑制されるため尿量のある患者では禁忌であるが、無尿の患者では減量の必要はない。

⑧肺高血圧症治療薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
アドシルカ錠 (タダラフィル)	重度の腎障害のある患者では本剤の血漿中濃度が上昇すること、使用経験が限られていること及び透析によるクリアランスの促進は期待されないため。
アデムパス錠【限定】 (リオグアト)	使用経験がなく、本剤の血中濃度が著しく上昇するおそれがある。

3. 消化器管用薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
スクラルファート内用液 (スクラルファート水和物) FK散 (メタケイ酸アルミン酸Mg等) アシドレス液 (水酸化Alゲル等) アドソルビン (天然ケイ酸Al)	長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症があらわれることがある。
ボノサップパック (ピロリ除菌薬セット)	アモキシシリン水和物、クラリスロマイシンの血中濃度が上昇することがあり、本製品では各製剤の投与量を調節できないため、本製品の使用を避けること。

4. 糖尿病治療薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
ファスティック錠 (ナテグリド)	低血糖を起こすおそれがある。 (活性代謝物の蓄積による)
メトホルミン塩酸塩錠 (メトホルミン塩酸塩)	高い血中濃度が持続するおそれがあり、乳酸アシドーシスを起こしやすい。
アクトス錠 (ピオグリタゾン)	重篤な腎機能障害(CCr<10mL/min)のある患者には投与禁忌。
グリメピリドOD錠 (グリメピリド) グリミクロン錠 (グリクラジド)	重篤な腎機能障害のある患者では、未変化体や活性代謝物の蓄積により低血糖を起こすおそれがある。
カナグル錠 (カグリフロジン水和物) ジャディアンス錠 (エンパグリフロジン)	高度腎機能障害患者又は透析中の末期腎不全患者では本剤の効果が期待できないため、投与しないこと。

5. 抗パーキンソン薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
ドブスカプセル （ドベシドパ）	症状が悪化するおそれがある。 用法（透析開始30分から1時間前に経口投与）・用量を遵守し、透析後の追加など過剰投与（過度の昇圧反応が見られることがある）にならないように注意すること。
シンメトレル錠 （アマタジン塩酸塩）	本剤は大部分が未変化体として尿中に排泄されるので、蓄積により、意識障害、精神症状、痙攣、ミオクロヌス等の副作用が発現することがある。また、本剤は血液透析によって少量しか除去されない。
ミラペックスLA錠 （プラミペキソール徐放錠） 【限定採用薬】	主に尿中に未変化体として排泄されるため、腎機能障害患者では副作用が発現しやすくなるおそれがある。高度な機能障害患者（CCr<30mL/min）に対しては状態を観察しながら速放錠であるビ・シフロール錠を慎重に投与すること。

6. 泌尿生殖器用薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
ザルティア錠 （タダラフィル）	重度の腎障害のある患者では本剤の血漿中濃度が上昇すること及び使用経験が限られているため。
レビトラ錠【限定】 （バルデナフィル）	本剤は血漿蛋白結合率が高く、尿中排泄率が低いため腎透析によるクリアランスの促進は期待できない。
ユリノーム錠 （ベンズブロマロン）	尿中排泄促進剤であり、尿量が減少した患者では無効のため投与しない。
ボンゾール錠【限定】 （ダナゾール）	重篤な腎疾患では浮腫等の症状が強く現れることがある。

7. 抗ウイルス薬／抗真菌薬

商品名	理由（添付文書等記載事項）
シンメトレル錠 （アマタジン塩酸塩）	本剤は大部分が未変化体として尿中に排泄されるので、蓄積により、意識障害、精神症状、痙攣、ミオクロヌス等の副作用が発現することがある。また、本剤は血液透析によって少量しか除去されない。
レベトール錠 （リバビリン）	慢性腎不全又はCCrが50mL/min以下の腎機能障害のある患者では、本剤の血中濃度が上昇し、重大な副作用が生じることがある。
ホスカビル注【限定】 （ホスカルネットナトリウム）	本剤の投与により重度の腎障害を起こすことがあり、また、腎機能の低下により本剤の排泄遅延が起こるため、CCr0.4mL/min/kg（体重50kgの場合20mL/min）以下では使用を避ける。
ブイフェンド注 （ホリコナゾール）	腎排泄である注射剤の添加物スルホブチルエーテルβ-シクロデキストリンナトリウム（SBECD）の蓄積により腎機能障害が悪化するおそれがあるため、重度の腎機能障害のある患者（CCr<30mL/min）には経口剤の投与を考慮すること。
ソバルディ錠 （ソホスブビル） ハーボニー配合錠 （レジパスビル/ソホスブビル）	重度の腎機能障害（eGFR<30mL/分/1.73m ² ）又は透析を必要とする腎不全の患者には禁忌。重度腎機能障害の被験者では、ソホスブビルおよび代謝物のAUCがそれぞれ171%、451%高かった。

8. ビタミン剤（ビタミンAおよび誘導体）

商品名	理由（添付文書等記載事項）
チョコラ注 （ビタミンA）	腎不全患者では元々ビタミンA過剰例が多いので投与しない。
チガソンカプセル （イトリナート）	腎障害のある患者では本剤の代謝・排泄が遅れ、作用が増強するおそれがある。
ベサノイドカプセル （トチノイ）	腎障害のある患者では重篤な腎障害を起こすおそれがあり、透析患者ではビタミンA過剰症が増悪するおそれがある。

9. その他

商品名	理由（添付文書等記載事項）
抗アレルギー薬 ザイザル錠、シロップ （レボセチリジン）	重度の腎障害（CCr<10mL/min）のある患者では、高い血中濃度が持続するおそれがあるため、投与禁忌。
抗うつ薬（SNRI） サインバルタカプセル （デューロキセチン）	高度（CCr<30mL/min）の腎機能障害のある患者では、血中濃度が上昇するため投与禁忌。
慢性疼痛治療剤 トラムセット配合錠 （トラマドール/アセトアミノフェン）	腎機能障害患者では、トラマドールおよびアセトアミノフェンのt _{1/2} 、AUCがともに増大する。また非ステロイド性消炎鎮痛剤の投与により腎障害が悪化することがあり、アセトアミノフェンの腎障害を悪化させる可能性がある。高度腎機能障害患者（CCr<30mL/min）における、本剤の薬物動態について検討はされていない。
片頭痛治療剤 マクサルTRPD錠 【限定】 （リザトリプタン）	透析患者におけるAUCが健康成人に比べ増加するため投与禁忌。
抗利尿ホルモン用剤 ミニリンメルトOD錠 （デスモプレシン）	中等度以上（CCr<50mL/min）の腎機能障害のある患者では、血中半減期の延長、血中濃度の増加が認められ、水分貯留を引きおこし低ナトリウム血症発現のリスクを高める可能性がある。
脳保護薬 ラジカット注 （エダラボン）	腎機能障害が悪化するおそれがあるため、重篤な腎機能障害のある患者には禁忌。
関節リウマチ治療薬 リウマトレックスCp （メトトレキサート）	腎障害のある患者では排泄が遅延し、副作用が強くあらわれるおそれがある。
骨粗鬆症治療剤 アクトネル錠 （リセドロン酸ナトリウム）	クレアチニンクリアランス値が約30mL/分未満の患者では排泄が遅延するおそれがある。

参考文献：[改訂2版]腎機能別薬剤使用マニュアル，（株）じほう

[改訂2版]透析患者への投薬ガイドブック，（株）じほう

各種添付文書

（医薬品情報2010年12月号抜粋）

（2018年3月改訂）

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
1	中枢神経用薬	PL配合顆粒	配合剤	眠気
2		SG配合顆粒	配合剤	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
3		アーテン錠	トリヘキソフェニジル	ねむけ、眼の調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
4		アキネトン錠	ビヘリデン	眠気、調節障害および注意力・集中力・反射機能等の低下
5		アタラックス-Pカプセル	ヒドロキシジン	眠気
6		アナフラニール錠	クロミプラミン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
7		アモキサシカプセル	アモキサシン	
8		アルプラゾラム錠	アルプラゾラム	
9		アレビアチン錠・散	フェニトイン	
10		イーケプラ錠・ドライシロップ	レベチラセタム	
11		インフリーSカプセル	イントメタシン	
12		エクセグラン錠・散	ゾニサミド	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
13		エチゾラム錠	エチゾラム	
14		エバミール錠	ロルメタセパム	
15		エビリファイOD錠・内用液	アリピプラゾール	
16		エフピーOD錠	セレギリン	
17		カバサール錠	カベルゴリン	めまい、注意力・集中力・反射機能等の低下
18		ガバペン錠	ガバペンチン	前兆のない突発的睡眠、傾眠、起立性低血圧
19		クエチアピン錠	クエチアピン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
20		グラマリール錠	チアプリド	眠気、めまい・ふらつき等
21		グランダキシン錠	トフィパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
22		コンサータ錠	メチルフェネレート	めまい、眠気、視覚障害等
23		コントロール散	クロルジアゼポキソト	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
24		コントミン錠	クロルプロマジン	
25		サインバルタカプセル	デュロキセチン	眠気、めまい等
26		シンメトレル錠	アマンタジン	めまい、ふらつき、立ちくらみ、霧視等
27		ジェイゾロフト錠	セルトラリン	眠気、めまい等
28		ジプレキサザイデイス錠	オランザピン	傾眠、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
29		スタレボ配合錠	レボドパ/カルビドパ/エンカホロン	突発的睡眠、傾眠、起立性低血圧
30		ストラテラカプセル	アトモキセチン	眠気、めまい等
31		スルピリド錠	スルピリド	
32		セパゾン錠	クロキサゾラム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
33		セルシン錠・散	ジアセパム	
34		セレニカR顆粒	バルプロ酸ナトリウム	
35		セレネース錠	ハロペリドール	
36		ゾルピデム酒石酸塩OD錠	ゾルピデム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
37		テグレトール錠・細粒	カルバマゼピン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
38		テトラミド錠	ミアンセリン	
39		ディアコミットドライシロップ	スチリハントール	
40		デジレル錠	トラゾトン	
41		デパケン錠・R錠・細粒	バルプロ酸ナトリウム	
42		トピナ錠・細粒	トピラマート	
43		トリアゾラム錠	トリアゾラム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
44		トリクロリールシロップ	トリクロリスナトリウム	傾眠、頭痛、めまい、ふらつき等
45		トリプタノール錠	アミトリプチン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
46		トレドミン錠	ミルナシラン	眠気、めまい等

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
47	中枢 神経 用薬	トレリーフOD錠	ゾニサミド	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
48		ドパストン静注	レボドパ	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
49		ドラール錠	クアセハム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
50		ネオドパストン配合錠L	レボドパ・カルビドパ	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
51		ノウリアスト錠	イストラテフィリン	前兆のない突発的睡眠、睡眠発作、起立性低血圧、傾眠、めまい、意識消失、失神等
52		ノバミン錠	フロクロラジン	
53		バレリンシロップ	バルプロ酸ナリウム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
54		パキシル錠・CR錠	パロキセチン	眠気、めまい等
55		ビ・シフロール錠	フラミペキソール	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）
56		ビムパット錠	ラコサミド	浮動性めまい、霧視、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
57		フィコンパ錠	ペランパル	めまい、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
58		フェノバルビタール散10%	フェノバルビタール	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
59		フルニトラゼパム錠	フルニトラゼパム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
60		プロチゾラムOD錠	プロチゾラム	
61		ブリミドン細粒99.5%	ブリミドン	
62		プロチアデン錠	トスレピン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
63		ベルソムラ錠	スプレキサント	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
64		ベンザリン錠	ニトラゼパム	
65		マイスタン錠	クロハサム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
66		マドパー配合錠	レボドパ・ベンゼラジド	前兆のない突発的睡眠、傾眠、調節障害及び注意力・集中力・反射機能等の低下
67		ミラペックスLA錠	フラミペキソール	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）
68		メイラックス錠	ロフラゼプロ酸エチル	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
69		メマリーOD錠	メマンチン	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい及び傾眠
70		ユーロジン錠	エストゾラム	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
71		ラミクタール錠小児用	ラモトリギン	
72		リーゼ錠	クロチアセパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
73		リーマス錠	炭酸リチウム	めまい、ねむけ等
74		リスペリドンOD錠・内用液	リスペリドン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
75		リスミー錠	リルマサホン	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある
76		リタリン錠	メチルフェネテート	めまい、眠気、視覚障害等
77		リフレックス錠	ミルサピン	眠気、めまい等
78		リボトリール錠	クロチアセパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
79		リリカOD錠	フレガバリン	めまい、傾眠、意識消失等（自動車事故に到った例も報告されている）
80		リルテック錠	リルゾール	めまい又は眠気
81		ルーラン錠	ペロシピロン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
82		ルネスタ錠	エストロピクソン	翌朝以降に、眠気、注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
83		ルボックス錠	フルキサミン	眠気、意識レベルの低下・意識消失等の意識障害
84		レキソタン錠	フロキサセパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下
85	レキップCR錠	ロピニロール		
86	レキップ錠	ロピニロール	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）	
87	レクサプロ錠	エシタロプラム	眠気、めまい等	
88	レミニールOD錠	ガラントミン	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい、眠気	

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用	
89	内服	ロゼレム錠	ラメルテオン	翌朝以後に、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがある	
90		ロドピン錠	ゾレピドン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	
91		ロナセン錠	プロナセリン		
92		ロラゼパム錠	ロラゼパム		
93		臭化カリウム	臭化カリウム		
94	注射	アキネトン注射液	ビペリデン	眠気、調節障害および注意力・集中力・反射機能等の低下	
95		アタラックス-P注射液	ヒドロキシジン	眠気	
96		アナフラニール点滴静注液	クロミプラミン	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	
97		アレビアチン注	フェニトイン		
98		イーケプラ点滴静注	イーケプラ		
99		コントミン筋注	クロルプロマジン		
100		セルシン注射液	ジアセパム		
101		セレネース注	ハロペリドール		
102		ディプリバン注	フロピフォル	本剤の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に從事しないこと	
103		ノーベルバール静注用	フェノバルビタールナトリウム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	
104		ノバミン筋注	フロクロルプロラジン		
105		フェノバール注射液	フェノバルビタール		
106		プレセデックス静注液	デクスメトジン	鎮静の影響が完全に消失するまでは自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に從事しないこと	
107	プロポフォル注	フロピフォル	本剤の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転、危険を伴う機械の操作等に從事しないこと		
108	ホストイン静注	ホスフェニトインナトリウム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下		
109	外用	イクセロンパッチ	リバスタグミン	アルツハイマー型認知症による機械操作能力の低下、めまい及び傾眠	
110		スープレン吸入麻酔液	デスフルラン	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転や危険を伴う機械の操作等に從事しないこと	
111		ニュープロパッチ	ロピコチン	【警告】前兆のない突発的睡眠及び傾眠等（自動車事故に到った例も報告されている）	
112		フォーレン吸入麻酔液	イソフルラン	麻酔の影響が完全に消失するまでは、自動車の運転や危険を伴う機械の操作等に從事しないこと	
113	内服	エペリゾン錠	エペリゾン	脱力感、ふらつき、眠気等	
114		ギャバロン錠	バクロフェン	眠気等	
115		ダントリウムカプセル	ダントロンナトリウム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	
116		チザニジン錠・顆粒	チザニジン	反射運動能力の低下、眠気、めまい及び低血圧等	
117		トランコロン錠	メソゾラート臭化物	視調節障害	
118		ブスコパン錠	ブチルスコポラミン	眼の調節障害等	
119		リンラキサー錠	クロルフェニン	ねむけ、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	
120		硫酸アトロピン散	硫酸アトロピン	視調節障害、散瞳等	
121		注射	アトロピン注0.05%シリンジ	アトロピン硫酸塩	視調節障害、散瞳等
122			ギャバロン髄注	バクロフェン	眠気
123			ハイスコ皮下注	スコポラミン	眼の調節障害、眠気、めまい等
124			ブチルスコポラミン注	ブチルスコポラミン	
125	ボトックス注用		A型ボツリヌス毒素	脱力感、筋力低下、めまい、視力低下	
126	循環器官用薬	アジルバ錠	アジルサルタン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき	
127		アスペノンカプセル	アフリンジン	手指振戦、めまい、ふらつき等	
128		アゼルニジピン錠	アゼルニジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき	
129		アデムパス錠	リオシグアト	めまい等	
130		アドシルカ錠	タラフィル	めまいや視覚障害	
131		アバプロ錠	イルベサルタン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき	
132		アマージ錠	ナトリウム	眠気	
133		アムロジピンOD錠	アムロジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき	

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用	
134	循環器 官 用 薬	内服	アルダクトンA錠・細粒	スピロラクトン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
135			アルドメット錠	メフルトパ	眠気、脱力感等（投与初期、増量時）
136			インデラル錠	プロプラノロール	めまい、ふらつき
137			ウプトラビ錠	セレキシパゲ	意識障害
138			エカード配合錠	カンテサルタン/ヒドロクロチアジド	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
139			エックスフォージOD配合錠	バルサルタン/アムロジピン	
140			エナラプリル錠	エナラプリル	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
141			エブランチルカプセル	ウレシジル	
142			オルメテック錠	オルメサルタン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
143			カタプレス錠	クロニジン	静作用により反射運動等
144			カプトリル錠	カプトプリル	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
145			カルベジロール錠	カルベジロール	めまい・ふらつき
146			カンテサルタンOD錠	カンテサルタン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
147			サムスカ錠・顆粒	トルバプタン	めまい等
148			シベンゾリン錠	シベンゾリン	めまい、ふらつき、低血糖
149			シルニジピン錠	シルニジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
150			ジルチアゼム錠・Rカプセル	ジルチアゼム	
151			セパミット-R細粒	ニフェジピン	
152			セララ錠	エプレノン	
153			セレクトール錠	セリプロロール	めまい、ふらつき
154			タナトリル錠	イミタプリル	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
155			ダイヤモンド錠	アセタラミド	
156			テノーミン錠	アテノロール	めまい、ふらつき
157			トランデート錠	ラベタロール	
158			ドキサゾシン錠	ドキサゾシン	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）
159			ナトリックス錠	インタパミド	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
160			ニトロペン舌下錠	ニトログリセリン	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
161			ニフェジピンCR錠	ニフェジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
162			バソメット錠	テラゾシン	
163			バルサルタン錠	バルサルタン	
164			フルイトラン錠	トリクロルメチアジド	
165	フロセミド錠	フロセミド			
166	ベニジピン錠	ベニジピン	眠気		
167	マクサルTRPD錠	リザトリプタン			
168	ミカムロ配合錠	テルミサルタン/アムロジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき		
169	ミカルディス錠	テルミサルタン	めまい・ふらつき		
170	ミケラン錠・細粒	カルテオロール			
171	ミニプレス錠	アラゾシン	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）		
172	ミリステープ	ニトログリセリン	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある		
173	メインテート錠	ビソプロロール	めまい、ふらつき		
174	メキシチールカプセル	メキシレチン	頭がボーとする、めまい、しびれ等の精神神経系症状		
175	ユニシア配合錠	カンテサルタン/アムロジピン	血圧低下に基づくめまい、ふらつき		
176	ラシックス細粒	フロセミド			
177	リスモダンカプセル・R錠	ジソピラミド	めまい、低血糖等		
178	ルブラック錠	トラセミド	血圧低下に基づくめまい、ふらつき		
179	レザルタス配合錠	オルメサルタン/アゼル			

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬類	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用	
179			ニジピン		
180	循環器 官 用 薬	レバチオ錠	シルデナフィル	めまいや視覚障害、色視症、霧視等	
181		レルパックス錠	エルトリプタン	片頭痛あるいは本剤投与により眠気	
182		ロプレソール錠	メプロロール	めまい、ふらつき	
183		ロングス錠	リソプロリル	血圧低下に基づくめまい、ふらつき	
184		一硝酸イソソルビド錠	一硝酸イソソルビド	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある	
185		注射	インデラル注射液	プロプラノロール	めまい、ふらつき
186			ダイヤモンド注射用	アセチラミド	血圧低下に基づくめまい、ふらつき
187			フロセミド注	フロセミド	
188		外用	ピソノテープ	ピソプロロール	めまい、ふらつき
189			ブランドルテープ	硝酸イソソルビド	血管拡張作用による頭痛等の副作用のために注意力、集中力、反射運動能力等の低下が起こることがある
190	ミオコールスプレー		ニトログリセリン		
191	呼吸器 官 用 薬	コデインリン酸塩散	コデインリン酸塩	眠気、めまい	
192		メジコン錠	デキストロメトルファン	眠気	
193		ゾレア皮下注	オマリスマブ	めまい、疲労、失神、傾眠	
194		フルマゼニル注射液	フルマゼニル	本剤投与により患者が覚醒した後もベンゾジアゼピン系薬剤の作用が再出現する可能性がある	
195	消化器 官 用 薬	サラジェン錠	ヒロカルピン	縮腫（夜間の自動車の運転及び暗所での危険を伴う機械の操作に注意）	
196		サリグレンカプセル	セビメリン		
197		スルピリド錠50mg	スルピリド	眠気、めまい等	
198		ドンペリドン錠	ドンペリドン	眠気、めまい・ふらつき	
199		プリンペランシロップ	メクロプラミド		
200		ペラプリン錠	メクロプラミド	眠気、めまい	
201		ロペラミド錠・細粒	ロペラミド		
202		注射	プリンペラン注射液	メクロプラミド	眠気、めまい
203	外用	ナウゼリン坐剤	ドンペリドン	眠気、めまい・ふらつき	
204	生物学的 製剤	ペガシス皮下注	ヘクインターフェロン アルファ-2a	めまい、錯乱、傾眠、疲労	
205		ペグイントロン皮下注 用	ヘクインターフェロン アルファ-2b		
206	解熱鎮痛 抗炎症薬	ジクロフェナク錠・S Rカプセル	ジクロフェナクナトリウム	眠気、めまい、霧視	
207		セレコックス錠	セレコキシブ	浮動性めまい、回転性めまい、傾眠等	
208		ゾーミッグRM錠	ゾルミトリプタン	片頭痛あるいは本剤投与により眠気	
209		トラムセット配合錠	トラマトール/アセチアミノフェン	眠気、めまい、意識消失 （自動車事故に到った例も報告されている）	
210		ポントールシロップ・ カプセル	メフェナム酸	めまい、眠気	
211		モービック錠	メロキシカム	眼の調節障害、眠気等の精神神経系症状	
212		注射	イミグラン注	スマトリプタン	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
213		外用	イミグラン点鼻液	スマトリプタン	片頭痛あるいは本剤投与により眠気
214	ボルタレンサポ		ジクロフェナクナトリウム	眠気、めまい、霧視	
215	アレルギー 用 薬	アレジオン錠・DS	エビナスタチン	眠気	
216		アレロック顆粒	オロパタジン		
217		エバステル錠	エバスタチン		
218		オロパタジン塩酸塩OD 錠	オロパタジン		
219		ザイザル錠・シロップ	レボセチリジン		
220		ザジテンドライシロップ 0.1%	ケチフェン		
221		タリオンOD錠	ベホタスタチン		
222		ペリアクチン錠	シプロヘパタジン		
223		ルパフィン錠	ルパタジン		
224		レスタミンコーワ錠	ジフェンヒドラミン		
225	注射	クロール・トリメトン 注	クオルフェニラミン	眠気	

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分類	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用		
226	ホルモン剤	クロミッド錠	クロミフェン	霧視等の視覚症状		
227		セレスタミン配合錠	ベタメタゾン・d-クロルフェニラミン	眠気		
228		注射	テリボン皮下注	テリハラチド	一過性の血圧低下に基づくめまいや立ちくらみ、意識消失等	
229	血液・体液用薬	内服	ベラプロストNa錠	ベラプロストナトリウム	意識障害等	
230	その他代謝性医薬品	内服	アクトス錠	ピオグリタゾン	低血糖症状	
231			エクア錠	ビルダグリフィン	低血糖及び低血糖症状	
232			エクジェイド懸濁用錠	デフェラシロクス	めまい、視覚・聴覚障害	
233			エクメット配合錠	ビルダグリフィン/メホルミン	低血糖及び低血糖症状	
234			オングリザ錠	サキサグリフィン	低血糖症状、めまい等	
235			カナグル錠	カナグリフロジン	低血糖症状	
236			グリミクロン錠	グリクラジド	重篤かつ遷延性の低血糖	
237			グリメピリドOD錠	グリメピリド		
238			グルベス配合錠	ミチグリド/ホグリボース	低血糖症状	
239			シュアポスト錠	レバグリニド		
240			ジャディアンス錠	エンダグリフロジン	めまい、視覚・聴力障害	
241			ジャドニュ顆粒	デフェラシロクス		
242			ジャヌビア錠	シタグリフィン	低血糖症状	
243			ジレニアカプセル	フィンコリド	めまい、ふらつき（投与初期）	
244			セイブル錠	ミグリトール	低血糖症状	
245			テネリア錠	テリグリフィン		
246			トルリシティ皮下注	デュラケルチド	低血糖	
247			ノックピン原末	シスルフィラム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	
248			ピレスパ錠	ピルフェニドン	眠気、めまい、ふらつき	
249			ファスティック錠	ナテグリニド	本剤の服用後、低血糖及び低血糖症状	
250			フォシーガ錠	ダハグリフロジン	低血糖症状	
251			ボグリボースOD錠	ホグリボース		
252			メトピロンカプセル	メチラホン	めまい、眠気	
253			メトホルミン塩酸塩錠	メホルミン	低血糖症状	
254			注射	デスフェラル注射用	デフェロキサミン	めまい、視覚・聴覚障害
255				パミドロン酸二Na点滴静注用	パミドロン酸二ナトリウム	眠気、めまい、注意力の低下等
256	フォルテオ皮下注キット	テリハラチド		起立性低血圧、めまい		
257	腫瘍用薬	内服	アロマシン錠	エキセメスタン	嗜眠、傾眠、無力症及びめまい	
258			イクスタンジカプセル	エンサリタミド	痙攣発作	
259			イレッサ錠	ゲフィチニブ	無力症	
260			グリベック錠	イマチニブ	めまい、眠気、霧視等	
261			サレドカプセル	サリトマイト	傾眠、眠気、めまい、徐脈、起立性低血圧	
262			ザーコリカプセル	クリゾチニブ	視覚障害（視力障害、光視症、霧視、硝子体浮遊物、複視、視野欠損、羞明、視力低下等）	
263			スーテントカプセル	スニチニブ	めまい、傾眠、意識消失等	
264			タシグナカプセル	ニロチニブ	めまい、霧視・視力低下等の視力障害等	
265			フェマーラ錠	レトゾール	疲労、めまい、まれに傾眠	
266			ボシュリフ錠	ボスチニブ	浮動性めまい、疲労、視力障害等	
267			ポマリストカプセル	ホマリトミド	傾眠、錯乱、疲労、意識レベルの低下、めまい	
268			レブラミドカプセル	レナリトミド	疲労、めまい、傾眠、霧視	
269			レンビマカプセル	レンバチニブ	疲労、無力症、めまい、筋痙縮等	
270			注射	アラノンジー静注用	ネララピン	傾眠
271	ゲムシタピン注射用	ゲムシタピン				
272	トーリセル点滴静注液	テムシロリス		無水エタノールを含有するため、前投薬で投与される抗ヒスタミン剤とアルコールの相互作用による中枢神経抑制作用の増強の可能性がある		
273			ハイカムチン注射用	ノギテカン	易疲労感	

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用	
274	腫瘍用薬	パクリタキセル注射液	パクリタキセル	無水エタノールを含有するため、前投薬で投与される抗ヒスタミン剤とアルコールの相互作用による中枢神経抑制作用の増強の可能性がある	
275		ベルケイド注射用	ホルテゾミブ	疲労、浮動性めまい、失神、起立性低血圧、霧視	
276	抗生物質製剤	ジスロマック錠・SRドラッグ	アジスロマイシン	意識障害等	
277		内服	ミノサイクリン塩酸塩錠	ミノサイクリン	めまい感
278	注射	ジスロマック点滴静注用	アジスロマイシン	意識障害等	
279		ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用	ミノサイクリン	めまい感	
280	化学療法剤	アベロックス錠	モキシフロキサシ	失神、意識消失、めまい等	
281		ジェニナック錠	ガレノキサシ	意識障害等	
282		ゾビラックス錠	アシクロベル		
283		テラビック錠	テラフレベル		
284		バラシクロビル錠・顆粒	バラシクロベル		
285		バリキサ錠	バルガンシクロベル	痙攣、鎮静、めまい、運動失調、錯乱	
286		ファムビル錠	ファムシクロベル	意識障害等	
287		ポリコナゾール錠	ポリコナゾール	【警告】羞明、霧視、視覚障害等 (投与中止後も持続することがある)	
288		ラミシール錠	テルビナフィン	眠気、めまい・ふらつき等	
289		レボフロキサシ	レボフロキサシ	意識障害等	
290		注射	アシクロビル点滴静注	アシクロベル	意識障害等
291			クラビット点滴静注バッグ500mg	レボフロキサシ	
292			ゾビラックス点滴静注用250	アシクロベル	
293			デノシン点滴静注用	ガンシクロベル	
294	ブイフェンド静注用	ポリコナゾール	【警告】羞明、霧視、視覚障害等 (投与中止後も持続することがある)		
295	物寄生薬動	ビルトリシド錠	フラジカニテル	眠気	
296		メファキン錠	メフロキン	めまい、平衡感覚障害、精神神経障害	
297	内服	トラベルミン配合錠	ジフェンヒドラミン他	眠気	
298	注射	ビスダイ	ベルテポルフイン	視覚異常、視力低下又は視野欠損等の視覚障害	
299		マキューイド眼注用	トリアムシロンアセト	霧視、飛蚊症等	
300	感覚器用薬	マクジェン硝子体内注射用	ベガフタニブナトリウム	注射後の一時的な霧視	
301		アイファガン点眼液	フリモニジン	眠気、めまい、霧視等	
302		アイリーア硝子体内注射液	アフリベルセプト	注射後の一時的な霧視	
303		エイゾプト懸濁性点眼液	プリンゾラミド	点眼後の一時的な目のかすみ	
304		キサラタン点眼液	ラタノロスト	点眼後の一時的な霧視	
305		サイプレジン点眼液	シクロペンタラト	散瞳又は調節麻痺	
306		サンピロ点眼液	ピロカルピン	縮瞳(暗黒感)又は調節痙攣	
307		外用	ザラカム配合点眼液	ラタノロスト・チモールマレイン酸塩	点眼後の一時的な霧視
308			タプロス点眼液	タフルロスト	
309			デュオトラバ配合点眼液	トラホフロスト/チモールマレイン酸塩	
310	トラパタンズ点眼液		トラホフロスト		
311	ネオシネジンコーワ点眼液	フェニレフリン	散瞳		
312	ミケルナ配合点眼液	カルテオロール/ラタノロスト	点眼後の一時的な霧視		

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用		
313	感覚器用薬	ミドリンM点眼液	トピカミド	散瞳又は調節麻痺		
314		ミドリンP点眼液	トピカミド・フェニレリン			
315		外用	ムコスタ点眼液UD	バミピド	点眼後の一時的な目のかすみ	
316			ルセンテイス硝子体内注射液	ラビズマブ	注射後の一時的な霧視	
317			ルミガン点眼液	ビマトプロスト	点眼後の一時的な霧視	
318			日点アトロピン点眼液1%	アトロピン	散瞳又は調節麻痺	
319	泌尿生殖器官用薬	ウリトスOD錠	イミダフェナジ	眼調節障害（羞明、霧視、眼の異常感等）、めまい、眠気		
320		内服	ザルティア錠	タラフィル	めまい、視覚障害	
321			シアリス錠	タラフィル	めまいや視覚障害	
322			タムスロシン塩酸塩OD錠	タムスロシ	めまい等	
323			デトルシトールカプセル	トルテロシ	眼調節障害（霧視等）、めまい、眠気	
324			トビエース錠	フェソテロシ	眼調節障害（霧視等）、めまい、眠気等	
325			バイアグラ錠	シルデナフィル	めまいや視覚障害	
326			バップフォー錠・細粒	フロピペリン	眼調節障害、眠気、めまい	
327			フリバスOD錠	ナフトピジル	起立性低血圧に基づくめまい、立ちくらみ等（投与初期、増量時）	
328			ベシケアOD錠	コハ酸リソフェナジ	眼調節障害（霧視等）、傾眠	
329			ユリーフ錠	シロシ	めまい等	
330			レビトラ錠	バルデナフィル	めまいや視覚障害	
331			外用	ネオキシテープ	オキシチン	眼調節障害（視力障害、霧視等）、めまい、眠気
332			用診薬断	注射	注射	注射
333	アルカロイド系麻薬	MSコンチン錠	モルヒネ硫酸塩	眠気、眩暈		
334		オキシコドン錠	オキシコドン			
335		オキノーム散	オキシコドン			
336		オプソ内服液	モルヒネ塩酸塩	眠気、めまい		
337		コデインリン酸塩散	コデインリン酸塩			
338		ナルサス錠	ヒドロモルフォン			
339		ナルラピド錠	ヒドロモルフォン			
340		モルヒネ塩酸塩錠・原末	モルヒネ塩酸塩			
341		モルペス細粒	モルヒネ硫酸塩			
342		注射	注射	注射		
343	注射	注射	注射			
344	外用	外用	外用			
345	非アルカロイド系麻薬	内服	内服	内服		
346		内服	内服	内服		
347		内服	内服	内服		
348		注射	注射	注射	注射	
349			注射	注射	注射	
350			注射	注射	注射	
351			注射	注射	注射	
352		外用	外用	外用		
353	非麻薬性鎮痛剤	内服	内服	内服		
354		内服	内服	内服		
355		注射	注射	注射		
356		外用	外用	外用		
357	のそ	内服	内服	内服		

9. 運転等に注意が必要な医薬品リスト

分薬 類効	剤形	医薬品名	一般名称	運転等に影響を及ぼす副作用
357 他				(自動車事故に到った例も報告されている)

(2015年2月作成 薬剤部)

(2018年3月改訂)

ピジクリア錠使用における確認表

1. ムーベンと異なって、残渣(薬包)が若干残りやすいので、大腸内視鏡検査前処置としてはムーベンを第一選択としてください。本剤はどうしてもムーベンがのめない患者様に投与してください。
2. ムーベンと異なって、前日のラキソベロン投与は通常不要です。
3. ムーベンと異なって、同日に胃および大腸内視鏡検査を行なうことはできません。

ピジクリア錠のご使用の際には以下の表をご活用下さい。

項目	疾患及び疾病等	担当医記入欄		添付文書対応			
				警告	禁忌	慎重投与	重要な基本的注意
心臓	心疾患を疑わせる所見	有	無				
	うっ血性心不全または不安定狭心症	有	無				
	急性心筋梗塞、心臓手術(冠動脈バイパス手術等)の既往	有	無				
	基礎心疾患(弁膜症、心筋症の既往も含む、不整脈等)がある、QT延長又は不整脈のコントロールができなかったことのある、またはできない患者	有	無				
	QT延長症候群、重篤な心室性不整脈	有	無				
腎臓	腎疾患を疑わせる所見	有	無				
	生検により急性リン酸腎症	有	無				
	腎機能障害	有	無				
	急性リン酸腎症の高リスク(循環血液量減少、腎疾患、高齢、腎血流量・腎機能に影響を及ぼす薬剤(利尿剤、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシン受容体阻害薬、NSAIDsなど)の使用)又は既往	有	無				
電解質	電解質異常(脱水、または利尿剤使用に伴う二次性電解質異常など)を疑わせる所見	有	無				
	電解質濃度	異常	正常				
痙攣	痙攣発作の既往	有	無				
	痙攣発作のリスクが高い患者(三環系抗うつ薬など発作の閾値を低下させる薬剤を使用している患者、アルコールやベンゾジアゼピンの退薬症状(禁断症状)がある患者)	有	無				
胃腸	腹水を伴う疾患を合併	有	無				
	胃腸管閉塞症または胃腸管閉塞症の疑い	有	無				
	腸管穿孔又は腸管穿孔の疑い	有	無				
	中毒性巨大結腸症	有	無				
	慢性炎症性腸疾患の急性増悪	有	無				
	高度な便秘	有	無				
	腹部手術歴	有	無				
アレルギー	過去の検査により腸管狭窄や腸管憩室を認められ、臨床症状を呈している	有	無				
	今まで本剤を服用して、アレルギー症状等がみられた	有	無				
服薬	本剤以外で、薬物過敏症の既往歴	有	無				
	インスリン、糖尿病のお薬の服用	有	無				
	電解質濃度に影響を及ぼし得る薬剤の服薬 ・低カリウム血症を誘発する薬剤(インスリン、刺激薬、副腎皮質ホルモン、ループ利尿剤、チアジド系利尿剤等) ・低ナトリウム血症を誘発する薬剤(血糖降下剤、向精神薬、抗けいれん薬、ループ利尿剤、チアジド系利尿剤等) ・高リン血症を誘発する薬剤(緩下剤(リン酸ナトリウム含有製剤)、輸液(リン含有製剤)、ビスホスホネート系製剤、成長ホルモン、甲状腺ホルモン等)	有	無				
QT延長をきたすおそれのある薬剤の服薬 抗不整脈薬、三環系抗うつ薬、向精神薬等	有	無					
年齢	高齢者(65歳以上)	該当	非該当				

■ J C H O九州病院における
処方せんの書き方（発行）と注意点

目 次

ページ

A. 処方せんの書き方（発行）について

1. 処方せんの種類	3
2. 入力（記載）必須事項	3
3. 標準的書き方	3
4. 書き方の留意点（複数の医薬品が処方されることが多い）	4
5. 特殊例の書き方	5
6. 1日分量表示の約束	7

B. 注射処方せんの書き方（発行）について

1. システム運用と紙運用の範囲について	8
2. 注射処方区分について	9
3. 処方入力について	9
4. 注射薬の中止・返品のみかた	10
5. 疑義問い合わせについて	11
【資料1】院内共通の救急カート・注射薬配置図	12
【資料2】特定生物由来製品を使用する際の説明および同意書の取得について	13

C. 麻薬の取り扱い

1. 麻薬取扱者（施用者・管理者）	14
2. 麻薬の施用	14
3. 麻薬処方せん	14
4. 麻薬入院患者持参連絡票	14
5. 注射用麻薬施用の手順（注射オーダリングの場合）	14
6. 麻薬注射処方せん（手書き・4枚複写）の様式と保管	15
7. 注射用麻薬施用の手順（手書き・4枚複写）	15
8. 麻薬注射施用票記入についての注意事項	16
9. 診療録（カルテ）への麻薬施用記録	17
10. 麻薬の事故処理	17
11. 麻薬中毒者の届出	17
【資料3】採用している麻薬一覧表	18

D. 処方オーダリングシステム利用上の注意点

1. 処方オーダリングの全般的注意ならびに適応範囲	19
2. 使用する伝票	21
3. 処方せんの追加・変更・中止・削除	22
4. Q & A	23
5. オーダリング時の誤入力防止対策について	24
6. 入院処方入力時の注意点	24

E. 注射オーダリングシステム利用上の注意点

1. システム運用と紙運用の範囲について 2 5
2. 注射処方区分および締め切り時間について 2 6
3. 出力される帳票類について 2 7
4. 注射処方せんの修正・削除・発行・実施 2 8
5. 注射運用フロー 2 9
6. 修正・削除について 3 6
7. 医事伝達について 3 6
8. 抗がん剤の処方について 3 7
9. よくある問い合わせ 3 7

A. 処方せんの書き方（発行）について

1. 処方せんの種類

処方せんにはつぎの種類がある

投薬用（処方オーダーリング）	注射薬用（注射オーダーリング※）
外来処方せん 入院処方せん（通常、臨時、必要時、退院） 麻薬処方せん	外来注射処方せん 注射処方せん（通常、臨時、必要時） 麻薬注射処方せん ※一部手書き部署あり
< 処方せん以外の伝票・指示せん（手書き） > 医療材料等払い出し伝票：外来、入院 院内製剤等指示せん：外来、入院 検査・処置用薬請求伝票：外来	

2. 入力（記載）必須事項

だれのために……………患者氏名、年齢

なにをどれだけ……………医薬品名・剤形・規格、用量

どのように……………用法、投与日数（回数）

いつだれが……………処方せん発行年月日、医師の署名または記名・押印。
 訂正の場合には訂正印が必要（処方オーダーリングでは、手書きでの追加・訂正は認めていない）

麻薬ではさらに……………麻薬施用者免許番号、外来投薬では患者住所

3. 標準的書き方

医薬品名などを正確に入力（記載）する。

- 1) 内用薬……………医薬品名・剤形・規格と1日服用量（分量）、服用（分服）回数と服用法、投与日数を入力（記載）する。

例1 R p. レバミピド／ムコスタ錠 100mg 3T
 1日3回：朝昼夕食後
 7日分

例2 R p. エチゾラム／デパス錠 1mg 1T
 1日1回：ねる前
 7日分

0.5mg錠もあるため規格も正確に入力（記載）する。

例3 R p. カロナール錠 200mg 2T
 頓用 疼痛時 3回分

2) 外用薬………交付全量を入力（記載）する。使用法として、適用部位、回数などを指示する。

例 4	R p. ルリコン液 1% 10 mL 1日1回患部に塗布	瓶単位のもの は瓶単位の用 量で指示す る。 そうでないと 小分けが必要 になる。
-----	---	---

例 5	R p. ケトプロフェンパップ30mg(7枚/包) 2包 腰に 1日1枚
-----	--

保険請求の為、外来処方と退院処方貼付部位・1日量（又は何日分に相当するか）を必ず入力（記載）する。

下記の例のように1包あたりの枚数が異なるため、詳細は各医薬品の項目にて確認して下さい。

- ・ 1包6枚入り：アドフィードパップ40mg等
- ・ 1包7枚入り：ケトプロフェンテープ40mg・パップ30mg等

4. 書き方の留意点（複数の医薬品が処方されることが多い）

- ・ 用法・用量とも同じ場合は、処方を1つにまとめる。
- ・ 服用回数の異なるものは処方に分ける。

例 6	R p. 1) テグレートル錠 200mg 3T 1日3回：朝昼夕食後 2) アレビアチン錠 100mg 3T 1日3回：朝昼夕食後 3) セルシン錠 2mg 3T 1日3回：朝昼夕食後 4) プリミドン細粒<成分量として> 250mg 1日1回：ねる前 各7日分	[不適]
-----	---	------



例 7	R p. 1) テグレートル錠 200mg 3T アレビアチン錠 100mg 3T セルシン錠 2mg 3T 1日3回：朝昼夕食後 7日分 2) プリミドン細粒<成分量として> 250mg 1日1回：ねる前 7日分	[適正] mgは必ず記載（入力）する。
-----	---	----------------------------

5. 特殊例の書き方

- 1) 1日のうちで、用量の異なる（不均等用法）場合、
例えば、プレドニゾン錠5mg 6錠 分2 朝4 T 昼2 Tの場合は、
①「内服不均等画面」を選択
②「1日2回朝昼食後：朝___、昼___」を選択し、「朝4、昼2」と入力（記載）する
また、錠数の割り切れない場合にも、同様に入力（記載）する。

例8 R p. プレドニゾン錠5mg 6T
(処方用法) 1日2回：朝昼食後：朝4， 昼2
7日分

2) 隔日投与の場合

- ・「内服隔日投与画面」から任意の用法を選択し、実際に服用する日数（実日数）を入力（記載）する。

例9 R p. プレドニゾン錠5mg 2T
1日1回：朝 隔日
4日分（実日数）

- ・隔日の服用個数が異なる場合：その旨を具体的に明示する

例10 R p. ①デカドロン錠0.5mg 2T
1日1回：朝食後 隔日（奇数日）
4日分
②デカドロン錠0.5mg 0.5T
1日1回：朝食後 隔日（偶数日）
3日分

3) 曜日指定を行う場合

- ・用法選択画面右下の「曜日指定」を選択し、任意の曜日を指定する

例11 R p. ボナロン錠35mg 1T
1日1回 起床時 [木] 1日分

4) 処方せん全体の開始日と異なる開始日をRp毎に指定を行う場合

①用法入力後に用法欄を右クリックし、開始日変更を選択

②処方せん全体の開始日以降の任意の開始日を選択

例12

処方せん開始日：2017年2月7日朝から

Rp. 1) プレドニゾン錠5mg 2T
1日1回 朝食後
3日分

Rp. 2) プレドニゾン錠5mg 1T
1日1回 朝食後
3日分

開始日：2017年2月10日朝から

5) 調剤時に錠剤・カプセル剤を粉末化する場合：『粉碎』と指示する

例13

Rp. モサプリド／ガスモチン錠5mg 3T(粉碎)
1日3回：朝昼夕食後
7日分

6) 調剤時に一包化する場合：処方せんコメントで『一包化にして下さい』と指示する

例14

一包化にして下さい

Rp. 1) バイアスピリン錠100mg 1T
1日1回：朝食後

5日分

2) ベニジピン塩酸塩／コニール錠4mg 2T
1日2回：朝夕食後

5日分

6. 1日分量表示の約束

- 1) 散薬の1日分量は、原則として分量で入力（記載）する。特に、テグレトール細粒などの50%散の場合、製剤量で入力（記載）せず、〈分量〉として）と括弧書きし、分量で入力（記載）する。

例13 R p. テグレトール細粒(500mg / g) 〈分量〉 400mg
1日3回：朝昼夕食後 14日分

【注】散薬の1日分量は、“分量”で入力（記載）する。しかしながら、保険医療においては、“製剤量”での入力（記載）が求められていることもあり、処方せんには分量と製剤量を併せて表示している。

- 2) 手書きの場合、表示単位の省略はg、mLのみとする。その他の単位は必ず記載する。

例14 R p. カロナールシロップ (20mg / mL) 20mL
頓用 疼痛時・発熱時 5回分

- ・製剤としては1mL中に20mgを含有する。したがって、単位の入力（記載）がないときには、20mLすなわち400mgとなる。

以上
(2018年3月改訂)

B. 注射処方せん の 書き方（発行）について

1. システム運用と紙運用の範囲について

1) 注射薬オーダーリングは、注射処方せんにて運用されているものを原則として対象にする。したがって、処置で使用される造影剤、手術室で使用される薬剤などはその対象としない。

- ・対象外の部門 : 手術室
- ・システムと紙運用が混在の部署 : ICU、救急外来
- ・その他 : 原則システム運用

※ 麻薬の注射についても上記と同様に運用

2) 院内特殊製剤・試薬等および自己血糖測定関連器具・ペン型注入器等は従来通り、それぞれ、『院内製剤指示せん』又は『医療材料等払い出し伝票』に手書きで記載する。

インスリン、吸入については下記の通り運用

[インスリン]

	物 品	コスト
スライディングスケール	製剤伝票	専用伝票
ヒューマリンR (複数患者分割使用)	製剤伝票	注射オーダー
個人使用ペン型インスリン	処方オーダー	注射オーダー

- ・定期打ちインスリンは注射オーダーを使用する（払い出しなし）。
- ・インスリン量の変更があった場合は、医師に新しい処方を出し直してもらい、変更前の処方は看護師が実績中止する。
- ・当院未採用の持参定期打ちインスリンは、紙運用とする。

[吸入]

	物 品	コスト
吸入液	製剤伝票	汎用オーダー
生食	製剤伝票	汎用オーダー

注射オーダーでは、注射用生食と処置用の生食が医事課で区別できないため、運用の統一、コストの重複回避のため上記運用とした。

2. 注射処方区分について

[処方区分]

処方区分		内容説明
外来		・ 外来患者に対し、登録方法「予定入力」を選択した際に「外来」と登録される。
入院 処方	通常	・ 入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間前であった場合に「通常」として登録される。
	臨時	・ 入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間後であった場合に「臨時」として登録される。
	事後	・ 入院・外来ともに、登録方法「事後入力」を選択した際に「事後」と登録される。（処方せんは発行されない、医事システム連動なし）
	必要時	・ 入院患者に対し、医師が前もって指示・登録しておいた「必要時」処方について、看護師が発行した場合「必要時」と登録される。

[締め切り時間]

実施予定日	4北・5北・6北病棟	その他の病棟
火～金曜日実施予定分	前日の13時	前日の10時
土・日曜日実施予定分	前々日の13時	前々日の10時
月曜日実施予定分	直前の平日の13時	直前の平日の10時

無菌調製：16時までに処方入力されたもの

（但し、ICU・NICU・4北-GCUは、平日の実施日朝8時30分）

化学療法：原則、薬剤部にて調製するため、締め切り時間なし。

3. 処方入力について

注射薬の処方オーダーリングは、1施用毎にラベルが出力されるため、入力に際しては以下の注意が必要である。

- ・ 使用量は1回の使用量を入力する。

(誤)

薬剤名	使用量	単位
ソルデム3A 500mL/袋	3	袋
点滴静注(div) (予定入力)	04/20~04/22(1) (1) (1)	

(正)

薬剤名	使用量	単位
ソルデム3A 500mL/袋	1	袋
点滴静注(div) (予定入力)	04/20~04/22(3) (3) (3)	

- ・ 施用毎にRpを分けて入力する。

(誤)

薬剤名	使用量	単位
ソルデム3A 500mL/袋	1	袋
ヴィーンD 500mL/本	1	本
点滴静注(div) (予定入力)	04/20~04/22 (2) (2) (2)	

(正)

薬剤名	使用量	単位
ソルデム3A 500mL/袋	1	袋
点滴静注(div) (予定入力)	04/20~04/22 (2) (2) (2)	

薬剤名	使用量	単位
ヴィーンD 500mL/本	1	本
点滴静注(div) (予定入力)	04/20~04/22 (2) (2) (2)	

- ・ 処方せん番号は処方登録時に発行され、同じ処方せん番号のRp. が1枚の処方せんに印字される。処方を分けたい場合は、登録のタイミングをずらして入力する。

4. 注射薬の中止・返品のみしかた

1) 外来

事前入力した発行前の処方…医師が修正・削除

- ①発行後の処方は、修正・削除出来ない。医師または看護師は、薬剤部にオーダー削除 (=中止) の連絡をし、当該処方せんを破棄する。薬剤師は、実施カレンダーにて実績中止をする。
- ②修正処方とは新規にオーダーする。
- ③薬剤受領後の中止・変更は、その内容を注射処方せん「②(カルテ)」に記載し、コピーを医事課に送る。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。
- ④薬剤師は、「②(カルテ)」の変更内容を当該注射処方せん「①(薬剤部)」に、赤字にて転記 (返品薬剤を囲み、返品の旨記載) する。

2) 入院

オーダーの進捗状況によって対応が異なる。

①未実施の場合

→ 医師は修正・削除・実績中止できる

②実施待、実施済 (未会計) の場合

→ 医師は修正・削除できないので、中止がある場合、看護師へ伝達する。

病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーに、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨と確認者名を記載。ラベル剥離・マジック消去は病棟で行い、返品薬剤とともに薬剤部に提出する。

看護師が実績入力にて実績中止を行う。

③実施済 (会計済) の場合

→ 中止がある場合、看護師は医事課へ中止の内容を連絡、薬剤部へ実績中止の依頼を行う。「②(カルテ)」にて返品処理を行う。

5. 疑義問い合わせについて

処方せんの投与量、投与経路その他、内容に疑問がある場合、薬剤師は主治医に問い合わせを行う。訂正が必要となった場合には、修正を行い、薬剤と新たな処方指示票を払い出す。なお、修正内容は指示票の変更部分に朱書きで○をつけ、病棟に伝達する。

1) 抗がん剤及び毒薬(一部を除く)*の問い合わせ

研修医・レジデントが処方した抗がん剤及び毒薬(一部を除く)の疑義問い合わせは、①主治医②指導医③担当診療部長の順に疑義の理由を説明し確認を行うこと。

確認前、あるいは後も疑義が完全に解けない場合、薬剤の払い出しをしてはならない。

* 抗がん剤、毒薬その他の類似医薬品の処方は研修医・レジデントのサインだけでは無効で、必ず指導医又は担当診療科部長のサインを必要とする

(院長通知/2003. 3. 12)。

2) 疑義問い合わせ後の処理、変更について

問い合わせの結果、訂正が必要となった場合には、薬剤師は一旦処方中止とし、オーダー削除を行い、医師に新たにオーダー入力してもらう。

それが困難な場合は、薬剤師がオーダーの修正操作を行い、修正された処方指示票の変更部分に朱書きで○をつけ、新たに発行された「②カルテ」と薬剤とともに病棟へ搬送する。ただし、処方指示票は、変更されたRp.にのみ発行されるため、処方の一部を削除した場合は、処方指示票は発行されない。

修正済み処方せんは、修正内容を記載した修正前処方せんとホッチキスでとめ保管する。

3) 注射処方修正について医師の確認を不要とするもの

- ① 薬剤の規格を変更し、薬価の安い組み合わせにする。
- ② 薬剤の溶解に注射用水等が必要であるが、処方されていない場合に溶解液(注射用水等)を追加する。
- ③ アンプルの抗生剤に生食キットHが処方されている場合、生食100mL 1本に変更する。

【資料 1】

院内共通の【救急カート・注射薬配置図】

1) 新型救急カート (6段)

1 段目	ドミニン	3	硝酸イソソルビド	3	メイロン(20mL)	5
	プロタノールL	3	硫酸マグネシウム補正液	1	アドレナリンシリンジ	5
	ノルアドリナリン	3	アデホス-L10(冷)	2		
	リドカインシリンジ	3	ニカルジピン硫酸塩	1		
	ヘルベッサ-50	1	アトロピンシリンジ	4		

2 段目	ネオフィリン	3	セルシン	2	カルチコール	3
	ソル・コーテフ500	2	ミダゾラム	2	生理食塩液(20mL)	10

輸液：ソルラクト(500mL)、生理食塩液(500mL)、メイロン(250mL) 各1袋

2) 旧型救急カート (5段)

アトロピン シリンジ <4本>	ドミニン <3A>	リドカイン シリンジ <3本>	ニカルジピン 硫酸塩 <1A>	ノルアドリナリン <3A>	プロタノール <3A>	アドレナリン シリンジ <5本> ヘルベッサ-50 <1V>	
硫酸マグネシウム補正液 <1A>		ソル・コーテフ500 <2V>		アデホス-L10 <2A>(冷所)		硝酸イソソルビド <3A>	
ネオフィリン <3A>	セルシン <2A>		ミダゾラム <2A>		メイロン(20) <5A>	カルチコール <3A>	生理食塩液(20) <10A>

輸液：ソルラクト(500mL)、生理食塩液(500mL)、メイロン(250mL) 各1袋

【資料2】

患者さんへの説明および同意書の取得をお願いします

生物由来製品（ワクチン、抗毒素、ヘパリンなど）・特定生物由来製品（血液製剤、血漿分画製剤など）に関する改正薬事法が平成15年5月15日に公布され、平成15年7月30日より施行されました。

このうち特定生物由来製品の使用にあたっては、「製品の便益と感染リスクを患者へ説明」することが必要となります（改正薬事法68条の7）。

また、このことについて、「同意書を取得する」ことが病院の方針です。

特定生物由来製品

一般名	商品名
人血漿由来 乾燥血液凝固第XIII因子	フィブロガミンP 静注用
フィブリノゲン加第XIII因子	ベリプラストP コンビセット
フィブリノゲン配合剤	タコシール
乾燥濃縮人アンチロビンIII	献血ノンスロン
乾燥濃縮人プロロビン複合体	ケイセントラ 静注用
人免疫グロブリン	ガンマグロブリン
乾燥滅活化人免疫グロブリン	献血ベニロン-I
乾燥ホリエチレングリコール処理 人免疫グロブリン	献血グロベニン-I
乾燥抗HBs人免疫グロブリン	乾燥HBグロブリン
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗Dグロブリン
乾燥ホリエチレングリコール処理 抗破傷風人免疫グロブリン	テタノブリン-IH
pH4処理酸性人免疫グロブリン	献血ポリグロビンN
人免疫グロブリンG	献血ヴェノグロブリンIH
乾燥ホリエチレングリコール処理 抗HBs人免疫グロブリン	ヘブスブリン-IH
皮下注用免疫グロブリン	ハイゼントラ
人ハプトグロビン	ハプトグロビン 静注
インターフェロン-β-1b(遺伝子組換え)	ベタフェロン皮下注
人血清アルブミン含有製剤	アブラキサン点滴静注用
人C1-インアクチベーター	ベリナートP 静注用
活性化プロテインC	注射用アナクトC
ヒトロビン含有ゼラチン使用吸収性 局所止血剤	フロシール (OP室管理医療機器)

【2017年12月現在】

本件の問い合わせ先：薬剤部 注射薬調剤室（内線：2721）

C. 麻薬の取り扱い

1. 麻薬取扱者（施用者・管理者）

1) 麻薬施用者

麻薬を施用または施用のため交付（麻薬処方せん）する医師は、本院における麻薬施用者免許証を有しなければならない。

なお、本院の医師は全員麻薬施用者免許を申請し免許を受ける。

2) 麻薬管理者

施用のため交付される麻薬を業務上管理する者で、薬剤部長を麻薬管理者とする。

3) 麻薬取扱者（施用者・管理者）の免許の申請および更新

免許は本院事務局職員課を経て福岡県知事に申請する。県内で2カ所以上の診療施設において麻薬を施用する医師は一方を従たる業務所として申請する。

免許の有効期間は免許された日から翌々年の12月31日までであり、3年毎に免許を更新する。

2. 麻薬の施用

1) 調剤用麻薬（オキシコドン徐放錠、フェントステープなど）は、処方オーダーリングによる。オーダーリング端末近傍のプリンターに麻薬処方せん（外来患者は『処方せん』）が出力されるので、署名（フルネーム）または押印をして薬剤部へ届ける（患者に渡す）。

2) 注射用麻薬（塩酸モルヒネ注、フェンタニル注など）は、注射オーダーリングによる。オーダーリング端末近傍のプリンターに麻薬注射せん・麻薬注射施用票と麻薬注射せん（控え）・注射せん（麻薬あり）控えが出力されるので、押印または署名（フルネーム）をして薬剤部へ届ける。

手術室、ICU、救急外来は麻薬注射処方せん（手書き）による。

3. 麻薬処方せん

麻薬処方せんは、通常の処方せんに比して①麻薬施用者免許番号、②記名押印または署名（フルネーム）の記載が必要とされる。

4. 麻薬入院患者持参連絡票

入院患者が麻薬を持参したときには、「麻薬入院患者持参連絡票」（ピンクの用紙）に記入のうえ、薬剤部へ連絡する。薬剤部では、麻薬を持参した患者の氏名と受け入れた品名及び数量を薬剤部の麻薬帳簿に記載する。

以下は、注射用麻薬の取扱いについて記載する。

5. 注射用麻薬施用の手順（注射オーダーリングの場合）

1) 麻薬施用者は麻薬注射せん・麻薬注射施用票に記名押印または署名（フルネーム）する。

☆ 処方は1処方せんに1品目とする。

☆ 1回請求本数は1日分以内として処方する。

2) 麻薬注射処方せんを薬剤部に提出し、受領者はサインまたは押印する。

処方せん（控え）は、薬剤部麻薬係で保管する。

3) 患者に施用し、診療録に記録する。

麻薬注射施用票には施用月日、施用量、残量を記載する。

4) 施用票等の返納処理を行う。

麻薬注射施用票、返納薬袋、空アンプル、残液または未使用アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。返納者は返品残量返納者欄にサインまたは押印する。

注射オーダーリングによる麻薬注射施用票

薬剤名	施用本数	返品本数
[麻]塩酸モルヒネ注 10mg (1.0mL)	1 A (V)	0 A (V)

施用記録

施用薬剤名	施用月日	施用量	残量
[麻]塩酸モルヒネ注 10mg (1.0mL)	4 / 1	0.5mL	0.5mL

6. 麻薬注射処方せん（手書き・4枚複写）の様式と保管

1枚目	薬剤部	麻薬注射処方箋	薬剤部保管
2枚目	薬剤部	麻薬注射施用票	〃
3枚目	医事課	麻薬注射納付通知書	医事課保管
4枚目	病棟	麻薬注射施用票	病棟保管

7. 注射用麻薬施用の手順（手書き・4枚複写）

1) 麻薬施用者は麻薬注射処方せん（4枚複写）に所定事項を記入する。

☆ 処方せんは1処方せんに1品目とする。

☆ 1回請求本数は1日分以内として処方する。

2) 麻薬注射処方せんを薬剤部に提出し、受領者はサインまたは捺印する。

処方せん1枚目（薬剤部）は、薬剤部麻薬係で保管する。

3) 患者に施用し、診療録に記録する。

麻薬注射施用票（薬剤部）（注射薬とともに戻った3枚複写分）には施用月日、施用時刻、施用量、残量を記載する。

4) 施用票等の返納処理を行う。

麻薬注射施用票（必要事項を記載した3枚複写分）、返納薬袋、空アンプル、残液または未使用アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。返納者は返品残量返納者欄にサインまたは押印する。

8. 麻薬注射施用票記入についての注意事項

1) 施用欄・残量欄は1回ごとに施用量 (mL)、残量 (mL) を記入する。

麻薬品名	施用月日	時刻	施用量mL	残量mL
塩酸モルヒネ注 10mg (1.0mL)	9/1	9:00	0.5	0.5
	/			
	/			
	/			
受領本数	施用本数		返品本数	
1 Amp	1 Amp		0 Amp	

2) 1アンプルを分割して施用する場合は、アンプルごとの施用を明確にするため施用数量 (mL) を括弧でくくる。

麻薬品名	施用月日	時刻	施用量mL	残量mL
フェンタニル注 (2.0mL)	9/1	9:00	1.0	0
	9/1	9:30	1.0	
	/			
	/			
受領本数	施用本数		返品本数	
1 Amp	1 Amp		0 Amp	

3) 施用本数欄には施用したアンプルの合計数を、返品本数欄には未開封アンプルの合計数を記入する。

麻薬品名	施用月日	時刻	施用量mL	残量mL
塩酸モルヒネ注 10mg (1.0mL)	9/1	9:00	0.5	0.5
	9/1	9:30	1.5	0
	/			
	/			
受領本数	施用本数		返品本数	
3 Amp	2 Amp		1 Amp	

4) 特殊な事例について

★ 麻薬注射液の施用を中止した場合

返品本数を記入した麻薬注射施用票 (3枚複写) と一緒に、麻薬アンプルを薬剤部麻薬係に提出する。

★ 麻薬アンプルをカットしたが施用しなかった場合

施用数量、残量、施用本数、返品本数およびアンプルをカットしたが施用しなかった理由を記載し、アンプルとともに薬剤部に提出する（内容液が流出しないように注意し、注射筒にはいった液はそのまま提出する）。

9. 診療録（カルテ）への麻薬施用記録

麻薬施用者は、施用後直ちに電子カルテにて施用年月日、赤字で表示されている麻薬品名、数量（mg、g、ml）を確認しPDAを用いて実績入力を行う。また、処方せんなどの記入事項を訂正した場合は必ず訂正印を押印する。

10. 麻薬の事故処理

麻薬を誤って破損、内容液が流出した場合、「麻薬事故届（院内用）」に必要事項を記載し、破損した容器（アンプル、注射筒など）を添付して薬剤部麻薬係へ提出する。

麻薬についての滅失、破損、盗難などの事故が生じた時は、現場を保存し、すみやかに麻薬管理者に報告し、その指示を受ける。

11. 麻薬中毒者の届出

麻薬を長期にわたり施用している患者について、麻薬中毒と認められたとき、「医療用麻薬中毒者診断届」を提出する。

また、これに関わる患者が死亡、転院などした時は、すみやかに「転届」を提出する。

「麻薬事故届（院内用）」などの用紙は、薬剤部麻薬係に請求する。

【資料3】採用している麻薬一覧表

	内用・外用薬（規格）		注射薬（規格）
1	アブルトラル舌下錠 (100 μg)	33	アルチバ注 (2mg/v)
2	アブストラル舌下錠 (200 μg)	34	モルヒネ注 (10mg/1mL)
3	アンペック坐薬 (10mg)	35	モルヒネ注 (50mg/5mL)
4	アンペック坐薬 (20mg)	36	モルヒネ注 (200mg/5mL)
5	MSコンチン錠 (10mg)	37	フェンタニル注 (0.1mg/2mL)
6	塩酸モルヒネ末	38	ペチジン注 (35mg/1mL)
7	塩酸モルヒネ散 (10%) 《院内》	39	ペチロルフアン注 (50mg/1mL)
8	塩酸モルヒネ錠 (10mg)	40	ケタラール注 (200mg/20mL)
9	オキシコンチン錠 (5mg)	41	ケタラール注 (500mg/10mL)
10	オキシコンチン錠 (10mg)	42	オキファスト注 (10mg/1mL)
11	オキシコンチン錠 (20mg)	43	オキファスト注 (50mg/5mL)
12	オキシコンチン錠 (40mg)		
13	オキノーム散 (0.5% 0.5g) (2.5mg/包)		
14	オキノーム散 (0.5% 1.0g) (5mg/包)		
15	オキノーム散 (1% 1.0g) (10mg/包)		
16	オブソ内服液 (5mg/2.5mL)		
17	タペンタ錠25mg		
18	タペンタ錠50mg		
19	デュロテップMTパッチ2.1mg		
20	デュロテップMTパッチ4.2mg		
21	デュロテップMTパッチ8.4mg [用時購入]		
22	デュロテップMTパッチ16.8mg [用時購入]		
23	パシーフカプセル (30mg)		
24	パシーフカプセル (60mg)		
25	パシーフカプセル (120mg)		
26	フェントステープ (1mg)		
27	フェントステープ (2mg)		
28	フェントステープ (4mg)		
29	フェントステープ (8mg)		
30	メサペイン錠 (5mg)		
31	メサペイン錠 (10mg)		
32	モルペス細粒 (2%0.5g) (10mg/包)		

D. 処方オーダーリングシステム利用上の注意点

処方オーダーリングシステムに関して、端末操作方法を除く利用上の注意点を以下にまとめています。

1. 処方オーダーリングの全般的注意ならびに適応範囲

- 内用薬・外用薬（麻薬、治験薬を含む）は全て処方オーダーリングの対象です。
- 入院期間中の個人使用ペン型注入器（使い捨てタイプ）の物品は処方オーダーリングで受け、コストは注射オーダーリングでおとしてください。退院時処方は、針も含め処方オーダーリングです。（針は、『医療材料等払い出し伝票』でも可）
- 院内特殊製剤・試薬等および自己血糖測定関連器具・ペン型注入器（カートリッジタイプ）等は従来通り、それぞれ、『院内製剤等指示せん』又は『医療材料等払い出し伝票』に手書きで記載してください。
- 外来診療において処方せんは医師の手元のプリンターに打ち出されます。処方内容を確認したのち押印して患者さんに渡してください。
- 入院患者の処方せんは薬剤部に直接プリントアウトされます。ただし薬剤師が処方せんをプリントアウトしてチェックする時間は緊急度によって違います。例外として、麻薬処方せんは医師の手元のプリンターに出力されますので、署名（フルネーム）または押印して薬剤部に搬送してください。
- 健康保険と自賠、自費など保険種別に処方せんを打ち分けることが必要です。
- 外来患者に至急使用したい薬剤を処方する場合は、「検査・処置用薬請求伝票」に手書きで記載し、薬剤部まで提出して下さい（同一日に処方オーダーリングで、院外処方と院内処方をオーダーすることはできません）。ただし、麻薬が必要な場合は院内処方を入力して下さい。

分類	外来患者	入院患者	備考
内用・外用薬 (麻薬を含む)	○	○	【退院確認】が入力されれば院外処方せんも発行可能
治験薬(内用・外用)	○	○	
在宅注射薬 (注射針を含む)	○	×	退院時は処方オーダーリングシステムで処方 【退院確認】が入力されれば院外処方せんも発行可能
注射薬	×	×	注射オーダーリングシステムで処方 (入院患者の個人使用ペン型注入器(使い捨てタイプ)の物品は処方オーダーリングで)
院内製剤	×	×	外来・入院とも『院内製剤等指示せん』に手書き
検査・処置の医薬品	×	×	外来・入院とも処置伝票を用いて常備の医薬品を使用
医療材料等 (自己血糖測定関連器具 ・ペン型注入器等)	×	×	外来・入院とも『医療材料等払い出し伝票』に手書き あるいはSPDで請求して使用

(○：処方オーダー、×：オーダー外)

注

- 1) 全ての処方せんは、A4サイズの用紙に縦書きで印字されます。
- 2) 入院処方せん控え(青用紙)は処方せんと同時に薬剤部で発行されます。調剤済み薬剤と一緒に病棟に届きます。

2. 使用する伝票

処方区分		内容説明
外来処方	院外調剤	・原則、外来患者全員（職員及びその家族も含む）
	院内調剤	・治験薬投与期間中、適用保険が未確定、時間外、及び院長が特に指定した患者
入院処方	通常処方	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急を要さない場合の処方（他科受診も含む） ・原則として7日分処方（他科受診についてはこの限りでない。但し、16:45まで） ・開始日当日に入力された処方は医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行されるが、それ以外は薬剤師の指示で発行する
	臨時処方	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急を要する場合及び時間外（夜間、土日・祝日）の処方 ・3日分までの処方。医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行される
	必要時	・緊急を要する場合に、予め医師が指示・登録しておいた必要時処方について看護師が発行する
	麻薬を含む処方	・麻薬を含む処方せんは医師の署名もしくは押印を必要とするため、入力側のプリンターで処方せんを発行し薬剤部へ搬送する
	退院処方	<ul style="list-style-type: none"> ・退院時の処方 ・医師の処方入力と同時に薬剤部プリンターより発行される ・【退院確認】を入力すれば院外処方せんでの発行も可能 ・【退院予定】をして入力することが望ましい ・投与開始日は退院予定日までとする
	事後処方	・手書き処方せんの薬歴入力（医事へ反映されない）

（2018年3月改訂）

3. 処方せんの修正・中止・削除

<外来>

区分	担当者	院内				院外			
		未実施		実施済		未実施		実施済	
		未会計	会計済	未会計	会計済	未会計	会計済	未会計	会計済
*1 修正	医師	○	×	×	×	○	○	○	○
	薬剤師	△	○	○	○	△	○	○	○
*4 削除	医師	○	×	×	×	○	○	×	×
	薬剤師	△	○	○	○	△	○	○	○

<入院>

区分	担当者	未実施		実施待・実施済	
		未会計	会計済	未会計	会計済
*1 修正	医師	○	×	×	×
	薬剤師	△	○	○	○
*2 削除	医師	○	×	×	×
	薬剤師	△	○	○	○
補足		1) 会計済となった処方せんへの修正は、医師は行えないため、薬剤部へ連絡し、薬剤師が修正を行う 2) 未会計・会計済に関わらず発行された処方せんの変更を薬剤師に依頼する場合は、処方医が直接薬剤部へ電話連絡する 3) 保険調剤薬局からの疑義照会があったときは、薬剤師が電話で処方医に確認をし、処方医の指示により薬剤師が修正を行う		1) 既に薬剤部プリンターに出力された処方せんへの修正につき直接医師が行う場合は、薬剤部へ連絡し処方画面が変更可能な状態「未実施」へ移ったことを確認のち行う 2) 発行・出力された処方せんの追加や訂正を薬剤師に依頼する場合は、処方医が直接薬剤部へ電話連絡する 3) 退院時処方のみ実施済処方せんでも修正・削除が可能	

*1 修正：処方薬又は用法・用量の変更や、Rpの追加や削除

*2 削除：処方全体の取り消し

(2018年3月 改訂)

4. Q & A

Q 1 : 手書きの処方せん（内用・外用）を使うことは出来ますか？

A 1 : 信頼性の確保と改ざんの防止のため、システムダウン時（Q 8）を除き手書き処方せんは使用出来ません。

Q 2 : プリントアウトした処方せんを手書きで修正してもいいですか？

A 2 : Q 1と同様の理由から原則として認められません。例外として、処方医による「処方せんの使用期間」の修正、および医事課職員による「保険者番号」の修正については認められます。この場合、訂正のうえ訂正印を押して下さい。（Q 9も参照のこと）

Q 3 : 再来患者の処方せんを患者が受診する前にあらかじめ出力しておくことは出来ますか？（例えば薬のみの再来など）

A 3 : 処方せんの発行は受診した患者に対してのみ行なうことが出来ます。外来受診時に主治医が診察、処方せん発行をすることができない場合（たとえば午前受診の予定が午後に来院した場合など）は、同じ診療科の別の医師が処方せんを発行する必要があります。なお薬のみでも基本診療料が算定されますので基本カードが必要となります。

Q 4 : 採用薬以外の内服薬・外用薬を使用したいのですが？

A 4 : 原則として出来ません。非採用薬品の処方については限定採用の手続きが必要となりますので、医薬品情報管理室の担当薬剤師（内線2725）までご相談下さい。

Q 5 : 院外処方と院内処方を同時に発行出来ますか？

A 5 : 原則として認められていません。詳しくは医事課までお問い合わせ下さい。

Q 6 : 在宅指導算定患者への消毒薬などはどのように処方すればいいのですか？

A 6 : これまで通り「医療材料等払い出し伝票」の空欄に手書きで記載してください。

Q 7 : 自己注射の針のみを出すことは出来ますか？

A 7 : 基本的には処方オーダーリングでは出来ませんが、医療材料払い出し伝票での払い出しが可能です。

Q 8 : システムがダウンしたときはどうすればいいのですか？

A 8 : 手書き処方せんに対応します。

Q 9 : 外来処方せんを発行したあとでまちがいに気づいたとき誰が訂正をするのですか？

A 9 : 患者さんが外来にいる場合、外来以外の院内にいる場合、会計が終了し院外の処方せん薬局にいる場合で異なります。簡単な変更は薬剤師が処方せん発行医師に電話で確認をとり変更をしますが、薬剤の変更など大きな訂正については当該医師があらためて処方し直す必要があります。詳細は「3. 処方せんの追加・変更・中止・削除」を見てください。

Q 10 : 入院処方せん発行後の変更・訂正はどのようにすればいいのですか？

A 10 : 原則的には医師が画面からおこないます。処方せんが既に発行されている場合（例えば「臨時処方」の場合）には画面からの訂正が出来ないので、薬剤部に電話で連絡してください。

5. オーダリング時の誤入力防止対策について

近年、オーダリング時に別の医薬品を選択したり（例：ノルバスクと入力するところノルバデックスを選択）、用量入力を間違っただめに起こった医療事故が報道されています。

今回のシステムでは、できる限りこれらの間違いを起こさないようにマスタを作成しています。

- 1) 毒薬、麻薬入力時の確認メッセージ
- 2) 抗癌剤[腫]、毒薬[毒]、糖尿病用薬[糖]などを医薬品名の頭に表示
例：[腫・毒]アルケラン錠 2mg、 [糖]オイグルコン錠 2.5mg
- 3) 麻薬は赤文字表示
- 4) 頭3文字以上の入力
- 5) 併用禁忌薬チェック
- 6) 妊婦、授乳婦への投与禁忌チェック
- 7) 投与量の誤入力チェック(最大投与量設定)
原則成人の通常投与量の最大値の2倍を越える量で警告（入力可能）、5倍を越える量では入力不可となります。
それ以上の処方が必要な場合には、薬剤部まで連絡下さい。
注射薬、外用薬および小児用量には対応していないのでご注意ください。
例：クラビット錠500mg（通常1錠）では3錠で警告、6錠で入力不可
- 8) アレルギーを起こす恐れがある医薬品のチェック
ピリン、キシロカイン、ヨード、抗生剤（ペニシリン、セフェム、ニューキノロン、ペネム系）、NSAIDs（アスピリン、その他）等についてアレルギー歴にチェックをつけた患者に対し、対象成分が含まれる医薬品を処方した場合には警告が表示されます。
- 9) 透析患者への投与禁忌チェック
- 10) 最大投与日数の規定がある医薬品のチェック

6. 入院処方入力時の注意点

1) 入院中他科受診時の処方入力方法

入院患者に対して『通常』処方で入力した場合、診療科名に関係なく処方日数は7日までとなります。

もし、他科受診で7日以上 of 処方が必要な場合は、長期投与コメントから『入院中他科受診』を選択することで、7日以上 of 入力が可能となります。但し、16:45以降の入力は、『臨時』処方になり、3日分までの入力となります。

以上

E. 注射オーダーリングシステム利用上の注意点

注射オーダーリングシステムに関して、端末操作方法を除く利用上の注意点を以下にまとめています。

1. システム運用と紙運用の範囲について

- 注射オーダーリングは、注射処方せんにて運用されているものを原則として対象にします。したがって、処置で使用される造影剤、手術室で使用される薬剤などはその対象としません。
- 院内特殊製剤・試薬等および自己血糖測定関連器具等は従来通り、それぞれ、『院内製剤等指示せん』又は『医療材料等払い出し伝票』に手書きで記載してください。
- 麻薬処方せんは医師の手元のプリンターに出力されますので、署名（フルネーム）または捺印して薬剤部に搬送してください。

現在、注射処方せんにて運用しているものを注射オーダーリングの範囲とする。

対象外の部門	:	手術室
システムと紙運用が混在の部署	:	ICU、救急外来
その他	:	原則システム運用

麻薬の注射についても上記と同様に運用

- インスリン、吸入については下記の通り運用

[インスリン]	物 品	コスト
スライディングスケール	製剤伝票	専用伝票
ヒューマリンR (複数患者分割使用)	製剤伝票	注射オーダー
個人使用ペン型インスリン	処方オーダー	注射オーダー

- ・定期打ちインスリンは注射オーダーを使用する（払い出しなし）。
- ・インスリン量の変更があった場合は、医師に新しい処方を出し直してもらい、変更前の処方 は看護師が実績中止する。
- ・当院未採用の持参定期打ちインスリンは、紙運用とする。

[吸入]

	物 品	コスト
吸入液	製剤伝票	汎用オーダー
生食	製剤伝票	汎用オーダー

注射オーダーでは、注射用生食と処置用の生食が医事課で区別できないため、運用の統一、コストの重複回避のため上記運用とした。

2. 注射処方区分および締め切り時間について

[処方区分]

処方区分	内容説明
外来	・ 外来患者に対し、登録方法「予定入力」を選択した際に「外来」と登録される。
入院 処方	通常 ・ 入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間前であった場合に「通常」として登録される。
	臨時 ・ 入院患者に対し、登録方法「予定入力」を選択し、かつ締め切り時間後であった場合に「臨時」として登録される。
	事後 ・ 入院・外来ともに、登録方法「事後入力」を選択した際に「事後」と登録される。
	必要時 ・ 入院患者に対し、医師が前もって指示・登録しておいた「必要時」処方について、看護師が発行した場合「必要時」と登録される。

[締め切り時間]

実施予定日	4北・5北・6北病棟	その他の病棟
火～金曜日実施予定分	前日の13時	前日の10時
土・日曜日実施予定分	前々日の13時	前々日の10時
月曜日実施予定分	直前の平日の13時	直前の平日の10時

無菌調製：16時までに処方入力されたもの

(但し、ICU・NICU・4北-GCUは、平日の実施日朝8時30分)

化学療法：原則、薬剤部にて調製するため、締め切り時間なし。

3. 出力される帳票類について

処方区分によって各部署から出力される帳票は以下の通りである。

		近傍プリンター (NEC)	薬剤部 (部門システム)
外来		注射処方せん : 1枚 注射処方せん(カルテ) : 1枚 注射指示票 : 1枚	—————
入	(通常)	注射指示票 : 1枚	注射処方せん : 1枚 注射処方せん(カルテ) : 1枚
	(臨時)	注射指示票 : 1枚 注射引き換え票 : 1枚	注射処方せん : 1枚 注射処方せん(カルテ) : 1枚
院	無菌調製	注射指示票 : 1枚	注射処方せん : 1枚 注射処方せん(カルテ) : 1枚 注射処方せん(調製) : 1枚
	化学療法	注射指示票 : 1枚 chemoシート : 2枚	注射処方せん : 1枚 注射処方せん(カルテ) : 1枚 注射処方せん(調製) : 1枚
麻薬		注射指示票 : 1枚 麻薬注射せん : 1枚 麻薬注射せん控え : 1枚	注射処方せん : 1枚 注射処方せん(カルテ) : 1枚

4. 注射処方せんの修正・削除・実績・発行

【医師】 Δ→ 実施カレンダーから操作

		修正			削除			実績入力			実績中止			再発行
		未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	
入院	通常	○	×	×	○	×	×	△	-	-	△	△	×	×
	事後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	×	-
	臨時	-	×	×	-	×	×	△	-	-	△	△	×	×
	必要時	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	×	×
外来	外来	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	×	○
	事後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-

【看護師】 Δ→ 実施カレンダーから操作

		修正			削除			実績入力			実績中止		
		未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済
入院	通常	×	×	×	×	×	×	△	-	-	△	△	×
	事後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	×
	臨時	-	×	×	-	×	×	△	-	-	△	△	×
	必要時	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	×
外来	外来	×	-	-	×	-	-	-	-	-	-	×	×
	事後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×

【薬剤師・管理者】 Δ→ 実施カレンダーから操作

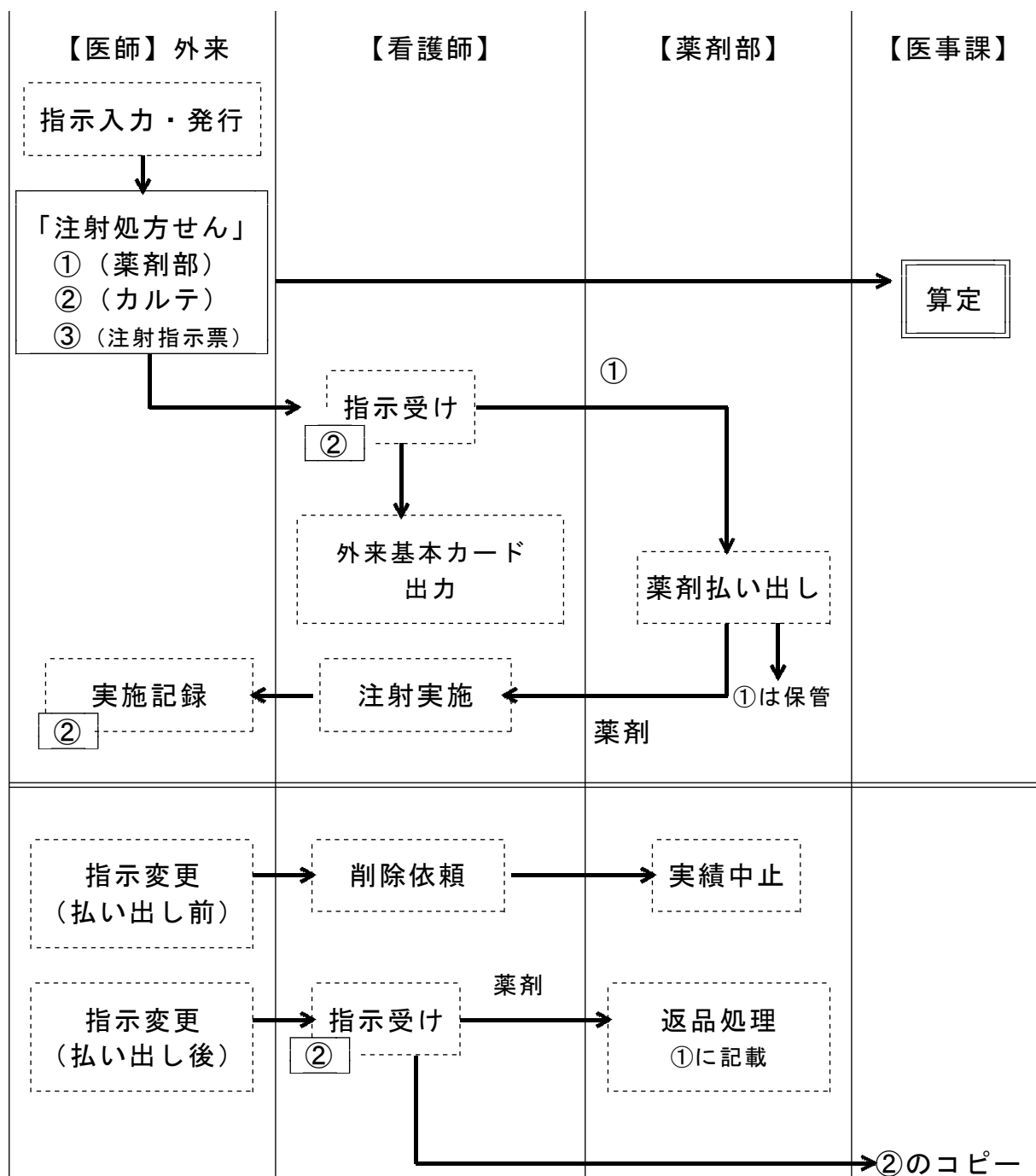
		修正			削除			実績入力			実績中止			再発行
		未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	未実施 ・未会計	実施待 ・未会計	実施済 ・会計済	
入院	通常	○	○	△	○	○	△	△	-	-	△	△	△	○
	事後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	-
	臨時	-	○	△	-	○	△	△	-	-	△	△	△	○
	必要時	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	△	○
外来	外来	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	△	○
	事後	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-

5. 注射運用フロー

(1) 外来注射処方せんの流れ

【払い出し】

- 1) 医師がオーダー指示入力を行い、看護師は「②(カルテ)」にて指示受けを行う。
- 2) 外来看護師(又はクラーク)は、外来注射処方せん「①(薬剤部)」をもって、薬剤部へ出向く。
- 3) 外来看護師(又はクラーク)は、「①(薬剤部)」を薬剤部に提出し、注射薬を受け取り外来へ運ぶ。
- 4) 外来看護師は、注射薬と「②(カルテ)」の内容を再度確認し、注射を施行する。



【中止・返品】

- 5) 外来看護師は、指示変更内容を「②(カルテ)」に記載し、そのコピーを医事課へまわす。
- 6) 返品薬剤とともに薬剤部へ提出する。
- 7) 薬剤師は、「②(カルテ)」の変更内容を当該注射処方せん「①(薬剤部)」に、赤字にて転記（返品薬剤を囲み、返品の旨記載）、受取印を押す。

※外来患者を対象とした癌化学療法については、「抗癌剤調製マニュアル」を参照。

(2) 入院注射処方せんの流れ

【払い出し】

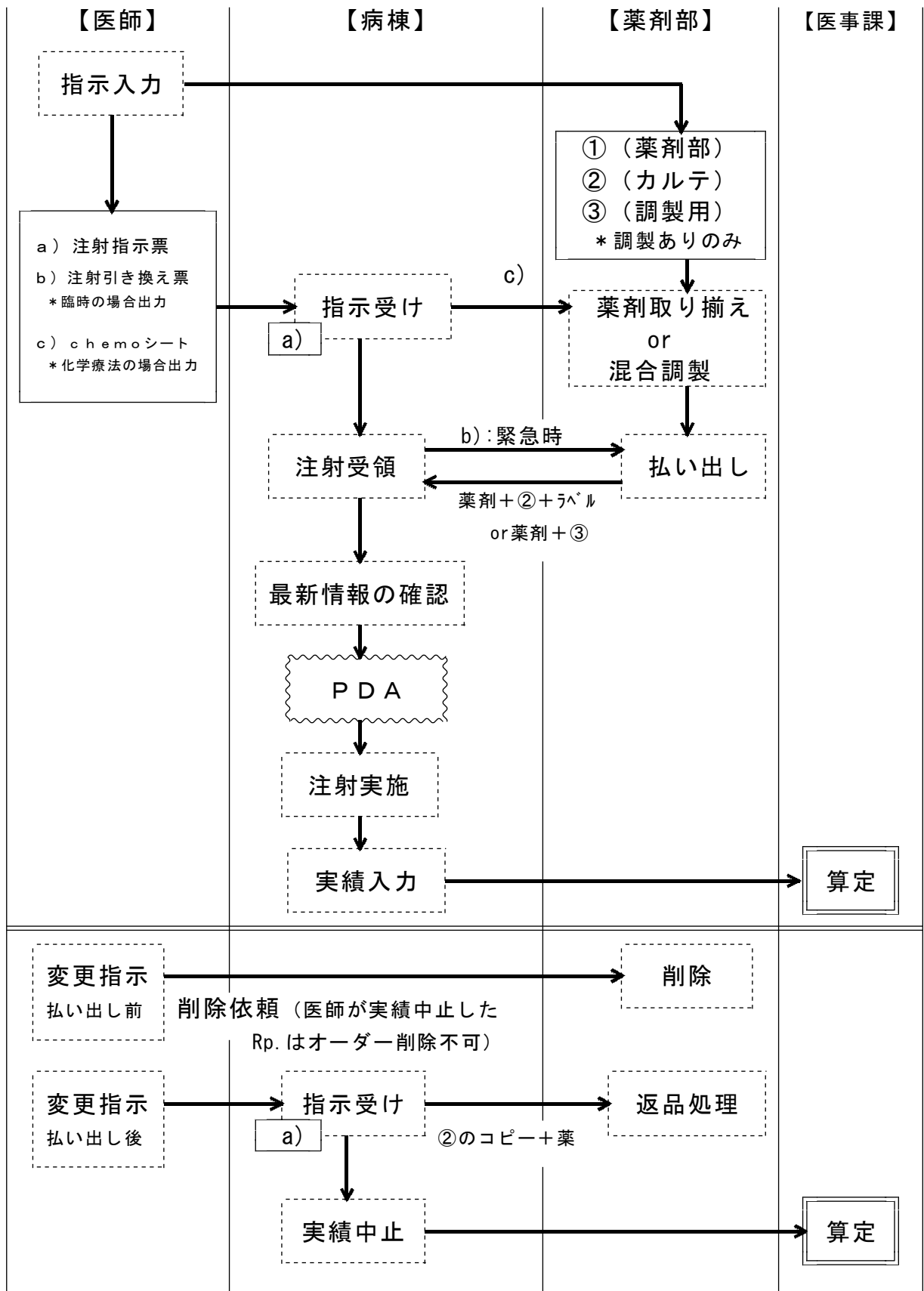
- 1) 医師がオーダー指示入力を行い、看護師は「a)注射指示票」にて指示受けを行う。
- 2) 薬剤師は、「①(処方せん)」「②(カルテ)」に調剤印を押し、「①(処方せん)」に従って注射薬を取り揃え、鑑査終了後、「②(カルテ)」と注射薬・注射ラベルを病棟に払い出す。
原則として、下記の締め切り時間までの処方を『通常』、それ以降は『臨時』として取り扱う。

※月～水曜日：翌日分まで調剤する。
木曜日：土曜日の分まで（『通常』：金・土曜日の2日分）調剤。
金曜日：月曜日の分まで（『通常』：日・月曜日の2日分）調剤。

なお、急ぎの場合や夜勤時は、薬剤部へ電話連絡の上、「b)注射薬引き換え票」を持って注射薬を受領に来る。

【中止・返品】

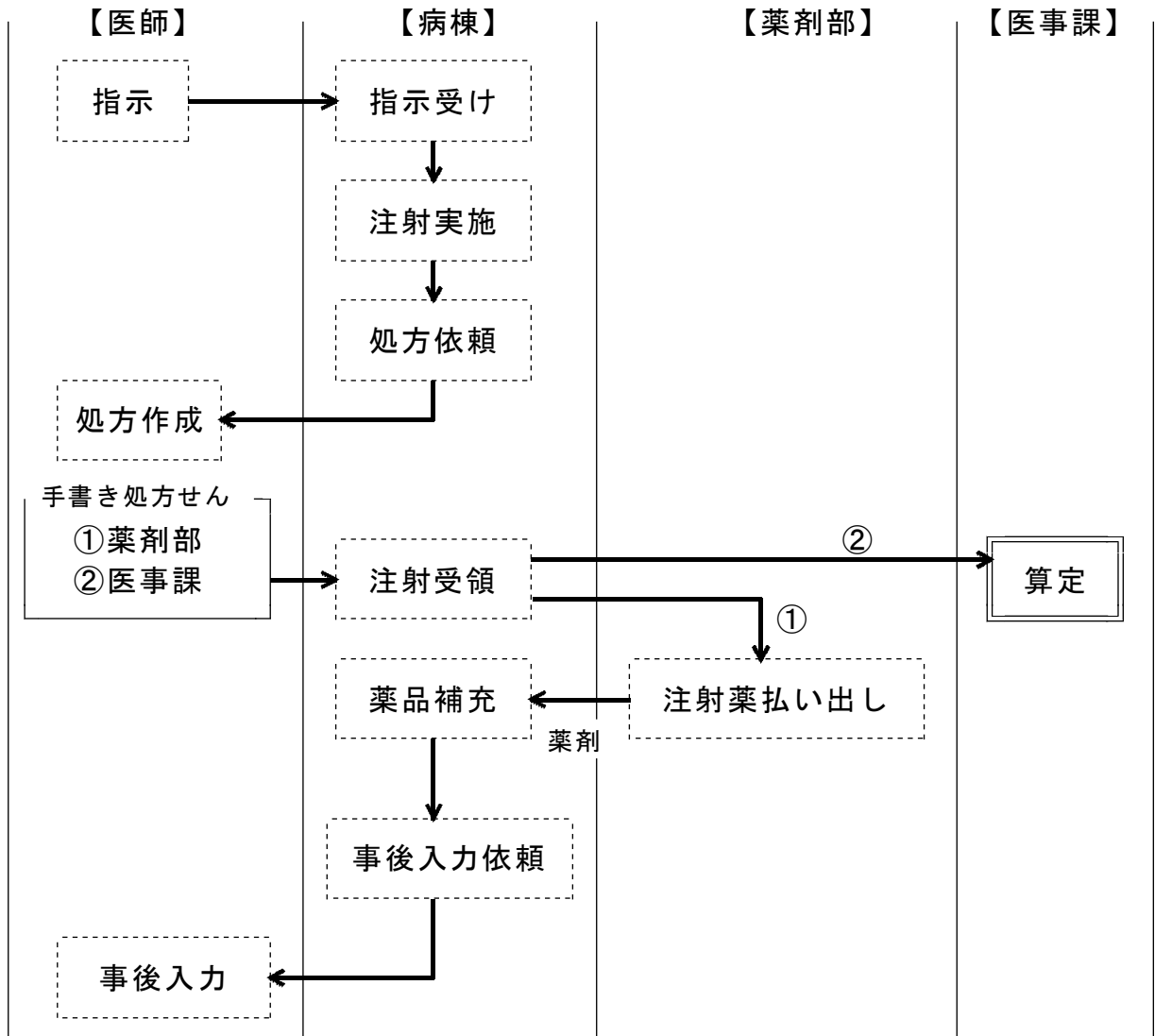
- 3) 病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーに赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨と確認者名を記載し、返品薬剤と共に薬剤部へ提出する。
- 4) 薬剤師は、「②(カルテ)」のコピーと返品薬剤に不備（ラベル貼付や開封シールの剥離など）がないか確認し、返品を受ける。



(3) 緊急時・事後処方せんの流れ（手書きの注射処方せんを使用する）

【払い出し】

- 1) 医師は、緊急時等のみ、手書き処方せんに指示を書き、看護師または看護助手は手書き処方せんを持って薬剤部へ注射薬を受領に来る。
- 2) 薬剤師は処方せんに従って薬剤を払い出す。
- 3) 医師は、手書きされた処方せんの内容を、オーダーにて事後入力を行う。



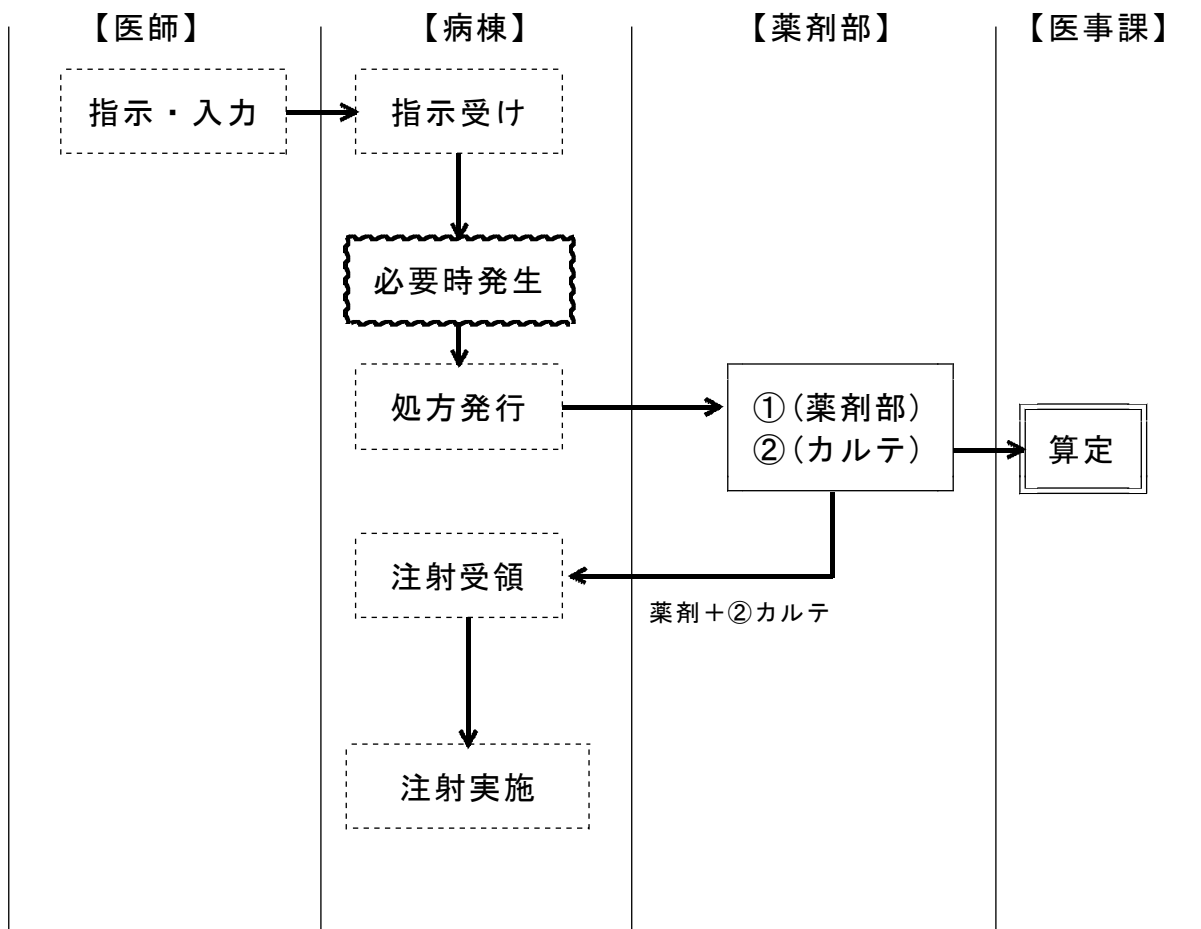
4) 必要時処方せんの流れ

【払い出し】

- 1) 医師は、あらかじめ必要になると予想される処方がある場合、前もって『必要時』オーダを入力し、指示しておく。
- 2) 看護師は、必要になった時、指示及び指示を出した医師の確認を行い、『必要時』処方を発行する（過去日選択不可）。
- 3) 薬剤師は、処方せんに従って薬剤を払い出す。

【中止・返品】

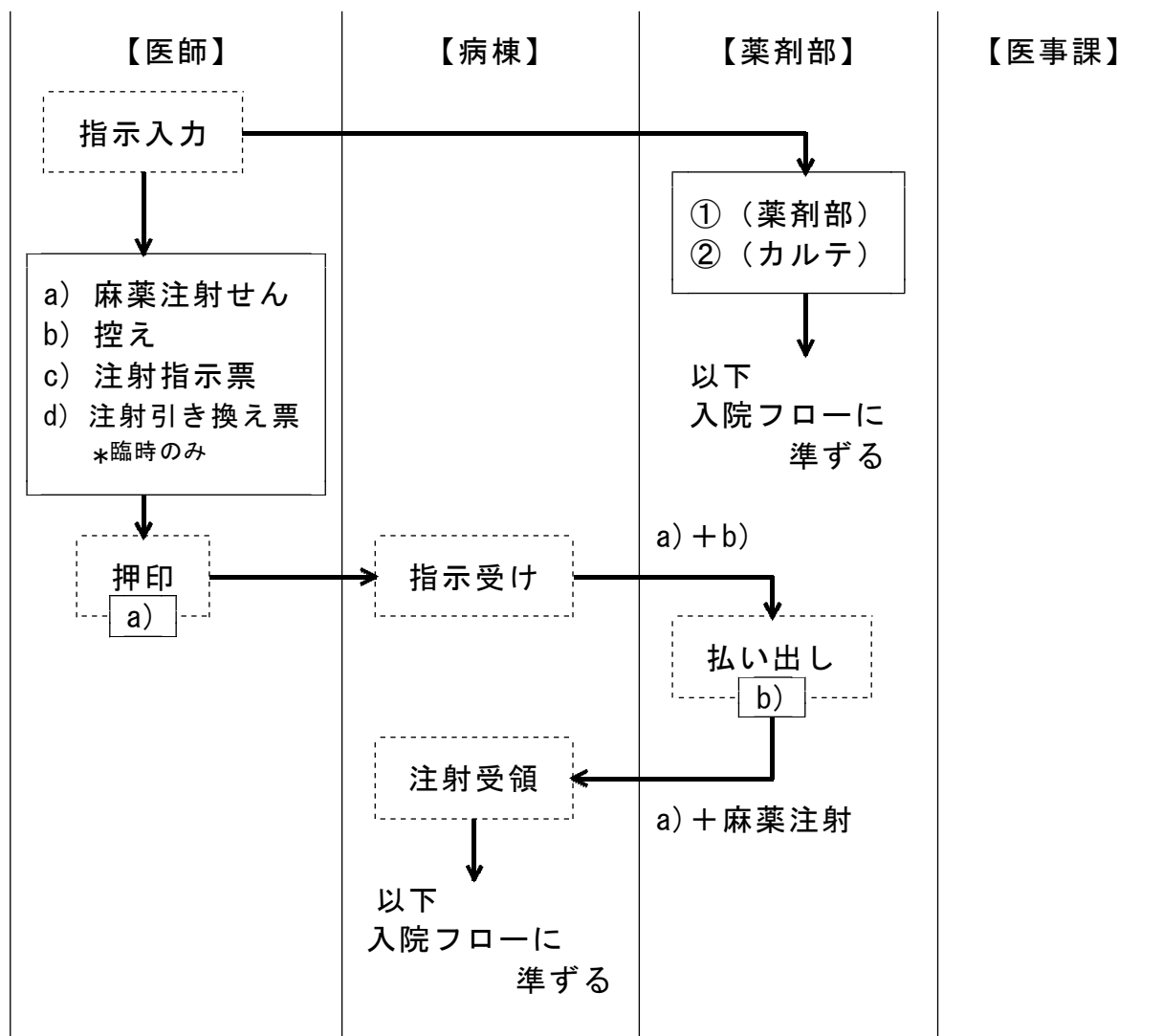
- 4) 病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーに、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨と確認者名を記載する。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。
看護師が実績カレンダーにて実績中止を行う。



5) 麻薬処方せんの流れ

麻薬処方せんは医師の近傍プリンターに出力されるので、署名（フルネーム）または捺印して薬剤部に搬送する。

麻薬施用者番号が登録されていない医師は、処方入力が出来ない。同じ科で登録されている医師に処方入力を依頼する。



6. 修正・削除について

1) 外来

事前入力した発行前の処方…医師が修正・削除

- ①発行後の処方は、修正・削除出来ない。医師または看護師は、薬剤部にオーダー削除（＝中止）の連絡をし、当該処方せんを破棄する。薬剤師は、実施カレンダーにて実績中止をする。
- ②修正処方は新規にオーダーする。
- ③薬剤受領後の中止・変更は、その内容を注射処方せん「②(カルテ)」に記載し、コピーを医事課に送る。返品薬剤とともに薬剤部に提出する。
- ④薬剤師は、「②(カルテ)」の変更内容を当該注射処方せん「①(薬剤部)」に、赤字にて転記（返品薬剤を囲み、返品の旨記載）する。

2) 入院

オーダーの進捗状況によって対応が異なる。

①未実施の場合

→ 医師が修正・削除・実績中止

②実施待、実施済（未会計）の場合

→ 医師は修正・削除できないので、中止がある場合、看護師へ伝達する。

病棟看護師は、「②(カルテ)」のコピーに、赤字にて返品薬剤を囲み、返品の旨と確認者名を記載。ラベル剥離・マジック消去は病棟で行い、返品薬剤とともに薬剤部に提出する。

看護師が実績入力にて実績中止を行う。

③実施済（会計済）の場合

→ 中止がある場合、看護師は医事課へ中止の内容を連絡、薬剤部へ実績中止の依頼を行う。「②(カルテ)」にて返品処理を行う。

④必要時

→処方修正・削除が出来ない。中止の場合は実績中止とし、修正がある場合は一旦実績中止として、正しい内容で登録し直してもらう。

7. 医事伝達について

コスト送信時の医事進捗は「未会計」、医事課処理が終了したら「会計済」となる。

1) 外来

注射せん発行時に医事にコストが送信される。

外来化学療法加算、無菌製剤処理料、規格違いについては、薬剤部にて該当処方せんに押印・記載することで、医事に伝達する。

2) 入院

実績入力を行った時点で医事にコストが送信される。

3) 必要時

処方せん発行と同時に医事にコストが送信される。

4) 事後

外来、入院ともにオーダーでの医事コストは送信されない。手書きの伝票にてコスト伝達する。

8. 抗がん剤の処方について

入院抗がん剤をオーダーした場合、近傍プリンターにchemoシートが2部出力される。このchemoシートに処方医とは別の確認医がフルネームでサインし、1部を薬剤部に提出する。

* 確認医：抗がん剤、毒薬その他の類似医薬品の処方は研修医・レジデントのサインだけでは無効で、必ず指導医又は担当診療科部長のサインを必要とする(院長通知/2003.3.12)。

外来抗がん剤は、処方せんに主治医の確認印もしくはサインをし、薬剤部にFAX送信する。処方医がレジデントの場合は、指導医も確認印を押す。

9. よくある問い合わせ

Q 1：採用薬以外の注射薬を使用したいのですが？

A 1：原則として出来ません。非採用薬品の処方については限定採用の手続きが必要となりますので、医薬品情報管理室の担当薬剤師（内線2725）までご相談下さい。

Q 2：在宅指導算定患者への消毒薬などはどのように処方すればいいのですか？

A 2：これまで通り「医療材料等払い出し伝票」に記載してください。

Q 3：自己注射の針のみを出すことは出来ますか？

A 3：処方せんとしての交付は原則として出来ません。（厚労省保険局より通知：平20保医発0305001）「医療材料等払い出し伝票」にて院内で交付することは可能です。

Q 4：システムがダウンしたときはどうすればいいのですか？

A 4：手書き処方せんで対応します。（各部署へ配置済み。請求は用度へ）

静注・点滴静注薬リスト：投与法による分類

A：医師が実施すべき薬剤

- ① 当院指定のハイリスク医薬品
(麻酔・鎮静薬、筋弛緩薬、静注用抗不整脈薬、静注用抗がん剤など)
- ② 呼吸抑制作用が強い薬剤
- ③ 配合薬による結晶化など特異な薬剤
- ④ 毒薬指定
- ⑤ 治験薬
- ⑥ 造影剤・診断用薬剤（医師の立ち会いで実施する検査用薬剤）

B：一定の制限のもと看護師が実施してもよい薬剤

初回投与は、医師が実施して一定時間効果及び副作用を観察する必要があるが、継続する場合は、医師の指示に従い、看護師が実施してもよい薬剤である。

- ① 当院指定のハイリスク医薬品
(点滴静注用カテコラミン製剤、点滴静注用血管拡張薬、インスリン注射薬など)
- ② 点滴静注・皮下注射用抗がん剤
- ③ 抗生剤（抗菌薬、抗ウイルス用薬含む）
- ④ 血液製剤
- ⑤ 生物学的製剤
- ⑥ 副腎皮質ホルモン
- ⑦ 精神神経用剤

C：看護師が実施してもよい薬剤

- ① 輸液
- ② その他

註：この投与法分類は、各部署（外来；一般病棟、ICU、緩和病棟；画像センター、検査室等）で注射用医薬品の標準的投与実施法を確立するために、診療・看護チームが協議する際の基礎となるものである。

JCHO九州病院医療安全管理室
(2008年10月作成)
(2013年3月作成)

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
全身麻酔剤	0.5gイソゾール	A	○	○		○		○
	2%プロポフォール注「マルイシ」(限定)	A			○			○
	1%ディプリバン注	A			○			○
	1%ディプリバン注ーキット	A			○			○
	ドロレプタン注射液25mg	A	○	○				
催眠鎮静剤・抗不安剤	セルシン注射液5mg	B	○	○		○		
	ドルミカム注射液10mg	B	○		○			○
	プレセデックス静注液200μg「マルイシ」	A	○					
抗てんかん剤	アレビアチン注250mg	A	○			○		
	ノーベルバル静注用250mg	B	○					
	ホストイン静注750mg	A	○	○				
解熱鎮痛消炎剤	ノイトロピン注射液3.6単位	C		○				
	ペンタジン注射液15	B	○	○	○			
	ロピオン静注50mg	C		○				
抗パーキンソン剤	アキネトン注射液5mg	B						
	ドバトン注射液(限定)	C		○				
精神神経用剤	アナフラニール点滴静注液25mg	B		○				
	アタラックス-P注射液(25mg/ml)	C		○	○	○		
	セレネース注5mg	B						
中枢神経用剤 (抗不整脈剤)	ラジカット点滴静注バッグ30mg	C		○	○			
	静注用キシロカイン2%	B		○	○			○
骨格筋弛緩剤	サクシン注射液100mg	A	○	○				○
	エスラックス静注50mg/5.0mL	A	○	○	○			○
	ダントリウム静注用20mg	A		○	○			
	マスキュラックス静注用4mg	A	○	○	○			○
	ミオブロック静注4mg	A	○	○	○			○
自律神経剤	ワゴスチグミン注0.5mg	A		○				
	アトワゴリバース静注シリンジ3mL	A	○	○	○			○
鎮痙剤	アトロピン注0.05%シリンジ「テルモ」(1mL)	A		○	○			
	ブスコパン注射液	C		○	○			
	日本薬局方 パパペリン塩酸塩注射液	A	○					
	補正用硫酸マグネシウム液	B						
	ビスダイン静注用15mg	A			○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
強心剤	ドミン点滴静注100mg	B				○		○
	イノバン注0.3%シリンジ	B						○
	ドブテックス注射液100mg	B				○		○
	プロタノール-L注(0.2mg)	B						○
	ジゴシン注0.25mg	B				○		
	コアテック注5mg	B						
	エホチール注射液	B						○
血圧上昇剤	エピネフリン注0.1%シリンジ「テルモ」	A						○
	ネオシネジコ-7注5mg	A						○
	ノルアドリナリン注1mg	B				○		○
	ボスミン注	B				○		○
抗不整脈剤	アスペノン静注用100	A						○
	アミサリン注100mg	A						○
	アンカロン注150	A			○		○	○
	サンリズム注射液50(限定)	A						○
	シベノール注射液	A		○				○
	シンビット静注用50mg	A				○		○
	タンボコール静注50mg(限定)	A						○
	リスモダンP静注50mg	A		○				○
	リドカイン静注用2%シリンジ「テルモ」	B		○	○			○
	ワソラン静注5mg	A						○
β遮断剤	インデラル注射液2mg	A						○
	注射用オノアクト50	A		○				○
	コアベータ静注用12.5mg	A		○		○		
血圧降下剤 (Ca拮抗薬)	ペルジピン注射液10mg	A					○	
冠血管拡張剤	ヘルベッサ-注射液50	A						○
	シグマート注48mg	B						
	ニトロール注5mg	B		○				○
	ミオコール注5mg	B						○
血管拡張剤	ハンブ注射用1000	B		○				

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
その他の循環器用薬	インダシン静注用1mg	B		○			○	
	エリル点滴静注液30mg	A	○	○				
	ノバスタンHI注10mg/2mL	C		○	○			
	パルクス注5 μ g	B		○	○			
	パルクス注10 μ g	B		○	○			
	注射用プロスタンディン20	B		○	○			
	注射用プロスタンディン500	A	○	○				
	静注用フローラン0.5mg	B		○				
	静注用フローラン1.5mg	B		○				
	20%マンニトール注射液「YD」	C						
	グリセオール注	C						
利尿剤	ソルダクトン100mg	C		○				
	ダイアモックス注射用500mg	C		○				
	ラシックス注20mg	C		○	○			
呼吸促進剤	アネキセート注射液0.5mg	B		○				
	アプニション静注15mg	B		○	○			
	塩酸ナロキソン注射液「三共」	B						
	ネオフィリン注250mg	B		○	○			
	ドブラム注射液400mg	C						
去たん剤	ビスルボン注射液	C		○	○			
消化性潰瘍用剤	ガスター注射液10mg	C		○	○			
	ガスター注射液20mg	C		○	○			
	ザンタック注射液50mg(限定)	C		○	○			
	タガメット注射液200mg	C		○	○			
	タケプロン静注用30mg	C		○	○			
制吐剤	カイトリルバック注3mg	C			○			
	ナゼア注射液0.3mg	C		○	○			
	プリンペラン注射液10mg	C		○	○			
	アロキシ静注0.75mg	B		○	○	○		
	プロイメンド点滴静注用150mg	B			○	○		
脳下垂体ホルモン製剤	コートロシン注(限定)	C		○				
	アトニン-O注5単位	B		○				
	ピトレシン注射液	B		○				
抗甲状腺薬	メルカゾール注10mg(限定)	B						

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
副腎皮質ホルモン製剤	水溶性ハイドロコルチン注射液100mg	B		○	○			
	ソル・コーテフ	B		○	○			
	ソル・コーテフ500	B		○	○			
	デカドロン注射液(0.5mLアンプル)	B		○	○		○	
	デカドロン注射液(2mLバイアル)	B		○	○		○	
	リメタゾン静注2.5mg(限定)	B		○	○			
	リンデロン注2mg(0.4%)	B		○	○			
	注射用ソル・メルコート40	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート125	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート500	B		○	○		○	
	注射用ソル・メルコート1,000	B		○	○		○	
	水溶性プレドニン20mg	B		○	○			
インスリン製剤	ヒューマリンR注U-100	B			○			○
その他のホルモン剤	サンドスタチンLAR筋注用20mg(限定)	B			○			
	プロスタルモン・F注射液1000	B		○				
子宮収縮剤	エルゴメトリン注射液F	B						
その他の泌尿生殖器官用薬	マグセント注100mL	B						
	ウテメリン注50mg	B		○				
その他の器官系用薬	セファランチン注10mg(限定)	C		○	○			
ビタミンD製剤	オキサロール注5 μ g	C						
	オキサロール注10 μ g	C						
ビタミンB製剤	フラビタン注射液20mg(限定)	C						
パントテン酸系製剤	パントール注射液100mg	C						
ビタミンB12製剤	メチコバル注射液500 μ g	C			○			
ビタミンC製剤	ビーシー注500	C						
ビタミンK製剤	ケイツーN静注用10mg	C		○				
ビタミンB複合剤	ビタメジン静注用	C		○				
総合ビタミン剤	ビタジェクト注キット	C		○	○			
ビオチン	ビオチン注1mg「フソー」(限定)	C						

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
ブドウ糖製剤	大塚糖液5%(20mLプラスチックアンプル)	C						
	大塚糖液5%(50mLプラボトル)	C						
	大塚糖液5%(100mLプラボトル)	C						
	大塚糖液5%(250mLプラボトル)	C						
	大塚糖液5%(500mLプラボトル)	C						
	大塚糖液10%(500mLプラボトル)	C						
	大塚糖液20%(20mLプラスチックアンプル)	C				○		
	ブドウ糖注50%シリンジ「テルモ」(20mL)	C				○		
	大塚糖液50%(200mL袋)	C				○		
アミノ酸製剤	エルネオパ1号輸液 (1500mL)	C		○	○			
	エルネオパ2号輸液 (1500mL)	C		○	○			
	フルカリック1号輸液(903mL)	C		○	○			
	フルカリック2号輸液(1003mL)	C		○	○			
	フルカリック3号輸液(1103mL)	C		○	○			
	ハイカリック液-1号(700mL)	C						
	ハイカリック液-2号(700mL)	C						
	ハイカリック液-3号(700mL)(限定)	C						
	ハイカリックRF輸液 (500mL)	C						
総合アミノ酸製剤	アミノレバン点滴静注 (500mL袋)	C						
	ネオアミュー	C						
	プレアミン-P注射液	C						
脂肪製剤	ビーフリード輸液 (500mL袋)	C		○				
	プロテアミン12X注射液(200mL)	C						
	プロテアミン12注射液(200mL)	C						
電解質輸液	イントラリポス輸液10%(250mL)	C		○	○			
	大塚生食注(1000mL袋)	C						
	大塚生食注(20mL管)	C						
	大塚生食注(50mL瓶)	C						
	大塚生食注(100mL瓶)	C						
	大塚生食注(500mL袋)	C						
	大塚生食注(1000mL瓶・広口)	C						
	大塚生食注(250mL袋)	C						
	生食溶解液キットH(100mL)	C						
電解質輸液(開始液)	ソルデム1輸液 (200mL)	C						
	ソルデム1輸液 (500mL)	C						
	ピカーボン輸液	C						
	フィジオ140輸液	C						

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
電解質輸液(維持液)	ヴィーン3G注(500mL)(限定)	C						
	ヴィーンD注(500mL)	C						
	ヴィーンF注(500mL)(限定)	C						
	ソルテム3A輸液(200mL)	C						
	ソルテム3A輸液(500mL)	C						
	ソルテム3AG輸液(200mL)	C						
	ソルテム3AG輸液(500mL)	C						
	ソルラクト輸液(500mL)	C						
	デノサリン1輸液(500mL)	C						
	ラクテックD輸液(500mL袋)	C						
血液代用剤	低分子デキストランL注(250mL袋)	C		○	○			
	ヘスパンダー(500mL)	C		○	○			
補正用電解質製剤	KCL注10mEqキット「テルモ」	C				○		○
	フェジン静注40mg	B		○		○		
	エレメンミック注	C						
	補正用塩化ナトリウム液	C						
	カルチコール注射液 8.5% 5mL	C				○		
	リン酸ナトリウム補正液	C						
止血剤	アドナ注(静脈用)50mg	C		○				
	トランサミン注5%	C		○				
	トランサミン注10%	C		○				
	ノボ・硫酸プロタミン静注用100mg	C		○				
血液凝固阻止剤	ノボ・ヘパリン注5千単位	C		○	○			
	フラグミン静注5000	C		○	○			
	ヘパフラッシュ100単位/mLシリンジ100mL	C		○	○			
	ヘパリンNa透析用250単位/mLシリンジ20mL「AT」	C		○	○			
	ヘパリンナトリウム注N5千単位/5mL「味の素」	C		○	○			
	ダルテパリンNa静注5000単位/20mLシリンジ「ニプロ」	C		○	○			
白血球減少症治療剤	グランシリンジ75	C		○	○			
	グランシリンジ150	C		○	○			
	グラン注射液M300	C		○	○			
	ノイトロジン注100μg	C		○	○			
	ノイトロジン注250μg	C		○	○			
	ノイアップ注50(限定)	C		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
肝臓疾患用剤	強力ネオミノファーゲンシーP20mL	C		○	○			
	強力ネオミノファーゲンシー静注シリンジ40mL	C		○	○			
	タチオン注射用200mg(限定)	C			○			
解毒剤	デスフェール注射用500mg	C		○	○			
	デトキソール静注液2g	A						
	ウロミテキサン注100mg	C						
	ウロミテキサン注400mg	C						
	バム静注500mg	B						
	メイロン静注7%(20mL管)	B				○		
	メイロン静注7%(250mL袋)	B				○		
酵素製剤	ウロナーゼ静注用6万単位	A		○	○			
	クリアクター静注用40万	A		○	○			
	グルトパ注 1200万	A		○	○			
代謝性医薬品	アデホス-Lコーワ注40mg	A		○				
	アデホス-Lコーワ注10mg	A		○				
	ゾメタ注射液4mg	C						
	ネスプ静注用20 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用30 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用40 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用10 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用60 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用120 μ gシリンジ	C		○	○			
	ネスプ静注用180 μ gシリンジ	C		○	○			
	アレディア注15mg	C		○	○			
	エスポー注射液750シリンジ	C		○	○			
	エスポー皮下用24000シリンジ	C		○	○			
	エボジン注シリンジ1500	C		○	○			
	エボジン注シリンジ3000	C		○	○			
	エボジン注シリンジ6000	C		○	○			
	エボジン注シリンジ24000	C		○	○			
	注射用エラスポール100	B						
	エルシトニン注40単位	C		○	○			
	キサンボンS注射液40mg	C		○	○			
	サンディミュン注射液(限定)	B		○				
	プログラフ注射液2mg	B		○	○			
	ミラクリッド注射液2万5千単位	B		○	○			
	ミラクリッド注射液10万単位	B		○	○			
	コアヒビター注射用10mg	A		○	○			
	コアヒビター注射用50mg	A		○	○			
	レミナロン注射用100mg	B		○	○		○	
	レミナロン注射用500mg	B		○	○		○	

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(アルキル化剤)	注射用イホマイド1g	B				○	○	○
	注射用エンドキサン100mg	B		○	○	○	○	○
	注射用エンドキサン500mg	B		○	○	○	○	○
	プスルフェクス点滴静注用60mg(限定)	B		○	○	○	○	○
	アルケラン 静注用50mg(限定)	B		○	○	○	○	○
	注射用サイメリン50mg	B				○	○	○
	ダカルバジン注用100	B			○	○	○	○
	ニドラン注射用50mg	B				○	○	○
	注射用メソトレキセート5mg	B		○	○		○	○
抗癌剤(代謝拮抗剤)	注射用メソトレキセート50mg	B		○	○		○	○
	メソトレキセート点滴静注液200mg	B		○	○		○	○
	5-FU注250協和	B		○	○	○	○	○
	5-FU注1000協和	B		○	○	○	○	○
	キロサイド注20mg	B		○	○		○	○
	キロサイド注40mg	B		○	○		○	○
	キロサイド注200mg	B		○	○		○	○
	キロサイドN注400mg	B		○	○		○	○
	キロサイドN注1g	B		○	○		○	○
	ジェムザール注射用200mg	B			○	○	○	○
	ジェムザール注射用1g	B			○	○	○	○
	ビダーザ注射用100mg	B		○	○			○
	フルダラ静注用50mg	B				◎	○	○
	アリムタ注射用100mg	B		○	○			○
	アリムタ注射用500mg	B		○	○			○
	抗癌剤(抗生物質製剤)	マイトマイシン注用2mg	B		○	○	◎	○
マイトマイシン注用10mg(限定)		B		○	○	◎	○	○
コスメゲン静注用0.5mg		B			○	◎	○	○
プレオ注射用15mg		B		○		○	○	○
ペプレオ注射用10mg		B		○	○	○	○	○
アクラシノン注射用20mg		B		○		○	○	○
アドリアシン注用10		B		○		◎	○	○
アドリアシン注用50		B		○		◎	○	○
ドキシル注20mg		A			○	○		○
イダマイシン注		B		○		◎	○	○
カルセド注射用20mg		B				◎	○	○
カルセド注射用50mg		B				◎	○	○
ダウノマイシン静注用20mg		B		○		◎	○	○
ピノルビン注射用10mg		A		○		◎	○	○
ピノルビン注射用20mg		A		○		◎	○	○
ファルモルピシン注射用10mg		B		○		◎	○	○
ファルモルピシン注射用50mg		B		○		◎	○	○

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(植物成分製剤)	エクザール注射用10mg	B			○	◎	○	○
	オンコピン注射用1mg	A			○	◎	○	○
	カンプト点滴静注40mg	B		○	○	○	○	○
	カンプト点滴静注100mg	B		○	○	○	○	○
	ドセタキセル注(20mg)	B		○	◎	◎	○	○
	ドセタキセル注(80mg)	B		○	◎	◎	○	○
	ワンタキソテル点滴静注20mg/1mL	B		○	◎	◎	○	○
	ワンタキソテル点滴静注80mg/4mL	B		○	◎	◎	○	○
	パクリタキセル注射液30mg	B		○	◎	◎	○	○
	パクリタキセル注射液100mg	B		○	◎	◎	○	○
	ナベルピン注10	B		○	○	◎	○	○
	ナベルピン注40	B		○	○	◎	○	○
	ハイカムチン注射用1.1mg	B				○	○	○
	注射用フィルデシン1mg	A			○	◎	○	○
	注射用フィルデシン3mg	A			○	◎	○	○
	ベブシド注100mg	B		○	○	○	○	○
	アブラキサ点点滴静注用100mg	A		○	○	○		○
	抗癌剤(分子標的治療薬)	アバスチン点滴静注用100mg/4mL	B		○	○		○
アバスチン点滴静注用400mg/16mL		B		○	○		○	○
ハーセプチン注射用60		B		○	◎		○	○
ハーセプチン注射用150		B		○	◎		○	○
マイロターグ点滴静注用5mg(限定)		B		○	○		○	○
リツキサン注10mg/mL(100mg/10mL)		B		○	◎		○	○
リツキサン注10mg/mL(500mg/50mL)		B		○	◎		○	○
レミケード点滴静注用100(限定)		B		○	◎		○	
ベクティビックス点滴静注100mg		B			○	○		○
アービタックス注射液100mg		B		○	○			○

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗癌剤(その他)	アクブラ静注用50mg	B		○	○	○	○	○
	アクブラ静注用100mg	B		○	○	○	○	○
	コホリン(限定)	B				○	○	○
	トリセノックス注10mg(限定)	B				○	○	○
	ノバントロン注10mg	B		○	○	◎	○	○
	パラプラチン注射液50mg	B		○	◎	○	○	○
	パラプラチン注射液150mg	B		○	◎	○	○	○
	パラプラチン注射液450mg	B		○	◎	○	○	○
	ベルケイド注射用3mg(限定)	A		○			○	○
	ランダ注(10mg/20mL)	B		○	◎	○	○	○
	ランダ注(25mg/50mL)	B		○	◎	○	○	○
	ランダ注(50mg/100mL)	B		○	◎	○	○	○
	エルプラット点滴静注液50mg	A		○	◎		○	○
	エルプラット点滴静注液100mg	A		○	◎		○	○
	ロイスタチン注8mg(限定)	B				○	○	○
	ロイナーゼ注用5000	B		○	○	○	○	○
	解毒剤	レボホリナート点滴静注用「NK」100mg	C					
レボホリナート点滴静注用「NK」25mg		C						
ロイコボリン注3mg		C						
抗ヒスタミン剤	クロール・トリメトン注10mg	C		○				
抗生物質(ペニシリン系)	ゾシン静注用2.25	B		○	○			
	ゾシン静注用4.5	B		○	○			
	注射用ピクシリン(250mg(力価))	B		○	○			
	注射用ピクシリン(500mg(力価))	B		○	○			
	注射用ピクシリン(1g(力価))	B		○	○			
	ペントシリン注射用1g	B		○	○			
	ペントシリン注射用2g	B		○	○			
	ユナシン-S静注用0.75g	B		○	○			
	ユナシン-S静注用1.5g	B		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗生物質(セフェム系)	クラフォラン注射用0.5g	B		○	○			
	クラフォラン注射用1g	B		○	○			
	セファゾリン注射用0.5g	B		○	○			
	セファゾリン注射用1g	B		○	○			
	セフトアジジム 静注用0.5g「メルク」	B		○	○			
	セフトアジジム 静注用1g「メルク」	B		○	○			
	セフメタゾン 静注用0.25g	B		○	○			
	セフメタゾン 静注用0.5g	B		○	○			
	セフメタゾン 静注用1g	B		○	○			
	ファーストシン 静注用0.5g	B		○	○			
	ファーストシン 静注用1g	B		○	○			
	フルマリン 静注用1g	B		○	○			
	注射用マキシペーム 1g	B		○	○			
	ロセフィン 静注用0.5g	B		○	○			
	ロセフィン 静注用1g	B		○	○			
	ワイスタール 静注用1g	B		○	○			
抗生物質(カルバペネム系)	オメガシン点滴用0.3g(限定)	B		○	○			
	カルベニン点滴用0.25g	B		○	○			
	カルベニン点滴用0.5g	B		○	○			
	チエナム点滴静注用0.5g	B	○	○	○			
	フィニバックス点滴用0.25g	B		○	○			
	フィニバックス点滴用0.5g	B		○	○			
	メロペン点滴用バイアル0.5g	B		○	○			
抗生物質(モノバクタム系)	アザクタム注射用1g	B		○				
抗生物質(ニューキノロン系)	シプロキサソ注300mg	B		○	○			
	パシル点滴静注液500mg	B		○	○			
	パシル点滴静注液300mg(限定)	B		○	○			
	クラビット点滴静注バッグ500mg/100mL	B		○	○	○		
抗生物質(アミノグリコシド系)	硫酸アミカシン注射液「萬有」100mg	B	○	○	○			
	エクサシン注射液200	B		○	○			
	ゲンタシン注10	B		○				
	ゲンタシン注60	B		○				
	トブラシン注60mg	B		○	○			
	注射用パニマイシン100mg(限定)	B		○				
	ハベカシン注射液100mg	B	○	○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
抗生物質(グリコペプチド系)	注射用タゴシッド200mg	B		○	○			
	塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g	B		○	○			
抗生物質(ホスホマイシン系)	ホスミシンS静注用0.5g	B		○	○			
	ホスミシンS静注用2g	B		○	○			
抗生物質(マクロライド系)	注射用エリスロシン	B		○	○			
	ジスロマック点滴静注用500mg	B		○	○	○		
抗生物質(テトラサイクリン系)	ミノマイシン点滴静注用100mg	B		○	○			
抗生物質(リンコシン系)	ダラシンS注射液300mg	B		○	○			
	ダラシンS注射液600mg	B		○	○			
抗生物質(オキサリジノン系)	ザイボックス注射液600mg	B		○	○			
抗生物質(リホペプチド系)	キュビシン静注用350mg	B		○	○			
抗真菌剤	アムビゾーム点滴静注用50mg	B		○	○			
	ファンギゾン注射用50mg	B	○		○			
	ファンガード点滴用50mg	B		○	○			
	ブイフェンド200mg静注用	B			○			
	プロジフ静注液100	B		○	○			
	プロジフ静注液200	B		○	○			
	プロジフ静注液400	B		○	○			
	フロリードF注200mg(限定)	B		○	○			
抗結核剤	イスコチン注100mg(限定)	B						
抗ウイルス剤	アシクロビン点滴静注250mg	B	○		○			
	アラセナーA点滴静注用300mg(限定)	B		○				
	デノシン点滴静注用500mg	B					○	
抗毒素類	乾燥まむし抗毒素“化血研”	A		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
血液製剤	アドベイト注射用250(限定)	B			○			
	献血アルブミンートニチヤク	B		○	○			
	献血アルブミン20ニチヤク	B		○	○			
	赤十字アルブミン20	B		○	○			
	アンスロビン P	B			○			
	アンスロビン P1500注射用	B			○			
	献血グロベニントニチヤク0.5g	B		○	○			
	献血グロベニントニチヤク2.5g	B		○	○			
	テタノブリンIH(250国際単位)	B		○				
	ハプトグロビン注ヨシトミ(献血)	B		○	○			
	フィブロガミンP	B		○				
	献血ベニロンI(500mg)	B		○	○			
	献血ベニロンI(2,500mg)	B		○	○			
	献血ベニロンI(5,000mg)	B		○	○			
	静注用ヘブスブリンIH(限定)	B		○				
	日赤ポリグロビンN注5%(0.5g製剤 10mL)	B		○	○			
	日赤ポリグロビンN注5%(2.5g製剤 50mL)	B		○	○			
	日赤ポリグロビンN注5%(5.0g製剤 100mL)	B		○	○			
生物学的製剤(その他)	リンフォグロブリン注射液100mg(限定)	B		○	○			
抗ウイルス剤	ベナンボックス300(限定)	B		○	○			
サルファ剤	バクトラミン注	B		○	○			
溶解剤	大塚蒸留水(20mL管)	C						
	大塚蒸留水(100mL瓶)	C						

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
X線造影剤	ウログラフィン60%(20ml)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(20mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(50mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300(100mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(20mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(50mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370(100mL)	A		○	○	○		
	イオパミロン注300シリンジ(100mL)(限定)	A		○	○	○		
	イオパミロン注370シリンジ(100mL)	A		○	○	○		
	イオメロン400(尿路・血管用)(50mL)	A		○	○	○		
	イオメロン400(尿路・血管用)(100mL)	A		○	○	○		
	イソピスト注240	A		○	○	○		
	オムニパーク240(脳槽・脊髄用)10mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300(尿路・血管用)100mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300シリンジ(CT用)150mL	A		○	○	○		
	オムニパーク300シリンジ(尿路・血管・CT用)100mL	A		○	○	○		
	オムニパーク350シリンジ(血管・CT用)100mL	A		○	○	○		
	ピリスコピンDIC50	A		○	○	○		
機能検査薬	アルギニン注「味の素」	A						
	ヒトCRH注「ミツビシ」	A						
	注射用GRF住友50	A						
	ヒルトニン0.5mg注射液	A		○				
	ジアグノグリーン注射用25mg	A		○				
	インジゴカルミン静注200mg「第一三共」	A		○				
	アンチレクス静注10mg	A						
	グルカゴン注射用1単位「イトウ」	A		○	○			

静注・点滴静注薬リスト2017

薬効	薬品名	ランク	呼吸抑制	ショック	アナフィラキシー	静脈炎・壊死	同意書	ハイリスク指定
その他の診断用薬	オムニスキャンシリンジ10mL	A		○	○	○		
	オムニスキャンシリンジ15mL	A		○	○	○		
	ソナゾイド注射用	A						
	フルオレサイト静注500mg	A		○		○		
	プロハンス注	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ(10mL)	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ(15mL)	A		○	○	○		
	マグネビストシリンジ(20mL)	A		○	○	○		
	リゾビスト注	A		○	○	○		
	レボビスト注射用	A				○		
麻薬	モルヒネ塩酸塩注射液(200mg)	B	○					
	モルヒネ塩酸塩注射液(10mg)	B	○					
	モルヒネ塩酸塩注射液(50mg)	B	○					
	ケタラール静注用200mg	B	○					
	オピスタン注射液35mg	B	○					
	アルチバ静注用2mg	B	○	○	○			
	フェンタニル注射液0.1mg「三共」	B	○	○	○			
	ペチロルファン注射液	B	○					
抗インフルエンザウィルス剤	ラピアクタ点滴用バイアル150mg	B		○				
	ラピアクタ点滴用バッグ300mg	B		○				
酵素製剤	ラスリテック点滴静注用7.5mg	C		○	○			

参考資料

- 九州厚生年金病院 診療マニュアル
医薬品添付文書に「同意を得る」ことが明記されている医薬品
院内ハイリスク医薬品(危険医薬品)
- 薬剤の血管炎・血管外漏出対策 九州厚生年金病院 第1版2007.4.18
- 各社添付文書

2008年10月作成
2017年 4月改訂

夜間・休日に中毒事故の急患が運ばれてきたとき

中毒110番電話番号

日本中毒情報センターが開設している中毒110番の電話番号を示した。応答は訓練を受けた薬剤師が行っている。

・大阪中毒110番

- ・医療機関専用有料電話：072-726-9923
1件 2,000円 24時間 365日
- ・一般市民向け：072-727-2499
相談料無料 24時間 365日
- ・タバコ専用電話：072-726-9922（テープによる一般市民向け）
相談料無料 24時間 365日

・つくば中毒110番

- ・医療機関専用有料電話：029-851-9999
1件 2,000円 9時～21時
- ・一般市民向け：029-852-9999
相談料無料 9時～21時

《 中毒110番の取扱う対象 》

化学物質（タバコ、家庭用品など）医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒について、実際に事故が発生している場合に限定して情報提供している。

中毒110番へ問い合わせ時の確認項目

- 1．医療機関名とその電話番号
- 2．連絡者（問い合わせ者）の氏名とその所属・職種
- 3．患者の年齢・体重・性別
- 4．中毒起因物質（正確な商品名、会社名、用途）
- 5．中毒事故の発生状況（摂取量、摂取経路、発生時刻）
- 6．受診時刻
- 7．患者の状態（来院時の症状、現在の症状）
- 8．問い合わせまでに行われた処置
- 9．特に問い合わせたい事柄

*** 患者が来院していない場合も含め、できる限り詳しい情報を確認の上お電話下さい**

保険診療の注意事項（査定を避けるため）

内科の薬剤関係

平成 30 年 4 月

内科 山本英雄

薬剤査定について

2018年3月時点

薬剤査定では、ほぼ毎年同じ内容で査定を受けています。
そこで、当院で査定された主たる薬剤と高額薬剤に関して、審査員の注目する点を含めて注意事項をまとめました。日々の診療に役立ててください。

一般的なこと

1. 薬剤査定の主な理由

①DPC 入院後、出来高になってからの病名付け忘れ

→出来高以降は病名なければ全て査定

DPC 病名で4つの併存病名がない場合

→ 退院処方で、主病名、最病名、併存病名に対して適応のある薬剤以外
全て査定

②正確な病名を付けていない

「再発性（難治性）」が抜けているため A 査定・・・高額薬品に多い

「疑い病名」で処方すると A 査定・・・疑いでの治療は認められない

③併用禁忌の薬が処方されている

④禁忌病名の存在

⑤転院時の退院処方は査定される

再入院が決まっている時に、再入院までの期日以上のは査定

転院では退院処方は出来ないので、全て査定される。

⑥処方日数が不適切

- ・新薬は14日処方しかできない
- ・新薬でなくとも14日までしか使用できない薬剤がある
一部の抗生剤（メロペンなど）
- ・感染症を外来で治療するときは通常4日～7日処方して再来で追加を検討する・・・一度に7日以上のは査定
- ・30日以内しか認められない薬剤がある
サムスカ、麻薬類、抗がん剤など
サムスカ等は必ず、1ヶ月毎に血液検査などをする必要がある。
- ・長期処方は90日まで
(1日でも超えれば査定される・・・高額薬品が査定されると被害が大きい)

2. 「疑い病名」での治療は不可。

例：「MRSA 肺炎疑い」で、VCM 投与は A 査定。

「インフルエンザ疑い」で、タミフル投与は A 査定。

「不整脈疑い」、「VPC 疑い」で 2%キシロカイン使用し A 査定。

3. 長期処方は 90 日まで。

90 日を超えた処方は全て査定される。

120 日分、180 日分処方している患者が時々あり、全て 90 日分までに査定されている、1 人の患者で 3000 円から 1 万円の査定になる。毎月 5 名程度あり。

例外：遠洋航海等（保険証が船舶保険であることが条件）

単なる海外勤務は認められない!!

対策：

患者と他のクリニックに話を通し、当院で 90 日分処方して、他のクリニックで 90 日分処方してもらう

4. 薬剤と処方日数などについて

①原則、薬剤の種類に応じて 14 日、30 日、90 日までがある。これ以上は査定される。

②以外の方は 90 日までに厳格に査定される。

ただし落ち着いている甲状腺機能低下症でのチラジン S 投与は 180 日まで認める

②船員の場合は長期の航海に限り 180 日まで処方ができる

・・・船員保険であること。

③制癌剤について

1) 経口制癌剤は最長 1 月以内 (x 30、x 31)

2) 抗癌性ホルモン剤（乳癌、甲状腺癌）については、90 日まで

3) 1 月の総投与量が赤本で認められた総投与量規定内であれば投与方法は問わない

4) 臓器別の適応症に従うこと

5) 制癌剤投与の際の条件(ハーセプチン投与では HER2 蛋白 3+の記載)、検査必要

6) 体重あたり、体表面積当たりの記載をレセプトにすること

7) 結腸癌に認められた制癌剤は直腸がんにも認める

5. 退院時処方は在宅に帰るときのみ。転院では退院処方を出せない(査定の対象)。

・転院の場合・・・転院までの期間までは処方可

・再入院することが決まっている場合・・・再入院の期間までは処方可。

上記以外で転院の場合、退院処方すると、原則すべて査定される。

参考：

以前は、転院先の医療機関の利便を考えて数日分を処方していたが、2017年以降は全て原則禁止とした。

- ・他の公的病院も転院時の退院処方はしていないことを確認した。
- ・2017年10月に各診療機関に転院時は残薬を持たせるが、退院処方はしないことを通達した（一部の医療機関から要望が出されたが却下した）。

2017年前半まで、薬剤査定の半分以上は転院時の処方の査定。25%は長期処方の査定。

2017年後半以降は、1) 非常に高価な薬剤の病名不足、2) 併用禁忌薬の処方、3) 禁忌薬の使用（腎不全、肝機能障害、肝硬変などに対して）が多数を占める。

6. 適応のない抗生剤の使用で査定されることが多い

- 1) 感染症の病名がない
- 2) 感染症で（急性気管支炎など）7日以上処方している。
外来では数日分処方して、その後、必要なら抗生剤変更などを考えなければならない。
- 3) クラリスロマイシンなどのマクロライド系抗生剤の長期処方
一部の呼吸器疾患のみに適応
 - ・・・汎細気管支炎、気管支拡張症、閉塞性細気管支炎など（COPD、慢性気管支炎に適応なし）
- 4) 過去の病名で使用し査定：過去の病名で高価な薬を使用する場合に多い
ベナンボックス注：適応はカリニ肺炎
 - ・・・カリニ肺炎の病名が古い時に査定される
- 5) 正確な病名でないために査定されるときがある
ベナンボックスを「ニューモシスティス肺炎」の病名で使用してA査定
エイズ治療のザルシタビンとの併用は不可
- 6) 特別な抗生剤の適応外使用で査定
 - ①手術時のパニマイシンなどの局所注入：エビデンスがないため。
腹腔内投与などは認めないが、脳外科領域の洗浄液に混入するのは認める。
 - ②骨セメントにVCMを混ぜて使用

社保はMRSAの感染が確認されていれば認める。国保は原則認めない。

③PDの透析液にVCMを混注・・・下記に注意して査定されたら再審査請求のこと。

PDではPD液に抗生剤を入れるのは静脈投与と同じ効果があり認める。

また、CAPD腹膜炎の病名ではMRSAの病名がなくともVCMを認める

・・・ガイドラインでも認められている・・・但し国保では査定する可能性あり。

④骨髄炎の治療にVCMとRFPを併用した場合

病名にMRSAとTBCがあれば認めるが、なければ適応外使用で査定の対象。

7. 鎮痛剤

1) ロキソニンは偏頭痛、緊張性頭痛にも算定可

2) 片頭痛薬投与の取り扱い基準

(1) 病名：緊張性頭痛、緊張型頭痛、頭痛は適応外
脳血管性頭痛は認める

(2) 原則頓服薬とする

(3) 投与量

頓服薬：原則、1処方10単位、1月20単位が限度

効果不十分の場合

1処方20単位、1月40単位を限度

錠形が異なる薬剤（イミグラン点鼻注）は1本を1単位とする
内服薬としての請求では、頓服の最高投与量の上限と同様とする

(4) 薬剤

イミグラン、イミグラン点鼻液、イミグラン注、ゾーミッグ、
レルパックス、マルサルト、アマージン

3) セレコックス 1錠100mgと200mg錠の2種類がある

セレコックス200mg錠の適応は、関節リウマチ、術後・抜歯後の疼痛のみが適応で、術後などの投与期間は7日間まで

・・・セレコックス200mg錠を単なる腰痛症に使用すると減量査定または全査定になる。必ず100mg錠を使用すること。

4) モーラスパップとファルケンテープは腰痛症に適応なし

モーラステープは腰痛症に適応あり

5) トラムセット配合錠

適応は非癌性慢性疼痛または抜歯後の疼痛

例：大腸癌術後で98日分処方してA査定（5万5千円）

6) オキシコンチン

「癌性疼痛」の病名必要

30日分までしか処方できない

8. 眠剤

- ・ マイスリーは統合失調病、うつ病に伴う不眠症には使用できない
- ・ アモバンの投与量は7,5mg~10mgまで（10mgを越えてはならない）
・・・アモバンは7.5mg 1Tに査定することとなった。

9. リコモジュリン点滴

原則、造血器悪性腫瘍か感染症によるDICが適応

通常の悪性腫瘍によるDICは査定される

予後の改善が期待できない患者には使用不可

6日までの投与しか認められない。

10. イントラリポス点滴

1) 高脂血症は禁忌のため、査定。

対策：高脂血症の診断名を消すか、高脂血症は内服薬でコントロールされているとのコメントを書くこと

2) DIC患者、血液凝固異常の病名が現在だけでなく過去にも記載があれば（中止されていない限り）禁忌で、自動的に査定される。

病名の付け方に注意が必要

①DICが治癒していれば中止の日付を病名に入れる

②またはDICは○月○日に治癒したので、以後イントラリポスを使用した

などの詳記を記載する。

11. ビーフリード点滴

①適応病名がない、②禁忌病名があるため救外などでよく査定を受ける。

①適応：経口摂取不良、低栄養状態・・・この状態が推測できる病名が必要
国保では入院中に食事が出ている時、救外での使用で査定する傾向あり。

②禁忌：高度の肝障害の病名があるとき（肝硬変、C型肝炎+肝不全など）
腎不全、心不全、糖尿病、アシドーシスの病名があると原則査定

12. アルブミンの1か月の投与量・・・12.5g x6本まで

13. 2%プロポフォール注やディプリパンの適応について

ICUでの人工呼吸器管理での使用は7日以内

14. エラスポールの適応

SIRSに伴う急性肺障害の改善であり、投与できるのは1) SIRSの基準で2項目以上該当すること、並びに2) 急性肺障害の基準は全項目の該当すること、3) 投与期間は14日以内と定められている。よって以上の詳記が必要。

SIRSの以下の該当項目2つ以上

- ①体温>38度、または体温<36度
- ②心拍数>90/分
- ③呼吸数>20回/分、またはPaCO₂<32 mmHg
- ④WBC>12000、または<4000、またはStab>10%

急性肺障害は下記にすべて該当すること

- ①肺機能低下（人工呼吸器管理下でPaO₂/FiO₂<300mmHg）を確認
- ②胸写で両側性の浸潤影があること
- ③肺動脈きつ入圧<18mmHg、測定がない場合は左房圧上昇の臨床所見がないこと

15. 点眼剤

点眼剤の処方には上限はないが、連月の大量投与、緑内障治療薬・抗生剤の大量投与は査定の対象になる。

発売1年以内の新薬は14日以内の投与で両眼の場合上限は

- 1回点眼；5 mL、
- 2回点眼；10 mL、
- 3回点眼；15 mL、
- 4回点眼；20 mL

1回使い捨てタイプでは、1日4回点眼すると14日分で56本になる

A 項査定（適応なしでの査定）

1. ノルバデックス
非ステロイド性の抗女性ホルモン薬（抗エストロゲン薬）で乳癌の治療薬
・・家族性大腸腺腫症に投与して全て査定、乳癌の病名不足か
2. 病名をよく付け忘れる薬
 - 1) アーチスト 2.5 mg ・ ・ 心不全の病名不足
 - 2) ラクツロース：
肝性脳症＋高アンモニア血症＋原因病名（例 C 型肝炎）の 3 つが必要
 - 3) 各種鎮痛剤
セレコックス
 - 4) サムスカ
慢性心不全、肝不全＋肝性腹水、遺伝性多発性腎嚢胞症
30 日分しか出せない
毎月、外来ごとに肝腎機能、電解質、CBC のチェックが必要
例：C 型肝炎や肝細胞癌の病名だけでは A 査定
 - 5) イコサペント酸エチル粒錠カプセル
高脂血症、高中性脂肪などの病名必要
通常 2 包（1800 mg まで）まで
3 包（2700 mg）は高中性脂肪血症の病名が必要
 - 6) 各種 PPI（タケプロンなど）の静注薬
出血性胃潰瘍等が必要、3 日までしか認められない
 - 7) ヒルドイドソフト軟膏、ローション ・ ・ ・ 現在特に査定されやすい薬
皮脂欠乏症、進行性指掌角皮症、凍瘡、肥厚性癬痕・ケロイドの治療
と予防、
血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患(注射後の硬結並びに疼痛)、
血栓性静脈炎(痔核を含む)
などが適応
 - 8) 点眼薬 ・ ・ 眼科以外の科で出すときに病名不足が多い
・クラビット点眼：病名なし
・リザベン点眼薬（アレルギー性結膜炎）：アレルギー性鼻炎で処方し
て A 査定
 - 9) リリカ
適応：末梢神経障害性疼痛
査定例：「顔面神経麻痺」の病名で A 査定
 - 10) ペルジピン注

静脈注射で治療が必要とわかる病名が必要

- ・ 高血圧性緊急症
- ・ 急性大動脈解離
- ・ 脳出血

1 1) **ゾメタ** 薬価：32254 円と非常に高価

高カルシウム血症+骨転移などの病名必要

高カルシウム血症の病名なく、ゾメタ、エルシトニン注射をして査定
ゾメタについて

適応：悪性腫瘍による高カルシウム血症多発性骨髄腫による骨病変及び
固形癌骨転移による骨病変

縦覧でよく査定される薬剤

●縦覧対象の薬剤一覧

薬剤名	薬効	最大投与日数	コメント
アサコール	潰瘍性大腸炎	1 日 3600 mgを 8 週間を超えて投与した際の有効性は確立していない	一概に8週間では切れないので返戻する
ペンタサ	潰瘍性大腸炎、クローン病	4000 mgを、8 週間を超えて投与した際の有効性は不明	UC への 4000 mg 投与は中等症以上のこと
テラビック	抗ウイルス剤	84 日まで	
ソブリアート CP	C 型肝炎への抗ウイルス剤	84 日まで	

消化器関係

1. PPI の注射薬

出血性胃潰瘍や急性ストレス性胃潰瘍などの病名が必要。

PPI 静注薬は出血性胃潰瘍の発症日から 3～7 日以内（通常は 3 日以内）。

この間に内視鏡治療などをして経口剤に切り替える。

長期投与が必要（経口不能の場合、挿管中でも胃管から投与可能）な場合は、
ガスターIV にするか必要理由の詳記を書くこと。ただし詳記しても査定の

可能性高い。

注意点

①食事ありの場合

PPI の注射薬は認められない。経口が可能なら経口薬を使用するのが原則。

②食事なしの場合

おおむね PPI 注射薬を 7 日間、その後は H2 ブロッカー（注射）とする。

食事が開始されれば経口剤とする（H2 ブロッカーも認められない）。

よって食事がなければ日数に関係なく認める。長期はだめ。

2. パリエット（タケプロン、ネキシウムなど）などの PPI は以下の保険適応に注意

1) 胃潰瘍、十二指腸潰瘍 10~20 mg を 1 日 1 回投与

胃潰瘍 8 週間まで投与可

十二指腸潰瘍 6 週間まで投与可

例：9 週間目以降も投与していれば全て査定される（これまで 10 か月分全て査定されたことが何度もあります・・・金額にして 7 万円）。

査定されないためには 10 mg に減量して難治性再発性の逆流性食道炎の維持療法とするしかない。

2) 逆流性食道炎 10~20 mg を 1 日 1 回投与、8 週間まで投与可

効果不十分と内視鏡検査で確認された場合、さらに 8 週間投与可。

ただし、内視鏡検査をしていなければ後半の 8 週間分は査定される。

3) 難治性再発性逆流性食道炎の維持療法 10 mg を 1 日 1 回投与

したがって、20 mg を投与していれば、10 mg に減量査定される。

4) 低用量アスピリン投与時の胃潰瘍、十二指腸潰瘍の再発抑制

10 mg を 1 日 1 回投与

胃潰瘍か十二指腸潰瘍（の既往）の病名が必要、且つアスピリンの内服があること、

できれば胃潰瘍再発抑制のため内服というコメントがあれば完璧。

5) 胃全摘患者に PPI の適応はない

3. サイトテックについて

胃潰瘍、十二指腸潰瘍では非ステロイド性消炎鎮痛剤は禁忌だがサイトテックが処方されていれば投与可・・・ただし発症の予防での投与は不可

NSAIDs 胃潰瘍の患者に PPI、H2 ブロッカーは投与可。ただし、PPI は胃潰瘍に対しては 8 週間まで。H2 ブロッカーは 8 週間以上の投与可。

4. 胃潰瘍の患者にロキソニン、ニフラン、ボルタレンなどの投与は禁忌

ただし急性期の潰瘍でなければ H2 ブロッカー、PPI の併用があれば投与可
・・・当月発症の胃潰瘍でなければ、H2 ブロッカーなどの併用で NSAIDs 投

与可

・胃潰瘍の病名がついて3か月以上経過していれば通常胃潰瘍は治癒しているので処

方は可能

5. ガスモチンの適応は慢性胃炎の消化器症状、Ba注腸X線造影検査前処置の補助

・胃潰瘍には適応なし

6. レバミピド：胃潰瘍、急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪

7. セルパス：急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪

8. ネリプロクト座薬：痔に対して

軟膏は1回2g、1日2回まで、7日間のみ・・・1回の処方量は28gまで

座薬は1回1個、1日2個まで、7日間のみ・・・1回の処方量は14個まで

9. 強力ポステリザン軟膏

特に制限はない。

10. 胃潰瘍の患者にロキソニン、ニフラン、ボルタレンなどの投与は禁忌

例：胃潰瘍患者のロキソニンなどは全て査定されています。

ただし急性期の潰瘍でなければH2ブロッカー、PPI、サイトテックの併用があれば投与可

・・・当月発症の胃潰瘍でなければ、H2ブロッカーなどの併用でNSAIDs投与可。

ただし胃潰瘍でのPPIは8週間までしか認められない。

胃潰瘍病名でのNSAIDsの投与について

胃潰瘍の発症から3か月が経過していれば認めると言われているが査定あり得る

11. アサコール

潰瘍性大腸炎に対して、活動期1日3600mg、維持期1日2400mg

例：非活動期に3600mg投与して2400mgに減額査定

12. ペンタサ

潰瘍性大腸炎に対して、活動期4000mgを1日2回に分けて投与、維持期1日1500mg（年齢・症状で適宜増減、ただし1日2250mg上限）

また漫然と4000mgを投与し続けると3000mgなどの減額される。

例：維持期に3000mg投与して2250mgに減額査定

13. メラサジン

大腸クローン病に対して、1日1500～3000mg、年齢・症状で適宜増減。

例：大腸クローン病患者にメラサジン4000mg、ペンタサ1000mg投与してメラサジンは3000mgに減額、ペンタサは全て査定されている。

14. 非代償性肝硬変に対するリーバクト顆粒の適応

「非代償性肝硬変」と「低アルブミン血症=3.5 g/dL 以下」の2つの病名が必要。低蛋白血症は不可。単なる肝硬変の病名では不可。

肝不全=非代償性肝硬変を示す病名（肝性浮腫、腹水、肝性脳症）があれば認める

・ ただし黄疸があると不可（病名に閉塞性黄疸などと書いてあるとダメ）。

黄疸がステント治療で回復した場合は回復してからなら投与・算定可

・ 腹水・浮腫または肝性脳症を現有するか既往のある非代償性肝硬変をいう
※投与前の血清アルブミン測定値の記載が必要（査定されてから書いてもダメ）

15. アミノレバン

適応：

1) 慢性肝不全の肝性脳症の改善

2) 肝性脳症を伴う重症慢性肝不全において、栄養状態の改善を目的に投与
・・・したがって慢性肝不全+肝性脳症+その原因病名が必要

禁忌：急性腎不全には禁忌で査定の対象。腎不全が既に軽快していれば病名を中止する。

16. モニラック（ラクツロース）

適応

高アンモニア血症による脳波の異常、手指振戦、精神神経障害に対して使用
・・・したがって、高アンモニア血症+肝性脳症の2つの病名とその原因病名（例えば、C型肝炎、肝硬変）が必要

例：肝細胞癌、C型肝硬変の病名はあるが高アンモニア血症と肝性脳症の病名がなく A 査定

17. ウルソ

病名によって投与量が異なる

適応病名と投与量の2つがポイントになる

1) 利胆（胆道系疾患、胆汁うっ滞を伴う肝疾患）、慢性肝疾患の肝機能改善、消化不良（小腸切除後後遺症、炎症性小腸疾患）： 50mgx 3 = 150mg
・・・単に『慢性肝炎』では 300mg/日までです。

2) 外郭石灰化のないコレステロール系胆石： 200mgx 3 = 600mg・・・
最大 900mg

単なる「胆石」という病名では 300mg に減額される

3) PBC における肝機能改善： 200mgx 3 = 600mg・・・最大 900mg

4) C型慢性肝炎における肝機能の改善： 200mgx 3 = 600mg
・・・最大 900mg

禁忌による査定の可能性があるのは：

- 1) 利胆作用があるので、胆道閉塞の可能性がある場合
(総胆管結石性胆管炎、胆管内結石、胆道がん)
・ ・ ERCP などで総胆管結石を解除したとわかるように詳記を書く
- 2) PBC で肝硬変が高度で黄疸が出ているときなどは査定の可能性あり

18. 肝硬変患者への高脂血症治療剤；

スタチンのクレストール投与は禁忌であり、査定される。

19. リバクレオン

リバクレオンは、非代償期の慢性膵炎、膵切除、膵嚢胞繊維症などに伴う膵外分泌機能不全 (P E I) に対する膵酵素補充療法で使用される薬剤。

例：膵頭部癌で処方し D 査定 ・ ・ おそらく膵癌術後ではなく、膵外分泌機能不全の病名もないため

20. 強ミノ C 静脈注射について

40~60mL まで、最大で 100mL まで ・ ・ ・ したがって 40mL アンプルなら 2A まで

21. ラエンネック

慢性肝疾患の肝機能障害が適応なので、肝機能障害の病名だけでは査定の対象。慢性肝炎などの慢性疾患病名が必要。

22. インターフェロン投与

C 型慢性肝炎に伴う次の合併症に対してインターフェロン投与を認めるかどうか

肝癌	原則認めない ただし、局所療法（肝切除、ラジオ波など）で完治している場合は認める
肝硬変	認めない 「C 型代償性肝硬変」に天然型インターフェロン（フェロン、スミフェロン）は保険適応がある 肝硬変に至らない初期の PBC は認める 原則、核酸アナログを用いる。
自己免疫性肝炎	認めない
肝不全	認めない
アルコール性肝炎	認めない アルコール性脂肪肝、アルコール性肝障害のような肝予備能が十分に保たれている場合は認める

肝移植例	認める ただし詳細なコメントを必要とする
------	-------------------------

① ⑤で認めない場合は原則返戻扱いにする

23. 肝炎に対する抗ウイルス剤について

1) レベトール CP(リバビリン) : C 型非代償性肝硬変に使用して査定
リバビリンと IFN α -2b との併用投与により、ウイルス排除効果及び ALT 改善効果の持続性に優れている

適応は C 型慢性肝炎と C 型代償性肝硬変

2) テラビック

HCV RNA 量が高値の未治療患者、インターフェロン単独またはリバビリンの併用療法で無効または再燃の患者・・・投与期間は 12 週間まで、ペグインターフェロンとリバビリンと併用すること（単独投与は不可）

3) C 型肝炎に対するダクルインザ、スンベプラ

①治療中に肝癌発症した場合はそのまま治療継続もやむなし

②副作用のため治療を中止した場合、再度 24 週間の再治療を認めることはできない。

他の薬剤を用いるべき。

24. 肝硬変、高アンモニア血症へのカナマイシン投与は 14 日以内なら認められる。14 日を超えるものは医学的判断。

ポリミキシン B も同様。

25. B 型肝炎 + 肝硬変ではゼフィックス投与を認める。肝癌病名がある場合は認められないが、B 型肝炎に対してゼフィックスが投与された後に肝癌発症の場合は認める。

26. フオイパンの適応は慢性膵炎の急性症状の寛解だが、慢性膵炎のみでも認められる。

循環器関係

27. 新しい抗凝固剤 (NOAC) :

- ・適応病名は、非弁膜症性心房細動のみ・・・正確な病名が必要
- ・循環器学会は AR、MR は非弁膜症性と定義したので、もしも MR などの病名があるために査定されたと思われる場合は再審査のこと。
- ・腎機能、年齢、体重により投与量が異なる。

併存病名に腎不全、糖尿病性腎症などがあるにもかかわらず、通常量が出ていると減量査定されるか (B 査定)、下手をすると全査定される (D 査

定)。

28. アーチスト・・・アーチストには以下の種類がありそれぞれ適応が異なる。
特に 2.5 mg錠は心不全の病名がないと査定、高血圧に対する適応はない。

頻脈性心房細動は後発医薬品には適応がない。

アーチスト	心不全	高血圧	頻脈性心房細動
1.25 mg	○	x	x
2.5 mg	○	x	○
10 mg	○	○	○
20 mg	x	○	○

29. メインテート

0.625m g 錠剤は心不全のみが適応。

高血圧の病名のみで心不全の病名なく 0.625m g 錠剤を使用すると A 査定になる。

2.5m g、5m g 錠剤は心不全、高血圧、心房細動性頻脈などの適応がある。

30. セララ

適応は高血圧のみ、心不全に適応なし。

腎機能障害（腎不全、CKD3b～4 よりも高度の場合）、高カリウム血症、早期糖尿病症性腎症があると禁忌で査定。ケーキサレート、カリメートなどと併用されている時（併用禁忌）も査定の対象。

31. リピディル（フィブラート剤）

スタチンと併用禁忌（横紋筋融解症が起こりやすい）

リピディルとゼチーア併用は胆石が生じやすいので慎重投与～禁忌。

胆嚢疾患があると胆石ができやすいので禁忌。

軽度でも肝障害があると肝障害悪化があるので禁忌。

32. クレストール

肝硬変で禁忌・・・高脂血症＋肝硬変という組み合わせ病名になっていると査定される。

33. 抗血小板剤

新しい抗血小板剤は適応が限られているので注意

プラビックス：冠動脈ステント留置術後、脳梗塞、頸動脈狭窄症、
閉塞性動脈硬化症が適応

心原性脳梗塞には適応がない!!

・・・脳梗塞と心房細動の病名があると査定の可能性大

エフィエント：冠動脈ステント留置術後にしか適応はない

単なる狭心症などで使用すると当然 A 査定

プラビックスもエフィエントも P C I 予定も患者には 14 日までを限度に前もって処方できるが、P C I 予定というコメントと予定日を記載する必要がある。

(検査入院も可・・・狭心症で CAG+PCI 予定とコメントする)。

34. シベンゾリン

不整脈（頻脈性不整脈とか発作性心房細動）の病名なく、慢性うっ血性心不全急性増悪で処方

心不全でも処方することはあるが急性心不全で処方する場合はコメントが必要。

通常、急性心不全で外来処方することはない・・・これは急性心不全の病名の消し忘れ!!

35. サムスカ

利尿剤の併用が必要

30 日まで、1 ヶ月毎に肝腎機能、電解質のチェックが必要

呼吸器関係

36. キプレス

気管支喘息、アレルギー性鼻炎などの病名が必要。

37. シムジコートタービュヘイラー（ステロイド+β刺激剤）

気管支喘息、COPD（肺気腫、慢性気管支炎）が適応

例：慢性咳嗽で処方して A 査定

38. 咳喘息での治療は段階を踏むこと

症状とβ刺激剤が有効であることから診断し、その後炎症を抑えるために気管支喘息と同じような治療に移行する。

したがって、最初から吸入ステロイド剤などが出されると、診断過程を踏んでいないということで査定される。他院ですでに診断されているときはそのことを詳記に書く必要がある。

39. ベナンバックス注

適応：カリニ肺炎

40. 結核に対する生物学的製剤について

①活動性結核に対しては生物学的製剤は禁忌で査定

②潜在性結核の病名があれば I N H, R F P の予防学的投与ができる。

糖尿病関係

41. DM の薬について

グリミクロン、メルビン（メデット）、アクトスは腎不全、心不全がある場合は原則不可

アマリールは CKD 4 期以上で禁忌、詳記あってもおそらく査定される。急性心不全でアクトスが出ている場合は必ず査定、慢性心不全でも原則査定される。

メルビンはどんなことがあっても 3T まで。

メルビンは軽度の腎機能障害でも、あれば必ず査定される（禁忌のため）

・・・心不全がないのだが BNP をするため保険病名で心不全をつけていたり、保険病名で腎機能障害とか DM 早期腎機能障害、蛋白尿とつけていると、思わず査定される（DM 早期腎機能障害程度であれば査定はされない・・・再審査のこと）。

メトグルコは軽度腎機能障害、軽度心不全であれば原則査定されない。

審査員は処方の内容から心不全、腎不全が高度か否かを判定している

・・・詳記を書けばいいかもしれない

	腎機能障害	心機能障害
アクトス	重篤な腎機能障害で不可 以下の病名は重篤と判断 ・慢性腎不全+腎性貧血 ・ネフローゼ症候群 ・腎性貧血 ・腎不全 4 期以降 ARB 投与は Cr<2 として重篤な腎機能障害ではないと判断	軽症でも既往でも不可 主査は心不全の病名ですべて原則査定する 投与薬剤で個別に判断は審査員に任せる ・利尿剤が出ていれば不可 ・心不全の薬が何も出ていなければ算定
メデット	軽症腎機能障害でも不可	高度の心機能障害は不可
メトグルコ	中等症腎機能障害まで可	中等症心機能障害まで可
ジャヌビア	重篤な腎機能障害は不可	
グリクラシド	重篤な腎機能障害は不可	

中等度腎機能障害とは、eGFR<50ml /分以下と思われる。したがって CKD III b 以降を言うことになる。

慢性腎不全も本来は腎機能障害が少しでもあれば腎不全だが、保険的には中等度腎機能障害以上の機能低下をいうと考えられる・・・誰もこのことを支持している者はいないが、色々な添付文書や書類を呼んでいると私的にはこ

ういう結論になった。

腎臓関係

42. クレメジン

・・・CRFの進行抑制に使用、StageⅢ以上で使用できるがHD患者には使用不可（使用してもしょうがない）。

早期糖尿病性腎症の診断名があり、使用して査定されることがあるので注意。

43. 腎不全患者に「ビーフリード」輸液は禁忌

・・・ほかに腎不全専用のアミノ酸液があるのでそちらを使用すること。

保険病名的に腎不全と記載して、ビーフリードが査定されることがあるので注意。

44. ウリトス・・・過剰活動性膀胱での頻尿の薬、

よって、前立腺がん、前立腺肥大にはすぐには使用できない

45. カリメート、アーガイメイトゼリーなど：高K血症と慢性腎不全（または急性腎不全）の病名が併記されていないと査定される。

カリメート、アーガイメイトゼリーは腎不全、高K血症、急性腎不全、慢性腎不全のいずれかの病名があれば本来は認められるが、保険上上記のようになっている。

対策：薬剤性高K血症などではコメントを書けば腎不全+高K血症の病名でなくとも認められる。

46. ベタニス

適応：過活動膀胱による切迫頻尿

抗菌剤、抗ウイルス剤 関係

47. 帯状疱疹へのバルトレックス（500mg）は6T/日を7日間使用して、効果があればさらに7日間程度使用する・・・一度に21日分出すことはない経口剤と外用剤を併用すると外用剤はB査定・・・平成29年から併用が認められた可能性あり。

注射薬は免疫不全などの基礎疾患がある場合のみ。

48. ブイフェンド（ポリコナゾール）：3420円/1錠

効能は、重症、難治性真菌感染症

侵襲性アスペルギルス、肺アスペルギルス、カンジダ、クリプトコッカス
など

カンジダ感染では他の抗真菌剤が無効などの場合に使用（詳記が必要）

事例1、真菌症の病名なしでの査定（21日分で47880円）

入院時、前医の薬をそのまま継続しているが薬の内容を確認していない。よって薬に対応する病名をつけていない。入院時の薬剤師管理でも前医からずっと飲んでいるということのみ確認して、病名との対応をしていないと思われる。

病名は胃癌術後、総胆管結石疑い、非定型的抗酸菌症

事例2、口腔カンジダ症、ALLの病名で査定

カンジダ感染ではブイフェンドの必要性の詳記が必要

49. 抗生剤使用の一般的注意

1) 投与期間 14日以内と明示されているもの

(1) 抗生剤

マキシピーム、メロペン、ファーストシン

硫酸アルベカシン（ハベカシン、ブルバトシン）

パシル

(2) MRSA薬

確定診断が必要

感染部位（臓器）の明記必要・・・MRSA肺炎、MRSA敗血症など

原則14日以内：膿瘍形成例、難治例（人工弁）で14日以上
の投与が必要な場合は詳記を書くこと。

(3) 抗真菌剤

β -Dグルカン1回のみの検査ではジフルカンは14日以内の投与のみ

詳記のないジフルカンは200mg/日まで

ファンガードは2～3週間以内まで

(4) 抗ウイルス剤

ヘルペス脳炎へのゾビラックスは6V/日を14日まで

単なる脳炎へのゾビラックス投与は不可

2) ユナシンS 静注用の適応

肺炎、肺膿瘍、膀胱炎、腹膜炎

急性気管支炎などの上気道炎には適応なし

・・・ただし扁桃周囲膿瘍、咽頭膿瘍、虫垂炎には認める

- 3) タミフルの予防投与：
薬事法の適応としては認められているが、保険給付としては治療の目的で使用している場合になっているので算定はできない。費用は自費のこと。算定するならインフルエンザと保険病名をつけて、治療としての量を処方して予防としての内服方法を患者に指導すること。
- 4) 平成22年11月29日から RFP、EB が非結核性抗酸菌症に保険適用となる。
50. 造血幹細胞移植後の単純疱疹、帯状疱疹予防に対する抗ウイルス剤投与について
- ①アシクロビル
35日までは、200 mgを1日5回
36日～180日までは、200 mg 1日1回・・・ただし免疫抑制薬使用中のみ
- ②バラシクロビル
35日までは、500 mg 1日2回
36日～180日までは、500 mg 1日1回・・・ただし免疫抑制薬使用中のみ
51. 爪白癬へのイトリゾール内服は通常6か月まで。パルス療法で3か月まで。

血液関係

JCHO 病院での血液査定内容（注意事項）

1. 難治性悪性リンパ腫、再発性悪性リンパ腫 が適応だったが単に「悪性リンパ腫」の病名で高額査定
2. 溶血性貧血患者に対しイントラリポス 250mL (670 円) を毎日 DIV してすべて査定。溶血性貧血は禁忌のため？
3. M.Myeloma に対してベナンボックス注 300mg を連月投与、漫然と予防投与していると判断されたのか？
然るべき理由があるのなら復活の可能性があるので再審を。
4. HBV 核酸定量
B型肝炎疑い、Denovo 肝炎、白血病で検査し全て査定、9件あり
1月に2回検査をしていることもある。
あまり多いと傾向的と判断され機械的に査定される。
5. 自己免疫性溶血性貧血に対してハプトグロビン (1500 円) を連月、毎月測定し査定
本当に必要なら詳記を書くこと
6. エリスロポイエチン
赤血球関係の病名がない

新規採用医薬品添付文書情報

■DICS未登録の新薬について、当院採用品目の添付文書を掲載しています。

【2018年5月採用】

テセントリク点滴静注1200mg

⇒ 添付文書

ネキシウム懸濁用顆粒分包10mg・20mg

⇒ 添付文書

規制区分：生物由来製品
劇薬
処方箋医薬品^{注2)}
貯法：遮光、2～8℃保存
使用期限：包装に表示の使用期限内に使用すること

抗悪性腫瘍剤／抗PD-L1^{注1)} ヒト化モノクローナル抗体

テセントリク[®]点滴静注1200mg

TECENTRIQ[®]

アテゾリズマブ(遺伝子組換え)注

承認番号	23000AMX00014
薬価収載	2018年4月
販売開始	2018年4月
国際誕生	2016年5月



Roche ロシュグループ

【警告】

1. 本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の使用が適切と判断される症例についてのみ投与すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。
2. 間質性肺炎患があらわれ、死亡に至った症例も報告されているので、初期症状(呼吸困難、咳嗽、発熱等)の確認及び胸部X線検査の実施等、患者の状態を十分に観察すること。異常が認められた場合には本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと(「慎重投与」、「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項参照)。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

販売名		テセントリク点滴静注1200mg
成分含有量 (1バイアル中)	内容量	20.0mL
	有効成分	アテゾリズマブ(遺伝子組換え) ^{注3)} 1200mg
	添加物	L-ヒスチジン62.0mg、氷酢酸16.5mg、精製白糖821.6mg、ポリソルベート20 8.0mg
	剤形	注射剤(バイアル)
	性状	澄明～乳白光を呈する無色～帯褐色の液
	pH	5.5～6.1
	浸透圧比	0.45～0.80

注3)本剤は、チャイニーズハムスター卵巣細胞を用いて製造される。

【効能・効果】

○切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌

<効能・効果に関連する使用上の注意>

1. 化学療法未治療患者における本剤の有効性及び安全性は確立していない。
2. 本剤の術後補助化学療法における有効性及び安全性は確立していない。
3. 臨床試験に組み入れられた患者の前治療歴等について、【臨床成績】の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、適応患者の選択を行うこと。

【用法・用量】

通常、成人にはアテゾリズマブ(遺伝子組換え)として1回1200mgを60分かけて3週間間隔で点滴静注する。なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。

<用法・用量に関連する使用上の注意>

1. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性及び安全性は確立していない。
2. 投与時には本剤20mLを注射筒で抜き取り、日局生理食塩液約250mLに添加し、点滴静注する。
3. 本剤投与により副作用が発現した場合には、以下の基準を目安に、本剤の休薬等を考慮すること。

副作用	程度	処置
間質性肺炎患等の呼吸器障害	Grade 2の場合	Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合は、本剤を中止する。
	Grade 3以上又は再発性の場合	本剤を中止する。
肝機能障害	Grade 2(AST若しくはALTが基準値上限の3～5倍又は総ビリルビンが基準値上限の1.5～3倍の増加)が5日を超えて継続する場合	Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合は、本剤を中止する。
	Grade 3以上(AST若しくはALTが基準値上限の5倍超又は総ビリルビンが基準値上限の3倍超に増加)の場合	本剤を中止する。
大腸炎/下痢	Grade 2又は3の場合	Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合は、本剤を中止する。
	Grade 4の場合	本剤を中止する。
肺炎	・Grade 3以上のアミラーゼ又はリパーゼ高値 ・Grade 2又は3の肺炎	Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合は、本剤を中止する。
	Grade 4又は再発性の肺炎	本剤を中止する。

注1) PD-L1: Programmed Death-Ligand 1
注2) 注意-医師等の処方箋により使用すること

副作用	程度	処置
内分泌障害	Grade 3以上の高血糖	血糖値が安定するまで、本剤を休薬する。
	・症候性の甲状腺機能低下症 ・症候性の甲状腺機能亢進症、又は甲状腺刺激ホルモン値0.1mU/L未満の無症候性の甲状腺機能亢進症	左記の状態が回復するまで、本剤を休薬する。
	Grade 2以上の副腎機能不全	Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合は、本剤を中止する。
脳炎、髄膜炎	全Grade	本剤を中止する。
神経障害	Grade 2の場合	Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合は、本剤を中止する。
	Grade 3以上の場合	本剤を中止する。
	全Gradeのギラン・バレー症候群	本剤を中止する。
重症筋無力症	全Grade	本剤を中止する。
皮膚障害	Grade 3の場合	Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合は、本剤を中止する。
	Grade 4の場合	本剤を中止する。
眼障害	Grade 2の場合	Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合は、本剤を中止する。
	Grade 3以上の場合	本剤を中止する。
Infusion reaction	Grade 1の場合	投与速度を50%に減速する。なお、軽快した後30分間経過観察し、再発しない場合には投与速度を元に戻すことができる。
	Grade 2の場合	投与を中断し、軽快後に投与速度を50%に減速し再開する。
	Grade 3以上の場合	本剤を直ちに中止する。

GradeはNCI-CTCAE(National Cancer Institute-Common Terminology Criteria for Adverse Events)v4.0に準じる。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)自己免疫疾患の合併又は慢性的若しくは再発性の自己免疫疾患の既往歴のある患者[免疫関連の副作用が発現又は増悪するおそれがある。]
- (2)間質性肺疾患のある患者又はその既往歴のある患者[間質性肺疾患が発現又は増悪するおそれがある(「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項参照)。]

2. 重要な基本的注意

- (1)本剤のT細胞活性化作用により、過度の免疫反応に起因すると考えられる様々な疾患や病態があらわれることがある。患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、過度の免疫反応による副作用の発現を考慮し、適切な鑑別診断を行うこと。過度の免疫反応による副作用が疑われた場合には、副腎皮質ホルモン剤の投与等を考慮すること。また、本剤投与終了後に重篤な副作用があらわれることがあるので、本剤投与終了後も患者の状態を十分に観察すること(「重大な副作用」の項参照)。
- (2)間質性肺疾患があらわれることがあるので、本剤の投与にあたっては、初期症状(呼吸困難、咳嗽、発熱等)の確認及び胸部X線検査の実施等、患者の状態を十分に観察すること。また、必要に応じて、胸部CT、血清マーカー等の検査を実施すること(「重大な副作用」の項参照)。
- (3)AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 γ -GTP、ビリルビン等の上昇を伴う肝機能障害があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与期間中は定期的に肝機能検査を行い、患者の状態を十分に観察すること(「重大な副作用」の項参照)。
- (4)甲状腺機能障害、副腎機能障害及び下垂体機能障害があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与期間中は定期的に甲状腺機能検査(TSH、遊離T3、遊離T4等の測定)等を行い、患者の状態を十分に観察すること。また、必要に応じて血中コルチゾール、ACTH等の臨床検査、画像検査等の実施も考慮すること(「重大な副作用」の項参照)。
- (5)Infusion reactionがあらわれることがある。Infusion reactionが認められた場合には、適切な処置を行うとともに、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察すること(「重大な副作用」の項参照)。

3. 副作用

非小細胞肺癌患者を対象とした国際共同第Ⅲ相臨床試験(OAK試験)で本剤が投与された609例(日本人56例を含む)において、390例(64.0%)に副作用が認められた。主な副作用は、疲労87例(14.3%)、悪心53例(8.7%)、食欲減退52例(8.5%)、無力症51例(8.4%)、発熱50例(8.2%)、下痢47例(7.7%)、発疹42例(6.9%)、そう痒症38例(6.2%)等であった。(承認時)

(1)重大な副作用

- 1) **間質性肺疾患**：間質性肺疾患(1.3%)があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 2) **肝機能障害、肝炎**：AST(GOT)増加(3.9%)、ALT(GPT)増加(3.8%)、Al-P増加(1.3%)、 γ -GTP増加(0.5%)、ビリルビン増加(0.5%)等を伴う肝機能障害、肝炎(0.5%)があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 3) **大腸炎、重度の下痢**：大腸炎(0.3%)、重度の下痢(0.5%)があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、持続する下痢、腹痛、血便等の症状があらわれた場合には、本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 4) **膵炎**：膵炎(頻度不明^{※4)})があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 5) **1型糖尿病**：1型糖尿病(0.2%)があらわれ、糖尿病性ケトアシドーシスに至るおそれがあるので、口渇、悪心、嘔吐等の症状の発現や血糖値の上昇に十分注意すること。1型糖尿病が疑われた場合には本剤の投与を中止し、インスリン製剤を投与する等の適切な処置を行うこと。

- 6) **甲状腺機能障害**：甲状腺機能低下症(2.5%)、甲状腺機能亢進症(0.8%)等の甲状腺機能障害があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 7) **副腎機能障害**：副腎機能不全(0.2%)等の副腎機能障害があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 8) **下垂体機能障害**：下垂体炎(0.2%)等の下垂体機能障害があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 9) **脳炎、髄膜炎**：脳炎(0.2%)、髄膜炎(0.5%)があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 10) **神経障害**：末梢性ニューロパチー(1.1%)、ギラン・バレー症候群(0.5%)等の神経障害があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 11) **重症筋無力症**：重症筋無力症(頻度不明^{注4)})があらわれることがあるので、筋力低下、眼瞼下垂、呼吸困難、嚥下障害等の観察を十分に行い、異常が認められた場合には本剤の投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤を投与する等の適切な処置を行うこと。また、重症筋無力症によるクリーゼのため急速に呼吸不全が進行することがあるので、呼吸状態の悪化に十分注意すること。
- 12) **重度の皮膚障害**：中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis：TEN)(頻度不明^{注4)})、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)(頻度不明^{注4)})、多形紅斑(0.3%)等の重度の皮膚障害があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 13) **腎機能障害**：急性腎障害(0.3%)、腎不全(頻度不明^{注4)})、尿細管間質性腎炎(頻度不明^{注4)})等の腎機能障害があらわれることがあるので、定期的に腎機能検査を行い、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 14) **筋炎、横紋筋融解症**：筋炎(頻度不明^{注4)})、横紋筋融解症(0.2%)があらわれることがあるので、筋力低下、筋肉痛、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇等の観察を十分に行い、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。
- 15) **Infusion reaction**：Infusion reaction(0.8%)があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には本剤の投与を中止する等の適切な処置を行うこと。また、重度のInfusion reactionがあらわれた場合には本剤の投与を直ちに中止し、適切な処置を行うとともに、症状が回復するまで患者の状態を十分に観察すること。

(2)その他の副作用

次のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

(頻度不明は※)

	5%以上又は頻度不明 ^{注4)}	1%以上～5%未満	1%未満
精神神経系		頭痛、不眠症、味覚異常、浮動性めまい、錯感覚	

	5%以上又は頻度不明 ^{注4)}	1%以上～5%未満	1%未満
眼			眼乾燥
消化器	悪心(8.7%)、食欲減退(8.5%)、下痢(7.7%)、嚥下障害*	便秘、嘔吐、口内炎、腹痛、口内乾燥	
循環器			潮紅、低血圧
呼吸器		咳嗽、呼吸困難、上気道感染、胸水、肺炎	低酸素症、鼻閉
皮膚	発疹(6.9%)、そう痒症(6.2%)	皮膚乾燥、斑状丘疹状皮疹	ざ瘡様皮膚炎、そう痒性皮疹、乾癬、紅斑、寝汗、蕁麻疹
筋骨格系		関節痛、筋肉痛、筋骨格痛、背部痛	四肢痛、筋骨格系胸痛、筋痙縮
膵	アミラーゼ増加*、リパーゼ増加*		
泌尿器			血中クレアチニン増加
血液		貧血、血小板減少、リンパ球減少、好中球減少、白血球減少	
代謝		低ナトリウム血症、低アルブミン血症、低カリウム血症、高血糖、低マグネシウム血症	高カリウム血症、脱水、低リン酸血症、血中甲状腺刺激ホルモン増加、低カルシウム血症
その他	疲労(14.3%)、無力症(8.4%)、発熱(8.2%)	体重減少、インフルエンザ様疾患、末梢性浮腫、悪寒、倦怠感、粘膜の炎症	過敏症

注4)各事象の発現頻度は、OAK試験の頻度を記載し、OAK試験以外で報告された副作用については頻度不明とした。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下していることが多いので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)本剤の妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、本剤を投与しないことを原則とするが、やむを得ず投与する場合には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、妊娠する可能性のある女性には、本剤投与中及び最終投与後一定期間は、適切な避妊法を用いるように指導すること。[本剤を用いた生殖発生毒性試験は実施されていない。本剤を投与すると、胎児に対する免疫寛容が妨害され、流産率又は死産率が増加する可能性がある。また、ヒトIgGは胎盤を通過することが知られており、本剤は母体から胎児へ移行する可能性がある。]

(2)授乳婦に投与する場合には、授乳を中止させること。[本剤のヒト乳汁中への移行性については不明であるが、ヒトIgGはヒト乳汁中に排出されることが知られている。]

6. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。[使用経験がない。]

****7. 適用上の注意**

(1)調製時：

- 1) 調製時には、日局生理食塩液以外は使用しないこと。
- 2) 調製時は静かに転倒混和すること。
- 3) 用時調製し、調製後は速やかに使用すること。

(2)投与時：

- 1) 0.2又は0.22 μ mのインラインフィルターを使用すること。
- 2) 点滴静注のみとし、静脈内大量投与、急速静注はしないこと。
- 3) 他剤との混注をしないこと。

8. その他の注意

- (1) 国内外の臨床試験において、本剤に対する抗体の産生が報告されている。
- (2) カニクイザルに本剤50mg/kgを週1回、26週間反復投与した毒性試験において、雌動物に月経周期異常が認められたとの報告がある。

【薬物動態】

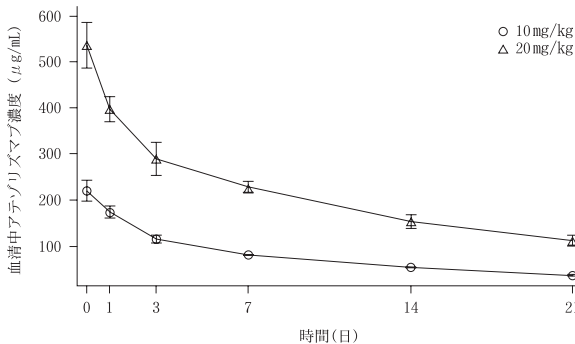
1. 血中濃度

(1)単回投与(日本人における成績)¹⁾

日本人の進行固形癌患者3例ずつに本剤10又は20mg/kg^{注5)}を90分(±15分)間点滴静注したときの血清中アテゾリズマブ濃度推移は以下のとおりであった。両用量群の全身クリアランスは同程度の値を示し、分布容積はほぼ血漿容量に相当した。

注5)承認された用法・用量：1200mgを3週間間隔で60分かけて点滴静注

単回投与時の血清中濃度推移(各用量N=3、平均値±標準偏差)



単回投与時の薬物動態パラメータ(各用量N=3、平均値±標準偏差)

投与量 (mg/kg)	C _{max} * (μg/mL)	AUC _{inf} (μg·day/mL)	V _{ss} (L)	CL (L/day)	t _{1/2} (day)
10	220±21.9	2290±101	3.72±1.14	0.236±0.0572	11.7±0.969
20	536±49.4	6630±668	3.82±0.718	0.213±0.0609	13.0±1.32

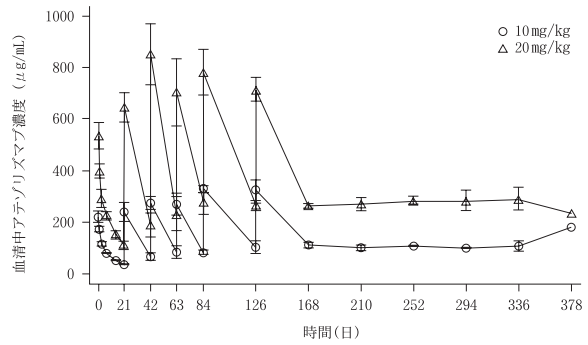
*C_{max}：初回投与時(Cycle1 Day1)の投与後30分の採血

(2)反復投与(日本人における成績)¹⁾

日本人の進行固形癌患者3例ずつに本剤10又は20mg/kg^{注5)}を3週間間隔で90分(±15分、初回投与における忍容性が確認された場合、2回目以降30分(±10分)に短縮可能)間点滴静注したときの血清中アテゾリズマブ濃度推移は以下のとおりであった。蓄積係数の平均値は1.25~3.06であった。

注5)承認された用法・用量：1200mgを3週間間隔で60分かけて点滴静注

反復投与時の血清中濃度推移
(各用量N=1~3、平均値±標準偏差)



(3)反復投与(日本人における成績)²⁾

非小細胞肺癌患者613例(日本人患者56例)を対象に本剤1200mgを3週間間隔で60分(±15分、初回投与における忍容性が確認された場合、2回目以降30分(±10分)に短縮可能)間点滴静注したときの日本人における血清中アテゾリズマブ濃度は以下のとおりであった。

反復投与時の日本人における血清中アテゾリズマブ濃度(平均値±標準偏差(例数))

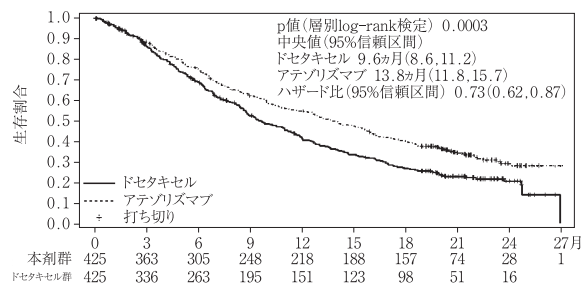
サイクル	採血時点	血清中濃度(μg/mL)
Cycle1 Day1	投与30分後	452±107(N=56)
Cycle2 Day1	投与前	98.2±32.4(N=46)
Cycle3 Day1	投与前	162±40.8(N=40)
Cycle4 Day1	投与前	188±55.6(N=35)
Cycle8 Day1	投与前	224±99.1(N=18)

【臨床成績】

<国際共同第Ⅲ相臨床試験(OAK試験)における成績>³⁾

プラチナ製剤を含む化学療法歴^{注6)}のある切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者1225例(本剤群613例、ドセタキセル群612例)を対象に、本剤とドセタキセルとの有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相試験を実施した。本剤1200mg又はドセタキセル75mg/m²を3週間間隔で点滴静注した。最初にランダム化された850例(日本人64例を含む)の全患者集団において、本剤群でドセタキセル群と比較して主要評価項目である全生存期間の有意な延長が認められ(ハザード比[95%信頼区間]:0.73[0.62,0.87]、P=0.0003[層別log-rank検定])、中央値[95%信頼区間]は本剤群で13.8[11.8,15.7]カ月、ドセタキセル群で9.6[8.6,11.2]カ月であった。注6)EGFR遺伝子変異陽性又はALK融合遺伝子陽性の患者では、プラチナ製剤を含む化学療法に加え、それぞれEGFR阻害作用又はALK阻害作用を有する抗悪性腫瘍剤による治療歴がある患者が組み入れられた。

OAK試験の全生存期間のKaplan-Meier曲線(全患者集団)



【薬効薬理】^{4,5)}

アテゾリズマブは、ヒトPD-L1に対するヒト化モノクローナル抗体であり、PD-L1とその受容体であるPD-1との結合を阻害すること等により、がん抗原特異的なT細胞の細胞傷害活性を増強し、腫瘍の増殖を抑制すると考えられる。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：アテゾリズマブ(遺伝子組換え)

(Atezolizumab (Genetical Recombination))(JAN)

構造式：アミノ酸214個のL鎖2本とアミノ酸448個のH鎖2本からなるタンパク質

分子式：H鎖(C₂₁₉₁H₃₃₆₂N₅₈₀O₆₆₅S₁₅)

L鎖(C₁₀₃₂H₁₅₉₃N₂₇₃O₃₃₄S₆)

分子量：144, 610. 56

【承認条件】

1. 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。
2. 国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが集積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

【包装】

テセントリク点滴静注1200mg：20mL×1バイアル

【主要文献】

- 1) Mizugaki H et. al. : Invest New Drugs, 34 : 596, 2016
- 2) 社内資料：薬物動態解析報告書(OAK試験)
- 3) Rittmeyer A et. al. : Lancet, 389 : 255, 2017(OAK試験)
- 4) 社内資料：In vitro結合性及び結合阻害活性の評価
- 5) 社内資料：マウス腫瘍移植モデルにおける抗腫瘍効果の検討

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

中外製薬株式会社 メディカルインフォメーション部

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

電話：0120-189706

Fax：0120-189705

<https://www.chugai-pharm.co.jp/>

製造販売元



中外製薬株式会社
東京都中央区日本橋室町2-1-1

ロシュグループ

® F. ホフマン・ラ・ロシュ社(スイス)登録商標

84013750

**2018年4月改訂(第2版)
2018年1月作成

日本標準商品分類番号
872329

処方箋医薬品：
注意-医師等の処方箋により使用すること

プロトンポンプ・インヒビター

ネキシウム® 懸濁用顆粒分包装10mg

ネキシウム® 懸濁用顆粒分包装20mg

エソメプラゾールマグネシウム水和物懸濁用顆粒
Nexium® Granules for Suspension

	10mg	20mg
承認番号	23000AMX00003	23000AMX00004
薬価収載	2018年4月	
販売開始	2018年4月	
国際誕生	2000年3月	

貯法: 室温保存
使用期限: ケース等に表示

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

1. 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
2. アタザナビル硫酸塩、リルピピリン塩酸塩を投与中の患者(「相互作用」の項参照)

【組成・性状】

1. 組成

販売名	ネキシウム懸濁用顆粒分包装10mg	ネキシウム懸濁用顆粒分包装20mg
有効成分(1包中)	エソメプラゾール10mg (エソメプラゾールマグネシウム水和物として11.1mg)	エソメプラゾール20mg (エソメプラゾールマグネシウム水和物として22.3mg)
添加物	モノステアリン酸グリセリン、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、ステアリン酸マグネシウム、メタクリル酸コポリマー-LD、ポリソルベート80、白糖・デンプン球状顆粒、タルク、クエン酸トリエチル、無水クエン酸、クロスボロニン、ブドウ糖、キサンタンガム、黄色三酸化鉄	

2. 性状

販売名	ネキシウム懸濁用顆粒分包装10mg	ネキシウム懸濁用顆粒分包装20mg
剤形	白色～うすい黄色の顆粒剤。 褐色の顆粒を認めることがある。	

【効能・効果】

<ネキシウム懸濁用顆粒分包装10mg>

- 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎、非びらん性胃食道逆流症、Zollinger-Ellison症候群、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制
- 下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎

<ネキシウム懸濁用顆粒分包装20mg>

- 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎、Zollinger-Ellison症候群、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制
- 下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎

<効能・効果に関連する使用上の注意>

1. 非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制の場合
関節リウマチ、変形性関節症等における疼痛管理等のために非ステロイド性抗炎症薬を長期継続投与している患者を投与対象とし、投与開始に際しては、胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往を確認すること。
2. 低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制の場合
血栓・塞栓の形成抑制のために低用量のアスピリンを継続投与している患者を投与対象とし、投与開始に際しては、胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往を確認すること。

3. ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の場合

- (1) 進行期胃MALTリンパ腫に対するヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は確立していない。
- (2) 特発性血小板減少性紫斑病に対しては、ガイドライン等を参照し、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切と判断される症例にのみ除菌治療を行うこと。
- (3) 早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃以外には、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制に対する有効性は確立していない。
- (4) ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎に用いる際には、ヘリコバクター・ピロリが陽性であること及び内視鏡検査によりヘリコバクター・ピロリ感染胃炎であることを確認すること。

【用法・用量】

<ネキシウム懸濁用顆粒分包装10mg>

○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison症候群

成人

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、胃潰瘍、吻合部潰瘍では8週間まで、十二指腸潰瘍では6週間までの投与とする。

小児

通常、1歳以上の幼児及び小児にはエソメプラゾールとして、体重20kg未満では1回10mgを、体重20kg以上では症状に応じて1回10～20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、胃潰瘍、吻合部潰瘍では8週間まで、十二指腸潰瘍では6週間までの投与とする。

○逆流性食道炎

成人

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、8週間までの投与とする。さらに再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法においては、1回10～20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。

小児

通常、1歳以上の幼児及び小児にはエソメプラゾールとして、体重20kg未満では1回10mgを、体重20kg以上では症状に応じて1回10～20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、8週間までの投与とする。

○非びらん性胃食道逆流症

成人

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回10mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、4週間までの投与とする。

小児

通常、1歳以上の幼児及び小児にはエソメプラゾールとして、1回10mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、4週間までの投与とする。

○非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。

○低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。

○ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して、アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びクラリスロマイシンとして1回200mg(力価)の3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、1回400mg(力価)1日2回を上限とする。
プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物及びクラリスロマイシン

の3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合は、これに代わる治療として、通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して、アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びメトロニダゾールとして1回250mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。

<ネキシウム懸濁用顆粒分包装20mg>

○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison症候群

成人

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、胃潰瘍、吻合部潰瘍では8週間まで、十二指腸潰瘍では6週間までの投与とする。

小児

通常、体重20kg以上の幼児及び小児にはエソメプラゾールとして、症状に応じて1回10～20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、胃潰瘍、吻合部潰瘍では8週間まで、十二指腸潰瘍では6週間までの投与とする。

○逆流性食道炎

成人

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、8週間までの投与とする。

さらに再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法においては、1回10～20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。

小児

通常、体重20kg以上の幼児及び小児にはエソメプラゾールとして、症状に応じて1回10～20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。なお、通常、8週間までの投与とする。

○非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。

○低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して1日1回経口投与する。

○ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して、アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びクラリスロマイシンとして1回200mg(力価)の3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、1回400mg(力価)1日2回を上限とする。

プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物及びクラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合は、これに代わる治療として、通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを用時水で懸濁して、アモキシシリン水和物として1回750mg(力価)及びメトロニダゾールとして1回250mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- (2) 肝障害のある患者〔本剤は肝代謝型であり、血中濃度が高くなるおそれがある。〕(「薬物動態」の項参照)
- (3) 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)

2. 重要な基本的注意

- (1) 治療にあたっては、経過を十分に観察し、病状に応じ治療上必要最小限の使用にとどめること。また、血液像、肝機能、腎機能等に注意すること。
- (2) 逆流性食道炎の維持療法については、再発・再燃を繰り返す患者に対し投与することとし、本来維持療法の必要のない患者に投与することのないよう留意すること。また、維持療法中は定期的に内視鏡検査を実施するなど観察を十分にすることが望ましい。なお、次の事項に十分注意すること。
 - 1) 再発の既往歴、症状の程度等を考慮して維持療法の用量を選択すること。
 - 2) 寛解状態が良好に保たれていると判断された場合は休薬又は減量を考慮すること。
- (3) 1日10mgの維持療法で再発が認められた場合は1日20mgで再治療を行うこと。ただし、1日20mgの維持療法で再発が認められた場合、あるいは予期せぬ体重減少、吐血、嚥下障害等の症状が認められた場合は、改めて内視鏡検査等を行い、その結果に基づいて他の適切な治療法に切り替えることを考慮すること。

4) 定期的に血液像、肝機能、腎機能等の検査を行うことが望ましい。

(3) 非びらん性胃食道逆流症患者の治療を目的として本剤を投与する場合は、次の事項に十分注意すること。

1) 投与に際しては問診により胸やけ、胃液逆流感等の酸逆流症状が繰り返し見られること(1週間あたり2日以上)を確認の上投与すること。なお、本剤の投与が胃癌、食道癌等の悪性腫瘍及び他の消化器疾患による症状を隠蔽することがあるので、内視鏡検査等によりこれらの疾患でないことを確認すること。

2) 非びらん性胃食道逆流症の治療については、投与開始2週後を目安として効果を確認し、症状の改善傾向が認められない場合には、酸逆流以外の原因が考えられるため他の適切な治療への変更を考慮すること。

(4) 本剤をヘリコバクター・ピロリの除菌の補助に用いる際には、除菌治療に用いられる他の薬剤の添付文書に記載されている禁忌、慎重投与、重大な副作用等の使用上の注意を必ず確認すること。

3. 相互作用

本剤は、主として肝代謝酵素CYP2C19及び一部CYP3A4で代謝される。

また、本剤の胃酸分泌抑制作用により、併用薬剤の吸収を上昇又は低下させることがある。

(1) 併用禁忌(併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アタザナビル硫酸塩(レイアタツツ)	アタザナビル硫酸塩の作用を減弱するおそれがある。	本剤の胃酸分泌抑制作用によりアタザナビル硫酸塩の溶解性が低下し、アタザナビルの血中濃度が低下することがある。
リルピピリン塩酸塩(エジュラント)	リルピピリン塩酸塩の作用を減弱するおそれがある。	本剤の胃酸分泌抑制作用によりリルピピリン塩酸塩の吸収が低下し、リルピピリンの血中濃度が低下することがある。

(2) 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ジアゼパム フェニトイン シロスタゾール	これらの薬剤の作用を増強することがある。	本剤は主に肝臓のチクトロームP450系薬物代謝酵素CYP2C19で代謝されるため、本剤と同じ代謝酵素で代謝される薬物の代謝、排泄を遅延させるおそれがある。(「薬物動態」の項参照)
ワルファリン	抗凝血作用を増強し、出血に至るおそれがある。プロトロンビン時間国際標準比(INR)値等の血液凝固能の変動に十分注意しながら投与すること。	
タクロリムス水和物	タクロリムスの血中濃度が上昇することがある。	相互作用の機序は不明である。
ジゴキシン メチルジゴキシン	これらの薬剤の作用を増強することがある。	本剤の胃酸分泌抑制作用によりジゴキシンの加水分解が抑制され、ジゴキシンの血中濃度が上昇することがある。
イトラコナゾール	イトラコナゾールの作用を減弱することがある。	本剤の胃酸分泌抑制作用によりイトラコナゾールの溶解性が低下し、イトラコナゾールの血中濃度が低下することがある。
チロシンキナーゼ阻害剤 ゲフィチニブ ニロチニブ エルロチニブ	これらの薬剤の血中濃度が低下することがある。	本剤の胃酸分泌抑制作用によりこれらの薬剤の溶解性が低下し、吸収が低下することがある。
ポリコナゾール	本剤のCmax及びAUCが増加するおそれがある。	ポリコナゾールは本剤の代謝酵素(CYP2C19及びCYP3A4)を阻害することが考えられる。
ネルフィナビルメシル酸塩	ネルフィナビルの血中濃度が低下するおそれがある。	相互作用の機序は不明である。
サキナビルメシル酸塩	サキナビルの血中濃度が上昇するおそれがある。	相互作用の機序は不明である。
セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品	本剤の代謝が促進され血中濃度が低下するおそれがある。	セイヨウオトギリソウが本剤の代謝酵素(CYP2C19及びCYP3A4)を誘導することが考えられる。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
メトトレキサート	メトトレキサートの血中濃度が上昇することがある。高用量のメトトレキサートを投与する場合は、一時的に本剤の投与を中止することを考慮すること。	相互作用の機序は不明である。

4. 副作用

成人

○逆流性食道炎、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制
総症例数756例中87例(11.5%)の副作用が報告されている。
主な副作用は、下痢7例(0.93%)、CK(CPK)上昇7例(0.93%)、肝機能異常5例(0.66%)、ALT(GPT)上昇4例(0.53%)等であった。(カプセル剤の承認時)

○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、非びらん性胃食道逆流症、Zollinger-Ellison症候群ならびに胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助

国内において臨床試験等の副作用発現頻度が明確となる試験を実施していない。(カプセル剤の承認時)

○低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

アジア共同第III相比較試験(日本人患者を含む)で総症例数214例中31例(14.5%)の副作用が報告されている。主な副作用は、下痢2例(0.9%)、びらん性胃炎2例(0.9%)、腹部膨満2例(0.9%)、胃ポリープ2例(0.9%)、貧血2例(0.9%)等であった。(カプセル剤の効能・効果追加承認時)

幼児及び小児

○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎、非びらん性胃食道逆流症、Zollinger-Ellison症候群

国内で実施された臨床試験で総症例数50例中2例(4.0%)の副作用が報告されている。その内訳は、下痢及び腹痛、光線過敏性反応各1例(2.0%)であった。(小児に対する用法・用量追加承認時)

(1) 重大な副作用

- 1) **ショック、アナフィラキシー**(いずれも頻度不明):ショック、アナフィラキシー(血管浮腫、気管支痙攣等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) **汎血球減少症、無顆粒球症**(いずれも頻度不明)、**血小板減少**(1%未満):汎血球減少症、無顆粒球症、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) **劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全**(いずれも頻度不明):劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) **中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)**(いずれも頻度不明):中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 5) **間質性肺炎**(頻度不明):間質性肺炎があらわれることがあるので、咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常(捻髪音)等が認められた場合には、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施すること。間質性肺炎が疑われた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- 6) **間質性腎炎**(頻度不明):間質性腎炎があらわれることがあるので、腎機能検査値(BUN、クレアチニン等)に注意し、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 7) **横紋筋融解症**(頻度不明):横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、筋肉痛、脱力感、CK(CPK)上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇等があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 8) **低ナトリウム血症**(頻度不明):低ナトリウム血症があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適

切な処置を行うこと。

- 9) **錯乱状態**(頻度不明):錯乱、激越、攻撃性、幻覚等があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) 重大な副作用(類薬)

類薬(オメプラゾール)で以下の副作用が報告されている。

- 1) **溶血性貧血**:溶血性貧血があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) **視力障害**:視力障害があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) **急性腎障害**:急性腎障害があらわれることがあるので、腎機能検査値(BUN、クレアチニン等)に注意し、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎、非びらん性胃食道逆流症、Zollinger-Ellison症候群、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制の場合

	1~5%未満	1%未満	頻度不明
過敏症		発疹、皮膚炎、そう痒症、蕁麻疹	光線過敏、多形紅斑
消化器		腹痛、下痢、嘔吐、便秘、口内炎、カンジダ症、口渇	鼓腸、悪心、顕微鏡的大腸炎(collagenous colitis, lymphocytic colitis)
肝臓	肝酵素上昇		
血液		白血球数減少	
精神神経系		頭痛、錯感覚、傾眠、浮動性めまい	不眠症、うつ病
その他		CK(CPK)上昇、回転性めまい、女性化乳房、味覚障害	脱毛症、関節痛、筋性めまい、女性化乳房、多汗症、筋力低下、低マグネシウム血症、末梢性浮腫

頻度は成人を対象としたカプセル剤の臨床試験(初回承認時及びアジア共同第III相比較試験)に基づき算出している。

ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の場合

副作用の頻度については、胃潰瘍又は十二指腸潰瘍における、本剤のラセミ体のオメプラゾール、アモキシシリン水和物及びクларリスロマイシンの3剤投与の成績に基づく。

	5%以上	1~5%未満	1%未満
過敏症 ^{注1)}		発疹	
消化器	下痢・軟便(19.9%)、味覚異常(7.8%)	口内炎、腹痛、食道炎、腹部膨満感	便秘、舌炎、悪心、口渇、十二指腸炎
肝臓 ^{注2)}			肝機能異常、AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、ALP上昇、ビリルビン上昇、LDH上昇
血液 ^{注2)}			好酸球数增多、血小板数減少、貧血、白血球数增多、白血球分画異常
精神神経系			頭痛、しびれ感、めまい、睡眠障害
その他			尿蛋白陽性、尿酸上昇、総コレステロール上昇、QT延長、発熱、倦怠感、カンジダ症、尿糖陽性、動悸、霧視

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

注2) 観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

5. 高齢者への投与

本剤は、主として肝臓で代謝されるが、高齢者では肝機能、その他生理機能が低下していることが多いので、低用量から投与を開始するなど慎重に投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) **妊婦等**:妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- (2) **授乳婦**:授乳中の婦人への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は、授乳を避けさせること。[本剤のラセミ体

であるオメプラゾールでの動物実験(ラット経口5mg/kg)で、母乳中へ移行することが報告されている。]

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児に対する安全性は確立していない(国内での使用経験がない)。

8. 過量投与

徴候、症状: エソメプラゾールの過量投与(280mg)により、脱力、軟便、悪心等が報告されている(年齢不明)。

処置: 症状に応じて適切な処置を行うこと。

9. 適用上の注意

薬剤交付時:

患者に本剤を交付する際には、患者用説明文書を渡し、使用方法を説明すること。

服用時:

本剤は約15mLの水に懸濁し、2~3分ほど置いて粘性が増してから服用することが望ましい。なお懸濁後は、顆粒が沈殿する可能性があるため30分以内に服用することが望ましい。服用後、容器に顆粒が残った場合は、さらに水を加えて懸濁し、服用すること。

薬剤は一度に使用し、開封後もしくは懸濁後の薬剤は保管せず、廃棄すること。

10. その他の注意

- ラットに本剤のラセミ体であるオメプラゾール1.7mg/kg以上を2年間経口投与した毒性試験で、胃にカルチノイドの発生がみられたとの報告がある。このカルチノイドの発生にはラットに種特異性が認められている。
- 本剤の長期投与中に良性の胃ポリープを認めたとの報告がある。
- 本剤の投与が、胃癌による症状を隠蔽することがあるので、悪性でないことを確認して投与すること。
- 非びらん性胃食道逆流症の治療において、食道内酸逆流の高リスクであると考えられる中高年齢者、裂孔ヘルニアを合併する患者のいずれにも該当しない場合には本剤の治療効果が得られにくい可能性がある。
- 海外における複数の観察研究で、プロトンポンプインヒビターによる治療において骨粗鬆症に伴う股関節骨折、手関節骨折、脊椎骨折のリスク増加が報告されている。特に、高用量及び長期間(一年以上)の治療を受けた患者で、骨折のリスクが増加した。
- 海外における主に入院患者を対象とした複数の観察研究で、プロトンポンプインヒビターを投与した患者においてクロストリジウム・デフィシルによる胃腸感染のリスク増加が報告されている。
- ヘリコバクター・ピロリの除菌判定上の注意: エソメプラゾール等のプロトンポンプインヒビターやアモキシシリン水和物、クラリスロマイシン等の抗生物質及びメロニダゾールの服用中や投与終了直後では、¹³C-尿素呼吸試験の判定が偽陰性になる可能性があるため、¹³C-尿素呼吸試験による除菌判定を行う場合には、これらの薬剤の投与終了後4週以降の時点で実施することが望ましい。
- ラットに類薬であるランソプラゾール(50mg/kg/日)、アモキシシリン水和物(500mg/kg/日)及びクラリスロマイシン(160mg/kg/日)を併用投与した試験で、母動物での毒性の増強とともに胎児の発育抑制の増強が認められている。

【薬物動態】

1. 血漿中濃度

(1) 単回投与

健康成人男性被験者(n=24, CYP2C19のhomo EM, hetero EM及びPM²⁾が同数)にエソメプラゾール10mg及び20mgを空腹時に単回経口投与したときの未変化体の薬物動態パラメータは以下のとおりである¹⁾。

投与量	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	AUC (ng·hr/mL)	T _{1/2} (hr)
10mg	245.2 (186.5-328.1)	2.50 (1.00-5.00)	552.6 ³⁾ (369.6-822.1)	1.05 ⁴⁾ (0.85-1.31)
20mg	490.5 (369.6-645.9)	2.75 (0.75-6.00)	1115.6 (801.3-1557.8)	1.08 (0.91-1.26)

T_{max}は中央値(最小値-最大値)、それ以外は幾何平均(95%信頼区間)、

a) n=23

(2) 反復投与

健康成人男性被験者(n=24, CYP2C19のhomo EM, hetero EM及びPM²⁾が同数)にエソメプラゾール10mg及び20mgを1日1回5日間反復経口投与したときの第5日目(空腹時投与)の未変化体の薬物動態パラメータは以下のとおりである¹⁾。

投与量	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	AUC (ng·hr/mL)	T _{1/2} (hr)
10mg	376.5 (283.2-497.4)	1.75 (1.00-5.00)	822.1 ³⁾ (556.1-1219.3)	1.16 ⁴⁾ (0.94-1.43)
20mg	884.2 (670.1-1167.5)	2.25 (1.00-4.00)	2068.9 (1485.2-2880.6)	1.25 (1.06-1.46)

T_{max}は中央値(最小値-最大値)、それ以外は幾何平均(95%信頼区間)、

a) n=23

投与3日目及び5日目のC_{max}は同程度であったことから、反復投与開始後3日には血漿中エソメプラゾール濃度は定常状態に到達したと考えられた。投与5日目の投与後12時間における血漿中エソメプラゾール濃度はほぼ検出限界以下に低下し、1日1回反復投与しても累積は認められなかった¹⁾。

(3) 幼児及び小児

幼児及び小児患者にエソメプラゾール10mg及び20mgを1日1回5日間以上反復経口投与したところ、未変化体の薬物動態パラメータは以下のとおりであった²⁾。

被験者の年齢及び体重	投与量 (mg)	n	エソメプラゾールの薬物動態パラメータ			
			C _{max} (ng/mL) ^{a)}	T _{max} (hr) ^{b)}	AUC _τ (ng·hr/mL) ^{a)}	T _{1/2} (hr) ^{c)}
1歳以上 10kg以上 20kg未満	10	9	854 (141.7%)	1.58 (1.03-5.92)	2261 (42.6%) ^{d)}	0.80±0.18 ^{d)}
1~11歳 20kg以上	10	10	537 (110.4%)	1.52 (0.92-6.00)	995 (78.3%) ^{e)}	0.97±0.55 ^{e)}
	20	10	1908 (41.5%)	1.47 (0.93-1.52)	3459 (50.9%)	1.08±0.44
12~14歳 20kg以上	10	9	311 (91.7%)	1.57 (0.93-2.95)	619 (105.5%)	1.37±0.88
	20	10	981 (51.3%)	1.75 (0.95-3.00)	1918 (33.6%)	1.06±0.25

a) 幾何平均値(変動係数)

b) 中央値(最小値-最大値)

c) 平均値±標準偏差 d) n=7 e) n=9

注) homo EM: CYP2C19*1/*1

hetero EM: CYP2C19*1/*2又はCYP2C19*1/*3

PM: CYP2C19*2/*2, CYP2C19*2/*3又はCYP2C19*3/*3

2. 代謝

in vitro 肝代謝試験の結果から、ヒドロキシ体、5-O-脱メチル体の生成にはCYP2C19、スルホン体の生成にはCYP3A4が関与し、これら3種の代謝物への代謝クリアランスは同程度であると報告されている³⁾。エソメプラゾールの*in vitro* 肝代謝において、ヒドロキシ体及び5-O-脱メチル体の生成に関与するCYP2C19の寄与率(代謝固有クリアランス: CL_{int})は73%であった³⁾。外国人のデータでは、健康成人に¹⁴C標識エソメプラゾールを単回経口投与したとき、血漿中の主代謝物はスルホン体及びヒドロキシ体であった⁴⁾。

3. 排泄

外国人のデータでは、¹⁴C標識エソメプラゾールを単回経口投与したとき、投与放射能の約95%が48時間までに尿中及び糞中に排泄され、尿中排泄量と糞中排泄量の比は約4対1であった⁴⁾。

4. 高齢者

外国人のデータでは、エソメプラゾールを健康高齢被験者に1日1回5日間反復経口投与したとき、投与5日目のAUC及びC_{max}は非高齢の症候性胃食道逆流症患者よりも高い傾向を示し、幾何平均の比(健康高齢/非高齢患者)は各々1.25(95%信頼区間: 0.94-1.67)、1.18(同: 0.91-1.52)であった⁵⁾。

5. 肝機能障害患者

外国人のデータでは、エソメプラゾールを肝機能障害患者に1日1回5日間反復経口投与したとき、AUC_τは、肝機能低下のない症候性胃食道逆流症患者に比べ、重度の肝機能障害患者では約2.3倍高く、軽度~中程度の肝機能障害患者でもその比は1.4~1.8であった⁶⁾。

6. 相互作用

発現系CYP2C19及びヒト肝ミクロソームを用いる*in vitro* 試験において本薬はCYP2C19の活性を阻害した(K_i値: 7.9及び8.6μM)が、CYP2A6、CYP1A2、CYP2D6、CYP2E1、CYP2C9及びCYP3A4の活性については阻害しないかわずかな阻害作用を示した^{7),8)}。

外国人のデータでは、ジアゼパム、フェニトイン又はワルファリン(R-ワルファリン)(以上、CYP2C19の基質)と本剤の併用により、ジアゼパム、フェニトインのAUCはそれぞれ18%、13%増大し、R-ワルファリンの血漿中トラフ濃度は13%上昇した⁹⁾。エソメプラゾールとクラリスロマイシン及びアモキシシリン水和物の併用により、クラリスロマイシン及びアモキシシリン水和物の血漿中濃度に影響しなかったが、クラリスロマイシンの14位水酸化代謝物のAUCは増大した。また、エソメプラゾールのAUC_τは非併用時の約2倍に増大した⁹⁾。キニジン⁹⁾、ナプロキセン¹⁰⁾、ロキソプロフェンナトリウム¹¹⁾、アスピリン¹²⁾と本剤の併用では相互作用は認められなかった。

7. 血漿蛋白結合

エソメプラゾール(添加濃度: 2又は20μmol/L)のヒト血漿蛋白結合率(*in vitro*)は97%であった⁴⁾。

【臨床成績】

成人

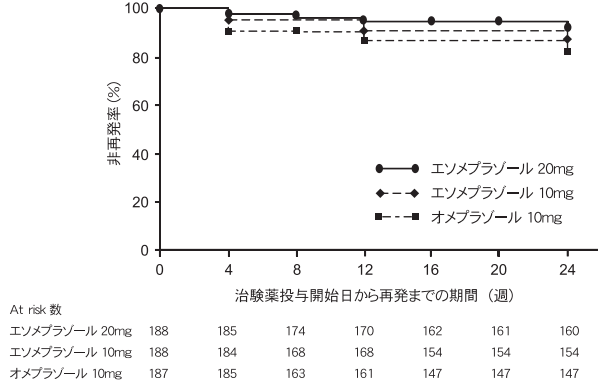
1. 逆流性食道炎

逆流性食道炎を対象とした二重盲検比較試験では、オメプラゾール20mg、エソメプラゾール20mg又は40mgが1日1回最大8週間投与され、投与8週時のそれぞれの治癒率[95%信頼区間]は87.4%(166/190例)[81.9%、91.4%]、87.3%(165/189例)[81.8%、91.3%]及び90.0%(171/190例)[84.9%、93.5%]であり、オメプラゾール20mgに対する本剤20mg及び40mgの非劣性が認められている¹³⁾。
また、逆流性食道炎の治癒患者を対象とした二重盲検比較試験において、オメプラゾール10mgと比較したエソメプラゾール10mg及び20mgの1日1回24週間投与時における逆流性食道炎の再発抑制効果が認められている¹⁴⁾。

	エソメプラゾール 20mg (188例)	エソメプラゾール 10mg (188例)	オメプラゾール 10mg (187例)
再発例数	14例	22例	31例
投与24週間後の非再発率 ^{a)} [95%信頼区間]	92.0% [88.0~96.0%]	87.5% [82.7~92.4%]	82.7% [77.2~88.3%]
ハザード比 [95%信頼区間]	0.62 [0.32~1.21] (エソメプラゾール20mg群vsエソメプラゾール10mg群) 0.43 [0.23~0.80] (エソメプラゾール20mg群vsオメプラゾール10mg群)		
p値 ^{b)}	p=0.158 (エソメプラゾール20mg群vsエソメプラゾール10mg群) p=0.007 (エソメプラゾール20mg群vsオメプラゾール10mg群)		

a) Kaplan-Meier法による推定

b) Log-rank検定、有意水準 両側5%、Hochbergの方法による検定の多重性の調整



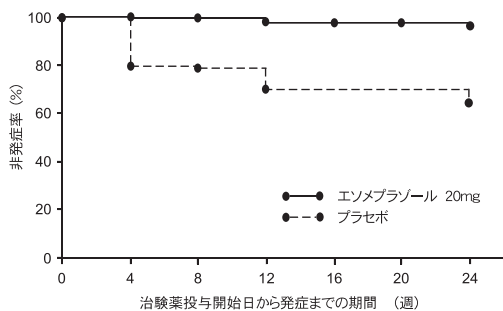
Kaplan-Meier法による逆流性食道炎の非再発率

2. 非ステロイド性抗炎症薬(NSAID)投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

消化性潰瘍の既往を有するNSAID継続服用患者を対象とした二重盲検比較試験においてエソメプラゾール20mgの1日1回24週間投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制効果が認められている¹⁵⁾。

	エソメプラゾール 20mg (173例)	プラセボ(168例)
発症例数	6例	56例
投与24週間後の非再発率 ^{a)} [95%信頼区間]	96.0% [92.8~99.1%]	64.4% [56.8~71.9%]
ハザード比 [95%信頼区間]	0.09 [0.04~0.20]	
p値 ^{b)}	p<0.001	

a) Kaplan-Meier法による推定 b) Log-rank検定、有意水準 両側5%



Kaplan-Meier法による胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の非再発率

また、消化性潰瘍の既往を有するNSAID継続服用患者を対象としたエソメプラゾール20mgの1日1回52週間投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の非再発率は以下のとおりである¹⁶⁾。

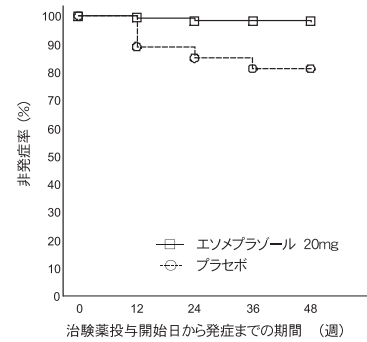
投与群	52週後非再発率 (Kaplan-Meier法)
エソメプラゾール20mg群 (130例)	95.9%

3. 低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

消化性潰瘍の既往を有する低用量アスピリン(81~324mg)継続服用患者を対象としたアジア共同III相比較試験(日本人患者含む)の中間解析における結果において、エソメプラゾール20mgの1日1回48週間投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制効果が認められている。さらに、中間解析以降、本薬群の被験者のみ投与が継続され、エソメプラゾール20mgを1日1回最長72週間投与時において、投与72週後の非再発率は96.4%であった。なお、本試験においては本薬群、プラセボ群ともに全例ゲファルナートを併用していた¹⁷⁾。

	エソメプラゾール 20mg (182例)	プラセボ (182例)
発症例数	2例	22例
投与48週間後の非再発率 ^{a)} [96.65%信頼区間]	98.3% [95.7~100%]	81.2% [72.7~89.7%]
ハザード比 [96.65%信頼区間]	0.09 [0.02~0.41]	
p値 ^{b)}	p<0.001	

a) Kaplan-Meier法による推定 b) Log-rank検定、有意水準 両側3.35%



Kaplan-Meier法による胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の非再発率 (中間解析における結果)

幼児及び小児

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、非びらん性胃食道逆流症、逆流性食道炎、又はZollinger-Ellison症候群を有する又は有する疑いのある1~14歳の患者50例を対象とした非盲検試験では、体重10kg以上20kg未満(10例[第1群])にエソメプラゾール1回10mgを、20kg以上に1回10mg(1~11歳10例[第2群]、12~14歳10例[第4群])又は1回20mg(1~11歳10例[第3群]、12~14歳10例[第5群])を1日1回最大8週間投与した。各投与群の上部消化器症状(胸やけ、呑酸、心窩部痛、及び上腹部不快感)は、投与前に症状を有していた患者の40%以上の割合で消失した。また、投与前に内視鏡的評価が実施できた患者のうち病理学的所見が認められた3例すべてにおいて投与後に所見が消失した²⁾。

投与群 (投与例数)	第1群 (10例)	第2群 (10例)	第3群 (10例)	第4群 (10例)	第5群 (10例)
年齢	1歳以上	1~11歳		12~14歳	
体重	10kg以上 20kg未満	20kg以上			
投与量	10mg	10mg	20mg	10mg	20mg
Kaplan-Meier法による最終時点の累積持続消失率					
胸やけ	100% (2例)	66.7% (3例)	100% (1例)	50% (2例)	75% (4例)
呑酸	75% (4例)	100% (3例)	80% (5例)	50% (4例)	100% (4例)
心窩部痛	100% (2例)	50% (6例)	100% (6例)	40% (5例)	57.1% (7例)
上腹部不快感	100% (3例)	66.7% (6例)	100% (4例)	60% (5例)	50% (6例)

○) 投与前に症状を有していた例数

【薬効薬理】

1. ヒトでの作用

胃内pHに及ぼす影響

健康成人において、エソメプラゾール10mg、20mg及び40mg投与により24時間中に胃内pHが4以上を示す時間の割合は、それぞれ48±23%、62±14%及び68±8%であった¹⁸⁾。

小児患者5例において、エソメプラゾール10mg及び20mg投与により12時間中に胃内pHが4以上を示す時間の割合は、51.2%~98.3%であった²⁾。

2. 非臨床試験

(1) プロトンポンプ阻害作用

ウサギ胃粘膜由来のプロトンポンプ(H⁺, K⁺-ATPase)に対して阻害作用を示した¹⁹⁾。

(2) 胃酸分泌抑制作用

単離ウサギ胃底腺における胃酸産生に対して抑制作用を示した²⁰⁾。
胃瘻ラット及びHeidenhain Pouchイヌにおいて、刺激薬に惹起された胃酸分泌に対して抑制作用を示した^{21),22)}。
本剤の有効成分であるエソメプラゾールは、ラセミ体であるオメプラゾールの一方の光学異性体(S体)である。

3. 作用機序

胃壁細胞の細胞膜上に存在する受容体へ各種酸分泌刺激物質が結合することにより、胃壁細胞内において一連の胃酸分泌反応がおきる。この反応の最終過程では、胃壁細胞内からH⁺を放出し、代わりにK⁺を取り込むプロトンポンプと呼ばれる酵素が働いている。エソメプラゾールは、このプロトンポンプの働きを阻害することによって、胃酸分泌を抑制する。

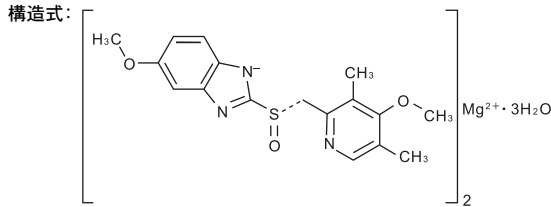
4. 生物学的同等性

健康成人男性34例にネキシウム懸濁用顆粒20mgあるいはネキシウムカプセル20mgを5日間反復経口投与し、クロスオーバー法にて胃内pHに及ぼす影響を比較した。その結果、両製剤の胃内pH上昇効果は生物学的に同等であった。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：エソメプラゾールマグネシウム水和物 (Esomeprazole Magnesium Hydrate) (JAN)

化学名：Bis {5-methoxy-2-[(S)-(4-methoxy-3,5-dimethylpyridin-2-yl)methanesulfinyl]-1H-benzimidazol-1-yl} monomagnesium trihydrate



分子式：C₃₄H₃₆N₆O₆S₂Mg·3H₂O

分子量：767.17

融点：約170°C

性状：エソメプラゾールマグネシウム水和物は白色～ごくうすい灰色又はごくうすい黄色の粉末である。

【承認条件】

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

【包装】

ネキシウム懸濁用顆粒分包装10mg：28包

ネキシウム懸濁用顆粒分包装20mg：28包

【主要文献】

- 社内資料(日本人健康成人被験者における反復投与試験, 2004)
- 社内資料(日本人小児患者における第I/III相試験, 2016)
- Åbelö, A., et al.:Drug Metab. Dispos., 28(8), 966, 2000
- Andersson, T., et al.:Clin. Pharmacokinet., 40(6), 411, 2001
- Hasselgren, G., et al.:Clin. Pharmacokinet., 40(2), 145, 2001
- Sjövall, H., et al.:Eur. J. Gastroenterol. Hepatol., 14(5), 491, 2002
- Li, XQ., et al.:Drug Metab. Dispos., 32(8), 821, 2004
- 社内資料(*in vitro*代謝酵素阻害, 1998)
- Andersson, T., et al.:Clin. Pharmacokinet., 40(7), 523, 2001
- Hassan-Alin, M., et al.:Clin. Drug Investig., 25(11), 731, 2005
- 八木道夫:臨床医薬, 27(10), 747, 2011
- Niazi, M., et al.:Int. J. Clin. Pharmacol. Ther., 47(9), 564, 2009
- 木下芳一 他:日消誌, 110(2), 234, 2013
- 木下芳一 他:日消誌, 110(8), 1428, 2013
- Sugano, K., et al.:Aliment. Pharmacol. Ther., 36(2), 115, 2012
- Sugano, K., et al.:BMC Gastroenterology, 13, 54, 2013
- Sugano, K., et al.:Gut, 63(7), 1061, 2014
- 長嶋浩貴 他:臨床医薬, 27(10), 735, 2011
- 社内資料(ウサギH⁺, K⁺-ATPaseに対する作用, 1988)
- 社内資料(単離ウサギ胃底腺における作用, 1997)
- 社内資料(胃瘻ラットにおける作用, 2002)
- 社内資料(Heidenhain Pouchイヌにおける作用, 2002)

【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

アストラゼネカ株式会社 メディカルインフォメーションセンター
〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号
☎ 0120-189-115
<https://www.astrazeneca.co.jp>

第一三共株式会社 製品情報センター
〒103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1
☎ 0120-189-132

®：アストラゼネカグループの登録商標です。
© AstraZeneca 2011

AstraZeneca

製造販売元

アストラゼネカ株式会社
大阪市北区大深町3番1号

販売元

第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1



これらの発現率と癌種は、一般人口から予想されるものと類似していた。

■薬効薬理

1. アダリムマブは*in vitro*試験において、TNF α に選択的に結合し以下の作用を示した。
 - ・ヒトTNF α に対して高い親和性を示した。
 - ・TNF α 受容体(TNF R I 及びTNF R II)に対するTNF α の結合を阻害した(IC₅₀値：1.26~1.47 $\times 10^{-9}$ mol/L)。
 - ・L929細胞に対するヒトTNF α 誘発細胞傷害において細胞死を中和した(IC₅₀値：1.4~3.5 $\times 10^{-11}$ mol/L)。
2. アダリムマブは*in vivo*試験において、ヒトTNF α トランスジェニックマウスモデルにおける関節炎の発症を抑制した¹⁷⁾。

■有効成分に関する理化学的知見

一般名：アダリムマブ(遺伝子組換え)(JAN)

Adalimumab(Genetical Recombination)

本質：ヒト抗ヒトTNF α モノクローナル抗体であるIgG₁の重鎖(γ 鎖)及び軽鎖(κ 鎖)をコードするcDNAの発現によりチャイニーズハムスター卵巣細胞で産生される451個のアミノ酸残基(C₂₁₉₇H₃₃₉₆N₅₈₄O₆₇₈S₁₅；分子量：49,318.95、C末端のリジン残基が欠落しているものC₂₁₉₁H₃₃₈₄N₅₈₂O₆₇₇S₁₅；分子量：49,190.78を含む)からなる重鎖2分子と214個のアミノ酸残基(C₁₀₂₇H₁₆₀₆N₂₈₂O₃₃₂S₆；分子量：23,407.82)からなる軽鎖2分子からなる糖たん白質

分子量：約148,000

■承認条件*

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

関節リウマチ

大規模な製造販売後調査を実施し、本剤の安全性について十分に検討するとともに、長期投与時の安全性、感染症等の発現について検討すること。

腸管型ペーチェット病

国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが蓄積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

■包装

ヒュミラ皮下注20mgシリンジ0.4mL：20mg \times 1シリンジ

ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.8mL：40mg \times 1シリンジ

ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.4mL：40mg \times 1シリンジ

ヒュミラ皮下注80mgシリンジ0.8mL：80mg \times 1シリンジ

■主要文献

文献請求番号

- 1) Miyasaka N. The CHANGE Study Investigators : Mod. Rheumatol., **18** : 252(2008) HUR-0013
- 2) van de Putte LBA, et al. : Ann. Rheum. Dis., **63** : 508(2004) HUR-0001
- 3) Breedveld FC, et al. : Arthritis Rheum., **54** : 26(2006) HUR-0005
- 4) Keystone EC, et al. : Arthritis Rheum., **50** : 1400(2004) HUR-0004
- 5) Asahina A, et al. : J. Dermatol., **37** : 299(2010) HUR-0259
- 6) van der Heijde D, et al. : Arthritis Rheum., **54** : 2136(2006) HUR-0008
- 7) Lovell DJ, et al. : N. Engl. J. Med., **359** : 810(2008) HUR-0050
- 8) Watanabe M, et al. : J. Crohns Colitis, **6** : 160(2012) HUR-0443
- 9) Sandborn WJ, et al. : Ann. Intern. Med., **146** : 829(2007) HUR-0055

- 10) Colombel JF, et al. : Gastroenterology, **132** : 52(2007) HUR-0011
- 11) Weinblatt ME, et al. : Arthritis Rheum., **48** : 35(2003) HUR-0002
- 12) Furst DE, et al. : J. Rheumatol., **30** : 2563(2003) HUR-0003
- 13) Gladman DD, et al. : Ann. Rheum. Dis., **66** : 163(2007) HUR-0006
- 14) Gladman DD, et al. : Arthritis Rheum., **56** : 476(2007) HUR-0007
- 15) Hanauer SB, et al. : Gastroenterology, **130** : 323(2006) HUR-0009
- 16) Sandborn WJ, et al. : Gut, **56** : 1232(2007) HUR-0010
- 17) Salfeld J, et al. : Arthritis Rheum., **41** : S57(1998) HUR-0016

■文献請求先・製品情報お問い合わせ先

エーザイ株式会社 hhcホットライン
フリーダイヤル 0120-419-497

abbvie

製造販売(輸入)元

アッヴィ合同会社
東京都港区三田 3-5-27

販売元



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

プロモーション提携



EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号

これらの発現率と癌種は、一般人口から予想されるものと類似していた。

■薬効薬理

1. アダリムマブは*in vitro*試験において、TNF α に選択的に結合し以下の作用を示した。
 - ・ヒトTNF α に対して高い親和性を示した。
 - ・TNF α 受容体(TNF R I 及びTNF R II)に対するTNF α の結合を阻害した(IC₅₀値：1.26~1.47 $\times 10^{-9}$ mol/L)。
 - ・L929細胞に対するヒトTNF α 誘発細胞傷害において細胞死を中和した(IC₅₀値：1.4~3.5 $\times 10^{-11}$ mol/L)。
2. アダリムマブは*in vivo*試験において、ヒトTNF α トランスジェニックマウスモデルにおける関節炎の発症を抑制した¹⁷⁾。

■有効成分に関する理化学的知見

一般名：アダリムマブ(遺伝子組換え)(JAN)

Adalimumab(Genetical Recombination)

本質：ヒト抗ヒトTNF α モノクローナル抗体であるIgG₁の重鎖(γ 鎖)及び軽鎖(κ 鎖)をコードするcDNAの発現によりチャイニーズハムスター卵巣細胞で産生される451個のアミノ酸残基(C₂₁₉₇H₃₃₉₆N₅₈₄O₆₇₈S₁₅；分子量：49,318.95、C末端のリジン残基が欠落しているものC₂₁₉₁H₃₃₈₄N₅₈₂O₆₇₇S₁₅；分子量：49,190.78を含む)からなる重鎖2分子と214個のアミノ酸残基(C₁₀₂₇H₁₆₀₆N₂₈₂O₃₃₂S₆；分子量：23,407.82)からなる軽鎖2分子からなる糖たん白質

分子量：約148,000

■承認条件*

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

関節リウマチ

大規模な製造販売後調査を実施し、本剤の安全性について十分に検討するとともに、長期投与時の安全性、感染症等の発現について検討すること。

腸管型ベーチェット病

国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが蓄積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。

■包装

ヒュミラ皮下注20mgシリンジ0.4mL：20mg \times 1シリンジ

ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.8mL：40mg \times 1シリンジ

ヒュミラ皮下注40mgシリンジ0.4mL：40mg \times 1シリンジ

ヒュミラ皮下注80mgシリンジ0.8mL：80mg \times 1シリンジ

■主要文献

文献請求番号

- 1) Miyasaka N. The CHANGE Study Investigators : Mod. Rheumatol., **18** : 252(2008) HUR-0013
- 2) van de Putte LBA, et al. : Ann. Rheum. Dis., **63** : 508(2004) HUR-0001
- 3) Breedveld FC, et al. : Arthritis Rheum., **54** : 26(2006) HUR-0005
- 4) Keystone EC, et al. : Arthritis Rheum., **50** : 1400(2004) HUR-0004
- 5) Asahina A, et al. : J. Dermatol., **37** : 299(2010) HUR-0259
- 6) van der Heijde D, et al. : Arthritis Rheum., **54** : 2136(2006) HUR-0008
- 7) Lovell DJ, et al. : N. Engl. J. Med., **359** : 810(2008) HUR-0050
- 8) Watanabe M, et al. : J. Crohns Colitis, **6** : 160(2012) HUR-0443
- 9) Sandborn WJ, et al. : Ann. Intern. Med., **146** : 829(2007) HUR-0055

- 10) Colombel JF, et al. : Gastroenterology, **132** : 52(2007) HUR-0011
- 11) Weinblatt ME, et al. : Arthritis Rheum., **48** : 35(2003) HUR-0002
- 12) Furst DE, et al. : J. Rheumatol., **30** : 2563(2003) HUR-0003
- 13) Gladman DD, et al. : Ann. Rheum. Dis., **66** : 163(2007) HUR-0006
- 14) Gladman DD, et al. : Arthritis Rheum., **56** : 476(2007) HUR-0007
- 15) Hanauer SB, et al. : Gastroenterology, **130** : 323(2006) HUR-0009
- 16) Sandborn WJ, et al. : Gut, **56** : 1232(2007) HUR-0010
- 17) Salfeld J, et al. : Arthritis Rheum., **41** : S57(1998) HUR-0016

■文献請求先・製品情報お問い合わせ先

エーザイ株式会社 hhcホットライン
フリーダイヤル 0120-419-497

abbvie

製造販売(輸入)元

アッヴィ合同会社
東京都港区三田 3-5-27

販売元



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10

プロモーション提携



EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号